―― 目　　次 ――

（２月２１日）

告　　示 …… 1
応 招 議 員 …… 1
議 事 日 程 …… 4
本日の会議に付した事件 …… 4
出 席 議 員 …… 5
欠 席 議 員 …… 5
議会事務局職員出席者 …… 5
説明のために出席した者 …… 6
開会、開議宣告 …… 6
　会議録署名議員の指名 …… 7
　会期の決定 …… 7
　議長の諸般報告 …… 7
　市長の行政報告 …… 7
　総務文教常任委員会の閉会中の所管事務調査報告 …… １０
　産業建設常任委員会の閉会中の所管事務調査報告 …… １２
　国境離島活性化推進特別委員会の閉会中の調査報告 …… １５
　長崎県病院企業団議会議員の報告 …… １８
　長崎県後期高齢者医療広域連合議会議員の報告 …… ２１
　議案第３号 …… ２４
　議案第４号 …… ２７
　議案第５号 …… ２９
　議案第６号 …… ３０
　議案第７号 …… ３１
　市長の施政方針説明 …… ３３
　議案第８号 …… ３８
散　会 …… ４３

（２月２２日）

議 事 日 程 …… ４５

本日の会議に付した事件 …… ４６
出　席　議　員 …… ４７
欠　席　議　員 …… ４７
議会事務局職員出席者 …… ４７
説明のために出席した者 …… ４７
開議宣告 …… ４８
　議案第９号 …… ４８
　議案第１０号 …… ５０
　議案第１１号 …… ５０
　議案第１２号 …… ５０
　議案第１３号 …… ５４
　議案第１４号 …… ５６
　議案第１５号 …… ５６
　議案第１６号 …… ５８
　議案第１７号 …… ５９
　議案第１８号 …… ５９
　議案第１９号 …… ６１
　議案第２０号 …… ６２
　議案第２１号 …… ６２
　議案第２２号 …… ６２
　議案第２３号 …… ６２
　議案第２４号 …… ６２
　議案第２５号 …… ６２
　議案第２６号 …… ６７
　議案第２７号 …… ６８
　議案第２８号 …… ６９
　議案第２９号 …… ７２
　議案第３０号 …… ７３
　同意第１号 …… ７４
　諮問第１号 …… ７５
　諮問第２号 …… ７５
散　会 …… ７６

（３月２日）

議　事　日　程 …… ７７
本日の会議に付した事件 …… ７７
出　席　議　員 …… ７７
欠　席　議　員 …… ７７
議会事務局職員出席者 …… ７７
説明のために出席した者 …… ７７
開議宣告 …… ７８
　市政一般質問 …… ７８
　　７番　入江　有紀君 …… ７９
　　１番　糸瀬　雅之君 …… ９０
　１１番　小島　徳重君 …… １０２
　１０番　春田　新一君 …… １１４
　１４番　小宮　教義君 …… １２６
散　会 …… １３６

（３月３日）

議　事　日　程 …… １３７
本日の会議に付した事件 …… １３７
出　席　議　員 …… １３７
欠　席　議　員 …… １３７
議会事務局職員出席者 …… １３７
説明のために出席した者 …… １３７
開議宣告 …… １３８
　市政一般質問 …… １３８
　　２番　陶山荘太郎君 …… １３９
　１７番　作元　義文君 …… １５０
　　６番　伊原　　徹君 …… １６１
　　３番　神宮　保夫君 …… １６９
散　会 …… １７９

（３月６日）

議　事　日　程 …… １８１
本日の会議に付した事件 …… １８１
出　席　議　員 …… １８１
欠　席　議　員 …… １８１
議会事務局職員出席者 …… １８１
説明のために出席した者 …… １８１
開議宣告 …… １８２
　市政一般質問 …… １８２
　　１６番　大浦　孝司君 …… １８３
　　９番　脇本　啓喜君 …… １９０
　　８番　船越　洋一君 …… ２０１
　　１３番　波田　政和君 …… ２１２
散　会 …… ２２２

（３月１５日）

議　事　日　程 …… ２２３
本日の会議に付した事件 …… ２２４
出　席　議　員 …… ２２４
欠　席　議　員 …… ２２５
議会事務局職員出席者 …… ２２５
説明のために出席した者 …… ２２５
開議宣告 …… ２２６
　議案第８号 …… ２２６
　議案第３号 …… ２３３
　議案第９号 …… ２３４
　議案第１０号 …… ２３４
　議案第１１号 …… ２３４
　議案第１２号 …… ２３４
　議案第１３号 …… ２３４
　議案第１４号 …… ２３４
　議案第１５号 …… ２３４

議案第１６号 …… ２３４
議案第１７号 …… ２３４
議案第２８号 …… ２３４
議案第２９号 …… ２３４
議案第３０号 …… ２３４
議案第３１号 …… ２４２
議案第３２号 …… ２４２
議案第３３号 …… ２４２
議案第３４号 …… ２４２
議案第３５号 …… ２４５
発議第１号 …… ２４６
発議第２号 …… ２４７
常任委員会の閉会中の継続調査について …… ２４９
閉　会 …… ２５１
署　名 …… ２５２

対馬市告示第７号

令和５年第１回対馬市議会定例会を次のとおり招集する

令和５年２月７日

対馬市長　比田勝尚喜

１　期　日　　令和５年２月21日（火）

２　場　所　　対馬市議会議場

○開会日に応招した議員

糸瀬　雅之君	陶山荘太郎君
神宮　保夫君	島居　真吾君
坂本　充弘君	伊原　　徹君
入江　有紀君	船越　洋一君
脇本　啓喜君	春田　新一君
小島　徳重君	波田　政和君
小宮　教義君	上野洋次郎君
大浦　孝司君	作元　義文君
黒田　昭雄君	初村　久藏君

○２月22日に応招した議員

糸瀬　雅之君	陶山荘太郎君
神宮　保夫君	島居　真吾君
坂本　充弘君	伊原　　徹君
入江　有紀君	船越　洋一君
脇本　啓喜君	春田　新一君
小島　徳重君	波田　政和君
小宮　教義君	上野洋次郎君
大浦　孝司君	作元　義文君
黒田　昭雄君	初村　久藏君

○３月２日に応招した議員

糸瀬　雅之君	陶山荘太郎君
神宮　保夫君	島居　真吾君

坂本　充弘君　　伊原　　徹君
入江　有紀君　　船越　洋一君
脇本　啓喜君　　春田　新一君
小島　徳重君　　小田　昭人君
波田　政和君　　小宮　教義君
上野洋次郎君　　大浦　孝司君
作元　義文君　　黒田　昭雄君
初村　久藏君

○３月３日に応招した議員

糸瀬　雅之君　　陶山荘太郎君
神宮　保夫君　　島居　真吾君
坂本　充弘君　　伊原　　徹君
船越　洋一君　　脇本　啓喜君
春田　新一君　　小島　徳重君
小田　昭人君　　波田　政和君
小宮　教義君　　上野洋次郎君
大浦　孝司君　　作元　義文君
黒田　昭雄君　　初村　久藏君

○３月６日に応招した議員

糸瀬　雅之君　　陶山荘太郎君
神宮　保夫君　　島居　真吾君
坂本　充弘君　　伊原　　徹君
入江　有紀君　　船越　洋一君
脇本　啓喜君　　春田　新一君
小島　徳重君　　小田　昭人君
波田　政和君　　小宮　教義君
上野洋次郎君　　大浦　孝司君
作元　義文君　　黒田　昭雄君
初村　久藏君

○３月15日に応招した議員

糸瀬　雅之君	陶山荘太郎君
神宮　保夫君	島居　真吾君
坂本　充弘君	伊原　　徹君
入江　有紀君	船越　洋一君
脇本　啓喜君	春田　新一君
小島　徳重君	小田　昭人君
波田　政和君	小宮　教義君
上野洋次郎君	作元　義文君
黒田　昭雄君	初村　久藏君

○２月21日に応招しなかった議員

小田　昭人君

○２月22日に応招しなかった議員

小田　昭人君

○３月３日に応招しなかった議員

入江　有紀君

○３月15日に応招しなかった議員

大浦　孝司君

令和５年　第１回　対　馬　市　議　会　定　例　会　会　議　録（第１日）

令和５年２月21日（火曜日）

議事日程（第１号）

令和５年２月21日　午前10時00分開会

日程第１　会議録署名議員の指名

日程第２　会期の決定

日程第３　議長の諸般報告

日程第４　市長の行政報告

日程第５　総務文教常任委員会の閉会中の所管事務調査報告

日程第６　産業建設常任委員会の閉会中の所管事務調査報告

日程第７　国境離島活性化推進特別委員会の閉会中の調査報告

日程第８　長崎県病院企業団議会議員の報告

日程第９　長崎県後期高齢者医療広域連合議会議員の報告

日程第10　議案第３号　令和４年度対馬市一般会計補正予算（第１１号）

日程第11　議案第４号　令和４年度対馬市診療所特別会計補正予算（第５号）

日程第12　議案第５号　令和４年度対馬市後期高齢者医療特別会計補正予算（第２号）

日程第13　議案第６号　令和４年度対馬市旅客定期航路事業特別会計補正予算（第３号）

日程第14　議案第７号　令和４年度対馬市水道事業会計補正予算（第４号）

日程第15　市長の施政方針説明

日程第16　議案第８号　令和５年度対馬市一般会計予算

本日の会議に付した事件

日程第１　会議録署名議員の指名

日程第２　会期の決定

日程第３　議長の諸般報告

日程第４　市長の行政報告

日程第５　総務文教常任委員会の閉会中の所管事務調査報告

日程第６　産業建設常任委員会の閉会中の所管事務調査報告

日程第７　国境離島活性化推進特別委員会の閉会中の調査報告

日程第８　長崎県病院企業団議会議員の報告

日程第９　長崎県後期高齢者医療広域連合議会議員の報告

日程第10　議案第３号　令和４年度対馬市一般会計補正予算（第１１号）

日程第11　議案第４号　令和４年度対馬市診療所特別会計補正予算（第５号）

日程第12　議案第５号　令和４年度対馬市後期高齢者医療特別会計補正予算（第２号）

日程第13　議案第６号　令和４年度対馬市旅客定期航路事業特別会計補正予算（第３号）

日程第14　議案第７号　令和４年度対馬市水道事業会計補正予算（第４号）

日程第15　市長の施政方針説明

日程第16　議案第８号　令和５年度対馬市一般会計予算

出席議員（18名）

１番　糸瀬　雅之君	２番　陶山荘太郎君
３番　神宮　保夫君	４番　島居　真吾君
５番　坂本　充弘君	６番　伊原　　徹君
７番　入江　有紀君	８番　船越　洋一君
９番　脇本　啓喜君	10番　春田　新一君
11番　小島　徳重君	13番　波田　政和君
14番　小宮　教義君	15番　上野洋次郎君
16番　大浦　孝司君	17番　作元　義文君
18番　黒田　昭雄君	19番　初村　久藏君

欠席議員（１人）

12番　小田　昭人君

欠　　員（なし）

事務局出席職員職氏名

局長	勝見　一成君	次長	平間　博文君
課長補佐	糸瀬　博隆君	係長	犬束　興樹君

説明のため出席した者の職氏名

市長	比田勝尚喜君
副市長	俵　　輝孝君
教育長	中島　清志君
総務部長	木寺　裕也君
総務課長（選挙管理委員会事務局書記長）	一宮　　努君
しまづくり推進部長	伊賀　敏治君
観光交流商工部長	村井　英哉君
市民生活部長	舎利倉政司君
福祉保険部長	國分　幸和君
健康づくり推進部長	桐谷　和孝君
農林水産部長	黒岩　慶有君
建設部長	内山　　歩君
水道局長	立花　大功君
教育部長	八島　誠治君
中対馬振興部長	松井　惠夫君
上対馬振興部長	阿比留　裕君
美津島行政サービスセンター所長	藤田　浩徳君
峰行政サービスセンター所長	居村　雅昭君
上県行政サービスセンター所長	原田　勝彦君
消防長	主藤　庄司君
会計管理者	二宮　照幸君
監査委員事務局長	志賀　慶二君
農業委員会事務局長	主藤　公康君

午前10時00分開会

○議長（初村　久藏君）　おはようございます。

報告します。小田昭人君から欠席の届出があっております。

ただいまから令和５年第１回対馬市議会定例会を開会します。

新型コロナウイルス感染症拡大防止対策として、議場の換気のため出入口を開放して会議を運営することとします。

また、議長においては、アクリル板設置による感染症対策を実施することにより、マスクを外して会議を運営します。

定足数に達しておりますので、これから本日の会議を開きます。

―――――――――――――・―――・―――――――――――――

日程第１．会議録署名議員の指名

○議長（初村　久藏君）　日程第１、会議録署名議員の指名を行います。

会議録署名議員は、会議規則第８８条の規定によって、春田新一君及び小島德重君を指名いたします。

―――――――――――――・―――・―――――――――――――

日程第２．会期の決定

○議長（初村　久藏君）　日程第２、会期の決定を議題とします。

お諮りします。本定例会の会期は、配付しております会期日程案のとおり、本日から３月１５日までの２３日間とすることに御異議ございませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（初村　久藏君）　異議なしと認めます。会期は、本日から３月１５日までの２３日間に決定しました。

―――――――――――――・―――・―――――――――――――

日程第３．議長の諸般報告

○議長（初村　久藏君）　日程第３、議長の諸般報告を行います。

令和４年第４回定例会終了後以降の議長の行動等は、配付しております庶務報告書のとおりであります。

次に、議会広報編集特別委員会から、委員派遣に関する調査報告の提出があっておりますので報告します。議会広報編集特別委員会は雲仙市を訪問し、議会だよりの作成について視察・調査研究を行っております。タブレットに掲載しておりますので御高覧ください。

以上、報告を終わります。

―――――――――――――・―――・―――――――――――――

日程第４．市長の行政報告

○議長（初村　久藏君）　日程第４、市長の行政報告を行います。

市長から行政報告の申出があっておりますので、これを許可します。市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝　尚喜君）　おはようございます。本日ここに、令和５年第１回対馬市議会定例会を招集いたしましたところ、議員の皆様には御健勝にて御出席賜り、衷心より御礼申し上げます。

初めに、去る２月６日に発生いたしましたトルコ・シリア国境付近を震源とする大規模な地震

により、多くの被災者が発生しております。被害に遭われた方々にお見舞いを申し上げるとともに、いち早い復旧・復興をお祈りいたします。

対馬市としましては、現地での救援・復興活動を支援するため、２月１４日から５月２６日まで、市内６か所にトルコ・シリア地震救援金募金箱を設置しておりますので、市民の復興支援に向けた募金の御協力をお願いいたします。

なお、募金につきましては、日本赤十字を通じてトルコ、シリアでの救援・復興活動に支援させていただくこととしております。

次に、比田勝・釜山間の国際航路の再開についてでありますが、来る２月２５日から運航再開が決定されております。現在、２社の航路事業者が運航予定であり、当面の間は週末の土曜日、日曜日のみで、各社１日１便の運航で１隻あたりの乗船定員を１００名までとして運航することとしております。

今後も、島内の基幹病院との連携や検疫における水際対策を講じながら、安心・安全な国際航路の運航に努めてまいりますので、市民皆様の御理解と御協力をお願いします。

次に、新型コロナワクチンの接種につきましては、令和３年の接種開始以来、これまでに市内において９万８，０００回を超える接種をしていただいており、医療機関、医療従事者の皆様に対し、まず感謝を申し上げます。

ワクチンの接種状況でございますが、本市は県内の他市町と比較しても高い方から五、六番目の接種率を維持しており、ワクチン接種を希望される市民の皆様に対しましては、順調に接種を進めることができていると考えております。

１月２７日に開催された新型コロナウイルス感染症対策本部において、政府は新型コロナウイルスの感染症法上の位置づけを、本年５月８日をもって５類に引き下げる方針を正式に決定いたしました。

５類への移行に伴う見直し事項については、今後の検討課題とされており情報が出そろっておりませんが、日常生活を取り戻すことにつながることを期待しながら、政府の動向を注視し、適切に対応してまいります。また、以前から懸念されておりましたインフルエンザの流行に関してでございますが、インフルエンザ流行注意報が１月１９日に長崎県下で発表されております。

市民の皆さまにおかれましては、新型コロナウイルス感染症及びインフルエンザのどちらにも感染しないよう、今後も気を緩めることなく、基本的な感染予防対策を継続していただきますよう、お願い申し上げます。

それでは、１２月定例会以降、本日までの主な事項につきまして御報告を申し上げます。

まず、しまづくり推進部でございますけれども、対馬海上保安部との連携協定についてご報告いたします。昨年１２月２１日に、対馬市役所において、本市と対馬海上保安部との包括連携協

定式を執り行いました。

本市と対馬海上保安部は、これまでも海上における安全面の確保や人命救助等の地域における防災面をはじめ、様々な場面や取組の中で連携・協力を図ってまいりましたが、今回の連携協定により、双方の垣根をさらに低くし、より担当レベルでの連携を深め、地域に根付いた連携体制を構築することとしております。

具体的な取組としては、市民をはじめ、海路利用者の安全確保はもとより、ＳＤＧｓ１７のゴールの一つであります「１４．海の豊かさを守ろう」を達成するための海の環境保全分野や青少年育成、社会学習といった分野において、さらに連携強化を図っていくこととしております。

次に、教育委員会事務局の関係でございます。令和５年二十歳を祝う会を去る１月３日に、対馬市シャインドームみねにおきまして開催いたしました。民法の一部を改正する法律により、令和４年４月１日から成年年齢が１８歳に引き下げられましたが、対馬市では、民法改正後も、これまでの成人式と同様に、２０歳を対象とし、「二十歳を祝う会」として式典を開催することといたしました。当日は、令和４年度中に二十歳を迎える２１１名、男１０３名、女１０８名の参加があり、式典では６町の代表者に二十歳証書の授与を行うとともに、参加者を代表して上県町出身の佐護直喜さんが二十歳の誓いを述べられ、大人としての決意を新たにされていました。

また、新型コロナウイルスの感染拡大の影響により、一昨年は中止、昨年は３会場に分散しての開催でしたが、今回は式典の時間短縮や検温、手指消毒など、新型コロナウイルスの感染対策を講じた上で、１ 会場での開催といたしました。

小学・中学・高校時代の同級生が一堂に集まり、お互いの晴れの舞台を祝い合う様子を目にし、大変感慨深いものがありました。二十歳を迎えた皆さんが、これからの対馬市を担う人材として、大きく羽ばたいていただくことを期待しているところであります。

以上が行政報告でございます。

本定例会において御審議願います案件でございますが、令和４年度一般会計等補正予算案件５件、令和５年度一般会計等予算案件８件、条例の制定及び一部改正１２件、指定管理者の指定２件、工事請負契約の締結１件、教育委員会委員の任命に係る同意１件、人権擁護委員候補者の推薦に係る諮問２件、合わせて３１件の議案について御審議をお願いするものでございます。

内容につきましては、提案の際、担当部長から説明を行いますので、慎重に御審議の上、適正なる御決定を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。なお、本会期中に追加議案として、漁港等区域内公有水面の埋立について４件、工事請負変更契約の締結１件を上程する予定としております。併せて御審議くださいますよう、お願いいたします。

以上、開会に当たっての挨拶といたします。

○議長（初村　久藏君）　以上で行政報告を終わります。

―――――――――――――・―――・―――――――――――――

日程第５．総務文教常任委員会の閉会中の所管事務調査報告

○議長（初村　久藏君）　日程第５、総務文教常任委員会の閉会中の所管事務調査報告を行います。委員長、上野洋次郎君。

○議員（１５番　上野　洋次郎君）　おはようございます。それでは、総務文教常任委員会の所管事務調査報告を行います。

本委員会は、令和５年１月３０日に、対馬市立小・中学校特別支援学級の現状と課題について所管事務調査を行いました。

当日は、教育委員会事務局から、八島教育部長、扇教育総務課長、大浦学校教育課長に出席いただき、雞知中学校及び厳原小学校を訪問しました。

まず、雞知中学校において、西山校長より当校の特別支援学級の現状と課題について説明を受け、その後、意見交換を行いました。

令和４年度は、全校生徒数１９３人に対し、特別支援学級の生徒は１１人であり、全体の５．７％で、特別支援学級の生徒が全校生徒数に占める割合は、年々増加傾向であります。

また、現在の介助員の配置数は４人です。障害の程度や特性等が異なる生徒へのきめ細かい支援をしていくためには、人的資源の確保・充実、指導者の特別支援教育についての専門性の向上が必要であること、また、中学校卒業後の進路について、特別支援学校に進学しない生徒は、多くの困難を抱えたまま通常の高校に進学するしかない現状であるとのことでした。もっと早い段階から専門の指導が受けられれば改善が見込める場合もあるため、そういったシステムを早く整えてもらいたいとの意見がありました。

次に、厳原小学校において、鍵本校長より当校の特別支援学級の現状と課題について説明を受け、その後、意見交換を行いました。

令和４年度は、全校児童数２４８人に対し、特別支援学級の児童は１５人であり、全体の６％で、特別支援学級の児童が全校児童数に占める割合は年々増加傾向でありましたが、令和３年度からは横ばいの状態であります。

また、現在の介助員の配置数は６人です。教職員に特別支援教育に関する知識・専門性が乏しいこと、学校全体が特別支援学級の児童の特性を理解し、支援していくという共通理解はできているが、体制としては不十分であること、また、日々の業務に追われ、教材研究やきめ細かな指導に充てる時間が少ないことが課題であり、介助員のさらなる配置等ができれば、時間的にも余裕ができるとの意見がありました。

最後に、対馬市役所別館第２会議室において、教育委員会事務局から対馬市立小・中学校全体の特別支援学級の現状と課題について説明を受けました。

小・中学校とも、児童生徒数は年々減少していますが、特別支援学級在籍児童生徒数は増加傾向であり、市内のほとんどの小・中学校で特別支援学級が設置されています。そのような中、従来の障害種別の範疇にないＬＤ（学習障害）、ＡＤＨＤ（注意欠陥、多動性障害）の児童生徒への対応が求められるなど、教育的ニーズへの対応に限界があること、専門的知識を持った教員が少ないこと、介助員配置の要望が多く、対応に限界があること等が課題であるとのことでした。

平成２４年度から開設されている長崎県立虹の原特別支援学校高等部対馬分教室の先生方には、教育委員会主催の研修の講師となっていただいたり、対応の難しい児童生徒について、学校から相談すると、その学校に出向いて指導・助言をいただいており、連携した対応ができているとのことでした。今後においても、対馬市の特別支援教育について指導的役割を担っていただくことを強く望むものであります。

また、介助員の不足について、教育委員会はホームページやハローワークなどで募集したり、適正な配置の検討をしたり、できる限りのことはしているとのことでしたが、委員からは、介助員は日額会計年度任用職員であり、通勤手当の支給などの労働条件の処遇改善が必要であるとの意見がありました。

本制度の総合的な所管は人事部局でありますが、対馬の子どもたちの健全育成及び特別支援教育の充実のため、処遇改善についての制度の見直しを検討いただき、介助員が働きやすい環境を整えていただくことを望むものであります。

以上で、総務文教常任委員会の閉会中の所管事務調査報告を終わります。

○議長（初村　久藏君）　報告が終わりました。

これから委員長報告に対する質疑を行います。質疑はありませんか。９番、脇本啓喜君。

○議員（９番　脇本　啓喜君）　すばらしい調査をしていただいたというふうに思っております。その中で１点、特別支援学校を、その対馬市内に設置すること自体は私も大賛成です。しかし、設置された後も普通教室での学校生活を望む保護者もいらっしゃるかと思います。必ず特別支援学校へ通わせるということではなく、選択肢を増やすということで御理解していいのだろうというふうに思っていますので、そのあたりについて何か話があったのかどうかお聞きしたいと思います。

これ設置した際に、せっかくできたんだからということで、周囲の保護者や学校関係者からそこに通いなさいというような有形無形のプレッシャーが保護者やそのお子様にかかってくることが懸念されます。障害のある人が障害のない人と同等に生活して、共に生き生きと活動できる社会を目指すということを理念にしているノーマライゼーションとか、多様性を育むダイバーシティの観点から、周囲に好影響を生み出している、そういう事例もたくさん報告されております。

本人及び保護者が普通教室への通学を望まれた場合、それを可能な限り受け入れられる環境整

備を求めようというような意見とか要望とかは、委員会の中でなかったのかあったのか答弁を求めます。

○議長（初村　久藏君）　委員長、上野洋次郎君。

○議員（１５番　上野　洋次郎君）　９番、脇本議員の質問に答えたいと思いますけれども、まず私のこの調査報告の中で、特別支援学校を設置してもらいたいというような趣旨のことはどこに書いてありますか。まず最初に聞きたい。支援学校の設置については、私は今回、所管ではありませんので所管はしておりません。今現状の特別支援学級の現状を調査、研究しただけでありまして、あなたの意見とちょっと的が外れていると思いますけれどもね。

以上です。

○議長（初村　久藏君）　９番、脇本啓喜君。

○議員（９番　脇本　啓喜君）　はい、分かりました。ただこれを調査したということは、今、何人もの議員さんたちが一般質問でもこの設置を望んでいるということで質問をしてますので、その下準備で調べてられたのではないかというふうに思いましたのでこの質問をさせていただきました。

以上です。

○議長（初村　久藏君）　ほかに質疑はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（初村　久藏君）　質疑なしと認めます。これで質疑を終わります。

―――――――――――――・―――――・―――――――――――――

日程第６．産業建設常任委員会の閉会中の所管事務調査報告

○議長（初村　久藏君）　日程第６、産業建設常任委員会の閉会中の所管事務調査報告を行います。委員長、春田新一君。

○議員（１０番　春田　新一君）　改めましておはようございます。次に、産業建設常任委員会所管事務調査報告を行います。

本委員会は、令和４年１２月２０日、対馬市役所豊玉庁舎３階大会議室において、上対馬町比田勝のカミレイ施設への小型まき網船の荷捌き場新設要望書について、農林水産部から日高次長、平川水産課長、原主任に出席をいただき、所管事務調査を行いました。

本計画は、①上対馬町漁協、②上対馬南漁協、③株式会社大幸、④上対馬町小鹿まき網有限会社、⑤株式会社カミレイ、⑥株式会社ジャパンシーフーズの６者を構成員として、（仮称）上対馬水産センターを設立する予定で、２漁協の組合長を共同代表とする。

これまでの経過について、関係者と対馬市において複数回の協議を重ねているが、本件の要望書については、素案が提出された段階で不透明な要素が多数あり、関係６者間の意思統一も図ら

れていないことから継続協議が必要と判断し、正式な要望書として提出には至っていない。市長としても、対馬での安定した陸揚げにつながり、受益者の利益向上や地元雇用の確保・増大につながるのであれば推進すべきとの意向であるが、令和３年度第４回定例会での会派代表質問に対する答弁のとおり、対馬市による魚類選別機の導入等限定的な支援を想定しており、実施主体は地元が望ましいとの方針である。

現段階では、実施主体について検討すべき材料が不足していることから、継続して協議を行い、事業の必要性、妥当性、費用対効果等、検証しながら、事業計画の精度向上を図る必要があると考えている。

本件の整備計画においては、荷捌きの用途も新たに発生するため、港湾用地の利用用途として妥当であるか、管理者（県）と協議を行う必要がある。今後も課題解決に向けて協議を行うとともに、事業主体たる関係者間の意思統一を図る必要がある。また、地元との調整も重要な課題であり、もっと幅広い関係者間での慎重な議論が必要であるとの説明を受けました。

委員会として、地元で陸揚げできれば、まき網船の運搬費、経費等も削減でき、雇用増にもつながるのでよいことではあるが、まずは、市と６者間での話合いを進められ、意思統一を図られた後、再度詳細な調査を行ってまいります。

次に、令和５年２月１日に、対馬博物館と近隣の観光施設の状況等及び対馬観光物産協会との連携について、全委員出席の下、所管事務調査を行いました。

まず、対馬博物館と近隣の観光施設との連携について、観光交流商工部より説明を受けながら現地視察を行いました。

委員から、対馬朝鮮通信使歴史館前の観光案内板の設置を早急に検討してほしい、また、歴史館横の駐車場についても、一日も早く工事に着手できるように取り組んでもらいたい、との意見が出ました。

その後、対馬市役所厳原庁舎別館大会議室において、観光交流商工部から村井部長、犬束観光商工課長、玖須文化交流課長、阿比留博物館学芸課長、対馬観光物産協会より、佐伯会長、舟橋次長に御出席をいただき説明を受けました。

対馬博物館の運営状況と今後の課題について、当初来館者を６万人見込んでいましたが、実際は令和４年１２月末現在で３万９５７人であった。対馬博物館と近隣の観光施設との連携については、万松院、金石城庭園、対馬博物館、対馬朝鮮通信使歴史館の４施設を１つのチケットで周遊できるパンフレット型の（仮称）金石城周辺施設周遊チケットを販売し、連携を図っていく。

今後の課題として、学芸員の不足があるとの説明を受けました。

次に、島内の観光名所の整備状況について、観光名所は島内に数多くあるので、関係部署と連携を図りながら職員でできる作業は行っている。今後においても整備が必要な箇所は予算化して

計画的に進めていくとの説明を受けました。

次に、観光物産協会との連携について、対馬観光物産協会は、観光・物産関係事業の振興及び観光客誘致の推進並びに国際観光の振興を促し、市民生活・文化及び経済の向上発展を目的としている。

事業の取組については、ふれあい処つしまの運営（指定管理）、観光関係事業、物産関係事業、受入体制事業等、観光と物産に対する事業を、市と連携して進めています。令和４年度の市から対馬観光物産協会への委託料は１億２，８１２万５，０００円となっているとの説明を受けました。

委員からは、周遊チケットについて、パンフレット型のチケットの販売もよいが、来島前に事前にインターネットで購入できるシステムを検討してほしい。また、周遊チケットを組み込んだ旅行商品を販売してもらえるよう、旅行会社へ提案をしてもらいたいとの意見が出ました。

以上で産業建設常任委員会の閉会中の所管事務調査報告を終わります。

○議長（初村　久藏君）　報告が終わりました。

これから委員長報告に対する質疑を行います。質疑はありませんか。１３番、波田政和君。

○議員（１３番　波田　政和君）　おはようございます。一、二点、委員長にお尋ねしますが、調査では、金石城周遊チケットの販売をやるということで連携を図るというような調査の方向みたいにありましたが、１つ確認をしてみたいのですが、周遊を考えたときに、博物館と朝鮮通信使歴史館この休館日は同じとか、よく博物館が、この間私の勘違いかも分かりませんが日曜日に閉まっとったみたいなときもあったんですよ。そういうことって調査とかなされてあるのかですね。普通の日はなかなか皆さん足が重いから、もし調査してあったらそこをちょっと１点聞かせてください。

○議長（初村　久藏君）　委員長、春田新一君。

○議員（１０番　春田　新一君）　今、波田議員のほうから質問がございました。今の部分については、博物館、朝鮮通信使歴史館等についての休館日が一緒になった場合というような質問だったろうと思いますが、私たちの方では、そこら辺は少し中に入って調査はしておりませんでした。そういうことがないようにしていかなければいけないとは思いますが、そこら辺について、委員からの意見もありませんでしたので、それで回答といたします。

○議長（初村　久藏君）　１３番、波田政和君。

○議員（１３番　波田　政和君）　分かりました。調査の範囲がいろいろとらえ方もあると思いますけども、せっかくこの周遊チケットを出すなら、やはり共通の体制をとっていただいたほうが、何かと利用する方々がよろしいんじゃないかなと思いました。それが１点と、あの周辺を全体をセットでやるということになったら、現況を考えたときになぜ行かないのか、その辺もちょっと疑問を持つとこがありましたのであえて尋ねておりますので、また機会がありましたらその辺の、

集合ととらえてチケット販売するなら、いろいろ対策とかも考えながらやっていけたらより効果が出るんじゃないかなと思っておりますので、また委員長にそこの辺を、また個人的でもどういう対処をしたかだけ後ほど教えてください。よろしくお願いします。

以上です。

○議長（初村　久藏君）　委員長、春田新一君。

○議員（１０番　春田　新一君）　ありがとうございます。この周遊チケットについて、委員のほうからも意見が多数出たんですが、やはり観光客によってはチケットを求めて行く人が少ないんじゃないかということで、インターネットまたは旅行会社等との連携をとって、まず先に組み込んでいったがいいんじゃないかというような委員からの意見でありましたので、そこら辺を補足で回答いたします。終わります。

○議長（初村　久藏君）　ほかに質疑ありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（初村　久藏君）　質疑なしと認めます。これで質疑を終わります。

―――――――――――――・―――――・―――――――――――――

日程第７．国境離島活性化推進特別委員会の閉会中の調査報告

○議長（初村　久藏君）　日程第７、国境離島活性化推進特別委員会の閉会中の調査報告を行います。委員長、作元義文君。

○議員（１７番　作元　義文君）　おはようございます。国境離島活性化推進特別委員会の報告を行います。

本委員会は、令和４年第２回定例会の委員会報告以降、これまでに４回の委員会を開催し、重点取組事項の１つであるジェットフォイルの更新等について、しまづくり推進部や運航会社である九州郵船株式会社に出席を求めて調査・研究を行ってきました。

そのような中、去る令和４年１１月１８日に改正離島振興法が成立をいたしました。今回の改正法には、「高速度で安定的に航行することができるもの、その他の船舶の新造及び更新に対する特別配慮規定」が明記され、また成立に当たり衆議院・参議院の国土交通委員会では、「離島に係る交通関連事業者を支援する地方公共団体に対する支援の在り方について検討すること」とする附帯決議も表明されております。

本委員会は、この機会に最重要課題であるジェットフォイルの更新問題等を壱岐市議会と連携・協力し、長崎県に対して要望を行うことを決定し、令和５年２月１４日に大石長崎県知事に対して要望書を提出いたしましたので、その概要について報告いたします。

要望の概要につきましては次のとおりであります。

１、離島航路におけるジェットフォイルの更新について、２、バンカーサーチャージ補助につ

いて、３、対馬空港・壱岐空港の整備についての３項目であります。

なお要望書につきましてはタブレットに掲載しておりますので、後ほど御覧願います。

２月１４日には、対馬市議会から初村議長、国境離島活性化推進特別委員会の７名の全委員、壱岐市議会から豊坂議長、土屋委員長、両市選出の県議会議員に参加をいただき、午後５時より長崎県庁４階特別応接室において、大石長崎県知事、奥田土木部長、渡辺地域振興部政策監、交通政策課長以下、関係課長も同席の上、要望書の提出を行いました。

大石知事より、冒頭、離島振興に対する本市、壱岐市の協力に対するお礼の言葉から始まり、１、離島航路におけるジェットフォイルの更新についてでは、ジェットフォイルは島民にとって欠かせない移動手段であり、観光産業の振興のためにも重要な役割を担っていることは認識している。

さきの改正離島振興法において、高速船の建造、更新に対する支援について盛り込まれた。長崎県としても、関係市町と意見交換など連携しながら、引き続き国に対して建造補助制度の創設に向けて要望していきたい。

２、バンカーサーチャージ補助についてでは、昨今の燃料価格の高止まりは認識しており、運航隻数に応じた支援を実施している。また、有人国境離島の予算確保と併せて引き続き運賃低廉化の対象者拡大に、滞在型観光促進事業拡大などを要望していきたい。

３、対馬空港施設の整備についてでは、空港整備が離島地域の活性化に寄与することは理解しているが、対馬空港、福江空港、壱岐空港の５か年平均の就航率を確認したところ大きな差はなかった。悪天候に対しては滑走路を延長してもあまり効果は望めないと思われる。

また、令和５年７月から運航が予定されているＡＴＲ４２についても、滑走路長１，９００メートルで離発着可能と伺っていることから、現状では滑走路の延長と延長に伴う空港消防力の設備強化は難しいと考えている。

いずれにしても、２，０００メートルの滑走路長であれば現状の課題解決ができるとういう考えを整理していただきたい。と回答をいただいております。

また、同席いただきました長崎県議会議員の坂本智徳氏、鵜瀬和博氏ほか県議会議員の方々にも陳情の主旨を説明し、側面からの支援もお願いしてまいりました。

以上で、国境離島活性化推進特別委員会の報告といたします。

なお、議員各位に知事要望に対する事前報告をすることを予定をしておりましたが、私の不手際で皆さんにお示しをすることができませんでしたので、この場を借りましておわびを申し上げ、御了承をいただきますよう、お願いを申し上げます。

以上で報告といたします。

○議長（初村　久藏君）　報告が終わりました。

これから委員長報告に対する質疑を行います。質疑はありませんか。９番、脇本啓喜君。

○議員（９番　脇本　啓喜君）　今、作元委員長のほうからおわびをいただきました。さすがに人徳ある作元議員で、自分の非をお認めになられておわびされたことは高く評価します。ただ、壱岐市選出の鵜瀬県議のフェイスブックを見て、初めてこの要望書の存在を私知りました。そして、特別委員会が出県したこともそれで知りました。

請願陳情、意見書と異なる要望書の提出なので、議会の議決は必要としないかもしれませんが、やはり議会として、しかもこのタブレットには、かがみのところには公印は押していませんが、議長の公印を押して知事に要望に行くわけですから、少なくとも事前にこういう要望書を出しますよ、行ってきますよということは、やはり議員にお伝えする配慮があってもよかったんではないかというふうに思っております。

そして、一つ質問ですが、財源について、このジェットフォイルを購入するということを要望しているわけですから、市との協議等は今現状はどういうふうになっているのかお聞かせいただきたいと思います。

○議長（初村　久藏君）　委員長、作元義文君。

○議員（１７番　作元　義文君）　６０億ぐらいジェットフォイルはかかる予定になっておりまして、国が７割の補助というか、リースみたいなものですけれども国が７割、あと地方自治体が２割、そして事業者が１割というふうになっておりまして、今その分担につきまして知事にも要望いたしましたけれども、３者で詰めていくというふうな格好になっているのかなというふうに思っております。

以上です。

○議長（初村　久藏君）　９番、脇本啓喜君。

○議員（９番　脇本　啓喜君）　ですから、市の持ち出しもあるということですので、市との協議はどこまで進んでいるんでしょうかということでお聞きして、やはり一般財源の方からまずは出して、それから交付税措置とかはあると思うんですが、そのあたり市との、この特別委員会との協議はどこまで進んでいますかということでお尋ねしました。

○議長（初村　久藏君）　委員長、作元義文君。

○議員（１７番　作元　義文君）　特別委員会と市とのその持ち出し分の協議についてはこれからになります。まだやっておりません。

○議長（初村　久藏君）　９番、脇本啓喜君。

○議員（９番　脇本　啓喜君）　まだ仮定のことですのでよくはわからないと思うんですが、１隻あたり、実質、市の持ち出しは大体どのくらいになるのか、結構、市民も興味があるところだと思いますので、ある程度、想定されていることがあればお聞かせください。

○議長（初村　久藏君）　委員長、作元義文君。

○議員（１７番　作元　義文君）　これは、持ち出し分につきましては壱岐市との協議になってくると思いますので、地元負担ということで、何億になるか私はわかりませんが大体５億ぐらいじゃないかなと思います。

はい、以上です。

○議員（９番　脇本　啓喜君）　ありがとうございました。

○議長（初村　久藏君）　ほかに質疑ありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（初村　久藏君）　質疑なしと認めます。これで質疑を終わります。

―――――――――――――・―――――・―――――――――――――

日程第８．長崎県病院企業団議会議員の報告

○議長（初村　久藏君）　日程第８、長崎県病院企業団議会議員の報告を行います。９番、脇本啓喜君。

○議員（９番　脇本　啓喜君）　長崎県病院企業団議会議員報告書、令和４年第２回長崎県病院企業団議会が、令和４年１２月２６日、１３時３０分から長崎県庁１階大会議室で開催され、対馬市議会からは、伊原議員と小職脇本が出席いたしました。その審議概要を以下のとおり御報告いたします。

最初に、米倉企業長から８月末に開催された臨時議会以降の重要項目についての報告と、今定例議会に上程された議案について説明がなされました。

次に、新上五島町議会選出議員、南島原市議会選出議員及び小職の３名が一般質問を行いました。質疑応答概要は後述いたします。

その後、提出された議案、条例議案２件、予算議案１件、決算認定議案１件、企業長専決事項報告１件の５議案が慎重に審議され、全議案賛成多数で可決されました。

さらに、その他議案外の３件について事務局より説明を受け、熱心な質疑応答あるいは協議が行われました。

以下、主に対馬地区に関係が深い案件を中心に御報告申し上げます。

脇本、一般質問・質疑応答概要。

長崎県病院企業団が提供する医療の方向性について、以下の３点のとおり質疑応答を交わしました。

①基幹病院の主たる提供医療の範疇、役回りについて。

質問。

医師を常駐させることが難しくなっている離島医療の課題は、医師を配置することよりも、ど

のように医療を届けるかに移り変わっている。限られた医療資源と財源を有効に活用するためには、離島の基幹病院にも治し支える病院としての機能の充実が求められていると思うが、企業団の所見を求めたい。

答弁。

医療需要の変化に応じた病床の規模や機能の見直しを図りつつも、基本的には人的資源をある程度投入するとともに、高度医療に係る医療機器等についても一定の整備を進める。また、電子カルテの統一化や「あじさいネット」に加盟する異なる医療機関間では、患者の診療情報の共有化を進めている。さらに、基幹病院では、本土からの遠隔サポートによる高度専門医療を提供する取組を進めている。

②①を受けて、一次医療機関である上対馬病院の主たる提供医療の範疇（役回り）について質問。一次医療機関において、郷診郷創、これは可能であればできるだけ、まずは自地域の医療機関にかかろう、そうすることで、地域医療ひいては地域そのものを守ることにつながるという考えですが、これを推進するに当たっては、他の医療機関から戻って来られる患者を治し支える病院機能の充実が望まれる。上対馬病院建替計画において、どのように反映されているか答弁を求める。

答弁。

上対馬病院は上対馬地区における地域病院として、地域での予防医療から救急医療を担うとともに、対馬市と連携を図りながら地域包括ケアシステムを推進し、回復期の患者の受け皿となりつつ、在宅医療も提供する機能などが果たすべき役割だと考えている。現在、建て替え候補地を選定している段階であり、具体的な病床規模や機能などについては、今後、企業団内部でも十分な検討を行いまして、関係者の御意見もしっかり伺いながら具体的な建て替え計画へ反映したい。

③キュア志向からケア志向への転換について。

質問。

厚生労働省の指針を受け、対馬市においても、旧対馬いづはら病院跡地に将来的には在宅医療支援診療拠点最大１９床の有床診療所を目指すとの方向性で、市立いづはら診療所を開設した。しかし、諸事情により現在は往診や在宅医療は実施しない外来診療のみとなっている。したがって、対馬病院においては、在宅医療をはじめ、地域包括ケアシステムを担う役割がますます大きくなっている。対馬病院におけるキュア志向からケア志向への転換に関する企業団の今後の方向性について答弁を求めます。

答弁。

地域包括ケアシステムを推進するに当たって、対馬病院及び上対馬病院には、急性期や急性期経過後の患者の受入れをはじめ、在宅復帰に向けた退院支援や在宅医療の提供などの役割が求め

られている。様々な課題はあるが、今後とも対馬市をはじめとする関係機関との連携の強化を図り、在宅医療の取り組みを推進したい。

④総括的質問。

郷診郷創は大事な理念であると認識しています。企業団の御尽力で、その理念の浸透が少しずつ普及していることは理解できています。各地の住民の理解を一層深めていくには、住民の内心面も含めたニーズの把握やさらなる理念の周知といった企業団の取り組みに期待したい。

答弁。

離島において、地元で診療を受ける患者の割合が高まっているとのデータは把握できている。また、職員の自己都合退職が非常に多いとの認識から、その理由についてヒアリング等に努めており、病院に今後どうあってほしいのかといったアンケート調査をするように進めているところである。

議案審議概要。

議案第９号、長崎県病院企業団医療技術修学資金貸与条例の一部を改正する条例は、学生が制度を利用しやすくし、医療従事者の確保に資するよう、修学資金の返還免除に係る必要義務期間に関して、現在給付期間の２倍の義務年限から同１．５倍の義務年限に短縮するものです。

議案外質疑応答概要。

アフターコロナを見据えた今後の地域医療構想と、企業団病院の建て替えに関する総論的な質疑応答がなされました。特に現在、各病院で休床中の病床、対馬病院は４０床から４８床について、どの段階でどのような体制とするか見極めが難しいとの現状報告がなされました。

以上、令和４年１２月２６日に開催されました令和４年第２回長崎県病院企業団議会報告を終わります。

○議長（初村　久藏君）　報告が終わりました。

これから報告に対する質疑を行います。質疑ありませんか。１５番、上野洋次郎君。

○議員（１５番　上野　洋次郎君）　１点伺います。議案第９号の長崎県病院企業団医療技術学資資金改正条例の一部改正ですね。２倍から１．５倍は分かりました。この施行日はいつからになるんですか。その１点お願いします。

○議長（初村　久藏君）　上野議員、後でいいですか。（発言する者あり）そしたら後で報告してください。ほかに質疑ありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（初村　久藏君）　これで質疑を終わります。

暫時休憩します。再開を１１時１５分からといたします。

午前11時01分休憩

午前11時15分再開

○議長（初村　久藏君）　再開します。

日程第９．長崎県後期高齢者医療広域連合議会議員の報告

○議長（初村　久藏君）　日程第９、長崎県後期高齢者医療広域連合議会議員の報告を行います。

１１番、小島徳重君。

○議員（１１番　小島　徳重君）　長崎県後期高齢者医療広域連合議会議員報告書。

令和５年２月１７日、長崎県市町村会館において、令和５年第１回長崎県後期高齢者医療広域連合議会定例会が開催されましたので、議案審議等の内容について、次のとおり報告いたします。

議案審議に入る前に、同意議案第１号として、副広域連合長の選任議案が提出され、佐々町長であられる古庄剛氏を適任者と認め、選任されました。

続いて、経過等の報告がありました。主な内容は次のとおりです。

１、国の動向について。

昨年１２月１６日、政府が開催する「全世代型社会保障構築会議」の報告書が取りまとめられ、後期高齢者医療制度については、出産育児一時金の増額に伴う後期高齢者医療制度が費用の一部を支援する仕組みの導入、保険料負担の在り方の見直しなどが示されました。

このことを踏まえ、１２月末に閣議決定された令和５年度予算案においても、後期高齢者医療制度が出産育児一時金に係る費用の一部を支援する仕組みを令和６年度から導入することとし、その対象額を令和６、７年度は出産育児一時金全体の２分の１、令和８年度からは出産育児一時金全体とすることとされました。

また、後期高齢者の保険料負担の在り方の見直しについては、賦課限度額の見直しを２年かけて行うこととし、併せて、保険料のうち所得割の引上げも令和６年度から行うこととされました。

今後、これらの医療保険制度改革に必要な改正法案が国会に提出されることとなります。

２、国に対する要望について。

令和４年１１月１７日、全国の広域連合で組織する全国後期高齢者医療広域連合協議会は、高齢者数がピークを迎える２０４０年を展望し、後期高齢者医療制度の基盤強化や持続性を確保し、必要な改善を図るため、国による積極的な対応や実現に向けた取組を要望し、７項目についての要望書を加藤勝信厚生労働大臣に提出しました。

３、新型コロナウイルス感染症対応に関する施策について。

（１）傷病手当金制度について。

国の通知に基づき、規則の改正を行い、適用期間を令和５年３月３１日まで延長しました。

令和５年１月末現在における令和４年度分の支給実績は、決定件数が２３件で、支給総額は９３万8，５３２円です。

（2）保険料の減免について。

国が示す減免基準に基づき、保険料減免申請の受付を引き続き行っています。

令和５年１月末現在における令和４年度分の減免状況は、決定件数が４８件で、金額は２７８万1，７００円です。

議案審議の内容については、次のとおりです。

議案審議については、議員提出議案１件、条例改正案３件、広域計画の変更１件、予算議案４件が上程され、慎重審議の結果、いずれも賛成多数により原案のとおり可決されました。

議員提出議案第１号、長崎県後期高齢者医療広域連合議会の個人情報の保護に関する条例。

提案理由。

デジタル社会の形成を図るための関係法律の整備に関する法律が公布され、個人情報の保護に関する法律が改正された。当該改正法の対象となる機関から議会が除外され、行政機関の個人情報の取扱いに係る義務等に関する規律の適用対象とはされていないが、個人の権利利益の保護という観点からは、自律的な対応のもと、議会における個人情報の適切な取扱いに関して必要な事項を定める必要があるので、この条例案を提出する。

議案第１号、長崎県後期高齢者医療広域連合個人情報の保護に関する法律施行条例。

提案理由。

デジタル社会の形成を図るための関係法律の整備に関する法律が公布され、個人情報の保護に関する法律が改正されたことに伴い、個人情報保護の取扱いは改正法に一元化されたことから、広域連合においても必要な事項を定める必要があるため、この条例案を提出する。

議案第２号、長崎県後期高齢者医療広域連合職員の定年等に関する条例及び人事行政の運営等の状況の公表に関する条例の一部を改正する条例。

提案理由。

地方公務員法の一部を改正する法律により、地方公務員の定年が国家公務員と同様に引き上げられる。地方公務員法の定年等に関する適用を受ける広域連合職員は、地方自治法第２９２条により準用する同法第２５２条の１７の規定に基づく派遣職員のため、定年等については派遣元団体のそれぞれの関係規定の定めるところによるが、管理監督職勤務上限年齢に関しては、広域連合の管理監督職の取扱いに関わることから、所要の整備をしたいため、この条例案を提出する。

議案第３号、長崎県後期高齢者医療広域連合後期高齢者医療に関する条例の一部を改正する条例。

提案理由。

令和５年度以後の低所得者に係る保険料均等割軽減判定に用いる額が見直されることに伴い、所要の整備をしたいため、この条例案を提出する。

議案第４号、長崎県後期高齢者医療広域連合第３次広域計画の変更について。

提案理由。

広域計画は、地方自治法第２９１条の７第１項の規定に基づき、議会の議決を経て策定している。現在は、令和２年度から令和６年度までの５年間を期間とする第３期広域計画を策定している。当該広域計画において、「個人情報保護条例」が引用されているが、個人情報の保護に関する法律が共通ルールとなることに伴い、所要の整備をしたいため、この変更案を提出する。

議案第５号、令和４年度長崎県後期高齢者医療広域連合一般会計補正予算（第１号）。

令和４年度長崎県後期高齢者医療広域連合一般会計補正予算（第１号）は、歳入歳出予算の総額に、歳入歳出それぞれ１，２６１万７，０００円を追加し、歳入歳出予算の総額をそれぞれ２億３，９１７万９，０００円とするものです。令和３年度決算余剰金を受け入れるとともに、財政調整基金積立金について予算の補正を必要とするものです。

議案第６号、令和４年度長崎県後期高齢者医療広域連合後期高齢者医療特別会計補正予算（第１号）。

令和４年度長崎県後期高齢者医療広域連合後期高齢者医療特別会計補正予算（第１号）は、歳入歳出予算の総額に、歳入歳出それぞれ３８億５，９６７万３，０００円を追加し、歳入歳出予算の総額をそれぞれ２，３２５億１，０１５万５，０００円とするものです。令和３年度決算余剰金を受け入れ、償還金等を整理する必要があること、レセプト点検委託業務に係る不用額が生じたことその他について予算の補正を必要とするものです。

議案第７号、令和５年度長崎県後期高齢者医療広域連合一般会計予算。

令和５年度長崎県後期高齢者医療広域連合一般会計予算の歳入歳出の総額は、歳入歳出それぞれ２億３，４９０万２，０００円と定めるものであります。歳入の主なものは市町負担金、歳出の主なものは総務費の一般管理費です。

議案第８号、令和５年度長崎県後期高齢者医療広域連合後期高齢者医療特別会計予算。

令和５年度長崎県後期高齢者医療広域連合後期高齢者医療特別会計予算の歳入歳出の総額は、歳入歳出それぞれ２，３６６億６，１４５万６，０００円と定めるものであります。歳入の主なものは国庫支出金、市町村支出金及び支払基金交付金、歳出の主なものは保険給付費であります。

議事日程の最後に一般質問が行われ、西海市選出の渕瀬栄子議員、壱岐市選出の山口欣秀議員が質問されました。

渕瀬栄子議員の質問内容。

１、医療保険改革による後期高齢者の負担増について。

２、原爆被爆者や被爆体験者に係る特別調整交付金の交付要件について。

山口欣秀議員の質問内容。

１、健康保険証のマイナンバーカードへの統合化に伴う課題について。

２、データヘルス計画（第２期）の取組の評価について。

以上で、長崎県後期高齢者医療広域連合議会議員の報告を終わります。

○議長（初村　久藏君）　報告が終わりました。

これから報告に対する質疑を行います。質疑はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（初村　久藏君）　質疑なしと認めます。これで質疑を終わります。

―――――――――――――・―――――・―――――――――――――

日程第１０．議案第３号

○議長（初村　久藏君）　日程第１０、議案第３号、令和４年度対馬市一般会計補正予算（第１１号）を議題とします。

提案理由の説明を求めます。総務部長、木寺裕也君。

○総務部長（木寺　裕也君）　ただいま議題となりました議案第３号、令和４年度対馬市一般会計補正予算（第１１号）について、その提案理由と内容を御説明申し上げます。

今回の補正は、国の補正予算に伴う漁港整備事業や市道改良事業などの追加と各種事業の実績等によります調整が主なものでございます。

予算書の３ページをお願いいたします。

令和４年度対馬市の一般会計補正予算（第１１号）は、次に定めるところによることを規定し、第１条第１項、歳入歳出予算の補正は、歳入歳出予算の総額に歳入歳出それぞれ３億８，６５６万３，０００円を減額し、歳入歳出予算の総額を歳入歳出それぞれ３４２億９，４８０万４，０００円とするものでございます。

第２項、歳入歳出予算の補正の款項の区分及び当該区分ごとの金額並びに補正後の歳入歳出予算の金額は、４ページから７ページにかけての「第１表　歳入歳出予算補正」によるとするものでございます。

第２条、継続費の補正は、継続費の変更を８ページ、９ページの「第２表　継続費補正」によるものとし、市道尾浦浅藻線道路改良事業費の総額、事業年度及び年割額を変更するものでございます。

第３条、繰越明許費は、地方自治法第２１３条第１項の規定により、翌年度に繰り越して使用することができる経費を８ページから１３ページにかけての「第３表　繰越明許費」によるものとし、合計７４件、２６億１，７３８万５，０００円を繰り越せるとするものでございます。

なお、この繰越明許費につきましては、別途、繰越理由一覧表をタブレットに掲載しておりますので、後ほど御参照ください。

第４条、地方債の補正は、地方債の変更を１２ページ、１３ページの「第４表　地方債補正」によるものとし、地方債の限度額を３８億６，０４０万円とするものでございます。

次に、歳入歳出補正予算の内容について、その主なものを御説明いたします。

１８ページをお願いいたします。

まず、歳入でございますが、１款・市税は、所得割の増により市民税７，０００万円とたばこ税４，０００万円を追加しております。

２款・地方譲与税は、森林環境譲与税３６５万６，０００円を追加しております。

１３款・分担金及び負担金は、博物館管理運営負担金の減が主なものでございます。

１４款・使用料及び手数料は、国際ターミナルの使用料９１０万円の減額が主なものでございます。

２０ページをお願いいたします。

１５款・国庫支出金、１項・国庫負担金でございますが、事業の実績見込み等により、１目・民生費国庫負担金２，７８５万３，０００円の減額のほか、４目・災害復旧費国庫負担金を合わせまして、９，２５０万９，０００円を減額しております。２項・国庫補助金は、地域介護・福祉空間整備等施設整備交付金、国の補正予算に伴う地方創生整備推進交付金、漁港整備事業補助金などの追加及び事業の実績等による増減により６，２７８万１，０００円の増額となっております。

２２ページをお願いいたします。

１６款・県支出金、１項・県負担金は、事業の実績等により１，３６５万１，０００円を減額しております。２項・県補助金は、国の補正予算に伴う漁港整備事業補助金の追加及び事業実績見込みによる増減等により９，８５９万５，０００円の減額となっております。

２４ページをお願いいたします。

３項・委託金は、長崎県議会議員選挙費委託金３５０万円を追加しております。

１７款・財産収入は、立木売払収入７２０万４，０００円を追加しております。

１９款・繰入金は、財源調整によります財政調整基金繰入金２億４，３６１万９，０００円の減、がんばれ国境の島対馬ふるさと応援基金繰入金２，８００万円の減が主なものでございます。

２６ページをお願いいたします。

２１款・諸収入は、災害対策費用保険の追加が主なものでございます。

２２款・市債は、漁業用燃油高騰対策事業、県工事河川事業、公営住宅建設事業の減額や国の補正予算による道路・漁港事業の追加や事業実績見込みによる増減により８，６４０万円の減額となっております。

続きまして、歳出について御説明いたします。

なお、歳出につきましては、国の補正予算に係る事業などにつきまして、別途、参考資料をタブレットに掲載しておりますので、後ほど御参照ください。

２８ページをお願いいたします。

２款・総務費、１項・総務管理費は、地方バス路線維持費補助金の追加、住んでよし・訪れてよしのまちづくり応援事業補助金、結婚新生活支援事業補助金の減額や各事業の実績見込みによる増減により２，９８１万円の減額となっております。４項・選挙費は、長崎県議会議員選挙に係る費用を追加しております。

３款・民生費、１項・社会福祉費でございますが、５目・老人福祉費は、高齢者生活福祉センターピアハウス浴室改修事業１，１６８万８，０００円、地域介護・福祉空間整備等補助金５３９万９，０００円の増や後期高齢者医療広域連合負担金３，８４９万７，０００円の減額など、事業実績見込みによる増減により３，２１０万円の減額となっております。

３０ページをお願いいたします。

２項・児童福祉費は、国費・県費精算返還金４１４万２，０００円の追加及び扶助費４，２７６万７，０００円の減や事業実績見込みによる減額を合わせまして、６，９６７万３，０００円の減額でございます。

４款・衛生費、１項・保健衛生費は、水道事業負担金９６９万２，０００円の追加及び新型コロナ感染症対応地方創生臨時交付金の各種事業４，８８４万４，０００円の減額を合わせまして、３，９１５万円の減額でございます。

３２ページをお願いいたします。

２項・清掃費は、事業実績などによる４，０６４万７，０００円の減額でございます。

６款・農林水産業費、１項・農業費は、有害鳥獣捕獲補助金４，８７０万円の減、農地集積・集約化事業費補助金１６１万９，０００円の追加など、事業実績見込みによる増減を合わせて、５，０００万３，０００円の減額となっております。２項・林業費は、森林環境譲与税活用基金積立金１，１９７万４，０００円の追加、森・川・里・海環境保全再生基金積立金７１０万４，０００円の追加のほか、事業実績見込みによる増減等を合わせまして、３５５万７，０００円の増額となっております。

３４ページをお願いいたします。

３項・水産業費、２目・水産業振興費は、事業実績などにより１億２，４６６万５，０００円の減額、４目・漁港建設費は、国の補正に伴う事業費の追加などにより３，７２６万３，０００円の増額となっております。

７款・商工費は、各種事業の実績見込みによる減額が主なものでございます。

３６ページをお願いいたします。

８款・土木費、２項・道路橋りょう費は、国の補正に伴う事業費の追加や事業実績見込みによります増減などによりまして１億６，５７０万円の増額となっております。３項・河川費は、田川河川改良工事負担金５，０００万円の減額、急傾斜地崩壊対策事業負担金７５０万円の追加でございます。４項・港湾費は、国際ターミナル使用料徴収委託料１８２万円の減額と港湾県工事負担金２２２万５，０００円が主なものでございます。

３８ページをお願いいたします。

６項・住宅費は、雞知団地設計委託６，８２０万円の減額及び工事請負費１，７２０万円の追加が主なものでございます。

９款・消防費は、消防庁舎改修工事費３２０万円を委託料から工事請負費への組替え、防災ハザードマップ作成委託料、屋外拡声子局整備基本設計業務委託料の減額でございます。

１０款・教育費は、教職員住宅解体工事１，６４９万１，０００円の減額のほか、事業実績見込みなどによります増減となっております。

４０ページをお願いいたします。

１１款・災害復旧費でございますが、事業実績見込みにより漁港施設災害復旧工事費５，７０７万９，０００円、道路災害復旧工事費１，６００万円を減額しております。

４２ページをお願いいたします。

１２款・公債費は、借入率の決定などにより、償還金利子１，３９０万円を減額しております。

１３款・諸支出金は、旅客定期航路事業特別会計繰出金の追加でございます。

なお、４４ページから４７ページにかけまして、補正予算給与費明細書を添えてございますので、御参照方よろしくお願いいたします。

以上、簡単ではございますが、提案理由の説明を終わらせていただきます。御審議の上、御決定賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

○議長（初村　久藏君）　説明が終わりました。

これから質疑を行います。質疑はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（初村　久藏君）　質疑なしと認め、これで質疑を終わります。

本件は、配付しております議案審査付託表のとおり、各常任委員会に付託をします。

―――――――――――――・―――――・―――――――――――――

日程第１１．議案第４号

○議長（初村　久藏君）　日程第１１、議案第４号、令和４年度対馬市診療所特別会計補正予算（第５号）を議題とします。

提案理由の説明を求めます。健康づくり推進部長、桐谷和孝君。

○健康づくり推進部長（桐谷　和孝君）　ただいま議題となりました議案第４号、令和４年度対馬市診療所特別会計補正予算（第５号）につきまして、その提案理由と内容について御説明いたします。

今回の補正予算は、長崎県へき地医療対策費補助金の令和３年度診療実績による県補助金精算返還金でございます。

予算書の３ページをお願いいたします。

令和４年度対馬市の診療所特別会計補正予算（第５号）は、次に定めるところによることを規定し、第１条第１項、歳入歳出予算の補正は、歳入歳出予算の総額に歳入歳出それぞれ１，５５０万１，０００円を追加し、歳入歳出予算の総額を歳入歳出それぞれ４億６，６２２万円とするものでございます。

第２項、歳入歳出予算の補正の款項の区分及び当該区分ごとの金額並びに補正後の歳入歳出予算の金額は、４ページから５ページにかけての「第１表　歳入歳出予算補正」によるとするものでございます。

次に、歳入歳出補正予算の内容につきまして御説明申し上げます。

まず、歳入でございますが、予算書は８ページをお願いいたします。

３款・県支出金は、へき地医療対策費補助金を１，８６４万６，０００円追加、４款繰入金１項他会計繰入金は、一般会計からの繰入金を３１４万５，０００円減額しております。

次に、歳出について御説明させていただきます。

１款・総務費、１項・施設管理費、１目・一般管理費、２２節・償還金、利子及び割引料は、令和３年度診療実績に伴う長崎県へき地医療対策費補助金返還金１，５５０万１，０００円を計上いたしております。

以上で、提案理由の説明を終わります。御審議の上、御決定賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

○議長（初村　久藏君）　説明が終わりました。

これから質疑を行います。質疑はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（初村　久藏君）　質疑なしと認め、これで質疑を終わります。

お諮りします。本件は、委員会への付託を省略したいと思います。御異議ございませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（初村　久藏君）　異議なしと認めます。本件は、委員会への付託を省略することに決定しました。

これから討論、採決を行います。

議案第４号、令和４年度対馬市診療所特別会計補正予算（第５号）について、討論はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（初村　久藏君）　討論なしと認め、採決します。

本件は、原案のとおり決定することに御異議ございませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（初村　久藏君）　異議なしと認めます。本件は、原案のとおり可決されました。

―――――――――――――・―――――・―――――――――――――

日程第１２．議案第５号

○議長（初村　久藏君）　日程第１２、議案第５号、令和４年度対馬市後期高齢者医療特別会計補正予算（第２号）を議題とします。

提案理由の説明を求めます。福祉保険部長、國分幸和君。

○福祉保険部長（國分　幸和君）　ただいま議題となりました議案第５号、令和４年度対馬市後期高齢者医療特別会計補正予算（第２号）につきまして、その提案理由と内容について御説明申し上げます。

今回の補正は、保険料、納付金の減額が主なものでございます。

補正予算書の３ページをお願いいたします。

令和４年度対馬市の後期高齢者医療特別会計補正予算（第２号）は、次に定めるところによることを規定し、歳入歳出予算の補正は、第１条第１項で歳入歳出予算の総額から歳入歳出それぞれ１，８１９万円を減額し、歳入歳出予算の総額を歳入歳出それぞれ４億１，８６７万７，０００円とするものでございます。

第２項で、歳入歳出予算の補正の款項の区分及び当該区分ごとの金額並びに補正後の歳入歳出予算の金額は、４ページから５ページにかけての「第１表　歳入歳出予算補正」によるとするものでございます。

次に、歳入歳出補正予算の内訳について御説明いたします。

予算書は８ページから９ページをお願いします。

まず、歳入でございますが、１款・後期高齢者医療保険料は、特別徴収、普通徴収の収納状況見込みにより７５０万円を減額しております。

５款・繰入金は、保険基盤安定繰入金の減額でございます。

次に、歳出でございますが、２款・後期高齢者医療広域連合納付金は、保険基盤安定負担金の減額及び保険料の減額による納付金の減額でございます。

以上、議案第５号の提案理由の説明を終わります。御審議の上、御決定賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

○議長（初村　久藏君）　説明が終わりました。

これから質疑を行います。質疑はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（初村　久藏君）　質疑なしと認め、これで質疑を終わります。

お諮りします。本件は、委員会への付託を省略したいと思います。御異議ございませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（初村　久藏君）　異議なしと認めます。本件は、委員会への付託を省略することに決定しました。

これから討論、採決を行います。

議案第５号、令和４年度対馬市後期高齢者医療特別会計補正予算（第２号）について、討論はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（初村　久藏君）　討論なしと認め、採決します。

本件は、原案のとおり決定することに御異議ございませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（初村　久藏君）　異議なしと認めます。本件は、原案のとおり可決されました。

―――――――――――――・―――――・―――――――――――――

日程第１３．議案第６号

○議長（初村　久藏君）　日程第１３、議案第６号、令和４年度対馬市旅客定期航路事業特別会計補正予算（第３号）を議題とします。

提案理由の説明を求めます。中対馬振興部長、松井惠夫君。

○中対馬振興部長（松井　惠夫君）　ただいま議題となりました議案第６号、令和４年度対馬市旅客定期航路事業特別会計補正予算（第３号）につきまして、その提案理由を御説明いたします。

今回の補正予算は、燃油高騰により渡海船の燃料費を追加するものでございます。

予算書の３ページをお願いいたします。

令和４年度対馬市の旅客定期航路事業特別会計補正予算（第３号）は、次に定めるところによることを規定し、第１条第１項、歳入歳出予算の補正は、歳入歳出予算の総額に歳入歳出それぞれ９２万円を追加し、歳入歳出予算の総額を歳入歳出それぞれ４，５００万８，０００円とするものでございます。

第２項、歳入歳出予算の補正の款項の区分及び当該区分ごとの金額並びに補正後の歳入歳出予

算の金額は、４ページから５ページにかけての「第１表　歳入歳出予算補正」によるとするものでございます。

次に、歳入歳出補正予算の内容につきまして御説明申し上げます。

まず、歳入でございますが、予算書は８ページをお願いいたします。

４款・繰入金、１項・他会計繰入金は、一般会計からの繰入金を９２万円追加しております。

次に、歳出についてでございます。

２款・施設費、１項・施設費、１目・施設管理費、１０節・需用費に、燃料費を９２万円追加しております。

以上で、提案理由の説明を終わります。よろしく御審議の上、御決定賜りますよう、お願い申し上げます。

○議長（初村　久藏君）　説明が終わりました。

これから質疑を行います。質疑はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（初村　久藏君）　質疑なしと認め、これで質疑を終わります。

お諮りします。本件は、委員会への付託を省略したいと思います。御異議ございませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（初村　久藏君）　異議なしと認めます。本件は、委員会への付託を省略することに決定しました。

これから討論、採決を行います。

議案第６号、令和４年度対馬市旅客定期航路事業特別会計補正予算（第３号）について、討論はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（初村　久藏君）　討論なしと認め、採決します。

本件は、原案のとおり決定することに御異議ございませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（初村　久藏君）　異議なしと認めます。本件は、原案のとおり可決されました。

―――――――――――――・―――・―――――――――――――

日程第１４．議案第７号

○議長（初村　久藏君）　日程第１４、議案第７号、令和４年度対馬市水道事業会計補正予算（第４号）を議題とします。

提案理由の説明を求めます。水道局長、立花大功君。

○水道局長（立花　大功君）　ただいま議題となりました議案第７号、令和４年度対馬市水道事業

会計補正予算（第４号）につきまして、提案理由とその内容を御説明申し上げます。

今回の補正は、水道管移設補償事業の工事費と補償金の精査及び東地区簡易水道水源開発事業費の追加が主なものでございます。

補正予算書３ページをお願いいたします。

第１条で、令和４年度対馬市水道事業会計の補正予算（第４号）は、次に定めるところによることを規定し、第２条で、予算第４条本文中括弧書を「資本的収入額が資本的支出額に対し、不足する額３億６，４１５万６，０００円は、当年度分消費税資本的収支調整額２，１８２万２，０００円、当年度分損益勘定留保資金２億２，０９２万８，０００円、減債積立金４，８０９万３，０００円、建設改良積立金７，３３１万３，０００円で補てんするものとする。」に改め、第１款・資本的収入、第３項・負担金を９６９万２，０００円追加、第４項・補償金を５１３万５，０００円追加し、資本的収入額の総額を２億８，３５０万１，０００円とし、第１款・資本的支出、第１項・建設改良費を４３１万円追加し、資本的支出の総額を６億４，７６５万７，０００円に改めるものでございます。

第３条で、予算第９条第４号中「７，４３３万６，０００円」を「８，４０２万８，０００円」に改めるものでございます。

それでは、補正の内容について御説明申し上げます。

６ページ、７ページをお願いいたします。

資本的収入でございますが、１款・資本的収入、３項・負担金、１目・他会計負担金の補正は、一般会計からの負担金９６９万２，０００円の追加、４項・補償金、１目・補償金は、県管理道路などの水道管移設工事に対する補償金５１３万５，０００円の追加でございます。

資本的支出でございますが、１款・資本的支出、１項・建設改良費、２目・施設整備費の補正は、東地区簡易水道水源開発事業及び県・市管理道路の水道管移設補償工事の事業費の精査で４３１万円を追加するものでございます。

以上で、議案第７号、令和４年度対馬市水道事業会計補正予算（第４号）の提案理由の説明を終わります。御審議の上、御決定を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

○議長（初村　久藏君）　説明が終わりました。

これから質疑を行います。質疑はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（初村　久藏君）　質疑なしと認め、これで質疑を終わります。

お諮りします。本件は、委員会への付託を省略したいと思います。御異議ございませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（初村　久藏君）　異議なしと認めます。本件は、委員会への付託を省略することに決定し

ました。

これから討論、採決を行います。

議案第７号、令和４年度対馬市水道事業会計補正予算（第４号）について、討論はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（初村　久藏君）　討論なしと認め、採決します。

本件は、原案のとおり決定することに御異議ございませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（初村　久藏君）　異議なしと認めます。本件は、原案のとおり可決されました。

昼食休憩といたします。再開を１時５分からといたします。

午後０時01分休憩

午後１時05分再開

○議長（初村　久藏君）　再開します。

―――――――――――――・―――・―――――――――――――

日程第１５．市長の施政方針説明

○議長（初村　久藏君）　日程第１５、市長の施政方針説明を行います。市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝　尚喜君）　令和５年度一般会計及び特別会計予算の御審議をお願いするに当たりまして、予算編成方針とその概要を御説明申し上げます。

人類の存在を脅かして、パンデミックとなっている新型コロナウイルス感染症も、国内での感染者が確認されてから、はや３年が経過しようとしておりますが、ウイルスは変異を繰り返しながら免疫をすり抜け、現在、第８波となっておりますが徐々に収束に向かっているのではないかと思慮しております。

この新型コロナ対策に関して、現状では基本的な感染予防対策の徹底とワクチン接種が有効な手段と位置づけられておりますが、国の新型コロナウイルスの感染症上の位置づけを、現在の２類相当から５類に引き下げる方針を固められたところであります。

今後、医療現場や国民が混乱しないよう、十分な制度設計を関係機関へお願いしていかなければならないと考えております。

令和５年度は、第２次対馬市総合計画後期計画の３年目となります。総合計画を道しるべとして、可能な限りの施策を、市議会とともに、知恵を絞りながら実行してまいりたいと考えております。

国が最重要施策としている「デジタル田園都市国家構想」におきましても、対馬市では、デジ

タル基盤の整備と高度化が急務であるため、今年度から市内全域でＮＴＴ光回線の整備を進め、令和６年度には下地区エリアで、令和７年度までには市内全域でのサービス提供が可能となるように取り組んでまいります。

その上で、テレワークやワーケーションなど、企業が活動しやすい環境が整えば、企業誘致にも弾みがつくものと期待をしております。

また、デジタル変革時代に即応するために、ＤＸ担当課を、しまづくり推進部に組織編成の上で見直し、Ｓｏｃｉｅｔｙ５．０の時代に適応した推進体制を構築してまいります。

持続可能なしまづくりを目指すＳＤＧｓ未来都市関連においては、昨年の６月に市議会とともに、「ごみゼロアイランド対馬宣言」を発信させていただきました。また、ＳＤＧｓに係る企業との連携協定も、５件、８社に及び、今後の推進体制に期待を抱いているところであります。

中でも、昨年９月に大阪に本社を置くサラヤ株式会社様をはじめ、関西経済同友会様などと循環経済モデル研究開発連携協定を結び、海洋ごみ問題への対策強化や、島内でのゼロエミッション実現を目指した対馬モデルの実証研究を進めております。

その上で、令和７年に開催予定の大阪・関西万博パビリオンでの研究成果の発信実現に向けて、各種事業を進めてまいります。

次に、人口減少対策の一環として取り組んでいる「対馬３高校の魅力化推進事業」において、３高校の文化・スポーツ活動支援強化のため、遠征費用の助成とスポーツ指導者の招聘事業に取り組み、地元高校への進学率の向上を目指してまいります。

令和５年度予算は、こういった取組のほか、対馬ならではの地域の活性化を図り、市民の所得向上と福祉の充実を目標に編成させていただきました。その概要を御説明申し上げます。

国の令和５年度予算案は、令和４年度補正予算と一体として編成され、歴史の転換期にあって、日本が直面する内外の重要課題の解決に道筋をつけ、未来を切り開くための予算とされております。

具体的には、新たに策定された国家安全保障戦略等の下での防衛力の抜本的な強化や、その裏づけとなる財源の確保、新たに設置されるこども家庭庁を司令塔とした子ども・子育て支援の強化、ＧＸの実現に向けた「成長志向型カーボンプライシング」による民間投資を支援する仕組みの創設、デジタル田園都市国家構想の下での地方公共団体のデジタル実装の加速化や、地方創生に資する取組への支援など、現下の重要課題に正面から向き合い、一定の道筋をつけるとされております。

また、新型コロナウイルス感染症及び原油価格・物価高騰対策予備費を４兆円、ウクライナ情勢経済緊急対応予備費を１兆円措置し、新型コロナウイルス感染症の感染拡大や物価高騰、世界的な景気後退懸念など、予期せぬ状況変化に、引き続き万全の構えを講じることとされておりま

す。

本市の令和５年度予算編成に当たりましては、政府予算の基本的な考え方や地方財政収支見通しの概要等を考慮しつつ、対馬市独自の施策を、限られた財源の中で可能な限り計上したところであります。

その結果、令和５年度の予算規模は、一般会計と６つの特別会計を合わせて、総額４２０億８，１３１万３，０００円であります。

また、地方公営企業法の適用を受けます水道事業関係は、収益的収入１０億７，３４９万１，０００円、収益的支出９億９，９４３万４，０００円、資本的収入２億５，９３０万３，０００円、資本的支出６億９３１万６，０００円としております。

一般会計につきましては、令和４年度当初予算と比較いたしまして、プラス４．５％の３２６億６，７００万円としております。

歳入予算の主な内容といたしまして、市税は、市民税やたばこ税の増収により、対前年度比プラス２．３％の約２９億３，０００万円を計上しております。

地方交付税につきましては、地方財政計画における総額が対前年度比３，０７３億円、１．７％のプラスとなっておりますが、その配分や算定方法等が未確定であることを考慮して、対前年度比マイナス０．１％の約１３３億７，０００万円を計上しております。

また、財政調整基金、減債基金、合併振興基金などから約２９億円を繰り入れるほか、財源補塡のある辺地対策事業債、過疎対策事業債、臨時財政対策債などを主として、約３９億８，０００万円の市債を計上し、予算を編成いたしました。

次に、歳出予算について、性質別にその概要を御説明いたします。

人件費では、賞与や共済費の増加、会計年度任用職員、島おこし協働隊の雇用増などにより、対前年度比プラス２．２％となる約４７億４，０００万円を計上しております。

物件費では、新型コロナウイルスワクチン接種に係る経費の減や、塵芥処理施設の保守点検委託料の減等により、対前年度比マイナス１．４％となる約５９億４，０００万円を計上しております。

維持補修費では、市民の要望に対し機動的に対応できるよう、市道、農林道、河川などの補修工事費等、約１億８，０００万円を計上しております。

扶助費では、生活保護費や障害者自立支援事業費の減により、対前年度比マイナス３．７％となる約３４億１，０００万円を計上しております。

補助費等では、県と共同で実施します離島への旅行商品造成事業等の負担金の増や、有害鳥獣捕獲補助金、森林環境譲与税活用事業補助金の増等により、対前年度比プラス２．７％の約５３億８，０００万円を計上しております。

公債費では、元利償還金合計約４８億６，０００万円を計上しております。

普通建設事業費では、昨年度からの市道尾浦浅藻線改良事業をはじめとする大型の継続事業や、市道及び漁港・漁場整備など、対前年度比プラス２５．８％の約６３億３，０００万円を計上しております。

建設事業費の増加は、公債費の増加に連動するため、財政の健全性保持を念頭に置いて、産業基盤対策、生活基盤対策事業等を重点的に推進しているところであります。また、近年多発する大規模な自然災害の復旧などに即時対応できるよう、予備費として６，０００万円を計上しております。

次に、令和５年度の主な取組について、第２次対馬市総合計画に掲げる将来像に向けた「４つの挑戦」ごとに御説明いたします。

１つ目の挑戦は、「若者を中心に対馬がにぎわっている」、「未来を創る子どもたちに対馬愛が育まれている」、「対馬の大人たちが対馬に誇りを持っている」という将来像、「みんなが主役になる希望の島」を目指しての「ひとづくり」でございます。

若者が移住・定住したくなる島づくりを目指すため、移住者に対する引っ越し経費、住宅家賃や奨学金の返還支援のほか、島内での婚活支援、結婚新生活支援、島おこし協働隊制度の継続と展開、交流イベントや地域の祭りの継続支援などに係る事業を実施いたします。

対馬らしい働き方や生きがい創出のため、コミュニティー活動や地域づくりへの支援、障害者の社会参画支援、老人クラブ活動への支援、シルバー人材センター運営支援などに係る事業を実施いたします。

安心して子供を産み、育てることができ、対馬を愛する心豊かな子供を育み、母子ともに安心できる子育て環境をつくるため、安心出産支援、不妊・不育治療費助成、アピアランスケア支援事業、子育て世代包括支援センター事業、独り親家庭への支援、ファミリーサポートセンター事業、島っこ留学、離島留学生の受入れ、放課後子ども教室、島内３高校の魅力化支援、地域の特徴を生かした総合的学習、学校給食への地元産の食材提供の拡大、子ども夢づくり基金による小中学生の活動支援、教育支援センターの運営などに係る事業実施のほか、認定こども園の整備などに係る事業を実施いたします。

ＳＤＧｓの推進を担う島づくり人材を育成し、対馬が直面する課題解決に向けた取組を推進するとともに、交流人口拡大を目指し、域学連携の取組成果をベースに、対馬グローカル大学やデジタル技術を活用したＳＤＧｓカフェの開催、ＳＤＧｓパートナーズ登録の促進、ＳＤＧｓ研究奨励などに係る事業を実施します。

対馬の歴史や伝統文化を保全し、市民が対馬の魅力に誇りを持ち、様々な行事や交流等の生涯学習の機会を増やすため、博物館等での展示、公民館講座、プロスポーツクラブ等連携事業、対

馬の歴史・文化・伝統の伝承に関する取組への支援などに係る事業を実施いたします。

２つ目の挑戦は、「１次産業が持続可能な形で続けられる」、「観光産業等で地域経済が活性化している」、「新産業が作られ、雇用も多く確保できている」という将来像、「地域経済が潤い続ける島」を目指しての「なりわいづくり」でございます。

持続可能な農林業の推進のため、耕作放棄地の有効活用の推進、経営の安定や、規模拡大のための支援、農産物や木材の輸送コスト助成、対州そばや原木シイタケ生産者への支援、高性能林業機械導入支援、農林業の担い手確保対策、有害鳥獣対策、森林環境譲与税の活用、林道整備などに係る事業を実施いたします。

持続可能な水産業の推進のため、離島漁業再生支援交付金事業、燃油高騰対策や鮮魚・活魚等の輸送コスト助成による漁業者の経営改善支援、漁業後継者育成支援、食害魚等の有効活用のための調査研究、漁港・漁場整備などに係る事業を実施いたします。

持続可能な観光業の推進のため、福岡事務所及びよりあい処つしま等を活用した積極的な国境の島、対馬の発信、自然・文化・歴史等の地域資源を活用した体験メニューや旅行商品の開発、インバウンド誘致に係る事業実施のほか、歴史資産活用事業、寺泊等推進事業、光を活用したキャンプ客誘客事業、三宇田浜園地のリニューアルなどに係る事業を実施いたします。

持続可能な流通体制の構築、新たな産業の創出や持続可能な企業経営のため、特産品の開発支援、ふるさと納税返礼品の取扱い品目の拡大、地域商社を中心とした対馬産品の加工商品開発や販売促進の支援、島外で開催される物産展等のＰＲイベントへの参加助成、各種イベントと連動した対馬産品のＰＲ、創業事業拡大への支援、企業誘致、廃校を活用した新規事業に対する支援などに係る事業を実施いたします。

３つ目の挑戦は、「地域主導の活動が進められている」、「福祉・医療体制が維持され、安心して暮らせる」、「暮らしのライフラインが維持されている」という将来像、「支え合いで自立した島」を目指しての「つながりづくり」でございます。

国境の島である対馬において、人のつながりによって得られる文化・自然・歴史・地域の豊かさを追求した対馬らしい持続可能な島づくりを目指して、国内外の多様な主体が交流・連携する仕組みや機会をつくるため、国境マラソン大会、国境サイクリング大会、日韓市民ビーチクリーンアップ、高校生を対象とした市内での韓国文化体験事業などを実施いたします。

高齢化が進む中で、全ての市民が生き生きと健康に、住み慣れた地域で安心して暮らせるまちづくりを目指すため、各種健診の実施や啓発のための情報発信、福祉医療費の対象者の拡充、地域の組織・団体による健康づくり活動や講習会の各種支援や、高齢者の買い物支援、各種相談体制の充実などに係る事業を実施いたします。

生活インフラの維持と安全・安心なまちづくり、島内外の交通システムの利便性向上のため、

道路・トンネル・橋梁の定期的な点検、長寿命化や改良整備、消防団施設の更新、地域主体の防災・災害対策、路線バス維持の支援、コミュニティーバスの運営支援、スクールバスの一般混乗の拡大、航空路・航路の路線維持などに係る事業を実施いたします。

４つ目の挑戦は、「豊かな自然環境が回復している」、「環境に負荷をかけない暮らしをしている」、「地域の資源をうまく活用している」という将来像、「自然と暮らしが共存する島」を目指しての「ふるさとづくり」でございます。

里地里山の多様な生物との共生、海洋環境の保護により、豊かな自然の恵みを持続可能な形で享受できる地域づくりのため、国内希少野生動植物種でありますツシマヤマネコ、ツシマウラボシシジミの保護対策、特定外来種ツマアカスズメバチ駆除対策、森林再生活動、生物多様性保全や磯焼け対策などに係る事業を実施いたします。

ごみの削減とリサイクル推進のため、漂流・漂着ごみの発生抑制対策、発泡スチロール等の漂着ごみのペレット化による処分費の抑制や、その利活用の検討、生ごみの分別と回収率向上対策、合併浄化槽の設置推進などに係る事業を実施いたします。

気候変動対策に貢献する環境負荷の低いエネルギーの地産地消を目指して、木質バイオマスの島内利用の推進、洋上風力発電の導入に向けた調査・実証実験に係る事業を実施いたします。

対馬を代表する歴史文化遺産を保存し、その価値を後世に継承していくため、越高遺跡、お船江跡などの保存整備、宗家文庫史料等の保存・研究、ユネスコ無形文化遺産に登録された「対馬の盆踊」保存活動への支援、対州馬の保存活用に係る事業を実施いたします。

以上が、第２次対馬市総合計画に掲げる将来像への４つの挑戦、対馬づくりに基づく各種事業でございます。

対馬は大陸に一番近い島であり、自然や文化にも大陸の影響を大きく残す宝の島であります。韓国人観光客の激減に加え、新型コロナウイルス感染症の世界的な拡大により、非常に厳しい状況ではありますが、身近にある島の宝をフルに活用して、第２次対馬市総合計画に掲げる「みんなで目指そう！自立と循環の宝の島　対馬」の実現に向け、市民協働のまちづくりに取り組んでまいります。

引き続き、市政に対します市民の皆様並びに議員各位の大いなる御支援と御協力を賜りますよう、心からお願い申し上げ、施政方針といたします。よろしくお願いいたします。

○議長（初村　久藏君）　以上で、市長の施政方針説明を終わります。

―――――――――――――・―――・―――――――――――――

日程第１６．議案第８号

○議長（初村　久藏君）　日程第１６、議案第８号、令和５年度対馬市一般会計予算を議題とします。

提案理由の説明を求めます。総務部長、木寺裕也君。

○総務部長（木寺　裕也君）　ただいま議題となりました議案第８号、令和５年度対馬市一般会計予算について、その提案理由と内容を御説明申し上げます。

予算書３ページをお願いいたします。

令和５年度対馬市の一般会計予算は、次に定めるところによることを規定し、第１条第１項で、歳入歳出予算の総額を歳入歳出それぞれ３２６億６，７００万円と定め、第２項で、歳入歳出予算の款項の区分及び当該区分ごとの金額を、４ページから８ページにかけての「第１表　歳入歳出予算」によると定めております。

第２条で、地方自治法第２１２条第１項の規定による継続費の経費の総額及び年割額を、１０ページ、１１ページの「第２表　継続費」によると定めております。

第３条で、地方自治法第２１４条の規定により、債務を負担する行為をすることができる事項、期間及び限度額を、１０ページ、１１ページの「第３表　債務負担行為」によると定めております。

第４条で、地方自治法第２３０条第１項の規定により起こすことのできる地方債の起債の目的、限度額、起債の方法、利率及び償還の方法を、１０ページ、１１ページの「第４表　地方債」によると定めております。

第５条で、地方自治法第２３５条の３第２項の規定による一時借入金の借入れの限度額を８０億円と、第６条で、地方自治法第２２０条第２項ただし書の規定により、歳出予算の各項の経費の金額を流用することができる場合を定めております。

４ページをお願いいたします。

第１表、歳入歳出予算についてでございますが、歳入及び歳出の款項の区分の金額については、４ページから８ページの第１表、歳入歳出予算のとおりでございます。

１０ページをお願いいたします。

第２表、継続費につきましては、厳原中学校長寿命化改良事業の継続費総額を３億１，２９５万６，０００円とし、期間及び年割額を定めております。

第３表、債務負担行為につきましては、ごみ収集運搬業務委託料の債務負担の期間を、令和５年度から令和８年度、限度額を５億８，３２４万１，０００円といたしております。

第４表、地方債につきましては、公共事業等債から臨時財政対策債まで、それぞれ限度額を定め、限度額合計を３９億８，２８０万円といたしております。

それでは、１２ページから記載します歳入歳出予算事項別明細書により、主なものについて御説明いたします。

本年度の予算の状況は、合計欄に記載のとおり３２６億６，７００万円で、対前年度比１４億

１，５００万円の増でございます。これは、県と共同で実施します離島への旅行商品造成事業などの負担金や、有害鳥獣捕獲補助金、森林環境譲与税活用事業補助金の増などによります補助費の増や、昨年度に引き続き市道尾浦浅藻線改良事業、認定こども園建設事業、厳原港国際ターミナル建設事業などの大型事業に係る経費の増が、大きな要因でございます。

まず、歳入でございますが、１款・市税は、２９億２，７４２万５，０００円、対前年度比６，５６５万５，０００円の増でございます。これは、固定資産税等は減収の見込みとなっておりますが、市民税やたばこ税の伸びが大きく、併せまして増収となる見込みでございます。

２款・地方譲与税から１０款・地方特例交付金及び１２款・交通安全対策特別交付金は、令和４年度の交付実績見込みや、令和５年度地方財政計画等を基に計上いたしております。

１１款・地方交付税は、地方財政計画におきまして１．７％、金額にして３，０７３億円の増でございますが、令和４年度の交付実績や、配分方法等が不確定であることを考慮して、対前年度比０．１％の減となる１３３億６，６２３万４，０００円を計上しております。内訳につきましては、普通交付税を対前年度１，１５５万７，０００円減の１２２億６，６２３万４，０００円、特別交付税を、前年度と同額の１１億円をそれぞれ計上しております。

１３款・分担金及び負担金は、博物館管理運営負担金、養護老人ホーム入所負担金、保育所入所負担金など、１億１，６７８万９，０００円を計上しております。

１４款・使用料及び手数料は、各種公共施設の使用料、戸籍及び塵芥収集手数料など、３億４，１７７万１，０００円を計上しております。

１５款・国庫支出金は、４５億２，２９５万６，０００円の計上で、自立支援費負担金、施設型給付費負担金、生活保護費負担金、特定有人国境離島地域社会維持推進交付金、地方創生推進交付金、社会資本整備総合交付金などでございます。

１６款・県支出金は、２７億９，１２３万９，０００円の計上で、保険基盤安定等負担金、自立支援費負担金、特定有人国境離島地域社会維持推進交付金、地籍調査事業補助金、子ども・子育て支援交付金、海岸漂着物等地域対策推進事業補助金、有害鳥獣被害防止対策事業補助金、漁港整備事業補助金、離島漁業再生支援交付金などでございます。

１７款・財産収入は、７，１３８万４，０００円の計上で、土地建物貸付収入などでございます。

１８款・寄附金は、３億１００万円の計上で、ふるさと納税寄附金などでございます。

１９款・繰入金は、２８億９，７３５万５，０００円の計上で、主なものとして財政調整基金、減債基金、振興基金、がんばれ国境の島対馬ふるさと応援基金、合併振興基金などからの繰入れでございます。

２２款・市債は、情報通信基盤整備、認定こども園建設、湯多里ランドつしま施設改修、市道改良、厳原港国際ターミナルビル建設などの事業に充当するため、公共事業等債、辺地対策事業

債、過疎対策事業債など、３９億８，２８０万円を計上しております。

次に、歳出でございますが、１４ページをお願いいたします。

１款・議会費は、議会活動費など１億８，８８３万９，０００円の計上で、前年度と比較しまして１３６万１，０００円の増となっております。

２款・総務費は、４２億６，０６６万円の計上で、前年度と比較しまして、３億３，７５４万７，０００円の増となっております。増の主なものは、加志々地区避難所新築工事、ふるさと納税に係る返礼品代や事務経費、創業等支援事業補助金、地方バス路線維持費補助金、がんばれ国境の島対馬ふるさと応援基金積立金、戸籍電算システム改修経費、地籍調査費などでございます。

３款・民生費は、７０億７，５４８万９，０００円の計上で、前年度と比較しまして５，１６８万９，０００円の減となっております。これは、認定こども園整備事業や尾崎住民センター新築工事などが増となったものの、児童措置費や生活保護費などの扶助費が減となったことによるものでございます。

４款・衛生費は、４２億２，３５８万円の計上で、前年度と比較しまして、３，４２６万円の減となっております。これは、出産、子育て応援給付金や、病院企業団負担金などが増となったものの、新型コロナワクチン接種事業や海岸漂着物等地域対策推進業務委託料などが減となったことによるものでございます。

６款・農林水産業費は、３０億８，０４１万４，０００円の計上で、前年度と比較しまして、３，９３８万２，０００円の増となっております。これは、産地水産業強化支援事業補助金が減となったものの、漁場、漁港整備や有害鳥獣捕獲補助金などが増となったことによるものでございます。

７款・商工費は、１０億１，２７９万６，０００円の計上で、前年度と比較しまして、３億６，６１６万９，０００円の減となっております。これは、湯多里ランドつしま施設改修事業費の減が主な要因でございます。

８款・土木費は、３８億５，０７６万７，０００円の計上で、前年度と比較しまして１４億５，３９２万１，０００円の増となっております。増の主なものは、市道尾浦浅藻線道路改良工事、厳原港国際ターミナル建設事業費、雞知住宅建設事業費などでございます。

９款・消防費は、１２億５，１８５万８，０００円の計上で、前年度と比較しまして、１億４，３３６万２，０００円の減となっております。減の主なものは、消防署支署建設事業費、消防団拠点施設整備費、防災対策費などでございます。

１０款・教育費は、２７億６，０４７万３，０００円の計上で、前年度と比較しまして、１億４，６８３万４，０００円の増となっております。博物館運営費、厳原中学校長寿命化改良工事、豊玉総合運動公園トイレ新築工事などが主なものでございます。

１１款・災害復旧費は、１，６００万円の計上で、前年度と比較しまして２，０００万円の減となっております。市道目保呂ダム支線の災害復旧費の減が主な要因でございます。

１２款・公債費は、４８億５，７７５万９，０００円の計上で、前年度と比較しまして、４，６８７万７，０００円の増となっております。

１３款・諸支出金は、旅客定期航路事業特別会計繰出金として２，８３６万５，０００円を計上し、１４款・予備費は６，０００万円を計上しております。

なお、１８６ページから１９３ページにかけまして、特別職及び一般職の給与費明細書を、また１９４ページから１９７ページにかけまして継続費に関する調書を、１９８ページから２０３ページにかけまして債務負担行為に関する調書を、２０４ページ、２０５ページに地方債に関する調書を掲げておりますので、御参照方お願いいたします。

以上で、令和５年度対馬市一般会計予算の説明を終わります。御審議の上、御決定賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

○議長（初村　久藏君）　説明が終わりました。

これから質疑を行います。質疑はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（初村　久藏君）　質疑なしと認め、これで質疑を終わります。

お諮りします。本件は、議長を除く全議員を委員とする予算審査特別委員会を設置し、これに付託して審査することとしたいと思います。御異議ございませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（初村　久藏君）　異議なしと認めます。本件は、議長を除く全議員を委員とする予算審査特別委員会を設置し、これに付託して審査することに決定しました。

正副委員長互選のため、予算審査特別委員会を議員控室に招集します。

暫時休憩します。

午後１時50分休憩

……

午後２時08分再開

○議長（初村　久藏君）　再開します。

報告します。予算審査特別委員会の委員長に脇本啓喜君、副委員長に小島徳重君が決定しました。なお、委員会の審査報告は３月１５日に行います。

―――――――――――――・―――・―――――――――――――

○議長（初村　久藏君）　以上で、本日の議事日程は全て終了しました。

明日は定刻から本会議を開き、議案説明等を行います。お疲れさまでした。

午後２時09分散会

令和５年　第１回　対　馬　市　議　会　定　例　会　会　議　録（第２日）

令和５年２月22日（水曜日）

議事日程（第２号）

令和５年２月22日　午前10時00分開議

日程第１　議案第９号　令和５年度対馬市診療所特別会計予算
日程第２　議案第10号　令和５年度対馬市国民健康保険特別会計予算
日程第３　議案第11号　令和５年度対馬市後期高齢者医療特別会計予算
日程第４　議案第12号　令和５年度対馬市介護保険特別会計予算
日程第５　議案第13号　令和５年度対馬市旅客定期航路事業特別会計予算
日程第６　議案第14号　令和５年度対馬市集落排水処理施設特別会計予算
日程第７　議案第15号　令和５年度対馬市水道事業会計予算
日程第８　議案第16号　対馬市企業版ふるさと応援基金条例
日程第９　議案第17号　対馬市個人情報保護法施行条例
日程第10　議案第18号　対馬市職員の給与に関する条例の一部を改正する条例
日程第11　議案第19号　対馬市税条例の一部を改正する条例
日程第12　議案第20号　対馬市福祉医療費の支給に関する条例の一部を改正する条例
日程第13　議案第21号　対馬市家庭的保育事業等の設備及び運営に関する基準を定める条例の一部を改正する条例
日程第14　議案第22号　対馬市放課後児童健全育成事業の設備及び運営に関する基準を定める条例の一部を改正する条例
日程第15　議案第23号　対馬市特定教育・保育施設及び特定地域型保育事業並びに特定子ども・子育て支援施設等の運営に関する基準を定める条例の一部を改正する条例
日程第16　議案第24号　対馬市児童厚生施設条例の一部を改正する条例
日程第17　議案第25号　対馬市国民健康保険条例の一部を改正する条例
日程第18　議案第26号　対馬市歯科診療所条例の一部を改正する条例
日程第19　議案第27号　対馬市営住宅条例の一部を改正する条例
日程第20　議案第28号　湯多里ランドつしまの指定管理者の指定について
日程第21　議案第29号　あがたの里の指定管理者の指定について

日程第22　議案第30号　工事請負契約の締結について

日程第23　同意第１号　対馬市教育委員会委員の任命について

日程第24　諮問第１号　人権擁護委員候補者の推薦について

日程第25　諮問第２号　人権擁護委員候補者の推薦について

本日の会議に付した事件

日程第１　議案第９号　令和５年度対馬市診療所特別会計予算

日程第２　議案第10号　令和５年度対馬市国民健康保険特別会計予算

日程第３　議案第11号　令和５年度対馬市後期高齢者医療特別会計予算

日程第４　議案第12号　令和５年度対馬市介護保険特別会計予算

日程第５　議案第13号　令和５年度対馬市旅客定期航路事業特別会計予算

日程第６　議案第14号　令和５年度対馬市集落排水処理施設特別会計予算

日程第７　議案第15号　令和５年度対馬市水道事業会計予算

日程第８　議案第16号　対馬市企業版ふるさと応援基金条例

日程第９　議案第17号　対馬市個人情報保護法施行条例

日程第10　議案第18号　対馬市職員の給与に関する条例の一部を改正する条例

日程第11　議案第19号　対馬市税条例の一部を改正する条例

日程第12　議案第20号　対馬市福祉医療費の支給に関する条例の一部を改正する条例

日程第13　議案第21号　対馬市家庭的保育事業等の設備及び運営に関する基準を定める条例の一部を改正する条例

日程第14　議案第22号　対馬市放課後児童健全育成事業の設備及び運営に関する基準を定める条例の一部を改正する条例

日程第15　議案第23号　対馬市特定教育・保育施設及び特定地域型保育事業並びに特定子ども・子育て支援施設等の運営に関する基準を定める条例の一部を改正する条例

日程第16　議案第24号　対馬市児童厚生施設条例の一部を改正する条例

日程第17　議案第25号　対馬市国民健康保険条例の一部を改正する条例

日程第18　議案第26号　対馬市歯科診療所条例の一部を改正する条例

日程第19　議案第27号　対馬市営住宅条例の一部を改正する条例

日程第20　議案第28号　湯多里ランドつしまの指定管理者の指定について

日程第21　議案第29号　あがたの里の指定管理者の指定について

日程第22　議案第30号　工事請負契約の締結について

日程第23　同意第１号　対馬市教育委員会委員の任命について

日程第24　諮問第１号　人権擁護委員候補者の推薦について

日程第25　諮問第２号　人権擁護委員候補者の推薦について

出席議員（18名）

１番　糸瀬　雅之君	２番　陶山荘太郎君
３番　神宮　保夫君	４番　島居　真吾君
５番　坂本　充弘君	６番　伊原　　徹君
７番　入江　有紀君	８番　船越　洋一君
９番　脇本　啓喜君	10番　春田　新一君
11番　小島　徳重君	13番　波田　政和君
14番　小宮　教義君	15番　上野洋次郎君
16番　大浦　孝司君	17番　作元　義文君
18番　黒田　昭雄君	19番　初村　久藏君

欠席議員（１人）

12番　小田　昭人君

欠　　員（なし）

事務局出席職員職氏名

局長	勝見　一成君	次長	平間　博文君
課長補佐	糸瀬　博隆君	係長	犬束　興樹君

説明のため出席した者の職氏名

市長 …… 比田勝尚喜君

副市長 …… 俵　　輝孝君

教育長 …… 中島　清志君

総務部長 …… 木寺　裕也君

総務課長（選挙管理委員会事務局書記長） …… 一宮　　努君

しまづくり推進部長 …… 伊賀　敏治君

観光交流商工部長 …… 村井　英哉君
市民生活部長 …… 舎利倉政司君
福祉保険部長 …… 國分　幸和君
健康づくり推進部長 …… 桐谷　和孝君
農林水産部長 …… 黒岩　慶有君
建設部長 …… 内山　　歩君
水道局長 …… 立花　大功君
教育部長 …… 八島　誠治君
中対馬振興部長 …… 松井　惠夫君
上対馬振興部長 …… 阿比留　裕君
美津島行政サービスセンター所長 …… 藤田　浩徳君
峰行政サービスセンター所長 …… 居村　雅昭君
上県行政サービスセンター所長 …… 原田　勝彦君
消防長 …… 主藤　庄司君
会計管理者 …… 二宮　照幸君
監査委員事務局長 …… 志賀　慶二君
農業委員会事務局長 …… 主藤　公康君

午前10時00分開議

○議長（初村　久藏君）　おはようございます。

報告します。小田昭人君から欠席の届出があっております。

ただいまから議事日程第２号により、本日の会議を開きます。

―――――――――――――・―――・―――――――――――――

日程第１．議案第９号

○議長（初村　久藏君）　日程第１、議案第９号、令和５年度対馬市診療所特別会計予算を議題とします。

提案理由の説明を求めます。健康づくり推進部長、桐谷和孝君。

○健康づくり推進部長（桐谷　和孝君）　ただいま議題となりました議案第９号、令和５年度対馬市診療所特別会計予算につきまして、その提案理由と内容について御説明いたします。

予算書の３ページをお願いいたします。

令和５年度対馬市の診療所特別会計予算は、次に定めるところによることを規定し、第１条第１項で、歳入歳出予算の総額を、歳入歳出それぞれ４億５，１７４万円と定め、第２項で、歳入

歳出予算の款項の区分及び当該区分ごとの金額を、４ページから５ページにかけての「第１表　歳入歳出予算」によると定めております。

次に、歳入歳出予算の主な内容につきまして御説明申し上げます。

まず、歳入でございますが、８ページ、９ページをお願いいたします。

１款・診療収入、１項・外来収入は、直営診療所の診療収入を２億２，３７８万２，０００円計上しております。

２款・使用料及び手数料、１項・手数料は、診断書等手数料収入を１６０万８，０００円計上しております。

３款・県支出金、１項・県補助金、へき地医療対策費補助金は、実績等を基に２，０００万円を計上しております。

４款・繰入金、１項・他会計繰入金、１目・一般会計繰入金は、歳出の１款・総務費、２款・医業費に充当するため、１億５，９８５万１，０００円を計上しております。

１０ページ、１１ページをお願いいたします。

６款・諸収入、１項・雑入は、予防接種・特定健診等収入を４，５９９万９，０００円計上しております。

次に、歳出について御説明いたします。

１２ページ、１３ページをお願いいたします。

１款・総務費、１項・施設管理費、１目・一般管理費は、３億５，１９３万円を計上しております。主なものといたしましては、１節・報酬に、医師及び看護師等会計年度任用職員報酬として１億６，７００万３，０００円を、１０節・需用費は、各診療所の光熱水費、修繕料など１，４６５万３，０００円を、１１節・役務費は、通信運搬費、生化学検査手数料など１，６９６万７，０００円を、１２節・委託料は、診療所への医師派遣等委託料、施設の保守点検委託料など２，９６２万５，０００円を、１４ページ、１５ページをお願いいたします。１３節・使用料及び賃借料は、診療所維持システム、派遣医師送迎タクシー借り上げ料など１，０４０万５，０００円を、１８節・負担金、補助及び交付金は、公設民営診療所運営費等補助金など９８３万１，０００円を計上しております。

２款・医業費、１項・医業費は、直営診療所の医業用器具使用料、医薬材料費など９，９８１万円を計上しております。

なお、１６ページから２０ページにかけまして、給与費明細書を掲げておりますので、御参照願います。

以上で、提案理由の説明を終わります。御審議の上、御決定賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

○議長（初村　久藏君）　説明が終わりました。

これから質疑を行います。質疑はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（初村　久藏君）　質疑なしと認め、質疑を終わります。

―――――――――――――・―――・―――――――――――――

日程第２．議案第１０号

日程第３．議案第１１号

日程第４．議案第１２号

○議長（初村　久藏君）　日程第２、議案第１０号、令和５年度対馬市国民健康保険特別会計予算から日程第４、議案第１２号、令和５年度対馬市介護保険特別会計予算までの３件を一括議題とします。

提案理由の説明を求めます。福祉保険部長、國分幸和君。

○福祉保険部長（國分　幸和君）　ただいま一括議題となりました議案第１０号から議案第１２号につきまして、その提案理由と内容について御説明申し上げます。

まず、議案第１０号、令和５年度対馬市国民健康保険特別会計予算でございますが、予算書の３ページをお願いします。

令和５年度対馬市の国民健康保険特別会計予算は、次に定めるところによることを規定し、第１条第１項で、歳入歳出予算の総額は、歳入歳出それぞれ４４億４，３７３万６，０００円とするものでございます。

第２項で、歳入歳出予算の款項の区分及び当該区分ごとの金額は、４ページから５ページにかけての「第１表　歳入歳出予算」によるとするものでございます。

第２条で、地方自治法第２３５条の３第２項の規定による一時借入金の借入の最高額を５億３，０００万円と定めるものでございます。

次に、歳入歳出予算の主な内容につきまして御説明申し上げます。

まず、歳入でございますが、８ページから９ページを御覧願います。

１款、１項・国民健康保険税は、１目・一般被保険者分と２目・退職被保険者等分を合わせまして７億６，５２０万４，０００円を計上しております。

４款・県支出金、２項・県補助金は、１目・保険給付費等交付金として３２億９，５２０万３，０００円を計上しております。

１０ページから１１ページをお願いいたします。

６款・繰入金は、１項・他会計繰入金として、１目・一般会計繰入金で１節・保険基盤安定繰入金、２節・未就学児均等割保険料繰入金、３節・職員給与費等繰入金、４節・出産育児一時金

等繰入金、５節・財政安定化支援事業繰入金を合わせまして３億３，３３４万３，０００円を計上しております。２項・基金繰入金は、１目・財政調整基金繰入金として４，５５２万２，０００円を計上しております。

次に、歳出について御説明いたします。

１４ページから１５ページをお願いします。

１款・総務費、１項・総務管理費は、主なものといたしまして、１目・一般管理費で１１節・役務費の通信運搬費、システム手数料及び１２節・委託料の共同事業の業務委託、３目・医療費適正化特別対策事業は月額会計年度任用職員の人件費等を合わせまして、１項・総務管理費に２，５６０万２，０００円を計上しております。２項・徴税費の主なものといたしましては、月額会計年度任用職員の人件費、１６ページから１７ページをお願いします。１８節・負担金、補助及び交付金の納税組合交付金等などで２項・徴税費に１，８５７万６，０００円を計上しております。

２款・保険給付費、１項・療養諸費は、１目・一般被保険者療養給付費から、予算書１８ページから１９ページをお願いいたします。７目・傷病手当金まで合わせまして２７億５，２３０万３，０００円を計上しております。２項・高額療養費は、各項目合わせ４億６，３２９万円を計上しております。４項・１目の出産育児一時金は、３０名分、１，５００万７，０００円を計上しております。５項・１目・葬祭費は、１件当たり２万円で、８０件を見込み１６０万円を計上しております。

２０ページから２１ページをお願いいたします。

３款・国民健康保険事業費納付金は、１項・医療給付費分、２項・後期高齢者支援金等分及び３項・介護納付金分、合わせまして１０億９，５４９万８，０００円を計上しております。

５款・保健事業費、１項・特定健康診査等事業費は、特定健康診査受診率向上のための会計年度任用職員の人件費、２２ページから２３ページをお願いします。特定健康診査の委託料、また、負担金、補助及び交付金で、人間ドックを受診されるときの助成として、２万円を上限に８０名分、１６０万円などを合わせ、６，１０６万９，０００円を計上しております。

２６ページから２９ページに給与費明細書を添付いたしておりますので、御参照願います。

続きまして、議案第１１号、令和５年度対馬市後期高齢者医療特別会計予算について御説明申し上げます。

予算書の３ページをお願いします。

令和５年度対馬市の後期高齢者医療特別会計予算は、次に定めるところによることを規定し、第１条第１項で、歳入歳出予算の総額を、歳入歳出それぞれ４億３，７５０万２，０００円とするものでございます。

第２項で、歳入歳出予算の款項の区分及び当該区分ごとの金額は、４ページから５ページにかけての「第１表　歳入歳出予算」とするものでございます。

次に、歳入歳出予算の主な内容につきまして、まず歳入でございますが、８ページから９ページをお願いします。

１款、１項・後期高齢者医療保険料は、特別徴収保険料と普通徴収保険料を合わせまして２億７，３０２万６，０００円を計上しております。

５款・繰入金、１項・一般会計繰入金は、１目・事務費繰入金及び２目・保険基盤安定繰入金を合わせまして１億６，３８８万３，０００円を計上しております。

次に、歳出について、１２ページから１３ページをお願いします。

１款・総務費、１項・総務管理費、１目・一般管理費は、職員人件費のほか１８節の広域連合事務費負担金などで２，６２２万３，０００円を計上しております。

２款・後期高齢者医療広域連合納付金は、保険基盤安定負担金及び保険料納付金として４億１，０５９万円を計上しております。

１６ページから２０ページに給与費明細書を添付いたしておりますので、御参照願います。

最後に、議案第１２号、令和５年度対馬市介護保険特別会計予算につきまして、予算書の３ページをお願いします。

令和５年度対馬市の介護保険特別会計予算は、次に定めるところによることを規定し、第１条第１項で、歳入歳出予算の総額は、歳入歳出それぞれ３９億９，４５１万４，０００円とするものでございます。

第２項で、歳入歳出予算の款項の区分及び当該区分ごとの金額は、４ページから５ページにかけての「第１表　歳入歳出予算」とするものでございます。

第２条で、地方自治法第２２０条第２項ただし書の規定により、歳出予算の各項の経費の金額を流用することができる場合として、保険給付費の各項で計上した予算額に過不足を生じた場合における同一款内でのこれらの経費の各項の間の流用といたしております。

次に、歳入歳出予算の主な内容につきまして、まず歳入でございますが、８ページから９ページをお願いします。

１款・保険料、１項・介護保険料は、第１号被保険者に係る特別徴収保険料及び普通徴収保険料等６億２，６２２万４，０００円を計上しております。

３款・国庫支出金、１項・国庫負担金は、介護給付費負担金６億３，６９６万７，０００円を、２項・国庫補助金は、調整交付金及び地域支援事業交付金として３億６，５１７万４，０００円をそれぞれ計上しております。

４款、１項・支払基金交付金は、第２号被保険者に係る保険料で、支払基金からの介護給付費

交付金及び地域支援事業支援交付金と合わせまして１０億1，８８３万4，０００円を計上しております。

１０ページから１１ページをお願いします。

５款・県支出金、１項・県負担金は、１目・介護給付費負担金５億4，２２８万3，０００円、２項・県補助金は、４目・介護予防事業及び５目・包括的支援事業等に係る地域支援事業交付金として3，６５４万1，０００円を計上しております。

７款・繰入金、１項・他会計繰入金は、一般会計からの繰入金として、職員給与費等繰入金のほか４節の低所得者保険料軽減負担繰入金など合わせまして６億6，７１８万7，０００円を、２項・基金繰入金は介護給付費準備基金繰入金として7，４８２万8，０００円を計上しております。

１２ページから１３ページをお願いします。

９款・諸収入、２項・サービス事業収入は、介護予防支援事業収入として、介護予防サービス計画費のほか包括的・継続的ケアマネジメント支援事業費など２，６４０万円を計上しております。

次に、歳出につきまして、１４ページから１５ページをお願いします。

１款・総務費、１項・総務管理費、１目・一般管理費は、職員給与費等の人件費、一般事務費など5，００７万3，０００円を計上しております。３項、１目・介護認定審査会費は委員報酬、１６ページから１７ページをお願いします。１１節・役務費の医師の意見書作成手数料など２，４８４万4，０００円を計上しております。２目・認定調査等費は、会計年度任用職員の人件費、認定調査委託料など1，５２０万4，０００円を計上しております。５項、１目・計画策定委員会費は、委員会開催のための委員報酬及び第９期介護保険事業計画策定委託料など８１４万4，０００円を計上しております。

２款・保険給付費、１項・介護サービス等諸費は、主に居宅介護サービス給付費負担金など合わせまして、１８ページから１９ページをお願いします、３２億5，５０７万円を計上しております。２項、１目・介護予防サービス給付費は、8，９４４万3，０００円を計上しております。３項・その他諸費は、１目・審査支払手数料として３２８万6，０００円、４項・高額介護サービス等費は8，１２６万4，０００円、５項・高額医療合算介護サービス費は1，１３６万9，０００円、６項・特定入所者介護サービス等費は1億8，７０６万6，０００円をそれぞれ計上しております。

２０ページから２１ページをお願いします。

８款・地域支援事業費、１項・介護予防・生活支援サービス事業費は、介護予防・生活支援サービス事業負担金など1億2，２７０万円を計上しております。

２項・一般介護予防事業費は、介護予防教室の経費やケーブルテレビを利用した健康体操の放送委託料、介護予防団体助成金など６７３万円を計上しております。

２２ページから２３ページをお願いします。

３項、１目・包括的・継続的ケアマネジメント支援事業費は、地域包括支援センターの職員及び月額会計年度任用職員の人件費のほか、１２節・委託料の生活支援コーディネーター事業委託料、１８節・対馬市社会福祉協議会出向職員の派遣職員給与等負担金など、合わせて１億２，３０６万２，０００円を計上しております。２目・任意事業費は、権利擁護のための成年後見人制度報酬助成金など、合わせまして６０７万２，０００円を計上しております。４項・その他諸費は、１目・審査支払手数料、２目・介護予防サービス計画作成委託料合わせまして８５１万９，０００円を計上しております。

２６ページから３２ページに給与費明細書を添付いたしておりますので、御参照願います。

以上、議案第１０号から議案第１２号までの説明を終わります。御審議の上、御決定賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

○議長（初村　久藏君）　説明が終わりました。

これから３件に対する一括質疑を行います。質疑はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（初村　久藏君）　質疑なしと認め、質疑を終わります。

―――――――――――――・―――・―――――――――――――

日程第５．議案第１３号

○議長（初村　久藏君）　日程第５、議案第１３号、令和５年度対馬市旅客定期航路事業特別会計予算を議題とします。

提案理由の説明を求めます。中対馬振興部長、松井惠夫君。

○中対馬振興部長（松井　惠夫君）　ただいま議題となりました議案第１３号、令和５年度対馬市旅客定期航路事業特別会計予算につきまして、その提案理由と内容を御説明いたします。

予算書は３ページをお願いいたします。

令和５年度対馬市の旅客定期航路事業特別会計予算は、次に定めるところによることを規定し、第１条第１項で、歳入歳出予算の総額を、歳入歳出それぞれ４，５９４万３，０００円と定め、第２項で、歳入歳出予算の款項の区分及び当該区分ごとの金額は、４ページから５ページの「第１表　歳入歳出予算」によると定めております。

それでは、６ページからの歳入歳出予算事項別明細書により、主な予算につきまして御説明いたします。

本年度の予算の状況は、合計欄に記載のとおり４，５９４万３，０００円で、対前年度比

３７９万7，０００円、９．０％の増で、燃油高騰による渡海船燃料費の増が主な要因でございます。

８ページから９ページをお願いいたします。

まず、歳入でございます。

１款・事業収入、１項・事業収入の１６６万6，０００円は、旅客運賃及び貨物運賃でございます。

２款・国庫支出金、１項・国庫補助金の１，２６４万8，０００円は、赤字航路事業に対する国の補助金でございます。

３款・県支出金、１項・県補助金は、同じく赤字航路事業に対する県補助金で、３１６万２，０００円を計上しております。

４款・繰入金、１項・他会計繰入金の２，８３６万5，０００円は、一般会計からの繰入金でございます。

５款・財産収入、１項・財産運用収入は、基金利子１，０００円を、６款・繰越金、１項・繰越金は、前年度繰越金１０万円を計上しております。

次に、歳出について御説明いたします。

１２ページから１３ページをお願いいたします。

１款・総務費、１項・総務管理費の２，６３９万6，０００円は、職員、船員等の人件費、旅費、日本旅客船協会等の負担金が主なものでございます。

２款・施設費、１項・施設費の１，３３３万円は、渡海船運航に必要な燃料費、修繕料、

１４ページから１５ページをお願いいたします。船舶保険料、渡海船利用者陸上交通運行委託料が主なものでございます。

３款・公債費、１項・公債費の６１１万7，０００円は、渡海船建造及び長板浦待合所建設に係る交通事業債の償還金元金及び利子でございます。

４款、１項に、予備費を１０万円計上しております。

１６ページから２０ページに給与費明細書、２１ページには地方債の前々年度末における現在高、並びに前年度末及び当該年度末における現在高の見込みに関する調書を添付しておりますので、御参照願います。

以上、簡単ではございますが、提案理由の説明を終わります。御審議の上、御決定賜りますよう、よろしくお願いいたします。

○議長（初村　久藏君）　説明が終わりました。

これから質疑を行います。質疑はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（初村　久藏君）　質疑なしと認め、質疑を終わります。

―――――――――――――・―――・―――――――――――――

日程第６．議案第１４号

日程第７．議案第１５号

○議長（初村　久藏君）　日程第６、議案第１４号、令和５年度対馬市集落排水処理施設特別会計予算及び日程第７、議案第１５号、令和５年度対馬市水道事業会計予算の２件を一括議題とします。

提案理由の説明を求めます。水道局長、立花大功君。

○水道局長（立花　大功君）　ただいま一括議題となりました議案第１４号、令和５年度対馬市集落排水処理施設特別会計予算及び議案第１５号、令和５年度対馬市水道事業会計予算につきましては、水道局所管の議案でございますので、続けて提案理由とその内容を御説明申し上げます。

まず、議案第１４号、令和５年度対馬市集落排水処理施設特別会計予算について御説明申し上げます。

予算書３ページをお願いいたします。

令和５年度対馬市の集落排水処理施設特別会計予算は、次に定めるところによることを規定し、第１条第１項で、歳入歳出予算の総額を、歳入歳出それぞれ４，０８７万８，０００円とするものでございます。

第２項で、歳入歳出予算の款項の区分及び当該区分ごとの金額は、４ページから５ページにかけての「第１表　歳入歳出予算」によるとするものでございます。

第２条、地方債は、地方自治法第２３０条第１項の規定により起こすことができる地方債の起債の目的、限度額、起債の方法、利率及び償還の方法は、６ページから７ページにかけての「第２表　地方債」によると定めております。

予算概要の歳入について御説明いたします。

１０ページ、１１ページをお願いいたします。

１款・使用料及び手数料、１項・使用料２６７万１，０００円は下水道使用料、３款・繰入金、１項・他会計繰入金２，１１３万６，０００円は一般会計からの繰入金、４款・繰越金、１項・繰越金１，０００円は前年度繰越金、５款・諸収入、１項・雑入７万円は下水道加入金でございます。６款・市債、１項・市債１，７００万円は公営企業会計適用債でございます。

次に、歳出について御説明いたします。

１２ページ、１３ページをお願いいたします。

１款・下水道事業費、１項・下水道管理費、１目・一般管理費１，７２３万６，０００円は、主に下水道使用料金の徴収業務委託料、下水道事業の法適化業務及びシステム導入委託料が主なも

のでございます。２目・施設管理費８０７万１，０００円は、集落排水処理施設の維持管理に係る費用でございます。

２款・公債費、１項・公債費１，５５７万１，０００円は、地方債償還金の元金及び利子を計上しております。

１５ページに地方債に関する調書を添付しておりますので、御参照ください。

続きまして、議案第１５号、令和５年度対馬市水道事業会計予算について御説明申し上げます。

予算書３ページをお願いいたします。

第１条で、令和５年度対馬市水道事業会計の予算は、次に定めるところによることを規定し、第２条で、業務の予定量は、給水戸数を１万５，１２６戸、年間総配水量を３９５万７，４８３立方メートル、１日平均給水量を１万８４２立方メートルと定めております。主要な建設改良事業は３億２，１０７万１，０００円で、その内訳は施設整備事業等で６，９４２万１，０００円、簡易水道基幹改良事業として、上対馬町の中央地区、峰町の三根地区と美津島町の中西部地区の３地区の簡易水道事業、２億５，１６５万円を予定しております。

第３条で、収益的収入の予定額を、第１款・水道事業収益１０億７，３４９万１，０００円、収益的支出の予定額を、第１款・水道事業費用９億９，９４３万４，０００円と定めるものでございます。

第４条で、資本的収入の予定額を、第１款・資本的収入２億５，９３０万３，０００円、資本的支出の予定額を、第１款・資本的支出６億９３１万６，０００円と定めるものでございます。

なお、資本的収入額が資本的支出額に対し、不足する額３億５，００１万３，０００円は、当年度分消費税資本的収支調整額２，０１８万８，０００円、当年度分損益勘定留保資金２億２，８１３万５，０００円、減債積立金３，３７２万２，０００円、建設改良積立金６，７９６万８，０００円で補塡するものでございます。

４ページをお願いいたします。

第５条で、起債の目的、限度額、起債の方法、利率及び償還の方法について定め、第６条で、一時借入金の限度額を５億円と定め、第７条で、予定支出の各項の経費の金額の流用について定め、第８条で、議会の議決を得なければ流用することのできない経費を定め、第９条で、一般会計からの負担金の額を定め、第１０条で、たな卸資産の購入限度額を１，０００万円と定めるものでございます。

以上、地方公営企業法第２４条第２項の規定により御提案するものでございます。

５ページから予算に関する説明書、１２ページから１５ページにかけて職員の給与費明細書、２５ページから予算附属資料を添付しておりますので、御参照ください。

以上で、議案第１４号、令和５年度対馬市集落排水処理施設特別会計予算及び議案第１５号、

令和５年度対馬市水道事業会計予算の提案理由の説明を終わります。御審議の上、御決定賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

○議長（初村　久藏君）　説明が終わりました。

これから２件に対する一括質疑を行います。質疑はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（初村　久藏君）　質疑なしと認め、質疑を終わります。

議案第９号から議案第１５号までの７件は、配付しております議案審査付託表のとおり、所管の常任委員会に付託をします。

―――――――――――――・―――――・―――――――――――――

日程第８．議案第１６号

○議長（初村　久藏君）　日程第８、議案第１６号、対馬市企業版ふるさと応援基金条例を議題とします。

提案理由の説明を求めます。しまづくり推進部長、伊賀敏治君。

○しまづくり推進部長（伊賀　敏治君）　ただいま議題となりました議案第１６号、対馬市企業版ふるさと応援基金条例について、提案理由とその内容を御説明申し上げます。

議案書５ページをお願いいたします。

本件は、令和３年度から取り組んでおります企業版ふるさと納税において、現状では寄附をいただいた当該年度の事業にしか充当できないため、年度内の早い時期での寄附については、寄附事業者の意向に沿った事業への充当が可能でありますが、年末から年度末にかかる寄附については、寄附事業者の意向に沿った事業への充当に支障を来すことが懸念されます。

よって、寄附事業者の意向に沿った事業への充当が容易となるよう、新たに基金条例を制定しようとするものでございます。

条例の内容につきましては、第１条で基金設置の目的を、第２条で積立額を、第３条で基金の管理を、第４条で運用益金の処理を、第５条で繰替運用を、第６条で基金の処分に係る規定を定めております。

なお、附則で、この条例は公布の日から施行することとしております。

以上で説明を終わります。御審議の上、御決定賜りますよう、よろしくお願いいたします。

○議長（初村　久藏君）　説明が終わりました。

これから質疑を行います。質疑はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（初村　久藏君）　質疑なしと認め、これで質疑を終わります。

本件は、配付しております議案審査付託表のとおり、総務文教常任委員会に付託をします。

―――――――――――――・―――・―――――――――――――

日程第９．議案第１７号

○議長（初村　久藏君）　日程第９、議案第１７号、対馬市個人情報保護法施行条例を議題とします。

提案理由の説明を求めます。総務部長、木寺裕也君。

○総務部長（木寺　裕也君）　ただいま議題となりました議案第１７号、対馬市個人情報保護法施行条例について、提案理由とその内容について御説明申し上げます。

議案書は、７ページから１２ページまでとなります。

デジタル社会の形成を図るための関係法律の整備に関する法律が公布され、個人情報の保護に関する法律が改正されたことにより、これまで国の行政機関、独立行政法人等、民間事業者及び地方公共団体等について、それぞれで分かれていた法令が改正後の個人情報の保護に関する法律に一元化され、令和５年４月１日から全国共通のルールとなることに伴い、同法の施行に関し、必要な事項を定める条例の制定が必要となるため、法により条例で規定することとされている事項と、条例で定めることが許容されている事項を整理するため、現行の対馬市個人情報保護条例を廃止し、今回、新たに制定するものでございます。

なお、施行日を令和５年４月１日といたしますが、現行条例の義務・罰則等におきましては、従前の例によるとの経過措置を設けております。

また、関連条例の一部改正につきましては、附則で規定し、新旧対照表の２ページから３ページに掲載しております。

以上、簡単ではございますが、説明を終わります。御審議の上、御決定賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

○議長（初村　久藏君）　説明が終わりました。

これから質疑を行います。質疑はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（初村　久藏君）　質疑なしと認め、これで質疑を終わります。

本件は、配付しております議案審査付託表のとおり、総務文教常任委員会に付託をします。

―――――――――――――・―――・―――――――――――――

日程第１０．議案第１８号

○議長（初村　久藏君）　日程第１０、議案第１８号、対馬市職員の給与に関する条例の一部を改正する条例を議題とします。

提案理由の説明を求めます。総務部長、木寺裕也君。

○総務部長（木寺　裕也君）　ただいま議題となりました議案第１８号、対馬市職員の給与に関す

る条例の一部を改正する条例について、その提案理由と内容を御説明申し上げます。

議案書は１３ページから、新旧対照表は４ページからとなります。

現在、栄養士に適用している医療職給料表（１）と保健師及び看護師に適用している医療職給料表（２）は５級構成となっております。同給料表の適用を受けている職員が管理職になった場合は、将来的な昇給を見据え、行政職給料表に移行して対応しているところですが、医療職給料表（１）及び医療職給料表（２）に６級を新設し、給料表を移行せずに昇格できるようにするものです。

また、渡海船の船員に適用する海事職給料表は、現在３級構成となっております。来年度から技能労務職給料表から海事職給料表に移行するに当たり、技能労務職給料表が５級構成だったため、生涯賃金等の格差を考慮し、海事職給料表に４級及び５級を新設するものです。

改正内容としましては、医療職給料表である別表第２に６級を加えて６級構成とし、海事職給料表である別表第４に４級及び５級を加えて５級構成とするよう改正するものであります。

また、級の新設に伴い、等級別基準職務表である別表第５の（２）、（３）及び（５）に職務の級及び基準となる職務を加えるよう改正するとともに、医療職給料表（１）の５級の基準となる職務に「課長、所長及び主幹」を加え、医療職給料表（２）の５級の基準となる職務を、「課長及び主幹」から「課長、所長及び主幹」に改正するものであります。

以上、簡単ではございますが、説明を終わります。御審議の上、御決定賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

○議長（初村　久藏君）　説明が終わりました。

これから質疑を行います。質疑はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（初村　久藏君）　質疑なしと認め、これで質疑を終わります。

お諮りします。本件は、委員会への付託を省略したいと思います。御異議ございませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（初村　久藏君）　異議なしと認めます。本件は、委員会への付託を省略することに決定しました。

これから討論、採決を行います。

議案第１８号、対馬市職員の給与に関する条例の一部を改正する条例ついて、討論はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（初村　久藏君）　討論なしと認め、採決します。

本件は、原案のとおり決定することに御異議ございませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（初村　久藏君）　異議なしと認めます。本件は、原案のとおり可決されました。

―――――――――――――・―――・―――――――――――――

日程第１１．議案第１９号

○議長（初村　久藏君）　日程第１１、議案第１９号、対馬市税条例の一部を改正する条例を議題とします。

提案理由の説明を求めます。市民生活部長、舎利倉政司君。

○市民生活部長（舎利倉　政司君）　ただいま議題となりました議案第１９号、対馬市税条例の一部を改正する条例につきまして、提案理由とその内容について御説明申し上げます。

議案書は２７ページをお願いいたします。

新旧対照表は２３ページを御参照願います。

今回の改正は、対馬市税条例第７１条の２第２項中「離島振興対策実施地域内」の次に「又は過疎地域の持続的発展の支援に関する特別措置法第８条第４項第１号に規定する産業振興促進区域内」を加えるものであります。

改正の主な内容でございますが、対馬市は離島振興地域、過疎地域とも対象となっており、税制特例措置を受けるため、離島振興法に基づく離島振興対策実施区域内と定めておりましたが、国の税制改正により、令和５年４月１日以降、過疎法に基づく税制特例措置が優先して適用されるため、過疎法に定める産業振興促進区域内を追加し、地方税の課税免除等に係る減収補填措置の適用を受けるため、改正を行うものであります。

なお、附則で施行期日を令和５年４月１日からといたしております。

以上で、議案第１９号の提案理由の説明を終わります。御審議の上、御決定賜りますよう、よろしくお願いいたします。

○議長（初村　久藏君）　説明が終わりました。

これから質疑を行います。質疑はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（初村　久藏君）　質疑なしと認め、これで質疑を終わります。

お諮りします。本件は、委員会への付託を省略したいと思います。御異議ございませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（初村　久藏君）　異議なしと認めます。本件は、委員会への付託を省略することに決定しました。

これから討論、採決を行います。

議案第１９号、対馬市税条例の一部を改正する条例ついて、討論はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（初村　久藏君）　討論なしと認め、採決します。

本件は、原案のとおり決定することに御異議ございませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（初村　久藏君）　異議なしと認めます。本件は、原案のとおり可決されました。

―――――――――――――・―――・―――――――――――――

日程第１２．議案第２０号

日程第１３．議案第２１号

日程第１４．議案第２２号

日程第１５．議案第２３号

日程第１６．議案第２４号

日程第１７．議案第２５号

○議長（初村　久藏君）　日程第１２、議案第２０号、対馬市福祉医療費の支給に関する条例の一部を改正する条例から日程第１７、議案第２５号、対馬市国民健康保険条例の一部を改正する条例までの６件を一括議題とします。

提案理由の説明を求めます。福祉保険部長、國分幸和君。

○福祉保険部長（國分　幸和君）　ただいま一括議題となりました議案第２０号から議案第２５号につきまして、その提案理由と内容について御説明申し上げます。

まず、議案第２０号、対馬市福祉医療費の支給に関する条例の一部を改正する条例につきまして、新旧対照表は２４ページから２６ページでございます。

本条例は、障害者及び乳幼児等に対して、医療費の一部を支給する基準に関して定めた条例でございます。

今回の改正は、令和５年４月より、長崎県におきまして、親の経済的な負担を和らげ、子育て支援や少子化対策支援につなげる観点から、高校生世代に対しても同様の措置を統一して実施することによるものでございます。

その改正内容につきましては、第２条第３項における対象年齢を、「満１５歳」から「満１８歳」に引き上げるものでございます。

附則において、施行日を令和５年４月１日とし、同日以降の診療に係る医療費から適用することとしております。

次に、議案第２１号、対馬市家庭的保育事業等の設備及び運営に関する基準を定める条例の一部を改正する条例につきまして、新旧対照表は２７ページから３０ページでございます。

本条例は、対馬市において、家庭的保育事業を実施する上での設備及び運営に関する基準を定

めた条例であります。

今回の改正は、その基準の一部を改正する厚生労働省令の公布によるもの及び民法等の一部を改正する法律の一部の施行により、民法及び児童福祉法における懲戒権に関する規定が削除されることに伴い、所要の改正を行うものでございます。

その主な改正内容は、家庭的保育事業者等に対して、安全計画の策定等及び自動車を運行する場合の乳幼児の所在確認等を義務づける規定について、第８条の２及び第８条の３を追加し、民法における親権者の懲戒権に係る規定が削除されたことに伴い、第１４条の懲戒に係る権限の濫用禁止に関する規定を削除するものでございます。

附則において、施行日を令和５年４月１日とし、懲戒に係る権限の濫用禁止に関する規定は、公布の日からとしております。また、第８条の３第２項の規定の適用については、困難な場合は経過措置として、施行日から１年間は代わりの措置を講じて確認を行うこととしております。

続きまして、議案第２２号、対馬市放課後児童健全育成事業の設備及び運営に関する基準を定める条例の一部を改正する条例につきまして、新旧対照表は３１ページから３２ページでございます。

本条例は、対馬市において、放課後児童健全育成事業を実施する上での設備及び運営に関する基準を定めた条例であり、今回の改正は、その基準の一部を改正する厚生労働省令の交付に伴い、所要の改正を行うものでございます。

その改正内容は、放課後児童健全育成事業者に対して、安全計画の策定等及び自動車を運行する場合の利用者の所在の確認等を義務づける規定について、第７条の２及び第７条の３を追加するものでございます。

附則において、施行日を令和５年４月１日からとし、安全計画の策定については、経過措置として、施行日から１年間は努力義務としております。

続きまして、議案第２３号、対馬市特定教育・保育施設及び特定地域型保育事業並びに特定子ども・子育て支援施設等の運営に関する基準を定める条例の一部を改正する条例につきまして、新旧対照表は３３ページでございます。

本条例は、対馬市において、特定教育・保育施設及び特定地域型保育事業並びに特定子ども・子育て支援施設等を運営する上での基準を定めた条例であります。

今回の改正は、民法等の一部を改正する法律の一部の施行により、民法及び児童福祉法における懲戒権に関する規定が削除されることに伴う改正であり、その改正内容は、第２６条の懲戒に係る権限の濫用禁止に関する規定を削除するものでございます。

附則において、施行日を公布の日からとしております。

続きまして、議案第２４号、対馬市児童厚生施設条例の一部を改正する条例につきまして、新

旧対照表は３４ページでございます。

この条例は、老朽化や児童の減少に伴い、利用されていない状況にある児童厚生施設とする児童遊園４施設及び児童館２施設の廃止に関しまして、同条例の一部を改正するものであります。

現在、設置しております内院、小船越、犬吠、志多賀、三根浜、久原の児童厚生施設の存続につきまして、関係地区に対しまして地区総会時に協議していただくよう依頼いたしました。結果といたしまして、児童数が増える見込みが立たない現状であること、また、施設の老朽化及び地区において施設の管理をしていくことが困難であることから廃止することで御同意をいただきましたので、今回、廃止とするものでございます。

附則において、施行日を令和５年４月１日からとしております。

最後に、議案第２５号、対馬市国民健康保険条例の一部を改正する条例につきまして、新旧対照表は３５ページでございます。

今回の改正は、健康保険法施行令等の一部を改正する政令の施行により、出産育児一時金を、現行の４０万８，０００円から４８万８，０００円に改め、産科医療補償制度の掛金１万２，０００円と合わせ、出産育児一時金の支給額を５０万円とするための改正を行うものでございます。

附則において、令和５年４月１日から施行し、施行日前に出産した被保険者に係る対馬市国民健康保険条例第６条の規定による出産育児一時金については、なお従前の例によるものとしております。

以上、議案第２０号から議案第２５号までの提案理由の説明とさせていただきます。御審議の上、御決定賜りますよう、よろしくお願いいたします。

○議長（初村　久藏君）　説明が終わりました。

これから６件に対する一括質疑を行います。質疑はありませんか。１１番、小島徳重君。

○議員（１１番　小島　徳重君）　議案第２４号です。児童厚生施設条例の一部を改正するということで、廃止される地区の、確かに児童生徒は減少して、児童生徒が活用する事例というのは極めて少なくなっていると思いますので、これはいわゆる用途としては、その条例がつくられたときの状況からしたら理解できます。

ただ、地区によっては、この児童厚生施設として造られた広場なり、場所が、地区の方々の、特にお年寄りのいわゆるグランドゴルフなり等で使われている地区もあります。

それで、その中で特にトイレです。トイレが設置されているところが多いと思います。現在、使用されている方々が、今後も使われる地区については、トイレ等は目的を変えて、使っている方々が不便を来さないように考えていくべきだと思いますが、そのようなことについては考慮されたことはないかどうかお尋ねをします。

○議長（初村　久藏君）　福祉保険部長、國分幸和君。

○福祉保険部長（國分　幸和君）　今回、提案しております地区に、どの地区にトイレがあるかということは、私、把握しておりませんけども、そういった相談があれば、また利用できるような体制を整えたいと思います。

○議長（初村　久藏君）　１１番、小島徳重君。

○議員（１１番　小島　徳重君）　私が把握している地区は、確実に１地区は現在も使われております。それで、トイレがやはり老朽化していて、使いにくくなっていて、特に女性の方々等がやはり不便を来してありますので、また現場の地区については、個別にまた申し上げたいと思いますので、ぜひ現状を把握されて、今後その地区の方々が福利厚生といいますか、そういう面で使用される折に不便を来さないように、ぜひ御配慮をお願いをしたいと思います。

以上、要望を申し上げておきます。

○議長（初村　久藏君）　ほかに質疑はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（初村　久藏君）　質疑なしと認め、これで質疑を終わります。

お諮りします。ただいま一括議題としております６件については、委員会への付託を省略したいと思います。御異議ございませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（初村　久藏君）　異議なしと認めます。６件は、委員会への付託を省略することに決定しました。

これから各案ごとに討論、採決を行います。

まず、議案第２０号、対馬市福祉医療費の支給に関する条例の一部を改正する条例について、討論はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（初村　久藏君）　討論なしと認め、採決します。

本件は、原案のとおり決定することに御異議ございませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（初村　久藏君）　異議なしと認めます。本件は、原案のとおり可決されました。

次に、議案第２１号、対馬市家庭的保育事業等の設備及び運営に関する基準を定める条例の一部を改正する条例について、討論はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（初村　久藏君）　討論なしと認め、採決します。

本件は、原案のとおり決定することに御異議ございませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（初村　久藏君）　異議なしと認めます。本件は、原案のとおり可決されました。

次に、議案第２２号、対馬市放課後児童健全育成事業の設備及び運営に関する基準を定める条例の一部を改正する条例について、討論はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（初村　久藏君）　討論なしと認め、採決します。

本件は、原案のとおり決定することに御異議ございませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（初村　久藏君）　異議なしと認めます。本件は、原案のとおり可決されました。

次に、議案第２３号、対馬市特定教育・保育施設及び特定地域型保育事業並びに特定子ども・子育て支援施設等の運営に関する基準を定める条例の一部を改正する条例について、討論はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（初村　久藏君）　討論なしと認め、採決します。

本件は、原案のとおり決定することに御異議ございませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（初村　久藏君）　異議なしと認めます。本件は、原案のとおり可決されました。

次に、議案第２４号、対馬市児童厚生施設条例の一部を改正する条例について、討論はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（初村　久藏君）　討論なしと認め、採決します。

本件は、原案のとおり決定することに御異議ございませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（初村　久藏君）　異議なしと認めます。本件は、原案のとおり可決されました。

次に、議案第２５号、対馬市国民健康保険条例の一部を改正する条例について、討論はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（初村　久藏君）　討論なしと認め、採決します。

本件は、原案のとおり決定することに御異議ございませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（初村　久藏君）　異議なしと認めます。本件は、原案のとおり可決されました。

暫時休憩します。再開を１１時２０分からといたします。

午前11時06休憩

午前11時15分再開

○議長（初村　久藏君）　再開します。

―――――――――――――・―――――・―――――――――――――

日程第１８．議案第２６号

○議長（初村　久藏君）　日程第１８、議案第２６号、対馬市歯科診療所条例の一部を改正する条例を議題とします。

提案理由の説明を求めます。健康づくり推進部長、桐谷和孝君。

○健康づくり推進部長（桐谷　和孝君）　ただいま議題となりました議案第２６号、対馬市歯科診療所条例の一部を改正する条例につきまして、その提案理由と内容について御説明いたします。

新旧対照表は３６ページを御覧ください。

今回の改正は、佐須歯科診療所の施設廃止に伴う改正でございます。道路事情等の改善に伴い、受診者が減少したことから、地区及び管理運営を委託しております歯科医師と協議を行った結果、廃止に対しての同意が得られましたので、別表中、歯科診療所の名称及び位置を削るものでございます。なお、附則で施行期日を令和５年４月１日としております。

以上で提案理由の説明を終わります。御審議の上、御決定賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

○議長（初村　久藏君）　説明が終わりました。

これから質疑を行います。質疑はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（初村　久藏君）　質疑なしと認め、これで質疑を終わります。

お諮りします。本件は、委員会への付託を省略したいと思います。御異議ございませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（初村　久藏君）　異議なしと認めます。本件は、委員会への付託を省略することに決定しました。

これから討論、採決を行います。議案第２６号、対馬市歯科診療所条例の一部を改正する条例について、討論はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（初村　久藏君）　討論なしと認め、採決します。

本件は、原案のとおり決定することに御異議ございませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（初村　久藏君）　異議なしと認めます。本件は、原案のとおり可決されました。

―――――――――――――・―――――・―――――――――――――

日程第１９．議案第２７号

○議長（初村　久藏君）　日程第１９、議案第２７号、対馬市営住宅条例の一部を改正する条例を議題とします。

提案理由の説明を求めます。建設部長、内山歩君。

○建設部長（内山　　歩君）　ただいま議題となりました議案第２７号、対馬市営住宅条例の一部を改正する条例につきましては、建設部所管でございますので、提案理由とその内容について御説明申し上げます。

議案書の４５ページから４６ページをお願いいたします。併せて、新旧対照表の３７ページから４０ページを御参照ください。

今回の主な改正は、公営住宅への入居に際しての保証人の取り扱いについて、国からの地方自治法第２４５条の４第１項に基づく技術的な助言を受け、本市におきましても住宅に困窮する低額所得者、特に身寄りのない単身高齢者の市営住宅への入居に際し、保証人の確保が困難であることを理由に、入居できないといった事態が生じないよう、連帯保証人に関する入居要件を緩和するとともに、入居手続等の円滑化を図るために改正しようとするものでございます。

改正の内容でございますが、住宅入居の手続について、条例第１２条第１項第１号中「連帯保証人２人連署」を「連帯保証人１人」に緩和し、連帯保証人の「署名」に改め、同条第６項中、入居許可日から「１５日以内」の入居期限を、引っ越し等の準備期間を考慮し「２１日以内」に改め、それぞれ改正するものでございます。

また、このほか入居者の公募方法について、第４条で市ホームページを追加し、４方法による公募とすることに改め、入居者の選考について、第９条で第１項中を「公開抽選により決定すること」に改め、また同条第５項中「２０歳未満の子を扶養している寡婦」を「ひとり親」に改めるなど、市営住宅の管理に関し、手続等の円滑化を図るための所要の改正を行うものでございます。

なお、附則として、施行期日を令和５年４月１日からとしております。

以上、簡単ではございますが、説明を終わります。よろしく御審議の上、御決定賜りますよう、お願い申し上げます。

○議長（初村　久藏君）　説明が終わりました。

これから質疑を行います。質疑はありませんか。９番、脇本啓喜君。

○議員（９番　脇本　啓喜君）　これは直接条例と関わるかどうかということなんですが、このように条例を改正した場合、やはり今までそういう保証人を立てていたということであれば、退居

する際の費用とか、そういうことがある程度確保できるということでこういう形で保証人を立てていたと思うんですが、それがなくなるということは敷金礼金等ですね、どういうふうに考えていらっしゃるのか、この法の趣旨からすると敷金礼金等も上げない方向だと思うんですが、その辺り、もう既に検討されていると思いますので、お聞かせください。

○議長（初村　久藏君）　建設部長、内山歩君。

○建設部長（内山　　歩君）　脇本議員の質問にお答えいたします。

まず、今回の保証人、こちら現在２名ということでしておりますけれども、これを１名に緩和するということで、敷金等に関しましては、特にこの保証人が１人になったということで、変わるわけではございません。よろしいでしょうか。

○議長（初村　久藏君）　いいですか。ほかにありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（初村　久藏君）　質疑なしと認め、これで質疑を終わります。

お諮りします。本件は、委員会への付託を省略したいと思います。御異議ございませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（初村　久藏君）　異議なしと認めます。本件は、委員会への付託を省略することに決定しました。

これから討論、採決を行います。議案第２７号、対馬市営住宅条例の一部を改正する条例について、討論はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（初村　久藏君）　討論なしと認め、採決します。

本件は、原案のとおり決定することに御異議ございませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（初村　久藏君）　異議なしと認めます。本件は、原案のとおり可決されました。

―――――――――――――・―――・―――――――――――――

日程第２０．議案第２８号

○議長（初村　久藏君）　日程第２０、議案第２８号、湯多里ランドつしまの指定管理者の指定についてを議題とします。

提案理由の説明を求めます。総務部長、木寺裕也君。

○総務部長（木寺　裕也君）　ただいま議題となりました議案第２８号、湯多里ランドつしまの指定管理者の指定についての、提案理由とその内容を御説明申し上げます。

議案書の４７ページをお願いいたします。

本施設の管理運営につきましては、平成２８年４月１日より令和３年３月３１日まで、有限会

社対馬ビルサービスを指定管理者として管理運営しておりましたが、温泉設備の老朽化により大規模改修工事が必要でありましたので、指定管理期間の終了を機に、大規模改修事業を実施いたしております。その完了は令和５年度中旬に係る予定ではございますが、令和５年４月１日より施設の管理運営を指定管理によることとし、本年９月まではプール施設のみでの営業を行い、１０月からの温泉施設の営業再開に向け、対馬市公の施設の指定管理者の指定手続等に関する条例第２条により、指定管理者の公募を行ったところ、１団体からの申請がございました。選定の結果、指定管理者候補者といたしまして、佐世保市三浦町１番１５号の株式会社クリルを指定管理者として指定いたしたく、地方自治法第２４４条の２第６項の規定により議会の議決を求めるものであります。

株式会社クリルは、総合ビルメンテナンス業を主な業務とする島外に事業所を構える会社ではありますが、湯多里ランドと類似した施設の指定管理者としての実績もございます。今回、島外業者が選定された経緯につきましては、当初、令和４年８月１９日から９月３０日までの期間で実施いたしました指定管理者公募の折に、募集要項において、「対馬市内に事務所または事業所を置くもの」という申請要件を付しておりましたが、その期間中の応募がなく、その後、申請要件から「対馬市内に事務所または事業所を置くもの」という条件を外して、再度の公募を実施いたしまいたところ、株式会社クリルからの申請があったものでございます。

指定管理者候補の選定につきまして、対馬市指定管理者選定委員会により選定方法及び審査基準に沿って、公正に審査した結果、募集要項の選定基準を満たし、かつ事業計画等の審査及びヒアリング等により総合的に判断し、安定した施設運営が期待できることから株式会社クリルを湯多里ランドつしまの指定管理者候補として選定いたしました。なお、指定管理期間は、令和５年４月１日から令和１０年３月３１日までの５年間といたしております。

以上、提案理由の説明を終わります。御審議の上、御決定賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

○議長（初村　久藏君）　説明が終わりました。

これから質疑を行います。質疑はありませんか。１１番、小島徳重君。

○議員（１１番　小島　徳重君）　これまでこの施設は島内の事業者が委託を受けて運営がされていたんですが、今回、島内からの応募がないということで島外の業者を選定されたということですが、一応、今、部長の説明ではこの事業者はビルメンテナンス業というふうな説明がございましたので、その中で実績として、いわゆるプールなりあるいは今まで飲食業等も一緒にこの温泉施設等一体で運営されていたわけですから、その辺りについての実績があるのかどうかということをまず１点お尋ねをしたいと思います。

それから島外からの事業者、企業ということですから、従業員等についてはどういう形態とい

うか、島外から全部来られるのか、あるいは島内の住民を雇用するというような、なんか条件等の附帯とかそういう条件について話し合いがあったのかどうか、その辺りについて説明をもう少しお願いをしたいと思います。

○議長（初村　久藏君）　美津島行政サービスセンター所長、藤田浩徳君。

○美津島行政サービスセンター所長（藤田　浩徳君）　湯多里ランドつしまにつきましては、美津島行政サービスセンターのほうで事務をとっておりますので、私のほうから回答をさせていただきます。

株式会社クリルの湯多里ランドつしまと類似した施設の運営実績ということでございますが、現在、佐世保市の鹿町温泉及び鹿町活性化施設、これは同じ敷地内にあり、湯多里ランドつしまの温泉施設部分がちょっと小さくなったような施設だと聞いております。鹿町活性化施設のほうが地元産品の売店であるとか、レストランが入った施設でございます。その施設を令和２年４月から５年間の指定管理を受けているという実績があると聞いております。

２点目の従業員の雇用についてですが、ヒアリングの中では、できる限り島内の方を雇用したいということで、説明があっております。

以上です。

○議長（初村　久藏君）　１１番、小島徳重君。

○議員（１１番　小島　徳重君）　藤田所長の説明の分は、一応、理解したいと思います。

それで島内から従業員の雇用ということになって、特にプール等は資格のある方がいないと運営できないというふうに聞いたことがありますが、その辺りについての配慮はいかがなんですかね。

○議長（初村　久藏君）　美津島行政サービスセンター所長、藤田浩徳君。

○美津島行政サービスセンター所長（藤田　浩徳君）　プールにつきましては、インストラクターは外注する予定ということで聞いております。それと、そのほかに監視員とかで警備の資格とかということでいろいろ制限ございますが、市が直営する場合で業者さんに委託する場合は、委託先が警備の資格を持っていることが条件ですけど、今回の場合は指定管理委託ということで、その部分については指定管理者が自ら警備、プールの監視をするということであれば問題ないと聞いております。インストラクターのみ外注を考えているということで説明を受けております。

以上です。

○議長（初村　久藏君）　１１番、小島徳重君。

○議員（１１番　小島　徳重君）　有資格といいますか、資格がないと従事できない職の場合と、島内そういう方がおられるかおられないか、よく私も存じませんけどですね。その辺り、島内の方がおられれば、ぜひそういうことを優先をしていただければと思うんです。

これまで、知り得る限りではインストラクター等、島外からほとんど呼んでいたというふうに聞いています。そして、島内の方がその下で補助的なことで運営をされていたというふうに聞いていましたけども、その辺りも十分、事業者と相談をしていただいて、島内の方がおられればそういう方を雇用という形を進めていただければということで要望をしておきます。

以上です。

○議長（初村　久藏君）　答弁はいいですか。ほかに質疑はありませんか。９番、脇本啓喜君。

○議員（９番　脇本　啓喜君）　丁寧な説明でありがとうございました。よく事情は分かりました。まずは島内で募集したけれども手が挙がらなかったので、島外も広げてこういう形になったということで、この島外となったことについては事情はよく分かりました。

やはり今回、こういうことで島外の方が指定管理という形になったんですが、対馬市はサーキュラーエコノミーということをうたっていらっしゃるわけですから、これは何も漂着ごみをリサイクルするだけではなくて、地域循環経済を目指すんだということで、ＳＤＧｓの未来都市に手を挙げていらっしゃると思います。できる限り、やはり島内でということで、今回もそういう形でやられたんでしょうけれども、いろいろと自分のところばかりでやっちゃいけないという形もあるんでしょうが、その辺難しいところがあると思いますが、ぜひ今後もこういう指定管理のときは、まずは島内のところを探し出してでもしていくという形が、対馬からお金が出ないということをまず前提でしていただきたいんですが、その辺りいかがでしょうか。

○議長（初村　久藏君）　総務部長、木寺裕也君。

○総務部長（木寺　裕也君）　今おっしゃられるように、できるだけ島内事業者をこちらのほうからも探し出せるような形で募集方法も考えまして、できるだけ持っていきたいなと思っております。

○議長（初村　久藏君）　いいですか。ほかに質疑はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（初村　久藏君）　質疑なしと認め、これで質疑を終わります。

本件は、配付しております議案審査付託表のとおり総務文教常任委員会に付託をします。

―――――――――――――・―――――・―――――――――――――

日程第２１．議案第２９号

○議長（初村　久藏君）　日程第２１、議案第２９号、あがたの里の指定管理者の指定についてを議題とします。

提案理由の説明を求めます。上対馬振興部長、阿比留裕君。

○上対馬振興部長（阿比留　裕君）　ただいま議題となりました議案第２９号、あがたの里の指定管理者の指定について、その提案理由と内容を御説明いたします。

議案書の４９ページをお願いいたします。

本施設は、平成３０年４月１日から一般財団法人対馬市農業振興公社を指定管理者として管理運営を行っておりますが、令和５年３月３１日をもって、その期間満了となりますので、対馬市公の施設の指定管理者の指定手続等に関する条例第２条により、公募を行ったところ１団体からの申請がございました。

選定の結果、指定管理者候補者といたしまして、対馬市上対馬町古里１３番地３、株式会社Ａｃｏｍｐａｎｙを指定管理者として指定いたしたく、地方自治法第２４４条の２第６項の規定により、議会の議決を求めるものでございます。

以上、簡単ではございますが、説明を終わります。御審議の上、御決定賜りますよう、よろしくお願いいたします。

○議長（初村　久藏君）　説明を終わりました。

これから質疑を行います。質疑はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（初村　久藏君）　質疑なしと認め、これで質疑を終わります。

本件は、配付しております議案審査付託表のとおり産業建設常任委員会に付託をします。

―――――――――――――・―――――・―――――――――――――

日程第２２．議案第３０号

○議長（初村　久藏君）　日程第２２、議案第３０号、工事請負契約の締結についてを議題とします。

提案理由の説明を求めます。建設部長、内山歩君。

○建設部長（内山　　歩君）　ただいま議題となりました議案第３０号につきましては、建設部所管の議案でございますので、提案理由とその内容につきまして御説明申し上げます。

議案書の５１ページをお願いします。

議案第３０号、工事請負契約の締結について。本議案は、市道尾浦浅藻線道路改良工事（トンネル）にかかる工事請負契約を締結いたしたく、議会の議決に付すべき契約及び財産の取得又は処分に関する条例第２条の規定により議会の議決を求めるものでございます。

入札の結果につきましては、入札参加条件を有資格者三者で構成する特定建設工事共同企業体を対象とし、昨年の１２月８日に制限つき一般競争入札による公告を行いましたところ、９者の特定建設工事共同企業体からの申請があり、去る２月７日に入札を実施した結果、戸田・イチケン・大石特定建設工事共同企業体、代表構成員、畑中靖博氏が３６億９，７１８万円で落札されましたので、これに消費税相当額を加算した４０億６，６８９万８，０００円で、令和５年２月１３日に同氏を相手方とした工事請負仮契約を締結しております。ここに、本契約を締結いたし

たく議会の議決を求めるものでございます。

工事の概要につきましては、議案書の５２ページ、参考資料をお願いします。

道路改良工事延長は1，４３８メートルで、そのうちトンネル工事延長が1，４１８メートル、車道幅員は５．５メートルでございます。トンネルＮＡＴＭ発破工法による掘削工法で、インバート工、坑内付帯工、舗装工、坑門工、排水構造物工などを実施するものでございます。

参考に、５３ページから５６ページにかけて位置図、平面図及び標準断面図を添付し、またタブレット議案フォルダに添付資料として入札結果一覧表を掲載しておりますので、御参照ください。なお、本工事につきましては、継続費にかかる契約でございますいので、工期を令和７年１１月２８日までの予定としております。

以上、簡単でございますが、議案第３０号の提案理由の説明を終わります。よろしく御審議の上、御決定賜りますよう、お願い申し上げます。

○議長（初村　久藏君）　説明が終わりました。

これから質疑を行います。質疑はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（初村　久藏君）　質疑なしと認め、これで質疑を終わります。

本件は、配付しております議案審査付託表のとおり産業建設常任委員会に付託をします。

―――――――――――――・―――・―――――――――――――

日程第２３．同意第１号

○議長（初村　久藏君）　日程第２３、同意第１号、対馬市教育委員会委員の任命についてを議題とします。

提案理由の説明を求めます。市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝　尚喜君）　同意第１号、対馬市教育委員会委員の任命について、その提案理由を御説明いたします。

現任の齋藤豪氏が令和５年４月３０日をもちまして、任期満了となりますので、引き続き教育委員としてお願いするものでございます。同氏につきましては、今さら申し述べるまでもなく、議員皆様も既に御承知のとおりでございまして、平成２９年から教育委員として御活躍いただいております。本市の教育行政に対し、これまでの経験と実績をさらに発揮していただくため、議会の同意を求めるものでございます。

なお、任期は令和５年５月１日から令和９年４月３０日までの４年間となっております。何とぞ御同意のほどよろしくお願いいたします。

○議長（初村　久藏君）　説明が終わりました。

これから質疑を行います。質疑はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（初村　久藏君）　質疑なしと認め、これで質疑を終わります。

お諮りします。本件は、委員会への付託を省略したいと思います。御異議ございませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（初村　久藏君）　異議なしと認めます。本件は、委員会への付託を省略することに決定しました。

これから討論を行います。討論はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（初村　久藏君）　討論なしと認め、採決します。

同意第１号、対馬市教育委員会委員の任命についての同意を求める件は、これに同意をすることに御異議ございませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（初村　久藏君）　異議なしと認めます。同意第１号は、同意することに決定しました。

―――――――――――――・―――・―――――――――――――

日程第２４．諮問第１号

日程第２５．諮問第２号

○議長（初村　久藏君）　日程第２４、諮問第１号及び日程第２５、諮問第２号、人権擁護委員候補者の推薦についての２件を一括議題とします。

提案理由の説明を求めます。市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝　尚喜君）　ただいま一括議題となりました諮問第１号及び諮問第２号、人権擁護委員候補者の推薦について、その提案理由を御説明いたします。

今回、御提案いたします委員につきましては、現委員であります多田満國氏及び古藤睦仁氏の２名の任期が今年６月３０日をもって満了となりますので、再び委員に推薦する方として多田満國氏を、古藤睦仁氏の後任として山岡審司氏を委員に推薦いたしたく、人権擁護委員法第６条第３項の規定により、議会の御意見をお願いするものであります。

多田満國氏は、令和２年７月から人権擁護委員として御活躍され、現在、１期目でございます。山岡審司氏は上対馬町にお住まいで、現在は対馬市商工会に勤務されております。地域社会の高齢化や買い物弱者の問題に直面する機会が多く、地域住民の抱える生活課題や人権問題を解決することに関心をお持ちであります。

候補者のお二人は、広く社会の実情に精通され、人格、見識ともに申し分なく、人権擁護委員としてふさわしい方々でございます。どうぞよろしくお願いをいたします。

○議長（初村　久藏君）　説明が終わりました。

これから質疑を行います。質疑はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（初村　久藏君）　質疑なしと認め、これで質疑を終わります。

お諮りします。ただいま一括議題としております２件は、委員会への付託を省略したいと思います。御異議ございませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（初村　久藏君）　異議なしと認めます。２件は、委員会への省略することに決定しました。

これから２件について、各案ごとに討論、採決を行います。

まず、諮問第１号について討論はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（初村　久藏君）　討論なしと認め、採決します。

本件は、多田満國氏を適任とすることに御異議ございませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（初村　久藏君）　異議なしと認めます。本件は、多田満國君を適任とすることに決定しました。

次に、諮問第２号について、討論はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（初村　久藏君）　討論なしと認め、採決します。

本件は、山岡審司氏を適任とすることに、御異議ございませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（初村　久藏君）　異議なしと認めます。本件は、山岡審司氏を適任とすることに決定しました。

―――――――――――――・―――・―――――――――――――

○議長（初村　久藏君）　以上で、本日の議事日程は全て終了しました。

本日はこれで散会とします。お疲れさまでした。

午前11時56分散会

令和５年　第１回　対　馬　市　議　会　定　例　会　会　議　録（第10日）

令和５年３月２日（木曜日）

議事日程（第３号）

令和５年３月２日　午前10時00分開議

日程第１　市政一般質問

本日の会議に付した事件

日程第１　市政一般質問

出席議員（19名）

１番　糸瀬　雅之君	２番　陶山荘太郎君
３番　神宮　保夫君	４番　島居　真吾君
５番　坂本　充弘君	６番　伊原　　徹君
７番　入江　有紀君	８番　船越　洋一君
９番　脇本　啓喜君	10番　春田　新一君
11番　小島　徳重君	12番　小田　昭人君
13番　波田　政和君	14番　小宮　教義君
15番　上野洋次郎君	16番　大浦　孝司君
17番　作元　義文君	18番　黒田　昭雄君
19番　初村　久藏君	

欠席議員（なし）

欠　　員（なし）

事務局出席職員職氏名

局長	勝見　一成君	次長	平間　博文君
課長補佐	糸瀬　博隆君	係長	犬束　興樹君

説明のため出席した者の職氏名

市長	比田勝尚喜君
副市長	俵　　輝孝君
教育長	中島　清志君
総務部長	木寺　裕也君
総務課長（選挙管理委員会事務局書記長）	一宮　　努君
しまづくり推進部長	伊賀　敏治君
観光交流商工部長	村井　英哉君
市民生活部長	舎利倉政司君
福祉保険部長	國分　幸和君
健康づくり推進部長	桐谷　和孝君
農林水産部長	黒岩　慶有君
建設部長	内山　　歩君
水道局長	立花　大功君
教育部長	八島　誠治君
中対馬振興部長	松井　惠夫君
上対馬振興部長	阿比留　裕君
美津島行政サービスセンター所長	藤田　浩徳君
峰行政サービスセンター所長	居村　雅昭君
上県行政サービスセンター所長	原田　勝彦君
消防長	主藤　庄司君
会計管理者	二宮　照幸君
監査委員事務局長	志賀　慶二君
農業委員会事務局長	主藤　公康君

午前10時00分開議

○議長（初村　久藏君）　おはようございます。

ただいまから議事日程第３号により、本日の会議を開きます。

本日からの市政一般質問においては、アクリル板設置による感染症対策を実施することにより、マスクを外して質問することができることといたします。

日程第１．市政一般質問

○議長（初村　久藏君）　日程第１、市政一般質問を行います。

本日の登壇は５人を予定しております。

それでは、届出順に発言を許します。７番、入江有紀君。

○議員（７番　入江　有紀君）　おはようございます。入江有紀と申します。

一般質問に入ります前に一言、皆様に、市長なんですけど、お願いがあるんでけど。私は職員の挨拶問題をずっと何回か言ってまいりましたけど、私、１週間前に本庁に行きました。行って階段を下りよったんですけど、下から上ってきた職員が知らん顔してどんどんすうすう上って行ったんです。それで、呼び止めて名前を聞いて、事情を聞いたんですけど、セールスマンと間違えていましたと言われました。私をセールスマン。それで、１９人のうちで私、女性１人なんですけど、やはり私の顔が分からない職員もいるみたいで、もう少し、幾らセールスマンでも市民には変わりないんですから、挨拶ぐらいはもうちょっとできるようにしていただきたいんですけど、よろしくお願いいたします。

それでは、一般質問に入らせていただきます。

女性の貧困について。子供の貧困について。現在、子供の貧困は何名か把握していますか。女性の貧困も把握しておられますか。貧困に対して、行政はどのような対応をしてありますか。

２番目に、介護施設の整備についてですけど、第９期介護保険事業計画で３００人以上の入居待ちに対して、どのような施設の整備を予定されていますか。

３番目に、定住者支援住宅についてですが、移住者が来たくても住むところがない状況ですが、現在の９戸から増やすことはできないものでしょうか。

以上です。よろしくお願いいたします。

○議長（初村　久藏君）　市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝　尚喜君）　おはようございます。入江議員の御質問にお答えいたします。

まず初めに、職員の挨拶の問題でございますけれども、職員が議員をセールスマンと間違えたというようなことでございましたけれども、議員、言われるようにセールスマンであれど挨拶はするように、今後、注意を促してまいりたいというふうに思っております。申し訳ありませんでした。

それと質問ですけれども、通告では、１問目のコロナの第８波の対応についてという内容が来ていたんですけれども、先ほどの質問では、これはもう消されたんでしょうかね。（「はい」と呼ぶ者あり）ああ、そうですか。このことについてはもう答えないということで２番目からの子供の貧困、女性の貧困についてということでございますけれども、市の取組としましては、生活困窮者に対する支援を行っておりますので、困窮ということで答弁をさせていただきます。

令和４年１２月末におきまして、生活保護世帯で１８歳以下の子供がいる世帯は、２５世帯４３人となっています。また、生活困窮者自立支援事業におきまして、生活困窮相談を受けてい

る世帯のうち、１８歳以下の子供がいる世帯は、７世帯１３人となっております。

生活困窮者自立支援事業の一つとして、生活困窮世帯の子供が抱える課題を解消し、学習機会の提供により学力を向上させ、困窮の負の連鎖を断ち切るための子どもの学習・生活支援事業として実施をしております。

この事業は、学童や学習塾へ通う子供、１人当たり月額１万円を上限に支援を行うものでございます。

生活困窮者自立支援事業では、子どもの学習・生活支援事業のほか、自立相談支援事業、就労準備支援事業、住居確保給付金事業、一時生活支援事業、家計改善支援事業等の支援を行っております。

女性の困窮に関する相談につきましては、今まであっておりません。

次に、第９期介護保険事業計画策定における施設整備についてでございますけれども、まず介護施設の整備につきましては、昨年、第１回以降の定例会での一般質問の際に、次期以降の介護保険事業計画策定における施設整備については、将来的な高齢者の人口推計、介護サービスの需要等を精査しながら整備が必要と判断した場合は、将来、安定した介護保険事業の運営及び現在の介護サービスを継続して供給できるよう慎重に判断していきたいと答弁をしております。

現在、計画策定に向け施設整備等を含めた検討をしております。具体的な内容については、介護ニーズ調査や実態調査を行い、現状の課題や将来的な人口推計、安定したサービスの継続及び整備することによる介護保険料の負担などを含め、分析、協議を行い、総合的に精査いたします。その後、計画策定委員会等で意見を求めた上で、令和５年度中に計画を策定することとしております。

地域密着型サービスの整備等が必要と判断した場合は、第９期介護保険事業計画で位置づけし、県へ施設整備事業実施協議書を提出し、助成額を確保した上で、令和６年度以降サービス事業者の公募を行い、事業者の選定を行うとしております。

次に、定住支援住宅についてでございますけれども、定住支援住宅は本市へ定住を目的とした移住者の生活基盤の確立を支援するとともに、移住直後の負担軽減を図るため貸与期間を２年間とし、定住に向けての住居探しのために役立てていただいております。現在、市内に９世帯分を確保している状況であります。

現在の入居状況は、厳原町久田に２世帯、上対馬町比田勝に３世帯が入居中であり、久田１世帯、仁位１世帯は入居予定、他の２戸については入居者募集中でございます。移住相談会においても民間の不動産情報も少ないこともあり、住まいについての相談は多く、特に知り合いのいないＩターン者等にとりましては、住居確保が難しいことは十分承知しております。生活の根幹となる住居対策は移住施策の最重要課題であると認識し、国、県の公舎、施設など住居として活用

可能な施設の情報収集、調査を既に実施しております。今後におきましても、さらに県との協議を行い、定住支援住宅の整備・拡充に取り組んでまいります。

以上でございます。

○議長（初村　久藏君）　７番、入江有紀君。

○議員（７番　入江　有紀君）　子供の貧困問題なんですけど、現在、私の調べによると、５７９人の貧困の子供たちがいるんですが、それで、一応、長崎県の貧困率というのは、５人に１人の貧困率なんですよ。貧困数は全国で２６８万４，２０４人、７人に１人なんですけど、長崎県の場合は、一応、５人に１人ということで、５７９人になります。

それで、このことは、子供の貧困は私たち大人にも物すごい影響を及ぼすと思うんですけど、３０年後の社会を回していくのはこの子たちなんですよ。だから、子供たちが元気で頑張ってくれれば、これからの私たちの老後も大丈夫なんですけど、この問題はちょっと大事な問題で。

私たち、一応、こども食堂を始めて３年目になるんですけど、子供の貧困が目に見えて分かってくるんですよ。何でかというと、靴を、小さくなって後ろを踏んで履いた子とか、それから、この前は鍋を全部でしたんですけど、その鍋を見て高校生の子が、鍋というのは、一応、テレビでは見たけど、実際にはこんなのが鍋なんですね。その言葉自体が私たちボランティアの胸に何か突き刺さって、そういう貧しい生活をしている子がまだ多いんですよ、対馬にも。だから、そんな子たちを選んで、できるだけ調べて、そして救うてやりたいのが私たちの考えなんですけど、どうにかして、市として貧困者、貧困の子供たちを救う、見つけて救うようなことはできないものでしょうか。

それと、一応、５００人ぐらいおるんですけど、それと母親なんですけど、生理用品が買えない人とか、そんな人がかなりおるんですよ。だから、私たちはこども食堂にいただいた寄附金で靴を買ってあげたり、お米を渡したり、今のところしているんですけど、もうちょっと市がその人たちを把握して、救うてやることはできないものでしょうか。市長、御答弁をお願いします。

○議長（初村　久藏君）　市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝　尚喜君）　初めに、入江議員の調査では５７９人ということでございますけれども、担当課が調査したところによりますと、生活困窮相談を受けている中での支援数が児童生徒で、小学生、中学生、高校生、それぞれ７６人、１９人、７人の１０２人でございます。こういう方が生活困窮相談をされた中で支援をしているということでございます。

それと、議員の御言葉の中では貧困という言葉がございますけれども、貧困と困窮とはどのような違いがあるかということをちょっと説明させていただきますが、まず、貧困とは、お金がなく、貧しくて生活に困っていることと定義されております。一方、困窮とは、食べ物や家など生活に必要なものが足りず、また、解決策を見いだせず困り果てることということになっておりま

す。よって、貧困より困窮のほうが困っている度合いが強い状態をいうようなことが定義されておりますので、私、先ほどから困窮ということで、市のほうも困窮相談ということで相談を受けておりますので、そういう説明をさせていただきました。

それとまた、市のほうにそういった支援をというようなことでございますけれども、まずそういった相談をどうかしていただいて、声をまず届けていただきたいと思います。

この困窮相談等については、こちらからなかなか調査をして、あなたは生活困窮ですからとかそういうことはなかなか言えないのではないかなというふうに私、認識しております。

以上です。

○議長（初村　久藏君）　７番、入江有紀君。

○議員（７番　入江　有紀君）　よその市では今、女性活躍推進交付金というのが国から７００万出ているんですよ。それを利用して、相談所を設けているんです。それは大村市がやっているんですけど、大村市を調べたら分かる。大村市まで行ってきてから、全部調べてきたんですけど、７００万の国からの交付金をいただいて、そして相談所を設けて、女性とか子供たちの貧困をずっと相談を受けて、お米を配るとか食材を配るとか、いろいろ着る物を買ってやるとかそういうことをしているんですが、女性の場合は、生理用品や何かをそこでつくって、そして渡しているんですよ。だから、大村市のやり方をお聞きしたら、補助金が７００万出るんです。だから、この７００万を利用して相談所をつくれば相談に来やすいと思うんですよ、お母さんも子供も。だから、そういうところをつくってやれば、貧困の人たちにもだんだん分かってくるんじゃないかと思うんですけど。

市長が今、言われましたけど、貧困というのは、お金がない、人とのつながりがない、それから自信がない。それを貧困というんですけど。やはりそういう人たちを救うにはそういう相談所、入りやすい、行政じゃなくて民間に委託して入りやすい相談所を設けてやって。だから、大村市を聞いてみたら、今それをずっとやってあるんですよ。だから、その７００万の補助金を国からもらって民間に委託して、ＮＰＯか何かにして、してあるみたいだから、それ非常にいいことだと思うんですよ。そしたら、何の相談も受けるから全部、お米を持たして帰りたい、この人はお米がないとか、この人は生理用品とか、いろいろそんな感じにしてあるみたいなんですよ。だから、対馬市もこの補助金を利用して、そういう相談所を設けてもらうわけにはいきませんか。

○議長（初村　久藏君）　福祉保険部長、國分幸和君。

○福祉保険部長（國分　幸和君）　今、議員が言われました大村市の事業について、私は把握してはおりませんけれども、対馬市におきましては、保護課内におきまして、生活困窮者支援事業というのに取り組んでおりまして、そこで相談を受け付けております。

以上です。

○議長（初村　久藏君）　７番、入江有紀君。

○議員（７番　入江　有紀君）　その話を聞いてみたんですけど、行政のしてあることは行政にはなかなか相談しにくいそうです。それで、あんまり活躍していないと思うんですけど、どのぐらいの人数が相談に来てありますか。

○議長（初村　久藏君）　福祉保険部長、國分幸和君。

○福祉保険部長（國分　幸和君）　生活相談支援事業での相談件数は、令和４年１２月末現在におきまして１０５人、１０５件の相談を受けております。

○議長（初村　久藏君）　７番、入江有紀君。

○議員（７番　入江　有紀君）　女性の相談も受けていますか。

○議長（初村　久藏君）　福祉保険部長、國分幸和君。

○福祉保険部長（國分　幸和君）　相談の理由が、例えば、収入の減少ですとか、不登校、家族の病気とかでございまして、女性に特化した相談というのはあっておりません。

○議長（初村　久藏君）　７番、入江有紀君。

○議員（７番　入江　有紀君）　子供の貧困を救うには、やはり行政には相談に行きにくいと思うので、大村市みたいに７００万の補助金をもらって、国から、そしてＮＰＯか何かに任せて、そして相談を受けて、いろんな困窮者とかのあれを救い出して、救ってやったほうがいいと思うんですよ。それがやはり子供たち、２年、３年目に入ったんですけど、こども食堂を始めて。最初よりかだんだんもう子供たちの数が多くなって、やはり私たちが配達を、大体、１０時半ぐらいに持っていくんですけど、車の音がしたら飛んでくる状態なんですよ、みんなが。だから、もうちょっと私たちも今、厳原しかないから、美津島、豊玉、厳原、ずっと全部６か町に設けてやってつくってやりたいんですけど、それができないから、こんな相談所を設けて、お米とかの配付とか、一応、食材の配付とかそんなのをしてやりたいんですが、これが７００万の女性活躍推進交付金を申請して、事務所を設けるようなことはできないでしょうか。

○議長（初村　久藏君）　福祉保険部長、國分幸和君。

○福祉保険部長（國分　幸和君）　確かに、支援を受けることに引け目や罪悪感を覚えて、困り事を口に出せない人もいるかと思います。支援が必要な人がその必要な支援に関する情報を的確に入手できるような相談体制は今、保護課のほうで整えておりますので、そちらのほうを活用していただきたいと思っております。

○議長（初村　久藏君）　７番、入江有紀君。

○議員（７番　入江　有紀君）　そしたら、この女性活躍推進交付金というのは、しないということですか。補助金の申請は。でも、こんないい国の補助金があるんですからこんなのを活用して、子供達の貧困とか、女性の貧困を救ってやりたいんですけど。田舎のほうはそんなにないんです

よ。美津島、厳原が多いんです。それで、できるだけこの交付金を申請してもらうわけはいきませんか。

○議長（初村　久藏君）　市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝　尚喜君）　確かに、そういった必要であるということであれば、民間事業所じゃなくて保護課のほうでも十分にできるものというふうに思っております。

ただし、そこでまず相談を受けていただくことが先決なのかなというふうに私は思っておりますし、この生活困窮者と判断をして、そういったいろいろな助成をしていくときの基準と申しますか、そこら辺をどういった形で設けていくのかなということは、今後、また検討が必要になろうかとは思っております。

議員おっしゃられるように、ただ、皆さんが来られたら全部そこに支援をする。やはり、その中には本来の生活困窮者でない方もいらっしゃるのではないかなと思いますし、真に生活困窮者として困ってあるという方であれば、そのような支援は必要だということで今後も、先ほど申しましたように保護課の中でも、今後、継続をして行ってまいりたいと思っております。

○議長（初村　久藏君）　７番、入江有紀君。

○議員（７番　入江　有紀君）　目に見えないところでおられるんですよ。それで、できるだけ行政としてもそういう人を救っていただくようにお願いします。

そして次に、介護保険事業についてですが、介護保険第９期の整備の問題なんですけど、平成２５年６月にグループホーム峰の杜を一応整備した後、全然、対馬市は整備があっていないんですよ。それで、やはりこの３００人待ちというのをどうにかしてやりたいので、９期でグループホーム、認知症対応型２ユニットと、それから６０床の、６０歳以上のお年寄りが全部入れる、一人住まいの。軽費老人ホームＣ型を廃校跡なんかを利用してからしていただけたらと思っているんですけど、どんなでしょうか。

○議長（初村　久藏君）　福祉保険部長、國分幸和君。

○福祉保険部長（國分　幸和君）　今、待機者のことをおっしゃられましたけれども、現在、市内には１９か所の入所施設が整備されております。定員総数は７０２人でございます。これに対しまして、昨年の７月の時点で把握している入所待機者数は２８８人でございます。また、短期入所生活介護施設、いわゆるショートステイのことですけれども、これが７か所で定員１３７人の整備がされております。直近３か月のショートステイの利用状況が月平均４５７人でございます。待機者よりショートステイの利用者が多い状況でございます。施設とサービス計画の支援事業者が連携を図ることによって介護サービス計画に沿ったサービス提供はできているものと考えております。

○議長（初村　久藏君）　７番、入江有紀君。

○議員（７番　入江　有紀君）　現在、人口が２万８，３１７人、そのうちに６０歳以上が１万３，３２５人なんですけど、ほとんど４０％ですかね、これ、５０までは行っていないんですけど、もう６０以上がそれだけの人数がおるんですけど、これからだんだん増えていくんですけど。

福祉保険部長が前回のときだったと思うんですけど、私のところに、私が行ったときに聞いたときに、この問題は策定委員会に出さないと第９期で整備をするかどうかは分かりませんということを言って帰られたんですよ。その後、こう言いましたよね。僕の力では、策定委員会には出すことはできませんから、どうなるか分かりませんちゅうことで言われたんですよ、私に。だから、その策定委員会に出してもらわんと整備はできませんからというのはどういうことなんですか。策定委員会がもう受け付けない場合は、もう整備は無理だということを言われたんですよね。だから、その策定委員会というのがどういう委員会なんですか。これをやはり３００人ぐらい待ちで市民が困っているんですけど、それを策定委員会に上げてもらわんと無理ですよちゅうことを言われましたよね、私に。僕の力では無理だと思いますと言うていかれたんですけど。それはですよ、もう全然考えていないことじゃないですか。この策定委員会に出してもらうようにあなたが努力をしてもらわないといかんとじゃないですか。僕の力では無理です言うてから、言われたあの言葉が私、頭から離れませんけど。もう９期では造りませんよちゅうことを言うていったようなもんやないですか、あれは。やっぱり３００人ぐらい待ちしとる人は家庭で面倒を見ているんですよ。家庭で面倒を見るののあの苦しさは分かっているんですか、行政は。だから、策定委員会に出してもらえんと、僕の力では無理ですよという言われた理由をお答えください。

○議長（初村　久藏君）　福祉保険部長、國分幸和君。

○福祉保険部長（國分　幸和君）　施設整備は、最終的には、介護保険計画策定委員会で決定されますということを申し上げております。

○議長（初村　久藏君）　７番、入江有紀君。

○議員（７番　入江　有紀君）　僕の力では駄目です。しきりませんと言うたのはどういうことですか。私、何月何日に言われたというのを覚えています。

○議長（初村　久藏君）　福祉保険部長、國分幸和君。

○福祉保険部長（國分　幸和君）　そういったことを言った覚えはありませんけれども。

○議員（７番　入江　有紀君）　覚えがなかったら言わんで。

○福祉保険部長（國分　幸和君）　施設整備の最終決定は介護保険の策定委員会ですということを申し上げております。

○議長（初村　久藏君）　７番、入江有紀君。

○議員（７番　入江　有紀君）　覚えはないということは言わせませんよ。私はちゃんと聞いているんですから。何月何日に言われたということをメモしていますよ。僕の力では無理ですと言わ

れました。だから、策定委員会に持ち込んでもらうのはどういう方法をすれば持ち込んでもらえるんですか。説明してください。

○議長（初村　久藏君）　福祉保険部長、國分幸和君。

○福祉保険部長（國分　幸和君）　第９期の介護保険事業計画を策定することに当たりまして、ニーズ調査とか実態調査とかを行います。それに基づいて、策定委員会の委員さんで協議してもらうということでございます。

○議長（初村　久藏君）　７番、入江有紀君。

○議員（７番　入江　有紀君）　策定委員会に持ち込むには、僕の力では無理ですよと言われた言葉はどういうことなんですかと。もう第９期では整備はできないということを言いよるようなもんじゃないですか。お答えください。

○議長（初村　久藏君）　福祉保険部長、國分幸和君。

○福祉保険部長（國分　幸和君）　施設整備の最終決定は策定委員会で決定されるということでございます。

○議長（初村　久藏君）　暫時休憩します。

午前10時36分休憩

午前10時40分再開

○議長（初村　久藏君）　再開します。

７番、入江有紀君。

○議員（７番　入江　有紀君）　入居施設が足りないために、私は１月１１日に福祉のほうにお願いしました。それで、一人住まいのお年寄りが、妹さんが今まで面倒を、バスで通って面倒を見てあったんですけど、もう具合が悪くなって面倒見れんからちゅうことでショートにお願いしたんです。そして、私もかかってから一応ショートにお願いして、迷惑をかけないようにしますからちゅうことで福祉のほうの話だったんですけど、１月１１日にお願いして１月２８日ぐらいに３日間引き取ってくださいと言ってきたそうです。妹さんのほうに。それで３日間は水道破裂して、家がびしょ濡れになってもう歩ける状態じゃないし、誰が面倒見るんですかと。それでも３日間は引き取ってください。じゃあ、あなたの家に引き取ってくださいと言ったそうです。妹さんが具合が悪いのに家に引き取れますか。それを心配して私にかけてきて、どうしたらいいですかということをかけてきたもんだから、福祉の担当にも声がかれるほどどなりました。１月１１日に私はお願いして、３日間帰すなら、緊急の場合は養護老人ホームを市長が用意していますよちゅうことを言っているじゃないかと。それで３日間を緊急老人ホームに入れんかと言うたんです、私。そしたら、それをいろいろもめて長い時間かかりましたけど、一応、緊急に養護老

人ホームに３日間入れてもらって、また一応ショートに帰すようにしたんですけど、そのショート先が峰だったんですよ。そしたら、峰が、その３日間、峰が預かってくれますということだった。今度、また妹さんに電話かけて、峰まで送ってくださいということになったんですよ。その動けない人。家族で送ってください。そういうことがどこにありますか。それでまた怒って、私が。そして、そういうことをバスで送っていくんですかと言うたんです、運転免許持たん人が。そして具合が悪いとに寝とるとに。そういう無理なことを言ってもあるんですよ。それで私、福祉の担当にものどがかれるほどどなって、そしてやっと入れてもらった。そんなふうですよ。だから、みんな今、入れなくて困りよるのに、そしてショートの３日間を養護老人ホームに預かるということをケアマネ自体が分かっていない。分かっていなくて、私が福祉に頼んで入れたもんだから、入江議員、養護老人ホームに３日間は入れてもらえるようになっているんですか。市長が言うたろうち。こうこうしてね、緊急の場合は３日間入れてもらえますよちうことになっとるとよと言うたら、僕たちケアマネは全然分かりませんでしたということだったんですよ。だから、そんなのもケアマネやなんかに通達しとってしてやらんと、家族が迷惑しているんですよ。水漏れはしよる、妹さんは病気、そこに帰す。ちょっと私は間違っていると思うんですよ。だから、ホームが足りないためにこういう問題がいっぱい起こっているんですよ。だから、できるだけ、もう３００人おるんやったら１５０人でも入れるぐらいの施設を整備してあげて、してやらんと、やはり家で介護をして、おむつを替えたりするのは大変だと思うんですよ。だから私、これ何度もわたってから介護保険事業のことをずっと言ってきているんですけど、どうにかして対馬市も第９期で整備していただくようにお願いします。

そして、市長は福祉に優しい島づくりということを言ってありますよね。それを守っていただきたいと思いますけど。どうですか、市長。

○議長（初村　久藏君）　市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝　尚喜君）　今、議員おっしゃられるように、現時点での待機者は確かに２８８名ほどいらっしゃいます。ただし、ホーム等を造るとなりますと、経費的な面は別といたしまして、保険料等に跳ね返るということで、皆さん、かなり神経を使って慎重にその判断をどの自治体もされているところであります。

そういう中、全国のサービス等を対馬市と比べてみますと、かなり施設のサービスにつきましては、全国よりも対馬のほうが、むしろ、かなり高いんですよね、１人当たりの施設数というのは。申しますと、人口１０万人に対する比率でいきますと、全国は０．０９９であります。長崎県は０．１３９であります。対馬市は０．２６９ということで、約２倍以上、施設のサービスは整っているということで、全体の施設の利用、１人当たりに換算いたしますと、全国では３．９人に対して１人がサービスを受けられます。長崎県では、２．２人に対して１人であります。対馬

市では１．６人に１人サービスが受けられるということで、全国や県全体から見ても、対馬市の施設充実数と申しましょうか、そういったところは上回っているというところは御理解をしていただきたいというふうに思います。

○議長（初村　久藏君）　７番、入江有紀君。

○議員（７番　入江　有紀君）　介護保険に、先ほどから何度も言われますけど、介護保険に跳ね返ってくると言ってありますよね。グループホームとかそういう老健とかは入ってくるんですけど、有料のほうは全然跳ね返ってこないんですよ。だから、その有料老人ホームとかを造ればもう介護保険に跳ね返ってこないから、もうグループホーム２ユニットを造ったところで１人３００円かぐらいですもんね、跳ね返ってくるのがね、介護保険に。だから、グループホームちゅうのは認知症対応型だから、やはり今から必要になると思うんですよ、これは。そうせんとグループホーム２ユニット造って、あとは有料老人ホームにすれば大丈夫だと思うんですけど。やはりこの３００人近い入居待ちを介護をするということはもう大変ですから、家族にとっては本当に大変な問題です、これ。認知症の人たちが徘徊して回ったり、それを捕まえて回るとか大変なんですよ。だから、介護保険に跳ね返ってこないのは有料老人ホームだから。それと、それから認知症対応型の２ユニットぐらいやったら二、三百円ぐらい、跳ね返ってくるのは。だから、それをちょっと考えてみてください。そしてやはり、家庭の負担を少しでも減らしてやるようにお願いします。

それと今、あれが……。ヤングケアラー、ヤングケアラーの子供たちが増えているそうなんですけど、対馬市は把握していますか。何名ぐらいおるか、ヤングケアラー。

○議長（初村　久藏君）　福祉保険部長、國分幸和君。

○福祉保険部長（國分　幸和君）　申し訳ございません。把握しておりません。

○議長（初村　久藏君）　７番、入江有紀君。

○議員（７番　入江　有紀君）　やはり、このヤングケアラーというのも学校にも影響していると思うんですよ。やっぱり家庭で子供たちが介護をするということは。だから、教育委員会もやはりあれして、できるだけ調べて、そのヤングケアラーや何かのそれも調べるのもさっき私が申しました事務所を開いて、そういう相談を受ければ、ヤングケアラーのことも解決できるんじゃないかと思うんですよ。だから、そのこともちょっと考えてください。補助金を調べて、女性活躍推進交付金、７００万出ますので、それを調べてください。

次に、定住支援住宅の件なんですけど、私は、これは部長のところに何回も何回も通いましたよね。１０回は通っていますよね。そして、やはり引っ越してくる人たちの空き家バンクのこととかで言ってきましたよね。そういうわけで佐世保から、１つの例として、佐世保から引っ越してきたんですよ。そして定住者支援住宅に入れていただいたんですけど、２年で出ないといけま

せんよね、あそこはね。そしたら、それがもう見つけられなくて仕事がないし、とうとう家族４人が生活保護になったんですよ。そして生活保護になってもう２年で住むところがないから引き上げていった状態になったんですけど。そういうことにならないように、できるだけ定住支援住宅も、これ引っ越してくるにも、対馬には厳原３戸、そして比田勝５戸、豊玉１でしょう。だから、私は何年も前から言いよるのに全然増えよらんです、これ。そしてあれ、住宅の改修費が、お金がかかるところはやりませんと言われましたよね、部長。修繕費がかかるところはしませんと。私、いっぱい県の住宅や何かがあるじゃないですかちゅうてもお金がかかりますからしませんと。少しぐらいお金がかかったところで、定住者支援住宅を増やすべきじゃないでしょうか。

それで今、６番目ですかね、長崎県では、移住が。６番目ですよね。佐世保、長崎、五島、大村、新上五島、それから対馬です。６番目だと思うんですけど、もうちょっと頑張って定住者支援住宅を増やすわけにはいかないんですか。

○議長（初村　久藏君）　しまづくり推進部長、伊賀敏治君。

○しまづくり推進部長（伊賀　敏治君）　先ほど議員、申されました県の空き公舎とかをどうかという話の中で、改修費が多額になると経済的にもちょっと難しいところがあるので、なるべく経費がかからなくて、いい適切な住宅があればというお話はさせていただきました。

それと今、考えているのは、定住支援住宅が９戸のうち厳原地区に３戸、それは久田地区なんですけれども、確かにそこは入居率も高い状況ですので、何とか厳原地区にあと数戸欲しいなということは考えておりまして、今、検討しているのは、定住支援住宅と別にお試し住宅というのを厳原に３戸保有しておりまして、うち１戸が国分地区、あと２戸を日吉地区に保有しているんですけれども、そこの利用があまりないということがありまして、そこも県の住宅を無償で借りているんですけれども、そこを定住支援住宅に変更できないかということを検討しておりまして、定住支援住宅にするには市の持ち物にしないといけませんので、単価交渉に入る前の準備を今しておりますので、売買価格等の交渉がうまくいけば、令和５年度の補正の時期は明言はできませんけれども、早い時期に補正予算で計上できるように努力してまいります。

以上です。

○議長（初村　久藏君）　７番、入江有紀君。

○議員（７番　入江　有紀君）　それに、空き家バンクに登録してある家を私、回ってみたんですよ。ほとんど空き家バンク見て回ったんですけど、空き家バンクというのは、人間が住めそうな家はないです。もうびっくりしました。あんなところを、人間が住めんようなところは空き家バンクには断りませんか。あれできないんですか。私ですね、もう本当情けない。こんなところに人が移住してくるわけがないじゃないですか。そやけ、市のほうも空き家バンクに申込みがきたら選ぶことはできないんですか、ここは無理ですよとか。

○議長（初村　久藏君）　しまづくり推進部長、伊賀敏治君。

○しまづくり推進部長（伊賀　敏治君）　申請があって全てを登録しているわけではございませんけれども、なかなか登録数が増えないということで課内で協議はしているんですけれども、現在の状況で質が悪いということも承知しておりますし、登録期間が２年間という期間がございますので、２年間全く交渉が成立しなかったら登録を解除するということで進めておりますので、今後、登録することについては課内、部内でよく検討して進めてまいりたいと思います。

○議長（初村　久藏君）　時間が来ておりますので、簡単に。

○議員（７番　入江　有紀君）　よろしくお願いしておきます。

以上です。ありがとうございました。

○議長（初村　久藏君）　これで、入江有紀君の質問は終わりました。

○議長（初村　久藏君）　再開を１１時１０分からといたします。

午前10時57分休憩

午前11時10分再開

○議長（初村　久藏君）　再開します。

報告します。入江有紀君から早退の届出があっております。

引き続き、市政一般質問を行います。１番、糸瀬雅之君。

○議員（１番　糸瀬　雅之君）　皆様、おはようございます。１番議員の糸瀬雅之でございます。令和５年第１回の定例会が２月２１日から始まっております。本日から一般質問となりました。今年は、対馬市にとりまして将来の方向性を決めるべく重要な１年となると思います。今、対馬市の最大の課題といえば、人口減少、様々な物価や資材の高騰の影響による経済の落ち込みではないでしょうか。２月２５日から週末限定で釜山・比田勝間でフェリーが３年ぶりに就航いたしておりますので、少しでも対馬の経済が上向きになることを期待したいと思っております。

さて、対馬市は、来年３月に市制２０周年を迎えます。同じく３月には、対馬市長選挙がございます。そして今、対馬市民が関心を持ちつつある高レベル放射性廃棄物最終処分場の文献調査の受入れ問題など様々な話題がございます。我々１９名の議員をはじめ、行政、市民が対馬の将来をみんなで考え議論し、何事にもスピード感を持ち、様々な問題点を解決に向けて取り組まなくてはなりません。これから先、１年間で将来の対馬が明るく期待が膨らむ活気のある島づくりを目指し、私も精いっぱい働きたいと思います。

今回の一般質問のテーマは、様々な職場の人材不足による問題点を対馬市が今後どのように改善し、働き方改革を進めていくのか質問をいたしたいと思います。

それでは、一般質問に入りたいと思います。

まず、教育行政についてでございます。

１点目、全国的に少子化や教職員の働き方改革などを背景に今、全国的に中学校の部活動の在り方が大きく変わろうとしております。対馬島内中学校の部活動、運動部、文化部の地域移行体制を今後どのように進めていくのか答弁をお願いいたします。

次に、教育行政２点目ですが、対馬島内各学校に特別支援学級がございますが、そこで児童生徒をサポートしていただいております介助員の業務内容、報酬について質問いたします。

今、介助員は、日額会計年度任用職員として対馬市が採用して各学校に配置をしておりますが、児童生徒の障害の状況で業務内容が様々であります。対馬市は特別支援学校の設置に向けて長崎県に要望をしておりますが、いまだに方向性が見えておりません。教職員ではサポートに限界があり、介助員の皆様のサポートがなくてはならない状況であります。

しかしながら、学校によっては介助員不足により、十分な支援体制とは言えないと思っております。対馬市として、今後、問題点をどのように改善していくのか答弁を求めます。

次に、福祉行政についてでございます。

対馬市内でも人口減少による少子高齢化の問題は喫緊の課題でありますが、対馬各地にございます特別養護老人ホーム、介護老人保健施設、グループホーム、デイサービスセンターなどの高齢者施設で働く介護職員の人材不足について、対馬市として今後どのように取り組まれていくのか答弁を求めます。

最後に、対馬市消防職員の中途退職者についてでございます。

この質問は令和３年９月の一般質問でもさせていただきましたが、近年、若手消防職員の中途退職者が増加傾向が止まりません。それには何らかの問題点があると思われます。対馬市民の生命や財産を守るべく救急搬送、火災の対応、人命救助、日々の訓練など、私たちが生活をする上で必要不可欠の職員であります。３年に及ぶコロナ禍の中でも感染者の救急搬送業務では感染リスクを恐れず、大変御尽力をいただいておりますことに感謝をいたしております。今後、中途退職者を１人でも出さないためにも職場環境の改善、働き方改革の推進が必要と思われますが、市長、消防長の答弁をお願いいたします。

以上、３項目４点について、よろしくお願いいたします。

○議長（初村　久藏君）　市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝　尚喜君）　糸瀬議員の質問にお答えいたします。

初めに、私のほうからお答えをさせていただきたいと思いますが、対馬市内の介護職員の人材不足についてでございます。市内の多業種においても人材不足が課題であり、その中でも、介護・福祉事業の人材確保は高齢化が進むにつれて、介護人材のニーズが全国的にも高まっている

状況であり、本市においても喫緊の課題であると認識しております。将来にわたって安定した介護保険・福祉事業の運営及び介護・福祉サービスを継続して供給できるよう、人材確保に取り組んでいるところでございます。

現在、平成２８年度から県の人材確保対策事業を活用し、介護職員の育成、確保及び定着に向けた総合的な取組を実施するため、各法人の代表及び関係機関が連携と協働のもと、対馬圏域介護人材育成確保対策連絡協議会を設け、人材育成・確保対策に取り組んでいるところでございます。それぞれの立場から意見を出し合い、職場環境、スキルアップ研修会など、人材の育成・確保及び介護のイメージアップに資する事業に取り組んでおります。

若い介護職員が伝道師となり、小中高生への介護講座や職場体験等を通して、介護の仕事のやりがい、魅力を伝える活動や市内外でのお仕事説明会や対馬ぐらしフェア等へ参加し、介護の仕事ＰＲ活動も行っております。

市の取組事業として県の補助事業を活用し、平成３０年度から介護初任者研修を対馬市社会福祉協議会が県の研修事業所として指定を受け実施しており、受講料の助成を行っております。未経験者、高校生の受講者も増え、令和元年度以降、受講された高校生８人が市内の介護事業所へ就職されている状況であります。

市といたしましても、今後も国、県の人材確保対策支援事業の情報提供や意見交換を行い、将来、安定した介護サービスの提供が持続できるよう、関係機関や法人、団体等と連携を図り、継続的な人材確保対策に取り組んでまいりたいと考えております。

次に、消防職員の中途退職についてでございますが、議員御承知のとおり、毎年数名の中途退職があっております。退職者へ聞き取り調査をしてみますと、家庭の事情でやむなく退職せざるを得ない、本土の消防本部の採用試験に合格した、異業種へ転換など、その理由は様々であります。

その要因として考えられることは、家庭の事情があるほか、島外出身の職員が採用後に地理的環境などに順応できないこと。また、２４時間勤務などの特殊性があることや、退職者がいることで人員増とならない悪循環が生まれ、休暇も取りにくい状況にあること。さらには、現代の情報化社会の影響で情報収集が容易となっており、就職先の選択肢が増えていることなどが複合的に重なり合っているのではないかと推察しております。

これらのことや令和３年９月議会での議員の御指摘も踏まえ、採用試験応募者の年齢上限を２６歳から３０歳までと拡大するとともに、追加募集で年２回の採用試験を行い、併せてＩターン、Ｕターンを目的とした消防職務経験者枠の応募も年齢制限を拡大して引き続き行うなど、人員増に努めているところでございます。

その他、自費による中型免許取得を採用条件としておりましたが、普通免許取得時に取得可能な準中型免許の取得で足りることといたしました。

今後の取組についてでございますが、引き続き職員採用には取り組んでまいります。

また、出動手当などの諸手当の拡充につきましては、県内、他の消防本部と比較しても遜色はなく、また、本市他部署との均衡を保つ意味からも厳しいものと考えますが、消防本部内で消防職員委員会と申しまして、職員から勤務条件や施設整備などについての要望など意見を提出してもらい、協議する場も設けておりますので、職員の意見を聞きながら、少しでもいい条件での勤務環境を整えられるよう、できる部分から徐々に改善に努めてまいる所存であります。

私のほうからは以上です。

○議長（初村　久藏君）　教育長、中島清志君。

○教育長（中島　清志君）　糸瀬議員から教育委員会への御質問にお答えいたします。

初めに、対馬市内中学校の休日における部活動の地域移行をどのように進めていくかという御質問にお答えをいたします。

少子化の進展に伴い、学校によっては部員数が少なく、従前と同様の体制で運営することが困難になってきています。

また、教職員、個人の専門性や意思に関わらず、教職員が顧問を務めるこれまでの指導体制を継続することは、一層、厳しくなることが危惧されているところでございます。

そこで、今後の対応等について検討していただくために、昨年９月に対馬市部活動の在り方に関する検討委員会を設置いたしました。現在まで３回の委員会を開催し、協議を続けていただいております。１０月には市内の小学校５年生、６年生、中学校１年生、２年生、その保護者、中学校の教職員を対象にアンケートを実施いたしました。その中で部活動の地域移行への不安や御要望等を伺ったところです。その結果等も踏まえ、今年度中に４回目の検討委員会を開催し、現時点での協議の内容を提言としてまとめていただくことになっております。

この検討委員会は、対馬市のスポーツ協会、中学校体育連盟、校長会、ＰＴＡ連合会、教職員代表の１０名の委員で構成されています。来年度からは文化協会及び文化部の指導に携わる教職員の代表も加わっていただき、運動部に加え、文化部の地域移行についても協議を併せてお願いすることにしております。

そのような中、国の動きとしましては、スポーツ庁と文化庁が昨年１２月に学校部活動及び新たな地域クラブ活動等の在り方等に関する総合的なガイドラインを公表しました。地域移行の方針が示された当初は、令和５年度から３年間としていた地域移行の目標達成時期を見直し、地域の実情等に応じて可能な限り早期の実現を目指すと改められました。

長崎県においては、従前から休日の部活動を段階的に地域スポーツ活動に移行して、令和８年度からの完全移行を目安としておりましたので、これは、今回の国の方針とほぼ一致するものとなっております。

今回のガイドラインを受けて一部見直しがある可能性もありますが、現時点においては、本市においても、令和５年度からの３年間の準備期間を経て、令和８年度以降の可能な限り早期の実現が一つの指標であると考えております。

教育委員会としましては、今後も検討委員会の皆様からの提言や、国や県の進捗状況等も踏まえながら、子供達が将来にわたりスポーツ・文化芸術活動に継続して親しむことができる機会の確保に努めてまいります。

次に、御質問の２点目、特別支援学級に従事している介助員の業務、給与についてお答えいたします。

現在、小学校に４７名、中学校に１１名の介助員を配置しております。対馬市の介助員は、一般的には特別支援教育支援員と呼ばれているものでございます。

この事業は、通常学級に在籍し、教育上、特別な配慮を要する児童生徒の介助や支援、また特別支援学級のうち、複数の児童生徒が在籍している学級の支援を行うことを目的に、平成１７年、２００５年に始まったものです。介助員の皆様には対象となる児童生徒が安心・安全な学校生活を送ることができるように、日々、御尽力いただいているところでございます。

具体的な業務内容は、食事、衣服の着脱、排せつの世話などの身辺処理、席を離れたり、教室を飛び出したりする児童生徒への対応、書き取りの補助、また、先生の話を分かりやすく伝えるなどの学習支援、肢体不自由などの児童生徒の移動補助、健康状態の管理などでございます。

次に、給与等の雇用条件でございますが、介助員は、対馬市会計年度任用職員の日額職員として雇用しております。勤務時間は、午前８時から午後５時までのうち、１日６時間、年間の労働日数は１７３日以内としております。報酬は、日額５，３８６円ございます。また、年次有給休暇はございますが、報酬以外の手当、交通費はございません。これらの雇用条件につきましては、対馬市が雇用しております日額会計年度任用職員全てが同様の取扱いとなっております。

御質問の介助員の業務及び給与についての内容は以上でございます。

○議長（初村　久藏君）　１番、糸瀬雅之君。

○議員（１番　糸瀬　雅之君）　ありがとうございました。

まず、市長とも、今、市長のほうを見ておりますと、私とネクタイの色が同じ色であります。今日はすり合わせがうまくいくんではないかと思っておりますので、ぜひいい答弁のほうをよろしくお願いしておきます。

まず、消防署の関係のほうからお尋ねをしたいと思います。

消防署職員の過去１０年間、令和４年度以降、以前ですかね。中途退職者は３８名いるんですね、３８名。最近、直近、令和２年、３年、４年、今年度６人ずつ、この３年間でも１８名の退職者がございます。この１０年間の対馬市出身以外の中途退職者、島外の退職者は、消防長、何

名いらっしゃいますか。

○議長（初村　久藏君）　消防長、主藤庄司君。

○消防長（主藤　庄司君）　糸瀬議員の御質問にお答えさせていただきます。

平成２５年から本年度末の予定まで入れまして、島外出身者が２１名退職する予定となっております。

以上でございます。

○議長（初村　久藏君）　１番、糸瀬雅之君。

○議員（１番　糸瀬　雅之君）　島外出身中途退職者は２１名ということで理解いたしました。

それで今、市長のほうから消防職員委員会の要望等、意見を聞き、取り組んでいくということを答弁がなされましたが、具体的な消防職員委員会からの要望が上がっていると思いますが、どのような要望が市長のほうに上がっていますか。答弁をお願いいたします。

○議長（初村　久藏君）　市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝　尚喜君）　まず、対馬の面積を考慮いたしますと、大変、対馬は広い島ということで、その住居地から勤務先に出勤するのに、面積の関係から今現在は３ブロックに分けております。このブロックをもう少し広くと申しますか、２ブロックぐらいに分けることができれば、自分の自宅からの通勤がもう少し楽になるのではないかというような要望もあっているということでございますので、このことにつきましては、業務上の問題等がなければ、そのような要望に応えられるように、今後、もう少し精査をしていければいいかなというふうに思っているところでございます。

そのほか、採用時に中型免許取得を採用条件としておりましたが、これが取得、免許時に取得可能な準中型免許の取得で足りるというようなことで改善をしたということで、あと残りは、諸手当の関係等があろうかとは思っておりますけれども、この諸手当の関係につきましては、大方は他の消防本部と比較しても遜色がないということで、もう少しこのことについては内部で検討を重ねていきたいというふうに思っております。

以上であります。

○議長（初村　久藏君）　１番、糸瀬雅之君。

○議員（１番　糸瀬　雅之君）　今、市長のほうから通勤距離の関係で要望が上がっているということが言われました。

今現在、消防職員は通勤距離が１５キロと制限がされております。それでやはり、この職員の、消防職員委員会は、これ３０キロを要望していると思います。それで、３０キロの変更をすることにより確かに交通費は少しは増加いたしますが、住居手当等は減額になると思っております。対馬島内は昔に比べ、今、道路もアクセスも整備されております。それですので、これももう何

十年前からずっとこの１５キロというのは制限がなされてあったと思います。これをぜひ、市長、職員はこの通勤距離によって、やはり家庭で過ごす時間もあるし、やはり皆さん家庭でゆっくり家族と過ごしたい、そういった要望なんですよね。ですから、市長が家庭の事情でということはそれしか理由がないんです、辞める理由は。職員は、やはりそういった要望をずっと求めているわけですよね。ですから、今回、この要望を、あとは休日、休日手当。この休日手当も代休扱いか年休扱いに、私もちょっとその辺詳しくはございませんが、それを休日はそのような手当が減額されているということを聞いております。その辺を踏まえて、これをぜひ改善しないと、対馬市の皆さん、生命と財産を守ってくれる職員がこれ今も危機になっているわけですよね。市長、そこら辺を改善していただけますか。答弁をお願いいたします。

○議長（初村　久藏君）　市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝　尚喜君）　先ほど申しましたように、この通勤距離に関することにつきましては、今、議員のほうからもおっしゃられましたように、今現在は１５キロでございますけれども、これを改善することによって自宅から通勤が可能になるということで、中途で辞職するような消防職員が少しでも少なくなればいいというようなことで、このことについては、また消防署の方とも協議を進めながら改善を進めていきたいというふうに思っております。

○議長（初村　久藏君）　１番、糸瀬雅之君。

○議員（１番　糸瀬　雅之君）　ありがとうございます。今このケーブルテレビを消防職員の皆さんも聞いております。その家族も見ておりますので、今、市長の答弁に非常に期待をしておりますので、ぜひよろしくお願いします。

それと今、島外の採用者が２１名、１０年間で辞めているということを先ほども消防長のほうからも聞きました。それで、やはりこの採用の、今後ですよ、今後、今、採用をやはり対馬島内の高校生を中心とした採用基準に、今後、していったほうが私はいいかなと思います。

それと、やはり試験の基準、やはり大変試験の基準が下げていらっしゃるかもしれませんが、やはりそこら辺はもう少し、島内出身者の地元の高校生をぜひ頭に入れていただいて、今後、採用、人口減少の少しでもプラスになればいいかと思いますけれども、そこら辺の基準の見直し、そこをもう少し、市長、よろしくお願いします。そこはどうでしょうか。

○議長（初村　久藏君）　市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝　尚喜君）　採用基準の見直しということでございますけれども、このことにつきましては、今、対馬市内の受験生を優先するというようなことは、なかなかこれはできないものかというふうに思ってはおります。ただし、できる限り、対馬市の子供たちに多く受験をしてもらうように進めることは可能なのかなと思っているところでございます。

議員おっしゃられるように、そこに何らかの、悪い言葉で言えば、げたを履かせるとかそうい

うことであろうかと思いますけれども、ちょっとそこになればいろいろと問題等も発生するかと思います。ということで、より多くの方にチャンスを与える、与えやすくするような環境を、今後、また構築してまいりたいというふうに思っております。

○議長（初村　久藏君）　１番、糸瀬雅之君。

○議員（１番　糸瀬　雅之君）　ありがとうございます。

今、市長のほうからも答弁をいただきましたけれども、やはりこの消防署の採用に関しましても様々な、やはり今、職場環境、この職場環境の改善、やはり大胆な働き方改革を進めていかないと、対馬消防署職員、大変厳しい人材不足になると思いますので、市長、私の要望、提案を検討ではなく、ぜひ実行のほうで進めていただきたいと思います。よろしくお願いします。

次に、教育行政についてお尋ねをいたしたいと思います。

今この部活動の在り方というのは、対馬市でも今進めて、検討委員会ということを進めておられます。やはり、この部活動のやっぱり担当職員としては、今、部活動を携わってある職員はやはり専門職以外の顧問として配置されることがやはり重荷になっているという認識をしております。今、部活動の担当職員の手当、先生の中学生の手当、平日はボランティアでやられておるんですね。週末、担当の先生は今、時間給とか分かりましたら、お願いいたします。

○議長（初村　久藏君）　教育長、中島清志君。

○教育長（中島　清志君）　大変申し訳ありません。正確な額かどうか分かりませんが、私の記憶では、３時間以上指導しているときに３，２００円。ちなみに、私が教員になった頃は、６時間以上５００円でございました。

○議長（初村　久藏君）　１番、糸瀬雅之君。

○議員（１番　糸瀬　雅之君）　今は、多分、土日祭日、今いろいろ部活動も休みとかいろいろ変わっていますけど、大体、２，７００円から３，０００円ぐらいであろうということで私も聞いております。

それで、１つ教育長にお尋ねなんですが、やはり今、中学校、中学校のやはり今後の将来的な学校の統合、対馬に最終的に、今分かる範囲でいいですけれども、最終的に何校、中学校が残す計画で行かれているのか、分かる範囲で構いません。

○議長（初村　久藏君）　教育長、中島清志君。

○教育長（中島　清志君）　現在、進行中のことですので、確定的な数値をここで申し上げるわけにはいきませんけれども、現在、見通しとしては、小学校が１５校程度、中学校が８校程度がここ、現時点での見通しとなっています。

○議長（初村　久藏君）　１番、糸瀬雅之君。

○議員（１番　糸瀬　雅之君）　やはり少子化の影響というのはもう、これはもう待ったが効きま

せんので、今そのように計画をされてきているというのは、市民の皆様も保護者もそういったことを分かってくると思います。やはり今後は部活動が今、クラブチームとして進めていかなければ、対馬市も生徒の数とかそこら辺を踏まえますと、やはり指導者のどのような、今後、土日の指導者、どういった職種の方を考えてあるのか、その辺を検討委員会で今、分かる範囲で構いませんけれども、答弁をお願いいたします。

○議長（初村　久藏君）　教育長、中島清志君。

○教育長（中島　清志君）　土曜日、日曜日に指導していただく方についてでございますが、現時点で各スポーツ協会で活躍をされている方。また、各競技の審判員等をお務めの方。過去、御自分がその競技を経験されて、今、社会人として各スポーツ協会等に所属され、実際に競技をされている方。また、これは兼職兼業の発令が必要になってきますけれども、実際に学校で勤務している教職員を想定をしております。

以上でございます。

○議長（初村　久藏君）　１番、糸瀬雅之君。

○議員（１番　糸瀬　雅之君）　やはり今、この移行になってくると、やはり指導員の問題が出てくると思います。やはり外部指導員として、やはり今、土日ということになりますと、やはり一般の方は事業をされている、なかなか難しいかもしれません。やはり公務員とか、そういった団体職員の方、土日が休みという方々、そういった方々が中心になってくるのかなということは私は思っております。

そういった方でやはりこの報酬関係、そういった過程に、やはりそういった報酬、報酬関係でそういった負担がなるべくかからないような方法をつくり上げていただきたいと思っております。

やはり部活動は大変厳しい、今後問題ではございますけれども、やはり教育委員会と学校関係者、保護者だけではなく子供たちの、やはり子供たちが一番メインでございますので、子供たちの意見をやはり少しでも十分に取り込んでいただいて、一番いい部活動の在り方を進めていっていただきたいと思います。

令和８年度からこれをスタートするということで今、３年間は準備期間ということですけれども、ぜひ教育長、今任期の間、いい部活動の取組でつくり上げていただきたいと思います。よろしくお願いします。

次に、教育行政、２点目の介助員の質問でございます。

今この令和５年度に対馬市の広報を見ておりますと、会計年度任用職員の募集は８９の職種でございます。そして約３７０名の採用予定があると思います。介助員としては６５人を募集予定でありました。業務内容は、先ほど教育長も述べられたように特別な配慮を要する園児、児童生徒への日常生活の介助、学習支援、健康管理、安全管理などの業務に携わっておられます。

やはりこの介助員が、この間、私たちも総務文教常任委員会で視察に行きました。学校の先生方のおっしゃることは、介助員が不足しておりますと、どこの学校もそのように言われました。なぜ不足なのかということを、問題点を解決しなければ駄目なんですよね、教育長。だから今、介助員は、１日６時間、年間にしますと１７３日以内の規定がございます。先ほど教育長は、時給、日給が今５，５３３円になっているじゃないですか。令和５年度からは５，５３３円、時給に直すと９２２円です。よろしいですか。それを１７３日で年間掛けますと約９５万７，２００円の所得になるわけですね、介助員の方が１人。ですから、やはり今、言われるように、介助員の皆さんには交通費が支給されておりません。これは対馬だけなんですよね、支給されていないのは。五島とか壱岐とかほかのところを私、確認しましたら、介助員の皆さんは全て支給されています、交通費は。そこら辺の答弁は、介助員と会計年度任用職員、日額会計年度任用職員と月額会計年度任用職員のなぜ交通費が出ていないのか。そこをお願いいたします。

○議長（初村　久藏君）　教育長、中島清志君。

○教育長（中島　清志君）　日額会計年度任用職員は、教育委員会だけの任用ではございませんので、まず、教育委員会にいらっしゃる介助員についてお答えいたします。

この制度が始まった当初は、対馬市全体でも１桁の人数の介助員の方でございました。主として、校長先生に１人だったらいいよと。２人だったらいいよというふうなやり取りをして、教育委員会と。校長先生が校区にお住いの方から人選をして、そして推薦という形で任用するという形にしておりました。基本的に、学校の近くにお住いの方というところでこの制度が始まった経緯がございます。

ところが、支援を必要とする児童生徒の増加とともに、なかなか学校の近くで人を探すということが難しくなってまいりました。その影響で長い距離を通勤されている方もいらっしゃいます。現時点でそれに対応ができていない状況でございました。

以上でございます。

○議長（初村　久藏君）　１番、糸瀬雅之君。

○議員（１番　糸瀬　雅之君）　次、財政のほう、総務部長ですね。やはり今、介助員の方々、まだ介助員を含め日額任用職員、やはり交通、近くの方となかなか今、いらっしゃらないんですよね。やはり通勤してやはり来ている方々がかなりいらっしゃいます。それで、なぜ行かない。辞められた方々に聞きますと、交通費が、やはり今、油も燃料も上がっています。交通費もかかるんですよね。そこら辺の見直しをもうしていかないと、やはり今、人へのお金の投資、やはりそこはしていくべきじゃないかなと私は思いますけれども。

今、教育長が先ほど述べられましたように、やはり財政のほうがそこはしっかりと、日額任用職員も月額任用職員も、皆さん、やはり交通費は支給をしてやるということを検討していただけ

れば。どうでしょうか、部長。

○議長（初村　久藏君）　総務部長、木寺裕也君。

○総務部長（木寺　裕也君）　今、会計年度任用職員の通勤手当の件になってくるかと思うんですけど。日額会計年度任用職員がなぜ通勤手当がないのかということなんですけど、その分については、会計年度任用職員になったそのあたりの経緯、そのあたりはちょっと把握していない分がありますので、また今後の検討になってくるかと思うんですけど、月額会計年度任用職員については通勤手当はあります。

先ほど教育長のほうからも申し上げましたように、もう近隣の方を雇うという基本的なものがあるかと思うんで、その日額会計年度任用職員についてはなかったのかなと。この辺りについても法的にどうなのか、その辺をまた検討しまして、教育委員会も含めて関係部局と協議をさせてもらいたいと思います。

○議長（初村　久藏君）　１番、糸瀬雅之君。

○議員（１番　糸瀬　雅之君）　検討をぜひしていただいて、やはり日額、やはり特別支援学校がまだ設置ができていない状況で特別支援学級に通う子供さん、やはり保護者の皆さん、やはりそういうふうなケアが、子供たちがしっかりとした学校に行って、やはりサポートしていただきたい、そういう思いなんですよね。ですから、やはりそこら辺のサポートは市も、まだ特別支援学校が設置ができないのであれば、そういったサポート体制をしっかりしてやれば、必ずや募集で不足ができてこないと思っております。ぜひ検討ではなくて、先ほども言ったように実行をしていただきたいと思いますが、部長、よろしくお願いしておきます。

それと、教育長のほうにもう１点、最後なんですが、今、北部小学校に医療的ケアの必要な子供さんがいらっしゃいますよね。２年間、今、看護師が必要と私は聞いているんですが、まだ２年間たっても採用がされていないということで。この辺はやはり保護者が物すごく負担、学校側もやはり不安でもありますし、そこら辺の対応を今後どのようにされる予定なのか、答弁をお願いします。

○議長（初村　久藏君）　教育長、中島清志君。

○教育長（中島　清志君）　今おっしゃったとおり、当該の児童、そして保護者の方には大変御苦労をおかけしている状況でございます。なかなか看護師さんが見つからない状況です。

現時点で、まだこれは案の案の段階なんですけれども、もし見つからない場合は、医療機関と話し合って、その時間だけ看護師さんを派遣していただくことができないか等も含めまして、そのあたりの対応を考えていきたいと思っております。

以上でございます。

○議長（初村　久藏君）　１番、糸瀬雅之君。

○議員（１番　糸瀬　雅之君）　教育長、もう見つからない場合じゃなくて、もう２年間見つかっていないんですよね。もうすぐ、そのような病院との連携ちゅうのはもう始めた、始めてもらえないでしょうかね。２年間見つかっていなくて、見つかったらば見つからない場合じゃなくて、ぜひもう保護者もやはり２年間、大変な思いしているんですよ。学校側もやはりそこ心配しているわけですよね。私も現地を見に行きましたけど、やはり本当、先生も大変だし、保護者も、それは検討じゃなくてぜひ対馬病院との連携、それでその時間でも派遣ができますよう、そこは強く要望いたします。よろしくお願いします。

最後に、３分ありますので、福祉行政についてお尋ねをします。

先ほどこの人材不足について、入江議員さんのほうも施設施設ということを先ほど言われていましたが、やはり施設ができても人材が不足していればなかなか難しい、これは問題だと私は思っていますが。今、長崎県が２０２５年度までに県全体で３万２，０００人介護人材が必要とされているわけです。しかし、このままでいくと２万１００人、長崎県は県内の介護施設で働く、これは福祉部長が答弁をされております。

それで、対馬市では、今後３年間のうちにどれだけの介護人材が不足すると認識をされていますでしょうか。

○議長（初村　久藏君）　福祉保険部長、國分幸和君。

○福祉保険部長（國分　幸和君）　まず、現状をお答えしたいと思います。

これは県の介護保険事業所情報による数値ですけれども、事務職員等を含め、現在、市内におきまして、約７５０人ほどが従事されていると聞いております。対馬市内におきまして理想とする従業員数は８００人程度ではないかと思っております。

以上でございます。

○議長（初村　久藏君）　１番、糸瀬雅之君。

○議員（１番　糸瀬　雅之君）　また、その人材としてどれくらい不足しているというのはまだ認識していないということですね。ぜひそれは、いろんな介護施設を訪ねてでも状況を聞いてください、部長。そうしないと、これ今、今はいいかもしれませんよ。でも、３年、５年先に高齢者が高齢者を支える時代になってくるわけですよね。ですから、人へのこの人材不足というのはどうしても考えていかなきゃいけませんので、それでやはりこれは、島内で駄目なら、島外への外国人労働者、そういった方、そして介護専門学校、島外にいる介護専門学校の生徒を対馬市が補助してでも研修制度を導入して、専門学生を対馬島内に研修で入れてみたり、そういったことを検討して、ぜひやってみてください。よろしくお願いいたします。

これで私の質問を終わりたいと思います。ありがとうございました。

○議長（初村　久藏君）　これで、糸瀬雅之君の質問は終わりました。

○議長（初村　久藏君）　昼食休憩といたします。再開は１時５分からといたします。

午後０時01分休憩

午後１時05分再開

○議長（初村　久藏君）　再開します。

報告します。小田昭人君から早退の届出があっております。

午前に引き続き、市政一般質問を行います。１１番、小島徳重君。

○議員（１１番　小島　徳重君）　皆さん、こんにちは。１１番議員、対政会の小島徳重です。ただいま国会も開会中ですが、岸田内閣は、施政方針演説で子ども・子育て政策は最も有効的な未来への投資と位置づけ、諸政策を打ち出しておられます。比田勝市政も子ども・子育て支援に力を入れておられますが、課題もまだあるように感じます。

本日は、幼児教育、子育て支援に絞り、通告に従い、３項目４点、お尋ねいたします。

１項目めは、幼稚園教育の充実についてお尋ねします。

近年、各幼稚園の園児数が著しく減少しています。今パネルでここに示しておりますが、タブレットにも出ていると思いますので、参考にしていただければと思います。

現状のままでは、集団を形成しながら人と関わる力を育成するという幼稚園教育の狙いが十分に達成できないのではないかと心配されます。

幼稚園教育要領第２章、人間関係の取扱いの中で、「集団の生活の中で幼児が自己を発揮し、教師や他の幼児に認められる体験をし、自分のよさや特徴に気づき、自信を持って行動できるようにすること」と記述されています。この狙いを達成するためには、現状の１クラス、全クラスが１桁、最小のクラスは２名という状況は、教育の成果を上げるには十分とは言えないのではないでしょうか。園児数増加のために方策が必要と考えます。教育長の見解を求めます。

２項目めは、対馬市の子育て支援の課題として、放課後児童クラブ、いわゆる学童及び放課後子ども教室の充実についてお尋ねします。

このことについては、私、これまでにも一般質問でも、あるいは委員会等でも取り上げさせていただいたことがありますけれども、平成２６年に策定された放課後子ども総合プランは、平成３１年度末までに全ての小学校区で放課後児童クラブ及び子ども教室を一体的に、または連携して実施することを目指すとしていましたが、対馬市の現状は、放課後児童クラブ４校区、放課後子ども教室３校区であり、不十分であると考えます。平成３０年に策定された新・放課後子ども総合プランの趣旨も、大きくは２６年のプランを踏まえて、さらに拡充をしたプランが策定されています。対馬市においても、各小学校区ごとに放課後児童クラブか子ども教室を設置して、子

供の健全な育成を図るとともに、保護者の子育てを支えるべきと考えます。市長、教育長の見解を求めます。

３点目は、保育士の働き方及び研修の改革についてお尋ねします。

昨年、静岡県内の保育園で園児に暴行を加えた疑いで元保育士３人が逮捕されるなど、各地の保育現場で不適切な保育が相次いで明らかになりました。

一昨日の新聞報道によると、長崎県でも佐世保市でそのような事例があったと拝見しました。対馬市の保育現場での不適切な保育を未然に防止するためには、保育士の働き方改革、研修の充実が必要であると考えます。

そこで、次の２点についてお尋ねします。

１点目、対馬市では、保育士の働き方改革がどのように進められているかお尋ねします。

２点目、保育士の資質の向上に向けて研修はどのように進められているかお尋ねします。

以上、３項目４点について、簡潔明瞭な御答弁をお願いします。

外は春が訪れて、春の気配を感じるようになりましたけれども、市長及び教育長に温かい御答弁をいただいて、保護者や子供たちがほっこりした気分で新年度に臨めるように期待をして、質問を終わります。

以上です。

○議長（初村　久藏君）　市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝　尚喜君）　小島議員の質問にお答えいたします。

私のほうから先に、２点目と３点目のほうを先に説明をさせていただきます。

初めに、子育て支援の充実についてでございますけれども、新・放課後子ども総合プランに基づきます放課後児童クラブ及び放課後子ども教室の一体的実施につきましては、教育委員会が関連する部分もございますが、私のほうから答弁をいたします。

まず、市内における各事業の状況でございますが、放課後児童クラブは、５事業者による６施設の実施、放課後子ども教室については、３小学校区において実施しております。

次に、当プランにおける新たな放課後児童対策とする取組内容は、放課後児童クラブの待機児童の解消と、放課後児童クラブと放課後子ども教室の一体的な実施とされております。

放課後児童クラブの待機児童については、年度当初からの待機児童の発生は、今年度が初めてのことでありましたが、施設の拡充と事業者の協力もあり、現在、待機児童は解消されております。また、一体的な実施とは、全ての児童の安全・安心な居場所の確保を目的に、同一の小学校等の敷地内において、放課後児童クラブと放課後子ども教室の両事業を行うことを指します。

放課後児童クラブは、新たに設置するには、専用スペースの確保及び年間開設日数や指導する支援員等において国の運営基準を満たす必要があり、人材確保も含め、施設整備が容易でありま

せん。

また、放課後子ども教室においては、多様なプログラムの実現について、多くの場合、地域住民等によるボランティア活動によって支えられているため、継続的に実施するための人材確保は大きな課題であります。

さらに、一体型での事業の組立ては、学校施設の活用により、本来、多様であるべき放課後の過ごし方が、放課後の学校化につながる可能性も否めないため、慎重に進めるべきであると判断しております。

現在、放課後子ども教室については、新たな開設希望の申出がない状況ではありますが、教育委員会では、校長会の折に授業の説明や奨励を行い、推進を図っております。放課後児童クラブの児童も一緒に共通プログラムに参加できますので、今後はＰＴＡや育成会等の団体へも当事業の必要性の説明や人材発掘の呼びかけ等、積極的に取り組んでまいります。

次に、保育士の働き方改革及び研修についてでございますけれども、１点目の保育士の働き方改革につきましては、労働環境の改善が保育の質の向上へつながるという認識のもと、まずは、慢性的な人材不足の解消に向け取り組んでおります。近年は、特に職員募集等積極的に採用活動に努め、また、保育現場に沿った組織改革を並行して進めてまいりました。来年度は、人材不足の解消ができるものと見込んでおります。

さらに、雇用形態による業務内容の見直しにより、業務量や責任の重さの軽減が図られたことで、職場環境が改善基調にあると認識しております。

２つ目の取組として、業務をシステム化し、業務の効率化及び時間外労働の短縮化を図りました。また、来年度は保護者とのコミュニケーションを円滑に行うためのツールとして、新たなシステムを導入する予定であります。

次に、２点目の保育士の資質の向上に向けての研修についてでございますが、保育士の資質を高めるためには、研修や自己学習などの方法が考えられる一方、自らの保育実践を通して、その資質を向上させる努力が求められると考えております。

実務研修については、対馬保育会が年度計画で実施している研修会等へ可能な限り参加できる体制づくりに努めており、研修内容につきましては、効果的な人材育成につなげられるように目的に応じた内容の充実を図るよう、対馬保育会に奨励してまいります。

また、職員研修については、市が行う研修に加え、関係機関等の様々な研修を効果的に活用し、経験年数に見合った研修への参加を推進しています。

今後においては、多様化する保育ニーズへの対応及び市内２か所目のこども園の開園に向け、幼児期の質の高い教育・保育の実現を図るため、計画的に目的に沿った保育施設への視察研修等を取り入れてまいりたいと考えております。

私のほうからは以上でございます。

○議長（初村　久藏君）　教育長、中島清志君。

○教育長（中島　清志君）　小島議員の幼稚園教育の充実についての御質問にお答えします。

令和４年度、現在の各園の定員、在籍園児数を申し上げます。

厳原幼稚園、定員１０５名に対して在籍１７名、在籍率は１６．２％、鶏鳴幼稚園、定員１０５名に対して在籍１８名、在籍率は１７．１％、比田勝こども園（１号認定こども）、定員５４名に対して在籍１６名、在籍率は２９．６％です。本市の幼稚園もほかの市町と同様の状況にあり、在籍園児数は、御指摘のとおり減少をしております。このような状況により、やむなく県内においても来年度の閉園を予定している自治体、また来年度から統廃合に向けての説明会を開始予定の自治体もあります。

在籍園児減少の要因としては、夫婦共働き家庭の割合の増加が顕著であり、対馬市においても同様な状況があることは推測されるところであり、保護者のニーズとしては、子供を長時間預けられることが第一に上げられます。これに対する方策としては、一時預かり事業の活用等が考えられます。

しかしながら、比田勝こども園における本事業の利用は、ほぼなされていない状況であり、今後も利用者増加の見込みは少ないものと考えられます。

こうした状況の中にあって、各園では、適切に教育課程を編成することにより、幼児の心身の発達と幼稚園及び地域の実態に即した丁寧な教育活動が行われているところです。

また、園児が減少している中にあって、各園では保護者や地域とのつながりを強めたり、異学齢交流など教育課程の工夫をしたりすることにより、幼稚園教育の狙いの実現に向けた教育活動をしていただいているところです。

しかしながら、そうしたことも入園児の増加につながらない現状であり、今後の方向性の一つとして、幼稚園の統廃合も視野に入れていかなければならないと考えております。

以上でございます。

○議長（初村　久藏君）　１１番、小島徳重君。

○議員（１１番　小島　徳重君）　御答弁ありがとうございました。

まず、順番から、幼稚園のほうから行きたいと思います。

幼稚園のほうの在籍数については、教育長から御説明があったし、私も今、パネルで出しているとおりなんですよね。それで、やはり幼稚園教育は環境の中で行うと。その環境というのは、施設的な環境だけじゃなくて人的環境ということが大きな要素を占めるんですが、人的環境といったときには、先生方との、子供とのコミュニケーション。それから、子供たち同士でのいわゆるコミュニケーションということになりますね。

それで、全９クラスが、幼稚園全部が１桁、それも五、六名とかそういうのが一般的な数で、最小のクラスが２人ということで、今、教育長が答弁いただいたように、異学年交流で年齢が上の子たちと一緒に活動するプログラム、教育課程が含まれているということも承知しておりますけれども、それだけでは十分じゃないと思うんですよね。やはり、それぞれの発達年齢に応じて、３歳児は３歳児なりの発達の要件があります。５歳児は５歳児なりの発達要件があるから、やはりクラス編成をしている以上は、ある程度の人数が必要じゃないかと思います。

それで今、教育長から御答弁をいただいた中にも、いわゆる預かり保育、いわゆる分かりやすい言葉で言えば延長保育、幼稚園は、標準的には４時間の在園というのを基本的としていますので、朝も大体９時半登園とか、そして終わりは２時半とか３時前に終わるとかというのが大体一般的な時間帯だと思うんですが。その中では、その以外の時間のときに、特に帰りの時間で教育長も答弁されたように、共働きが増えているという現状の中では、保護者が幼稚園を選択する、選択肢が狭くなってくるということで、方策としては、全国的には預かり保育の問題と、幼稚園は弁当を持参しなければいけないという、この２つの大きなポイントがあると思うんですよ。そのことを解決しないと、対馬の現状、このままでは増えないと思うんですが、教育長、弁当のことも含めて、給食を取り入れたらどうかということも含めてのお考えはいかがですか。

○議長（初村　久藏君）　教育長、中島清志君。

○教育長（中島　清志君）　実は、今週、ちょうど今年度最後の幼稚園の園長先生に集まっていただいて園長会を実施しました。その中で、比田勝こども園、こども園の預かり保育の現状を伺ったところ、１号認定の方は、ほぼお母様が御自宅にいらっしゃって、実際にそのニーズがないというのが状況であるということはおっしゃっていました。それも実際に預かり保育の利用が少ないことの一因ではあるかなと思っています。

それと給食に関してですけれども、現在、幼稚園には給食を提供できる施設がない状況でございますので、これは義務づけられていませんので、幼稚園には。となると、弁当をもし給食に変えるとなると、新たな施設の改修等が必要になってまいります。そのあたりも含めて、今後、検討が必要かなと思っております。

○議長（初村　久藏君）　１１番、小島徳重君。

○議員（１１番　小島　徳重君）　対馬の現状、各幼稚園、事情がちょっとずつ違うと思いますね。厳原は、親愛さんがこども園として幼稚園をお持ちですよね。厳原の場合、親愛さんに聞きますと、親愛さんが１７名、２７名、１７名と、６０名を超える園児が幼稚園でおられますね。それと比べると、やはり何が引っかかっているかというと、保護者の立場から言うと、延長保育の問題と給食問題だというふうに捉えています。だから、それは解決できることじゃないかなというふうに私は思うんですよ。

全国的なデータをちょっと出してみますよ。ちょっと私のほうからも見にくいんですけれども、これを見ていただくと分かると思いますけど、公立の幼稚園でも７０％は給食、あるいは延長保育をなされています。私立は、もう全国的には９７％とかいう数字になっています。平均しても全国のこども園、幼稚園は８７％、９０％近くがそういう延長保育という形、あるいは給食を取り入れているという形になっています。

対馬市もやはり公立の幼稚園として、それは必要じゃないかというふうに思います。特に雞知地区は、幼稚園は少ないけれども、保育所は毎年いっぱいですね。美津島で入りきれないから厳原まで行っているという現状もあります。そういう実情を見ると、給食の時間、給食の問題は施設の問題がありますから、これはまた市長部局にも考えていただかなければいけないという問題です。

それから延長保育するとしても、これもやはり人的な措置をしないと、現在、幼稚園教育に当たっている先生方に預かり保育の、延長保育の時間も面倒見てもらうというのは、これは負担過重になるからあり得ないことで、ちょうど学童、小学生の学童と同じように人的な措置をしなきゃいけなくなります。そういう意味では、これ市長も必要に応じてということで答弁を求めていたんですけれども、ぜひお考えをいただきたいと思うんですが。市長、今のこと、延長保育や、それから給食の実施となると、財政的な裏づけが必要ですけれども、いかがでしょうか。

○議長（初村　久藏君）　市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝　尚喜君）　現在、保育所のほうにつきましては、副食費等をもう実際に実施しているというような中にあって、今おっしゃられたような、幼稚園の現状を考えたときには、まだ幼稚園のほうは給食があってないということ、そこら辺は今後の検討課題であろうかというふうには思っております。

おっしゃられるように、今、子供たちもかなり少なくなってきておりますし、子供の教育に当たっては、やはりそれなりの予算を投入するべきでもあろうというふうには考えております。

○議長（初村　久藏君）　１１番、小島徳重君。

○議員（１１番　小島　徳重君）　それで、もう１つデータというか、資料を示したいと思います。

これ見ていただくと分かるように、３歳児、４歳児、５歳児になりますと、赤い色の部分が、いわゆる幼稚園に在籍する数です。青い部分が、いわゆる保育所機能ですね。１、２、３歳は、０、１、２は保育所で学ぶと。保育所で預かっていただくと。３歳以上になると、やはり幼稚園で教育の体系の中に組み込むというのが、これ全国的な動静ですね。これ教育長、よく御存じだと思います。

今、幼稚園と小学校の連携ということで、幼小連携ということはよく言われますよね。そのことも踏まえて、教育長、幼稚園がもう少し、保護者の声は、幼稚園にやりたいんだけれども、さ

っき言われたように、仕事の都合上、どうしても時間制約がある、幼稚園が選択できなくて保育園に行っているんだということと。今、全国的な動静からいくと、対馬市、幼稚園教育はこのままでは消えていくんじゃないかと、消滅するんじゃないかという危惧をしているんですよ。せっかく豊玉にも新しいこども園も造られますしね。これを機会に幼稚園のほうの選択をしていただく。保護者が選択できるような方向を打ち出していただきたいと思いますが、教育長、いかがでしょうか。

○議長（初村　久藏君）　教育長、中島清志君。

○教育長（中島　清志君）　ありがとうございます。確認ですけれども、今お示ししていただいているグラフの赤のところ、幼稚園の数なんですけれども、その幼稚園には、幼稚園型認定こども園の園児数が入っております。したがって、純粋な幼稚園というのはもう少し減ってくるかと思います。幼稚園だけの、幼稚園、数といいますかね、もう少し減ってくると思います。それは確認しておきたいと思います。

それと、県内の状況を併せてお伝えしておきます。県内に今、公立の幼稚園というのが、もう既に廃園が続いておりまして、全部の市町で２１しか残っておりません。

例えば、代表的な例を言いますと、長崎市でも幼稚園は公立は１つしか残っておりません。園児数は６名です。佐世保市も１園、園児数は１７名。県内全体で平均をすると、１園当たり１７名という状況なんです。

したがって、この状況は、決して、対馬市だけではない問題であるということは確認しておきたいと思います。

その状況を踏まえて、議員御指摘の今後の在り方をどう考えるべきかということを私たちも一生懸命、検討してまいりたいと思います。

御質問の小学校等との連携ですけれども、例えば、厳原幼稚園においては、小学校等ではありませんけれども、近くの認定こども園さんと一緒に連携の機会を持ったりとか、そういう取組もされています。近くの小学校、中学校との連携もされています。

以上となります。

○議長（初村　久藏君）　１１番、小島徳重君。

○議員（１１番　小島　徳重君）　なかなかこの場ではっきりしたことをどうという答弁がしにくいところがあると思います。ただ、幼稚園教育の灯を消さないでほしいという、これ全島、どこの地域ででも幼稚園を希望すれば行けるという状況、それを今、言ったように給食の設置、それから時間の延長、これを含めて、ぜひ検討いただきたいと。市長もそのように幼稚園の必要性を感じてあるようですからね。

それで１点だけ気になることがあったのが、幼稚園の統合ということをおっしゃいました。統

合ということになると、美津島と今、厳原が公立が２つあるわけですけどね。これ統合したら、美津島と厳原がどちらに統合するかは別にして、ここを今の旧町の枠をまたいで幼稚園を通学させるというのは、どうも納得いかない話ですよね。だから、それは、統合の選択はぜひ外していただきたいと、こう思います。美津島から厳原、厳原から美津島にね、幼稚園で通うというのは不自然な感じがします。それだけはしっかり押さえておいていただきたいというふうに思います。

それから、県下の様子、それも分かります。公立が減っていると。私立は私立なりのバランスとかそういうあたりも十分考えていただいて、ぜひ近年、近いうちに検討していただきたいということを要望して、このことは終わりたいと思います。

それから、２点目の学童と放課後子ども教室の件ですけれども、答弁はいただいたとおりに、抽象的というか、そういう意味合いのことが多かったんですけれどもね。学童のほうは大きいところ、人口が集中しているところでは学童がありますよね。厳原地区、それから美津島、豊玉、比田勝。ところが、それ以外のところでは今は全然ないわけですよね。だから、学童はこれ以上、その小規模のところを開くというのは難しいかなと思いますが。放課後子ども教室は、それは文科省の所管になりますけれども、ちっちゃい規模のところでも開ける可能性はあると思います。やはり全小学校区に置くというのが国の大きな方針なんですからね、そのことを前向きに進めていただきたいなと。これで平日、１週５日間、ずっと放課後子ども教室で活動していくのが大船越小学校区。ここは、私、議員になる前に、行政相談員をしているときに相談があって、そして立ち上げていただいたんですけれどもね。これはほかの校区でも可能だと思うんですよ。それが全然、それから先に１０年間大船越小学校で開設、１０年前にした以来、開設がないというのはね、ちょっとやはり不十分だと思いますよ。そのあたりは人材不足とかということが今おっしゃったんですけれども、行政の努力も少ししていただきたいと思いますけれども、いかがですか。

○議長（初村　久藏君）　市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝　尚喜君）　答弁しましたように、今その必要性は感じているところではございますけれども、どうしてもこの放課後子ども教室に至っては、ボランティアが主体になるというようなことで、なかなか設置が前に進まないというようなことは私も聞いております。

ただ、国の方針はもちろんありますけれども、なかなかそれが、都市部とこういった離島部となかなか一緒にはならないというふうに私は思っております。

○議長（初村　久藏君）　１１番、小島徳重君。

○議員（１１番　小島　徳重君）　市長、なかなか大変苦しい答弁ですけどね。これ離島であろうと、都市部であろうと、やはり子供たちにとっては健全育成と、そして保護者の負担軽減という点では、ぜひ進めていただきたいんですよ。

市長、この第２期対馬市子ども・子育て支援事業計画ができて、これ今２年がたったところで

すけど、これに市長も述べてありますが、記憶ございますよね。巻頭言があります。そして、その資料の中の１９ページを見ていただいたら分かるんですけどね、こう書いてありますよ。未就学児では、延長保育が必要だと。それから、就学児については放課後子ども教室、あるいは学童の設置が必要だと、そういう保護者が、どちらも偶然一致したように、３８．５％の保護者がそういう要望をしてありますよ。これは、部長は目を通して、中身まで目を通してあると思いますが、いかがですか。そのことは把握してありますか。

○議長（初村　久藏君）　福祉保険部長、國分幸和君。

○福祉保険部長（國分　幸和君）　お答えします。

放課後児童クラブにつきましては、現在の５事業者による６施設の実施によりまして、利用ニーズは満たされているものと考えております。

以上です。

○議長（初村　久藏君）　１１番、小島徳重君。

○議員（１１番　小島　徳重君）　いや、それがニーズに合った保育サービスを充実するということがこの中に記述してありますが、そのことを承知してありますかと聞いたんです。そして、放課後子ども教室についてはですよ、年次ごとに目標数が掲げてありますけれども、目標数御存じですか。

○議長（初村　久藏君）　福祉保険部長、國分幸和君。

○福祉保険部長（國分　幸和君）　事業所ごとには把握はしておりません。

○議長（初村　久藏君）　１１番、小島徳重君。

○議員（１１番　小島　徳重君）　目標の数が、放課後子ども教室は、令和４年度が４、次が５、そして次が７ということで年次的に上げてあります。

将来的には、全部の校区というのは、私も別に市長おっしゃったようにそこまでは言いませんけどね。もう少し拡充すべきだと思うんですよ。せめて、この事業計画に上げてある数は実現すべきだと思いますよ。人材は、市長はボランティアとおっしゃいましたけど、これ確かにボランティア的要素はありますけど、いわゆる、お世話をされる方には時間給、８００幾ら、９００円、午前中出た支援と同じような報酬が出るようになっています。人材確保が難しいと言いますけれども、大船越校区が成り立っているんですよ。ですね。それはみんな特別、保育士の免許とか、学校の先生の免許とか、特別な資格を得た人じゃないで、今、地域の人たちが３名でやってありますからね。ほかの地区でもできます。はい。いかがでしょうか。

○議長（初村　久藏君）　市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝　尚喜君）　確かに、ほかの地域でもできないことはないものとは思ってはおりますけれども、今、ほかの地域がどうしても放課後の関係で、なかなか、放課後、教室のほうに居

るのは難しいというような報告を聞いてはおりますけれども、ただ、もう少しこのことにつきましては、今後も検討させていただきたいというふうに思います。

○議長（初村　久藏君）　１１番、小島徳重君。

○議員（１１番　小島　徳重君）　部長の答弁があるんですか。ないですか。はい。

○議長（初村　久藏君）　１１番、小島徳重君。

○議員（１１番　小島　徳重君）　それで、これ所管が違うために、国の新・総合プランでも、それから県の計画の中でも福祉部と、それから教育委員会がそういう協議の場を持つようにというふうに運営委員会を設定するようにというふうになっています。対馬市、それが設定されているかどうか、いかがですか。

○議長（初村　久藏君）　市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝　尚喜君）　私のほうでは、そこはちょっとまだ確認しておりません。

○議長（初村　久藏君）　１１番、小島徳重君。

○議員（１１番　小島　徳重君）　それで、ぜひ連携を取っていただいて、どこの地区にどういうニーズがあるか、そういうことのまず把握から始めていただきたい。

１点だけ確認したいと思いますけどね。ニーズがあれば、要望があれば検討しますというかね、考えますということですが、それは間違いないですかね。

○議長（初村　久藏君）　市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝　尚喜君）　もちろん、地域の保護者、また父兄のほうから、そのような多くのニーズがあれば、こちらとしても子育ての一環から検討すべきものというふうには思います。

○議長（初村　久藏君）　１１番、小島徳重君。

○議員（１１番　小島　徳重君）　ありがとうございました。私が聞いている限りでは、要望があって、こども未来課にもお尋ねに行かれた方もいらっしゃると思います。それは部長まで届いているかどうか分かりません。けれども、課のほうには相談に行ったという方は聞いていますので、まだ、その人の声は届けたいと思いますので、よろしくお願いをします。

それで、やはりそのことについては、市民の方はどういう手だてをすればいいのか、どこの部署にどう行けばいいのかというのがよく分からないところが多いです。だから、やはり市の広報というか、周知活動をもう少ししっかりしていただきたいということをお願いをしておきます。

それから３番目の保育士の働き方、それから研修の件についてお尋ねします。

保育士の定数が幾らで、現在、定員を満たしているかどうか、部長のほうに聞かないといけないと思いますが、いかがですか。

○議長（初村　久藏君）　福祉保険部長、國分幸和君。

○福祉保険部長（國分　幸和君）　公立の保育所におきまして、必要な保育士数は確保しておりま

す。

○議長（初村　久藏君）　１１番、小島徳重君。

○議員（１１番　小島　徳重君）　私が把握している数では、保育士標準の配置数に対して、マイナス９で対馬市は配置が動いているというふうに承知していますが、それで間違いないですかね。

○議長（初村　久藏君）　福祉保険部長、國分幸和君。

○福祉保険部長（國分　幸和君）　正確な数値についての資料を持ち合わせておりませんので、申し訳ございません。

○議長（初村　久藏君）　１１番、小島徳重君。

○議員（１１番　小島　徳重君）　それで、まず保育士の数は、定数が６２だけれども、５３ですかね。それで配置がされていて、そのうち正職の数と、それから会計年度職員等の数が５３になっています。定数を満たしていない９名分は月ごと、それから日ごとの職員で運営されているようにあります。そのことについては、市長はどういうふうに思われますかね。

○議長（初村　久藏君）　市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝　尚喜君）　保育士の定数につきましては、採用も積極的にはやっている現状なんですけれども、なかなか私のところに上がってくる書類の中でも、まず一次試験の点数と申しますか、がちょっとなかなか、もう少し頑張ってもらわないといけないような方がたくさんいらっしゃるということでございます。市としては、もう少し積極的に採用したいんですけれども、ただ、今言いますように、なかなかそこに至らないということで、今後も採用は続けてまいりたいというふうに思っております。

○議長（初村　久藏君）　１１番、小島徳重君。

○議員（１１番　小島　徳重君）　それで保育士の待遇改善という点で、今、対馬市の場合は、保育士は行政職と同じ待遇で採用がされていますよね。それでこれ、やはり保育士さんは物すごく専門職で大切な仕事ですよ。行政職の方と同じ待遇で動いているところも、ほかの自治体もあるかと思いますので、これはやはり、それなりの専門職としての待遇改善をしていったらどうかと思うんですが。そのことの中で特にいい例が、こども園では、幼稚園教諭と、それから保育士さんとが同じ職場で同じような仕事をしてありますけどね、若干、違うところはあるけれども、同じ職場の中に同じ先生と呼ばれる人がいて、幼稚園教諭と、いわゆる保育士が給与差が採用の段階からありますし、年次踏んでも差が詰まりません。このことについてはいかがでしょうか。

○議長（初村　久藏君）　市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝　尚喜君）　今、現段階では、ちょっとそのような状況報告等も全くあっておりませんし、私も今、この場でそういった提案があってもなかなか判断が難しいと思っております。

ただ、その中で、要は、特に保育士等におきまして、会計年度任用職員と正規職員の関係では、

きちんとその業務をすみ分けしていきましょう。そしてまた、その中でも、月額会計職員がやむを得ず担任等を受け持ったときにはそれなりの手当を支給いたしましょうというようなことまでは、市として実施するように計画しております。

○議長（初村　久藏君）　１１番、小島徳重君。

○議員（１１番　小島　徳重君）　会計年度職員、前の嘱託職員と正職の差は確かに少し改善をしていただいているというのは把握しています。それよりもっと根本的なところで、保育士の給与待遇を行政職員よりは高めて保育士を採用しないと、先ほど午前中に糸瀬議員が言ったように、若い人は対馬に帰ってこないと。保育士関係、幼稚園関係の学校へ行っている人はたくさんいますよ。ですね。けど、対馬に帰ってこないというのは、やはり給料差が都市部とあります。だから、それにまず目が行きますから帰ってこないと、そういう現実があります。だから、これは、ぜひ福岡とか都市部で働いている人の中には対馬に帰りたいという人も私も幾らか聞いています。やはり、その人たちが帰るためには給与体系を対馬市頑張って上げたらということと、そして帰ってきた折に、やはり、それなりの何か支援をしていただくと保育士さんも帰ってくる。あるいは同じようなことは看護師さんにも言えると思うんですが、そういうことをぜひ、方策として打ち出していただきたいなと思います。

それから時間が少なくなったんですけれども、先ほど市長答弁の中で、ＩＣＴを取り入れた保育をやる。これはすばらしいことだと思います。これ行政先取りして、私、質問する前にちゃんと何か、部長や課長、配慮されてから答弁準備されたんだろうと思いますけどね。これ長崎市が今年からやっていますよね。長崎市に私、情報を求めました。事務局を通じて。そしたら、やってみて、先生方の負担が軽減されたということで大変好評です。そして全国的にこれ広がりつつあります。だから、ぜひ対馬市もＩＣＴを取り入れて、園内の業務の改善と、それから保護者との、先ほど言われたようにコミュニケーションを取るためにも出欠も、それから緊急の連絡も全部スマホを通じてできる。そういうシステムがありますので、ぜひやっていただきたいと。

それから、もう１点、大きい保育所、職員が三十数名働いている雞知保育所とか、比田勝の保育所も結構な人数です。こういう保育所には、保育士の先生だけじゃなくて、事務的なことを扱っていただく、いわゆる事務職員的な存在の方を置いていただいたら助かりますということが、これは今働いている人は言われません。けど、以前、雞知保育所等に働いておられた所長さんから私は複数聞きました。そしたら自分は事務的なことから軽減されると保育内容のことを十分チェックできたり、若い先生に指導ができますということをおっしゃいます。市長、いかがでしょうか。

○議長（初村　久藏君）　市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝　尚喜君）　大規模の保育所のほうに事務職員ということでございますけれども、

これは、職員定数の問題等いろいろございますので、果たして、そこまで配置が可能かどうかということにつきましては、今後、多方面にわたって検討する必要があるのではないかなというふうには思います。

○議長（初村　久藏君）　１１番、小島徳重君。

○議員（１１番　小島　徳重君）　ぜひ、最初に言いましたように、子育てに金を投資するということは、すごく効果的だということは、これは国段階でも、政府も言っていますしね、対馬市でもぜひ、そのような施策を打ち出していただきたいということをお願いして終わります。

以上です。

○議長（初村　久藏君）　これで、小島徳重君の質問は終わりました。

○議長（初村　久藏君）　暫時休憩します。再開を２時１５分からといたします。

午後１時56分休憩

午後２時13分再開

○議長（初村　久藏君）　再開します。

引き続き、市政一般質問を行います。１０番、春田新一君。

○議員（１０番　春田　新一君）　皆さん、こんにちは。新政会の春田新一です。

質問に入る前に、一言、申し上げます。

新たな年を迎え、比田勝市長の２期目の任期も間もなく残り１年となります。昨年の夏には３年ぶりとなる国境マラソンＩＮ対馬や、対馬厳原港まつりが開催されるなど、市内で多くのイベントが感染防止対策を講じながらも盛大に開催をされました。しかしながら、本市の人口減少には歯止めがかからず、島内の各産業分野では担い手不足が深刻化し、いかに人口減少を抑制して担い手を確保していくかが、本市の大きな課題であろうというふうに思います。

人口減少や少子高齢化が進む中、持続可能な地域社会を築くため、今まで以上の行政運営に残りの任期も期待をいたします。

また、２月２１日には長崎県知事に就任をされました大石知事が来島され、２２日と２３日の２日間島内の各事業所、公共施設の視察をされました。また、２３日には比田勝市長も同行され、上対馬の国際ターミナルや民間の事業所の視察をされたと聞いております。

大石知事の見解では、対馬の峰町佐賀は妻のふるさとでもあり、対馬のために頑張りますと声高らかに話をされておりました。今まで以上に、この県政とパイプを取られることを望みます。よろしくお願いをしておきます。

それでは、通告をしておりました３項目について質問をいたします。

１項目、誰ひとり取り残さない優しいまちづくりについて。地域老人クラブの意義と行政の取組についてお伺いをいたします。

老人クラブは、各地域を基盤として、高齢者が自主的に集まって活動する組織だというふうに考えます。福祉の向上を活動の目的として、各地域で立ち上げられているというふうに思うが、行政としてどのような支援をしてあるのか、お伺いをいたします。

次に２点目ですが、高齢者が健康で自立した生活が送れる事業の立ち上げや、継続していくための支援策、また、その支援についての課題等をお伺いいたします。

次、２項目です。持続可能な地域社会を築くための計画の中で、人材の確保と人材育成の各部署の取組についてお伺いいたします。

地域資源を活用した新分野への事業進出、人材育成等への支援をすることで、市内の産業振興や雇用の維持・確保につながり、また新しい分野への進出や移住・定住につなげていかなければならないというふうに思いますが、各部署の取組についてお伺いをいたします。

次に３項目です。台風時における避難港の浜久須湾、大増湾について。

両港とも気候変動による大雨で、河川からの土砂流出により湾内が浅くなっています。全体的なしゅんせつはできないか。

また浜久須湾については、二級河川である玖須川が整備をされていますが、河川の延長も長く、土砂流出が途絶えることなく沈殿をしております。大増湾についても同様のことが言えます。しゅんせつはできないかお伺いをいたします。

以上、３項目の質問、答弁をお願いいたします。

○議長（初村　久藏君）　市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝　尚喜君）　春田議員の質問にお答えいたします。

初めに、地域老人クラブの意義と行政の取組についてでございますけども、本市の老人クラブの現状は、令和４年度各町の単位老人クラブ数が９２クラブ、会員数は２，７５３人で、平成３０年の５年前と比べ、クラブ数で９減、会員数で５４２人の減となっています。

このような傾向は本市だけでなく、全国の老人クラブも同様であり、就労年齢の高齢化に加え、生活環境の変化から、老後の人間関係もそれまでの友人、知人とのつながりを重視するなど、地域社会への帰属意識が以前より低いことが原因ではないかと考えられています。

老人クラブは、老人福祉法第１３条に位置づけられ、地域を基盤とする高齢者の自主的な組織であり、多くの会員とリーダーの手で継承され、レクリエーションやスポーツ等のクラブ活動を通じて仲間をつくり、孤立することなく、地域で支え合う基盤づくりに努めていただいております。

少子高齢化が急速に進む中、高齢者が互いに支え合い、介護予防や相互の生活支援を展開して

いく必要があるという観点から、その活動及び役割が今後ますます期待されているところです。

また、社会奉仕活動に積極的に参加・参画し、高齢者の持つ活力を生かした活動を展開しており、豊かな地域づくりに不可欠な存在と認識しております。

行政の取組としましては、対馬市社会福祉協議会と連携し、活動などに係る情報提供や助言などを行っており、老人クラブへの補助金の交付を通じて、老人クラブ活動等の、より一層の活性化を図り、サロングループや介護予防自主グループ等と連携の輪を広げ、高齢者の生きがいや健康づくりを推進することにより、明るい長寿社会の実現と保健・福祉の向上を図っております。

次に、高齢者の健康寿命の延伸と取組と課題についてでございますが、高齢になっても住み慣れた地域で尊厳を持って、生き生きと自分らしい生活を送るためには、要支援・要介護の状態になることを遅らせ、重度化を防ぐ取組が必要でございます。

加齢に伴う筋力の低下や、低栄養によって心身の機能が低下し、弱った状態をフレイルと申しますが、早い段階でフレイルに気づき、進行を防ぎ、あるいは回復できるよう、健康寿命の延伸並びに高齢者の自立支援及び重症化予防に向け、高齢者が介護予防の取組を進めることが極めて重要でございます。

本市では、高齢者が介護予防の必要性を理解し、自らが主体的に介護予防活動に取り組むことができる介護予防自主グループを市内各地域において育成・支援することを目的に、運営費等の助成と保健師等専門職による支援を実施しております。

グループの活動でございますが、軽い体操やスクエアステップという運動などを実施しており、定期的に保健師等を派遣し、介護予防教室を開催しております。

助成を開始した平成２８年度は２６グループでございましたが、令和４年度は５５グループと倍増し、延べ参加人数は７，５００人程度に達する見込みでございます。市内の広範囲に介護予防自主活動グループが順調に広がっているところでございます。

グループ数は増加したものの、各地区では人口減少と高齢化が進んでおります。今後も参加者数が減少しないように、各地域の高齢者に対する参加奨励と、グループのリーダーとなる人材育成を積極的に推進してまいります。

また、各グループに積極的に保健師等の専門職を派遣し、活動の支援と介護予防教室や健康教育等を実施していくことで、活動への満足度を向上させ、同時に、参加する高齢者の健康づくりと介護予防を実施してまいります。

次に、人材確保と人材育成の各部署の取組についてでございますが、初めに農林水産業における人材確保でございます。

農林水産業におきましても担い手対策は大きな課題となっております。

まず、農業におきましては、新たに農業を始める農家に対して、市が認定新規就農者に認定し、

農業次世代人材投資事業を活用して３年間生活費等の支援を行い、その後は認定農業者に認定し、農業の技術や経営指導など人材育成を支援しています。

林業におきましては、林業の星スキルアップ研修事業として、木材業・製材業登録者が業務上必要な資格及び免許取得に必要な経費の補助を行っております。

また、水産業においては、漁業就業実践研修事業等により、３つの漁業研修コースにおいて研修費、漁具経費、指導料等を支援することで、漁業の担い手確保に努めているところでございます。

次に、雇用拡充及び創業分野における人材確保及び育成施策についてでございますが、現在３事業に取り組んでおります。

まず人材育成施策では、創業等支援事業のメニューの１つとして、市外における資格取得、研修受講等に必要な旅費・受講料等の経費に対し、１０万円を上限に対象経費の３分の２以内の支援を行っており、主に建設事業者のドローン技術に係る免許取得等での活用があっております。

次に人材確保分野では、本市との包括連携協定に伴う人材派遣として、総務省所管の地域活性化起業人制度を活用し、シダックス株式会社より人材を受入れ、民間のノウハウや知見を生かすことで、地域の活性化をはじめ、職員の意識づけにも寄与しているところでございます。

また、特定地域づくり事業として、令和３年度末に設立いたしました対馬づくり事業共同組合において、島外からの移住者を中心に派遣事業に取り組んでおり、令和４年９月３０日より２名の方を雇用し、市内事業者へ派遣しております。

最後に、介護職員の人材確保についてでございますが、関係機関や団体等と連携を図り、職場環境、介護職員のスキルアップ研修会や小中高生への介護講座や職場体験等を通して、介護の仕事の魅力を伝える活動、市内外でのお仕事説明会へ参加し、人材確保のＰＲ活動に取り組んでいるところでございます。

また、介護初任者研修を実施し、未経験者や高校生の受講生の確保に取り組み、毎年市内の介護事業者に就職し、成果を上げているところです。

人口減少が進む本市におきまして、人材確保の問題は非常に難しい問題ではございますが、様々なツールや機会を用いながら、人材確保及び育成に取り組んでまいります。

次に、台風時における避難港の浜久須湾、大増湾のしゅんせつについてでございますが、近年、全国各地で記録的な大雨等が観測されておりますが、本市においても例外ではなく、長雨や大雨時の斜面崩壊や落石、また有害鳥獣の地山の掘り起こしなどにより山の荒廃が進み、降雨のたびに山からの土砂が河川や漁港・港湾など、特に河口付近に土砂が堆積する状況が全島的に発生しております。そのような状況から、漁港・港湾の施設機能低下が危惧されているところです。

対馬市では、水域施設である泊地や航路等について、土砂堆積状況の調査を行っており、機能

の健全性を４段階に分け、日常の漁業活動に支障の大きいものから優先的に機能保全計画を作成し、順次、維持管理に努めているところでございます。

浜久須漁港につきましては、平成２９年度に岸壁前泊地の深浅測量を実施した結果、一部計画水深より浅い箇所は確認されましたが、施設の機能に大きな影響はなかったことから、現時点では泊地しゅんせつを考えておりません。

しかしながら、地元漁船はもとより、荒天時には他港からの避難船が接岸していることから、定期的な簡易調査により観察を継続してまいります。

議員御指摘の玖須川の河口部は、広範囲にわたり土砂が堆積しているのは確認しておりますけども、泊地ではないため、漁港の補助事業では現時点で実施困難な状況であります。

また、大増湾は大増川の河口部が広範囲にわたり土砂が堆積しております。県管理の港湾でありますので、港湾区域内の土砂除去については、堆積土砂の状況を調査し、緊急性が高いと判断される箇所については対応を検討していくとのことでございます。

以上でございます。

○議長（初村　久藏君）　１０番、春田新一君。

○議員（１０番　春田　新一君）　どうもありがとうございました。

１点目から順を追って整理をしていきたいと思います。

私も、そろそろ老人クラブに入らなければいけない年代になっております。それでこの中身を聞いたわけですけど、なかなか難しいところがあろうかというふうに思って今、聞いておりました。２，７５３人で、だんだん減少傾向にあるということでありますが、その中で、この１点目と２点目がかなりダブっておりますので、そちらのほうで、理事者側のほうでうまい具合に答弁をしていただければというふうに思います。

この老人クラブに入っていない方と入っている方と、各地域にはおられるというふうに思っております。健康でばりばりいろいろなことができる人は、高齢者になってまだ入っていない方もいらっしゃるというふうに思っております。そういうところで、やはり今から先はこの人材確保というのが難しくなり、また人材育成も対馬の中では難しいような状況にあります。

それで、この老人クラブについては、老人同士がお互いに助け合いをもってやっていくようにしていけばどうかなというふうに私は思うんですが、少し提案をさせていただきます。少しした、ちょこっとした仕事が、１時間か２時間の仕事はできますので、座ってされる人、また元気で立ってされる人、そのような事業、作業を探して、お互いに高齢者同士がよき仲間となって働いて、長寿命化に資するというような気持ちが私はあられると思うんですね、どこの老人クラブも。だから、そういうところに本当にどこまで支援が行き届くのか、そこも一つの行政の悩みどころであろうというふうに思いますが、やはりこのリーダー、地域のリーダー、老人クラブのリーダー

さんがおられれば、そこら辺もうまく行政や社協との連絡調整もいくんじゃないかなというふうに思うんですよね。だから、そこら辺に今後、私の人材育成の問題は下のほう、２番目ですけど、そこにやはり、そういうところも今後いろいろ協議をされながら、やっていったらどうかなというふうに私は思いますが、部長でも結構ですが、どうですか。分かりましたか。

○議長（初村　久藏君）　福祉保健部長、國分幸和君。

○福祉保険部長（國分　幸和君）　老人クラブのリーダーの育成についてということでございますけども、老人クラブの活動事業におきまして、若手リーダーとか女性リーダーの研修会等を計画しております。それでリーダー育成に取り組んでおりますけども、こういった問題につきましては老人クラブだけではなく、どの団体においても難しい問題ではないかと認識しております。

○議長（初村　久藏君）　１０番、春田新一君。

○議員（１０番　春田　新一君）　なかなか難しい問題ですけど、やっぱりこれは地域に入っていかないと、そのクラブの中に入っていかないと分からないんですよね。なかなか行政としても、いつのときにか質問があっておりました。現場に行って困った人を助けるということはしてますかというような質問もあっておりましたが、なかなかそこは業務多忙で行かれないという事情も私たちもよく分かりますが、やはり地域においては支援が必要であるにもかかわらず、届いていない人がいると思うんですよね。だから、そういう人にどういう情報やら、どういう支援をしていったらいいのか、これが一番大事じゃないかなと思うんですよね。そうすることによって、いろいろなところにつながっていきます。

今シルバーセンターの話も少し答弁がありましたので、私はシルバーセンターは質問はしていませんけど、少し触れますけど、やはりシルバーセンターの方たちと一緒に、老人クラブの方たちと仲間づくりをしていって、お互いにみんなで仕事を探していく、そしてみんなで助け合う、こういうことにどういう支援を行政として、また社協としてしていくのか、また社協との連携をどのように行政側はとってあるのか、そこを少しお聞かせください。

○議長（初村　久藏君）　答弁できますか。

１０番、春田新一君。

○議員（１０番　春田　新一君）　すみません、私の質問が分かりづらいような質問になっておりますけど、行政側としてもそこはきちんと把握されて、この老人クラブを立ち上げる意義と行政の取組についてということですから、そこはちゃんと調べておかなければいけなかったんじゃないかなと思いますが、私も分からないなりに質問をしていますので、何とも言えませんけど、やはりそこは社協に委託をしている部分について、どのようにしているのかということを聞いているんですから、そこは答えなければいけないんですが、そこはそことして、今後また私もいろいろ調べて、質問なり、直接お聞きしたいと思います。

それから、これから２点目ですけど、これについて、１点目と２点目と同じようなところに入ってくるので、答弁はお互いに譲り合ってやっていただいたらいいと思います。

対馬市では、買物支援、通いの場活性化事業というのが予算化されております。それから生活支援コーディネーター配置事業、これも今年度から７年度までの事業ということで計画をされております。

その中で、生活コーディネーターにとっては、年をとっても住み慣れた地域で自分らしい生活を続けられる、年をとって家の中でじっとしておくんじゃなくて、外に出ていかれる自分らしい生活が続けられるため、医療、介護のほかに、地域における助け合いが必要不可欠でありますということですが、やはり先ほど言いましたように、お互いに隣同士が助け合ってやっていくというのが、私は先ほど質問したことなんですが、なかなか分かりづらいんでしょうけど、このリーダーをつくるための人材発掘や、６名のコーディネーターを配置し、福祉事業などを活用しながら、高齢者が生活しやすい地域づくりを目指しますということですが、この６名のコーディネーター配置というのはどういうふうにされるのか、お尋ねをいたします。

私の考え方では、社協にお任せじゃないかなというふうに捉えるんですが、そこら辺を少し説明ください。

○議長（初村　久藏君）　健康づくり推進部長、桐谷和孝君。

○健康づくり推進部長（桐谷　和孝君）　お答えいたします。

生活支援コーディネーター事業につきましては、社協さんのほうで実施しておりまして、６名、ほぼ各町ごとに配置をしているような状況でございます。

以上でございます。

○議長（初村　久藏君）　１０番、春田新一君。

○議員（１０番　春田　新一君）　各町に１人ずつ６名配置をしますというのは、もう書いてあるから分かるんですけど、どこにどういうふうにしてやっていかれるのか、そしてまた、どのようにして生活しやすい地域をつくっていこうとお考えで計画をされているのかということをお尋ねしておりますので、難しいと思いますが、今、私が言わんとすることは、これは６つある社協に委託をして、そこでお願いをしてますよというのであればそれで結構なんですけど、そういうふうにして、この福祉というのは非常に難しいんですが、やはり先ほど言いました地域のリーダーがあって、それからリーダーの下で動いてやっていくということが一番ベターなんですけど、やはりいろいろな障害を持った方、いろいろ、昨日までは動けたけど今日は動けんという方もいらっしゃるでしょう。そういう人に、どうしたらその人の支援に行き届くのかということをしてるんで、健康づくりのほうも６名のコーディネーターをつくってやってますということで、これは健康寿命である体操とか、そういうものだろうというふうに思いますが、この事業の中身を少し

お知らせください。

○議長（初村　久藏君）　健康づくり推進部長、桐谷和孝君。

○健康づくり推進部長（桐谷　和孝君）　お答えします。

地域において生活支援等のサービスの提供体制の構築に向けて、地域支援ニーズの把握と、地域に不足しているサービスの創出や、サービスの担い手の養成などの業務を行っております。

○議長（初村　久藏君）　１０番、春田新一君。

○議員（１０番　春田　新一君）　よく分かりませんけど、地域においては支援が必要であるにもかかわらず、そういう人に対して情報や支援を届けるために、行政や支援機関が積極的に対象者のいるところに出向いて働きかけることはどうですかということですが、これは言葉でアウトリーチというんですけど、そういうようなことを取り組みはしてあるのかということを聞いているんですけど、なかなか取組が出てきませんので、私のほうもこれでそこの部分はもう終わりたいと思います。ありがとうございました。

それでは、持続可能な地域社会を築くための２点目に入ります。

人材の確保と人材育成の各部署の取組について、先ほど市長のほうから答弁をいただきました。

今回、やはりこの人材育成というのは難しい、対馬の中でですね。陸続きであれば、いろいろな人材が交流できるんでしょうけど、なかなか難しい問題にあろうというふうに思いますが、各部署において、いろいろな支援がされておると思います。先ほど市長のほうから漁業者の支援についても答弁があっておりましたけど、私は農林業について少し支援の仕方、また補助に対する行い方というのを少しお尋ねいたします。

今、林業、前回の折にも質問いたしましたが、自伐型林業ということで前回、質問をさせていただきました。少し分かりづらいところがありましたけど、なかなか対馬の中で、やはり自分の山、そして自分の先祖が今まで守ってきた山を守らなければいけないというような、強い意思の方もいらっしゃるというふうに思っております。

そういう中で、何名かこの自伐型で、自分の山を１日に２時間か３時間入ってやろうという人が見受けられます。その人とも話をゆっくりしましたけど、なかなか専門職ではないので、難しいというところもありました。

しかし、市としては、やはりこれに安全対策講習会、あるいはこの小さい機械に対する補助、そういうものをもう少し取り組んでいただいて、そして一生懸命自分の山を守る、また森を守るためにやっていくんだという勢いを見せて移住者を増やす、これに私はつながってくるんじゃないかなと思って質問をしているんですけど、やはりこの森林が８９％を占める対馬の中ですから、やはりここにも重きを置いて対馬を守らなければいけないというふうに思います。

だから、部長でも結構ですけど、林業者の講習会、名目を忘れましたけど、講習会で３万

５，０００円払って行ってきましたというような方もいらっしゃいました。それで、また小さい機械で、私たちは大型機械じゃなくて小さい機械でやっていきますので、その小さい機械に対する補助をしていただけないでしょうかと、そうすることによって、いろいろと若い人、あるいは都会にいる人にいろいろ連絡をしながら、調整をしながら、帰ってきてもらったり、また移住を増やしていきたいという考えを持っていますということをお聞きしましたので、そこを部長にお尋ねしますが、部長どうでしょうか。

○議長（初村　久藏君）　農林水産部長、黒岩慶有君。

○農林水産部長（黒岩　慶有君）　お答えいたします。

安全対策に対する講習への補助ができないかといった御質問だったと思います。

うちのほうでは、対馬の星林業スキルアップ事業という補助事業がございまして、これは事業体のみならず、個人にも補助をするようにはしております。しかしながら、これは長崎県のほうに製材業の登録条例というのがございまして、それも義務化されております。そういう県の条例に基づいて登録をされた方を対象に、そういう講習への補助を２分の１、１０万円が限度ではございますが、そういった補助はありますので、詳しくは県の林業課のほうにお問い合わせいただければというふうに思います。

それから、林業に小さい機械でも補助できないかという御質問でございます。

機械の種類によりましては、汎用性がある機械がございまして、例えばバックホーであるとかトラック、こういったことは農業、林業、水産業、全体的に見回しましても、現制度では補助の対象にないということで、汎用性のあるものについては、ちょっと厳しいだろうと思います。

ただ、林業に特化するようなチェーンソーであるとか林内運搬車、丸ノコであるとか、そういったものにつきましては、金額は小そうはございますが、交付金事業がございますので、そちらのほうを御利用いただければというふうに思います。

以上でございます。

○議長（初村　久藏君）　１０番、春田新一君。

○議員（１０番　春田　新一君）　ありがとうございます。

今、部長の答弁はよく分かりましたが、やはり長崎県の条例に基づいて申請をしなければいけないとか、補助対象外であるとかいうような、非常に個人的に難しい話になってくるんじゃないかなと思うんですよね。我々であれば、分かっているからそれはいいでしょうけど、個人でそれをそうしていくということは、非常に厳しいんじゃないかなと思うんです。それで、やはり人材育成、あるいは先ほど言いました支援をしていくためには、やはり現場の人に合った方法でやっていかないと、なかなか人口も増えないし、対馬の林業もなかなか山林もきれいにならないんじゃないかなと思うんですけど、やはりいろいろ取り決めはあると思いまして、誰でもどこでもと

いうわけにはいきませんけど、やはりその事業主というか山主ですね、山主、先祖からもらった山主が荒らさないように、きれいにしていこうという大きな気持ちを持ってやってあるんですよ。チェーンソー、それはチェーンソーに補助はもらって木は切りますけど、何で運ぶんですか、手で運ぶんですか。そうじゃないでしょうね。やはりトラック、あるいはバックホーというのが要るんですよ。だから、そこに先ほど言いましたけど、少しでの補助ができるように行政側で取り組んでもらう、そこを私は話しているわけです。いや、ありますよ、それは申し込めばできますよ、そうじゃなくてですね、やはりお互いに対馬に生まれたみんなじゃないですか。力を合わせてやっていきましょうよ。その軽トラを、バックホーのフォークを２０万円で買える、４万円ぐらいの補助は何とか出ますよ、そういうような柔軟性を持ったやり方で、対馬なりのやり方でもいいじゃないですか、そういうことをやっていくようにしましょうよ。そうしないとですね、なかなか大きな共同体、あるいは森林組合等には大型機械の補助は出るんですよ。しかし、小さく自分のところでやろうという人には補助が出ない。それはやはりもう少し柔らかくしていって、柔軟を持って、そしてみんなで対馬の中のこの森林を守っていかなければいけないんですから、そういうふうにやっていくように、私は部長にお願いをするんですが、部長どうでしょうか。

○議長（初村　久藏君）　農林水産部長、黒岩慶有君。

○農林水産部長（黒岩　慶有君）　お答えいたします。

春田議員の御意見はよく分かるところでございます。しかしながら、国、県のほうでそういったメニューでもつくってもらえれば、何とかうちもそれに上乗せした助成の仕方ができるかと思うんですが、何分にも林業をしたいという方がどのくらいおられるか分かりませんが、そういった方たちに補助をするというのは、分母がちょっと見えないようなこともありまして、ちょっとこの場ではお答えはできません。

先祖から持っておられる山があられる方はですね、森林組合なんかと共同で森林経営計画というのを立てていただいて、そこの中で素材生産量が上がっていったら、現行制度では高性能林業機械であるとか、そういうトラックの購入の補助にはなりますので、始めたばっかりの方たちには、今の段階ではこの場ではできるということはちょっと言い切りません。

以上でございます。

○議長（初村　久藏君）　１０番、春田新一君。

○議員（１０番　春田　新一君）　部長、すみませんね、もう涙が出よっでしょう、部長。ごめんなさい。

そういうふうに、自分の山を守っていこうという人もおられるんですから、そこは肝に銘じて、何かあったときには支援をしてやっていただきたいというふうに思います。よろしくお願いします。

それから、特定地域づくり事業協同組合についてですね、昨年度から立ち上げられてやっておられます。この事業の特別予算のほうでも事業の成果は報告はありましたけど、これから、今、上対馬に１か所、２名の雇用だということでありましたが、私も質問はさせていただきましたが、この対馬の広い中で１か所だけじゃなくして、上、中、下はどうでしょうかという話をした経緯があると思いますが、そこら辺の考え方は部長が説明をして、市長の考え方があられれば、またお願いします。

○議長（初村　久藏君）　しまづくり推進部長、伊賀敏治君。

○しまづくり推進部長（伊賀　敏治君）　対馬づくり事業協同組合につきましては、昨年の３月にやっと立ち上げることができました。当初立ち上げるときの想定といたしましては、春田議員おっしゃるように、上、中、下３地区でそれぞれできないかなということを想定はしておりました。募集した結果、１７事業者の方が組合員となってくださったんですけども、その中で地区を分けるか、上、下にするか、３地区できるか、３地区できれば、それぞれを任う事務局、また会長さん、発起人さんもそれぞれ要るというところで、いろいろ協議を重ねた結果、２つも厳しいだろうということで、結果、１組合ということになりましたけども、今後につきましては、先ほど申しましたように理想としては上、中、下３組合が理想とは考えておりますので、急に３ということにはならないと思いますけれども、１組合から次はまずは２組合できるような形で努力していきたいというふうに思っております。

○議長（初村　久藏君）　市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝　尚喜君）　対馬づくり事業協同組合の今後ということで、私の意見はというような質問だったと思います。

この対馬づくり事業協同組合につきましては、やはり先ほども部長が答弁いたしましたように、大変すばらしい企画だというように私も思っております。可能であれば、上、中、下にそれぞれそういった機能を構築したかったんですけども、なかなかそこにはやっぱり組合員がいなくてはならないし、また、それなりの雇用の場が必要だというようなことで、現在は１組合でございますけども、雇用が２名ということで、ただ、今後この出資者を、１７業者をもう少し増やしながら、そしてまた、雇用する方々を可能な限り増やしていきたいというふうに思っております。

○議長（初村　久藏君）　１０番、春田新一君。

○議員（１０番　春田　新一君）　よく分かりました。

今、上対馬のほうで取り組んでやっておられます。やはりこの人材育成、雇用の確保の場ということでこれを立ち上げていかれるのであれば、上対馬だけじゃなくして、やはり厳原、美津島、豊玉というような感じでもいいんじゃないかなというふうに思います。それぞれその町に合ったいろいろな職業があります。その職業に合ったようなことをしないと、協同組合というのは私は

始まらないというふうに思っております。商業だけで、ただただ雇用が２名あったというのも、食堂の中に２名雇用されたというような話は聞いておりますが、やはりそうじゃなくして、もう少しスケールを大きく持って、３つで１つでも、事業者は１７業者ということですから、結構おられますよね。だから、そこを分配して、同じ上対馬町だけでも１７業者だったら上対馬だけでいいでしょうけど、ほかにおられるなら、その方々をリーダーとして、またそこの事業者を増やしてもらうというような形も取っていかれて、どうしてもこの予算に影響してくるんですが、予算も少し多く取られてやっていかれたほうがいいというふうに思います。

あと、農業、林業、水産業といったような大きな事業ができるところもいっぱいありますし、また真珠とかそういうのも結構できると思いますので、雇用の場、そしてまた新しい人材の育成、そして、そうすることで移住者も増えてくるというふうに思います。いろいろ若い人たちは、本土とのやり取りもネット等でやっておられますので、やはり対馬はいいなと思われるようなやり方をつくっていかなければできません。これは私たち議会も行政も一緒だろうというふうに思いますが、やはりそこを一緒に力を合わせてやっていくべきではないかなというふうに思いますので、またいろいろ勉強したいと思いますので、よろしくお願いをしておきます。

それでは、最後の３項目めに入ります。

台風時における避難港についてですけど、市長、地元でありますので御存じであろうというふうに思います。タブレットに流して、写真がありますけど、やはりこの１番目について、漁船が少し見えてますよね、漁船が。この漁船がシャフトにつかえてできないぐらいのときが、干潮はバックもUターンもできないというような状況にもなっておるということでここで取り上げたんですけど、左奥手を見ると、やはり鳴滝川、鳴滝から流れてくる土砂だろうというふうに私は感じております。そういうことで、この部分がしゅんせつできれば、しゅんせつをしていただきたいなということと、あと３枚目の丸囲みをしているところが玖須川と上対馬総合運動公園から出てくる分の河川であります。ここら辺も写真ではちょっと見づらいですけど、結構たまっておりますので、ここら辺も取っていただければというふうに思っておりますが、市長どうでしょうか。

○議長（初村　久藏君）　市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝　尚喜君）　私も地元の出身として、できる限りこの事業には対応したいとは考えてはおりますけども、要は、今個々に示されたエリアが、やはり公共的な泊地、そして航路、そういったところではないということであれば、なかなかその理由づけが難しいものというふうに思っておりますし、この海のしゅんせつにつきましては、しゅんせつ船を回航してくるだけでも結構な経費がかかります。

そういうことで、また、公共事業で補助事業等を活用してここをしゅんせつをするときに、何らかの形でこういった、特に緊急的な箇所をしゅんせつすることができればというふうに思って

おります。

以上であります。

○議長（初村　久藏君）　１０番、春田新一君。

○議員（１０番　春田　新一君）　時間がなくなりましたが、大増湾もそういう同様に同じですね、考え方は一緒でいいですね。

大増湾についてはですね、写真もありますように、川の部分も結構河川もたまっていますので、そこら辺も今後よろしくお願いをしておきます。

それと、１点ですね、このしゅんせつ、どこの漁港も結構事業をなされていると思いますが、やはりこの土砂を捨て土にするんじゃなくて、やはりどこかに利用、転用するというようなところも、今後、考えながらやっていかなければいけないというふうに思いますので、そこら辺も含んで、よろしくお願いをしておきます。

終わります。

○議長（初村　久藏君）　これで、春田新一君の質問は終わりました。

○議長（初村　久藏君）　暫時休憩します。再開を３時１５分からとします。

午後３時03分休憩

午後３時14分再開

○議長（初村　久藏君）　再開します。

引き続き、市政一般質問を行います。１４番、小宮教義君。

○議員（１４番　小宮　教義君）　１４番議員の小宮教義でございます。今日は私が最後、大体４人で終わるんですけども、今日は５番目ということで、非常に皆さん眠たくなっておるでしょうけども、立花局長、何かいいですか。眠たくないですか。松井部長、大丈夫ですかね。二宮部長も大丈夫ですか。よくこっちを見ててくださいよ。

今回もですね、前回ちょっと私、一般質問しませんでしたけども、今回はですね、また市民の声が届いております。今回もまた市長さんということで、市長もなかなか人気があってうれしいんじゃないかなと思うんですけども、うれしゅうございますかね。うれしいということでございますので、じゃあ市民の声を届けさせていただきたいと思います。

市長さんの施政方針演説をケーブルテレビで見せていただきましたと。立派な話でありましたが、私の方針も聞いてくださいと。昨年はＮＨＫの「ブラタモリ」で２週間にわたり対馬市の放送があってました。元寇の襲来した小茂田と日本の最強の山城、国の特別史跡金田城など、タモリさんがたくさん対馬市をＰＲをしてくれました。タモリさん、本当にありがとうございました

ということです。今度は対馬自身がＰＲをするときではないでしょうかと。他人任せではどげんしますか。来年は市制２０周年と聞いております。市長さん、パーッとやりましょう。日本一の金田城をバックに、日本を代表する歌姫ＭＩＳＩＡのミニコンサートをやったらどうでしょうかと。そして観客はたった１人だけ。日本ハムのビッグボス新庄監督と、そして人間ではありませんが、世界中で大ヒットしたゴースト・オブ・ツシマの主人公、境井仁の大きなぬいぐるみ、これだけで十分ですと。日本と世界のマスコミを呼んで、対馬をＰＲしてくれませんか。市民に夢をくれませんか。私の地域には議員先生はおられますが、偉い人と思っただけで、怖くて話ができませんと。市長さんだけが頼りですと。対馬をどんどん引っ張ってくれませんか。対馬の市長はあなた一人だけですと。いつも応援をしておりますというかわいらしい女性からの声でございます。

今、世界ではやはりウクライナ問題、先月の２月２４日でちょうど１年、丸１年になったわけでございますが、いまだかつて、毎週のように、毎日のように悲しい情報ばかりでございます。

しかし、このような世の中でも、ただ一つだけうれしいお話がございます。１０年前にこの対馬から韓国人が盗人した豊玉の仏像、これがいつでしたか、２月１日に韓国の高裁で、高裁というのは日本と同じように韓国も三審制です。一審では敗訴したんですが、この二審の高裁で逆転勝訴いたしまして、観音寺の所有が認められたということです。非常にうれしいわけでございますが、これに対して、マスコミのインタビューを受けた私どもの親愛なる観音寺の前住職の田中節孝氏が、次のように談話を発表しておられます。韓国の司法が初めて正当性を認めたということで、非常に喜ばしいと思う。帰ってきた仏像を拝まないと確信は持てないが、やっと一歩進むことができたと思う。単純な窃盗事件で、政治を絡める必要もないし、なぜ１０年もかかったのかと疑問に思うと、まだ怒り心頭のようでございます。幸いとして、韓国の大統領も新しくなりました。やっと人間らしく文化人に近づいたのではないかと思います。これからは、この国内法を遵守していただいて、盗んだものは、すぐにぴしゃりと返すという考えで韓国も取り組んでいっていただきたいと思います。

今度、国内の話になるんですが、岸田総理の息子さんですね、秘書官をされておるそうでございますが、この秘書官が総理と一緒にヨーロッパに行かれて、同行されて、そして公用車でネクタイを買ったんだということで、野党の皆様が声を荒げておりますが、しかし、ねえ市長、ネクタイを買ってもいいじゃないですか。そう思いませんか。それよりも、この日本国の令和５年の予算は１１４兆円という大きい金額ですよ。これを真剣に審議をしていただきたいと思います。

ちょっと話が相当前になるんですが、１３年ほど前ですか、このとき自民党は野党で、民主党政権のときです。今でいうと立憲とかそのような方が政権を取っておったわけですが、そのときに、この自民党の女性の議員がおられるんですが、丸川珠代参議院議員、なかなかのべっぴんさ

んでございますけども、このべっぴんさんが、この委員会の中でこのように発言をしております。なかなかすばらしいですよ。これは今の民主党、立憲というんですかね、そういう形の方に対して、「この愚か者めが。この下らん選択をした馬鹿どもに絶対に忘れん」と。「この愚か者めが」と、強い口調で非難されたわけでございますが、どうなんでしょうかね、これじゃあ、ちょっと言葉が足りないんじゃないかと思うんですよ。市長もそう思いませんか。言葉が足りません。どういう言葉が足りんかというと、このたわけ者がという言葉が足りなかったんじゃないかなと私は思っております。

では、さきに通告しておりました１点について、市政一般質問させていただきます。

元市職員の約６，０００万円の横領問題についてということです。

ちょうどこの３月２日、この日なんですけども、事件が発覚した日なんですよ。偶然とは非常に怖いもので、今日がこの命日みたいなもんなんですね。でですね、この件について、まず２点お尋ねしたいと思うんですが、もう今日でちょうど１年になります。そして裁判というのは、民事裁判もございますし刑事裁判もございます。この２つの裁判の進捗状況、これは現在どこまでいっているのか。これは市民の皆様も非常に気にしていることですから、この進捗状況を１つと、２点目は、この対馬観光活性化協議会の責任についてということです。これは、私も何回もこの議場でもお話をしましたが、なかなか形が見えないんですね。本来なら、この協議会の会長さんが議会に出てきていただいて、そこで私どもが質問をすれば、すごく早く片づくわけですが、でも、お願いしてもなかなか出席がかないません。幸いなことに、この活性化協議会のメンバーのお一人、５人のうちの１人が市長でありますし、また、これを創設したのも市が中心となっております。さらに、事務局は対馬市の観光交流商工部が担っているということがございますから、先ほど言ったように、会長さんが来ていただくのが一番いいんですが、これもかなわないということであれば、あえて市長に質問させていただきます。この１点、２点について御答弁をお願いいたします。

○議長（初村　久藏君）　市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝　尚喜君）　小宮議員の質問にお答えいたします前に、先ほど私のほうに対して励ましという言葉でいただきましたけども、その中で、対馬出身のＭＩＳＩＡさんのお話がございました。

私も、かねがねＭＩＳＩＡさんにつきましては、何とかして対馬に呼ぶことができないか、または、できんときはふるさと大使みたいな観光ＰＲ大使になることができないかという構想は持っておりましたけども、これまで３年間のこのコロナ禍の中で、なかなかＭＩＳＩＡさんの事務所のほうに出向くことがはばかられるということで、これまでは全く活動しておりませんでしたけど、この議会が始まる前に、担当部のほうに何とかまずアポを取ってくれということで、この

議会が終わったら日程調整をして、何とかして、まず当たって砕けろという気持ちもありまして、ＭＩＳＩＡさんの事務所のほうに出向きたいという思いを持っておりますので、また皆様の御協力等をお願いしたいというふうに思っております。

それでは、質問についてお答えをしたいと思います。

初めに、令和４年３月２日に発覚しました元市職員による公金横領問題に係る裁判の進捗状況についてでございますが、まず刑事裁判では、９月６日に第１回公判が行われ、その後１０月２５日に第２回公判が、１２月６日に第３回公判が行われております。この３回の公判内容は、横領額等の事実確認が主なものでございます。

次に、１月１８日の第４回公判では、被告による横領に至った動機などの陳述が行われております。

直近の裁判は２月１６日の第５回公判になりますが、既に新聞で報道されておりますとおり、検察側から懲役５年６か月の求刑がなされております。

最終的な判決の言い渡しは３月１６日の第６回公判で行われ、刑の確定は裁判官から言い渡しがされた翌日から１４日過ぎて上訴が行われなければ、確定することとなります。

なお、刑事裁判は長崎地方裁判所厳原支部で行われます。

次に、民事訴訟では９月２７日に第１回公判が長崎地方裁判所厳原支部で行われ、被告は争わない姿勢を示し、即日結審をしております。

その後、被告から控訴がなかったため、１１月２日に判決が確定しております。

なお、判決内容は、市の請求どおり、被告に対し損害賠償５，９６６万１，４８１円、及びこれに対する令和４年５月７日から支払い済みまでの年３％の割合による金員の支払い並びに訴訟費用の負担でございます。

次に、対馬観光活性化協議会の責任についてでございますが、本協議会は令和２年１月に、対馬市、対馬振興局、対馬市商工会、対馬観光物産協会、対馬市国際交流協会の観光関連機関で組織し、主に観光客誘客のため、各種助成事業等を行う任意団体であります。事務局は市観光交流商工部内にあり、業務運営及び支出事務を部内職員が遂行し、部課長が決裁を行っておりました。

役員の責任としましては、令和４年９月の第４回定例会で御説明をさせていただきましたとおり、事件解決までは会を存続させ、今の役員が責任を持って役員の任務を負うことで対応を行ってまいります。

協議会の謝罪文につきましては、会長名で９月２１日から市ホームページで掲載を行っております。

今回の不祥事につきまして、市民の皆様をはじめ、議員皆様に多大な御迷惑をおかけしまして、改めて深くおわびを申し上げます。

市では、事務処理の厳格化を図り、職員一丸となり、一日も早く信頼を回復できるよう努めてまいります。

以上であります。

○議長（初村　久藏君）　１４番、小宮教義君。

○議員（１４番　小宮　教義君）　裁判の経緯ですよね。まず刑事訴訟、刑事問題については、第５回のときに求刑があり、懲役５年６か月の求刑があったということですね。そして、最終的な結審の判決は、この３月の１６日に裁判所から言い渡されるということですね。懲役５年６か月、そして最終的には３月の１６日に裁判所から結審が下るということでよろしいですね。分かりました。

それと、この民事訴訟については、１１月の２日ですか、もう結審をしたと。そして、市が提示した約６，０００万円の支払いの決定をなされたということで経過はよろしいですね。分かりました。

もう民事が終わった、あとはもう刑事問題だけですから、これが先ほどの３月の１６日に結審をするということでいいんですね。はい、分かりました。

そうして、この対馬観光活性化協議会の責任でございますが、私は何回もずっと責任を取るべきじゃないのかというのは申し上げておりますが、この責任の取り方はいろいろあると思うんですが、この流れの中で、例えばその市の職員の管理職の手当、これを半減をして約１，５００万円程度、そして市長と副市長で、それぞれ減給などされて１，０００万円程度という大きい犠牲を払いながら、先ほど言ったように、私は何回も協議会の謝罪なり何か、公的な立場でやったらどうかという話で、ずっと話をしよったんですが、公的な反省といいますか、謝罪そのものもない。

先ほどの市長のお話ですと、９月２１日からホームページで。これはないでしょう。これだけの大きい金額を横領しておりながら、その本体が観光活性化協議会なんですよ。そこは正式に公の場で謝罪なりをしなければ、この問題の解決はできませんよ。ホームページなんて、あまり見ませんからね、普通の一般の方は。そこは、公的な立場で謝罪なりやるべきだと思います。

それでですね、この問題についてはいろいろな取り上げ方があると思うんですが、一番常識といいますか、この対馬市がこの問題についての第三者の協議会に調査などを委ねています。これは、大学教授とか弁護士含め、公認会計士３人で出している文書ですよ。報告書。約５００万円もかかっているんですけどね。

この中で、何点かお尋ねしたいと思うんですが、その前に、これを受けたということは、これを了承したということでよろしいですね、市長。どうなんですか、その辺を先に。これは受けたということは、この内容を了承したということでよろしいですか。

○議長（初村　久藏君）　市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝　尚喜君）　はい、そのようなことで了承しております。

○議長（初村　久藏君）　１４番、小宮教義君。

○議員（１４番　小宮　教義君）　分かりました。了承したということであれば、内容は十分確認してあるわけですから、この中の、これは市長のほうに、この２点については答弁をお願いしたいと思うんですが、この中に、先ほど言ったすごい人たちがつくった文書ですよ。この中に、この報告書の約１３ページ、ここに、このように書いてあるんですよ。なお、協議会はというのは、活性化協議会ですね、法人格のない任意団体であり、設立は容易である一方、法律行為は団体名で行うことができない団体であるというふうに書いてあるんですよ。要するに法律行為はできないんだと、任意団体だから。というのがありながら、こちらのほうから損害賠償請求というのが出ております。これは市長宛てですよ。ここに当初の文書の頭は、対馬活性化協議会はどうのこうのあって、職員が約６，０００万円取ったんだと。ついては、本会は対馬市に対し、国家賠償法第１条第１項の規定により、この損害を早急に賠償されるよう要求いたしますと。任意団体でありながら、このような文書を出して、市長は受けたわけですから、これを受けたときに市長は何も思いませんでしたか。

○議長（初村　久藏君）　市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝　尚喜君）　確かに、そのような法人格のない任意団体ではありますけども、ここの対馬観光活性化協議会が事務局の窓口になっているということで、そこに対して損害を与えたというようなことから、そういった請求書が来たものというふうに理解をしております。

○議長（初村　久藏君）　１４番、小宮教義君。

○議員（１４番　小宮　教義君）　それはそうなるんでしょうけども、法的な手続の中において、任意団体としては法的な行為は禁じてあるということですから、よくその辺も十分に理解された上での受理をしていただきたかったと思いますよ。

それと、あと１点目ですが、この報告書の１７ページ、ここに、なぜこの問題が発生したのかということで、第４章のところに、事案の発生要因として、任意団体における会計事務に関するルールが未整備だったと、初歩的な内容統制が不備であったんだと、だからこのように事件が発覚したということなんですよ。だから、事件の発覚はこの当協議会に大きい責任があるんじゃないんですか。その辺はどうなんですか、市長。

○議長（初村　久藏君）　市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝　尚喜君）　確かに、会計事務に関するルールが未整備であったということは事実であります。そういう中で、今回、改めて職員に対しても今後の改善策を周知しなければならないというようなことで、今後の上司の監督不足を補うための施策という計画を定めていただいた

ということで理解をしていただければというふうに思います。

○議長（初村　久藏君）　１４番、小宮教義君。

○議員（１４番　小宮　教義君）　この報告書が出たのは、５月１３日に出たわけですから、これを受理した時点で、それなりの責任の所在ははっきりしているんですから、その対応を早くすべきだったと思いますよ。受理したんだから。それは大きな落ち度だと思いますよ。

あと、この当協議会と長崎県観光連盟と、それと対馬観光物産協会とか対馬空港ターミナルビルの契約関係について、以降は部長のほうに答弁をお願いしたいと思うんですが、この観光連盟と物産とターミナル、空港ターミナルですね、この契約の日付はいつなんですかね、契約の日付は。

○議長（初村　久藏君）　観光交流商工部長、村井英哉君。

○観光交流商工部長（村井　英哉君）　お答えいたします。

まず、対馬観光活性化協議会が県の観光連盟と最初にこの事業について契約をいたしましたのが、令和３年４月１日でございます。

同じく、県の観光連盟から委託を受けた対馬観光活性化協議会が、交付事務のことですけれども、一部再委託をした相手方、対馬観光物産協会と、それから対馬空港ターミナルビルでございますけれども、同日の令和３年４月１日に契約をいたしております。

以上です。

○議長（初村　久藏君）　１４番、小宮教義君。

○議員（１４番　小宮　教義君）　一番最初に、この当協議会と、それと観光連盟の契約は４月の１日付ですよね。ほかの２つも同じ日付なんですよ。よろしいですか。まず仕事の流れとしては、観光連盟との契約が４月１日ですよね。そこで正式に金額の内容も分かるわけですね。金額の内容が分かった後に、例えばその２つの事業者のほうに見積もりを取るなりしてするのが普通なんですよ。事前に取ったと、そういうふうに金額を設定したということであれば、これは官製談合そのものですよ。契約金を確定した後に、せめて１週間ぐらいの後に、事業者からの見積もりを取るなりして決定するのが普通なんですよ。非常に成立しませんよ、こんなものは。答弁要りませんよ。できんやろうからね。

１つ確認したいんですが、長崎県観光連盟との契約ですね、当活性化協議会が。印鑑を押しているわけですけども、この印鑑を押したという行為は、この活性化協議会の会長の承認の下に印鑑を押したんですか。

○議長（初村　久藏君）　観光交流商工部長、村井英哉君。

○観光交流商工部長（村井　英哉君）　県の観光連盟と契約いたすときには、当然のことながら、会長の承諾を得て契約をしておるというふうに認識しております。

○議長（初村　久藏君）　１４番、小宮教義君。

○議員（１４番　小宮　教義君）　あのですね、この印鑑を押すという行為は、非常に重い責任を負うんですよ。普通の人が保証人の印鑑を押しますよね。押すと、そこに大きい責任が民法上生じるんです。その人の債務保証するわけですから、印鑑を押すという行為は非常に重みがあるんです。

今回は、契約書も一緒ですよ。民法の中で厳しく規定をしています。そういう文書に印鑑を押したということは、この当活性化協議会が社会的な責任を持ったという理解でよろしいんですか。

○議長（初村　久藏君）　観光交流商工部長、村井英哉君。

○観光交流商工部長（村井　英哉君）　以前から御説明をさせていただいておりますけれども、対馬観光活性化協議会、これは任意の団体でございまして、先ほど議員のほうからもそういったお言葉がありました。そういった中で、規約のみでつくられた組織であります。けれども、そこには会長、副会長以下委員、それから監査までということで、一つの事業体ということでやっておりますので、それは通常の様々な団体が担う会長としての重さというのと同じように考えております。

以上です。

○議長（初村　久藏君）　１４番、小宮教義君。

○議員（１４番　小宮　教義君）　分かりました。

ここに、これ５月２日の分ですかね、この中に、この活性化協議会の考え方、対応としてこのように書いてあるんですよ。協議会役員は、いいですか、全員無報酬であるとともに、常に役員が事務所に管理しているものではなくて、役員がその損害賠償を負う責任がないと、こういうふうに当活性化協議会は結論づけておるんです。

この賠償責任はないというのは、この６，０００万円の部分なのか、それとも賠償責任という全体において責任がないというふうなことなのか、どっちなんでしょうかね。役員が損害賠償を負わないというのは、この賠償６，０００万円の横領部分も含めて、全てにおいて責任を負わないということなのかということ、賠償についてということですよ。分かりましたか。

○議長（初村　久藏君）　観光交流商工部長、村井英哉君。

○観光交流商工部長（村井　英哉君）　この横領がありました６，０００万円に対するそういう賠償については、負わないということでございます。

○議長（初村　久藏君）　会議時間を延長します。

どうぞ、１４番、小宮教義君。

○議員（１４番　小宮　教義君）　じゃあ、ほかのほうの責任は負うということでいいんですよね。いいですか。

それでは、ならば、この観光連盟との契約書の中で、２ページのところに、この第三者に及ぼした損害というのがあるんですよ。この第三者というのは、当活性化協議会と観光連盟を省くものが第三者になるんですが、このときに、第三者に影響を及ぼしたときには、甲はその責任を賠償しなければならない。要するに、第三者に被害を与えたときには、当活性化協議会が責任を負うという文面があるんですが、これはこれでいいんですかね。こういう責任を負うということで。

○議長（初村　久藏君）　観光交流商工部長、村井英哉君。

○観光交流商工部長（村井　英哉君）　甲に対して、乙はそういった賠償を起こすような事態は起こっておりませんので、そういうことになります。

○議長（初村　久藏君）　１４番、小宮教義君。

○議員（１４番　小宮　教義君）　賠償を負うという状態が起きていないと言われるが、いいですか。今回の問題については、宿泊施設とかタクシーとか、直に払ってない部分がありましたよね、約三百五、六十万円か、これは、この活性化協議会が責任があると言うなら、これは当然、この１５条において、当活性化協議会が責任を負わなければならないんですよ。印鑑を押したんだから。その辺はどうなんですか。

○議長（初村　久藏君）　観光交流商工部長、村井英哉君。

○観光交流商工部長（村井　英哉君）　契約に対する印は、もちろん会長として押していただいて契約をするわけでありますけれども、先ほど議員が申されましたように、対馬観光活性化協議会が県関連等、市も含めて預かっておりました公金を、そこに属する職員によって横領され、使われたということでありますので、協議会自体は、この場合、我々は被害者ということで市のほうに請求した、そういう損害賠償法の流れとなっております。

○議長（初村　久藏君）　１４番、小宮教義君。

○議員（１４番　小宮　教義君）　横領したのは、確かに６，０００万円だけれども、法的にこういうふうに第三者に発生したときには、横領金というのは、実際は、これは当活性化協議会が責任を持って払うべきお金なんですよ。そのための契約書なんだから。そういうずさんな事務的なものをしておるから、こういうことになるわけですよ。それはよく理解してくださいね。

それで、もう時間もありませんけども、この活性化協議会の規約に、なぜこういう事件が起きたのかというと、この規約の１２条にこう書いてあります。いいですか。協議会の予算編成、現金の出納、これは出納関係ですよ。その他の財産に関して、必要な事項は会長が別に定めると。この時点で必要な事項、出納関係を定めておれば、その後に、これは９月の１５日からお金を下ろし始めたから、監査の書式もはっきりとできたじゃないですか。事項を定めればね。だから、監査の手続もぴしゃっといくのに、それもしなかったんですよ。この会長の責任というのは非常に重いんですが、その辺は市長はどうお考えですか。

○議長（初村　久藏君）　市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝　尚喜君）　確かに、会長が損害を負わないということでは、私はそのとおりだと思いますけども、ただし道義的な責任と申しましょうか、そこについては、確かに厳しいものがあろうかと思っております。

○議長（初村　久藏君）　１４番、小宮教義君。

○議員（１４番　小宮　教義君）　次に、ちょっとまた何点かお尋ねしたいんですが、この観光連盟との契約の中で、非常に私は理解できないのがあるんですが、契約金が７２１万3，１２２円ですね。そして、空港ターミナルに払ったお金が３３０万6，６００円、そして物産に払ったお金が３９０万3，２００円ですよ。７２１万3，１２２円からこれを引くと、3，３２２円しか残らないんですが、この契約書からいうと、交付及び換金業務、換金業務も入っているんですよね。そうすると、先ほどの２つは交付の金額ですから、じゃあ、この換金業務は3，３２２円でできるという判断でこの２つの業者との契約をされたんですかね。

○議長（初村　久藏君）　観光交流商工部長、村井英哉君。

○観光交流商工部長（村井　英哉君）　お答えいたします。

先ほど、令和３年４月１日付で県観光連盟と同活性化協議会が契約を結んだということをお伝えいたしました。

今おっしゃいますように、そのときの契約金額が７１８万円ほどだということでございまして、この当初の契約したときの７８万１２２円という契約額でございますけれども、この件について、実は前回９月でも私のほうで不明瞭な回答になっておりまして、この点については、この場をかりて説明をし直したいと思いますけれども、その契約をしました７２０万円と申しますのは、そこに予定額の根拠というのがございまして、あくまでも当協議会といたしましては交付と換金に関する事務の中で、交付については観光物産協会、それから対馬空港ターミナルビル、この２社にお願いをしようということで、そこの中に入り込んだその根拠の金額であります。

どういうことかと申しますと、交付事務における人件費ということで、ほぼほぼこの７２０万円を考えて、我々は契約を県観連とさせていただいたところであります。

○議長（初村　久藏君）　１４番、小宮教義君。

○議員（１４番　小宮　教義君）　そのようにして払って、その換金だけ、交付だけでそれだけ払って、残りが3，０００何ぼしかないんですよ。それで換金事務をしなければいけない。だけども、実際できない金額じゃないですか。

私もちょっと気になったんで、観光連盟のほうに文書を出していただいたんですが、回答が来ているんですよ。いいですか。あらかじめ委託する、あらかじめ市職員が兼ねていた協議会職員の人件費は不要ですよというふうに言われたと観光連盟が。そういうふうにしているんですよ。

実際ならば、私が計算したら、この換金業務に係るお金は約１５万円ぐらい算出されるんですよ、あの県連のデータから見ると。でも、この１５万円を、実際はその換金業務として市が取るべきだったんですよ。要らないと言っているんだから。市が取れば、この問題に、この文書にあるように、この報告書にあるように、この被告人は、土曜日、日曜日も働くんだと。そして対応に当たった時間は残業代にはカウントされていないというふうな証言もしているんですから、こういうことにも実際ぴしゃっとしてやればできたわけですよ。そこまでにずさんだったということです。この業務はね。

それで、結論ですけれども、先ほどホームページという話がありましたが、これでは皆さん分かりませんよ。やはり公的な、ほぼ公的な機関ですから、公的な機関の者が、代表者が公的な場で謝罪をする、これが民主主義のルールなんですよ。

市長にお願いしたいのは、ホームページでは皆さん分かりませんから、議場でもいいじゃないですか。皆さんの前で正式に謝罪をすると。５人そろって、市長も含めてですよ、そろって、皆さんに頭を下げるという行為が私は必要だと思いますよ。また持ち帰って、その辺のところを重々検討していただきたい。それが最終的なその問題の解決策だと思いますよ。よろしいですか。持ち帰って重々検討するように。最後に一言。

○議長（初村　久藏君）　市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝　尚喜君）　持ち帰って検討するということで、やぶさかではありません。

ただ、その中でどういった形で謝罪をするかも含めて検討させていただければと思います。そこで、できたらケーブルテレビ等で皆さんそろって、できれば、またいつでもできるという思いを持っておりますので、そこら辺で検討させていただきます。

○議長（初村　久藏君）　１４番、小宮教義君。

○議員（１４番　小宮　教義君）　やはり、金額が金額で大きい金額ですし、市民が納得いくように、先ほどの形でもいいじゃないですか。もうちょうど１年なんです、今日で。ぴしゃっと結論づけていただきたい。

以上、終わり。

○議長（初村　久藏君）　これで、小宮教義君の質問は終わりました。

―――――――――――――・―――・―――――――――――――

○議長（初村　久藏君）　以上で、本日予定しておりました市政一般質問は終わります。

明日も引き続き、定刻から市政一般質問を行います。

本日はこれで散会とします。お疲れさまでした。

午後４時06分散会

令和５年　第１回　対　馬　市　議　会　定　例　会　会　議　録（第11日）

令和５年３月３日（金曜日）

議事日程（第４号）

令和５年３月３日　午前10時00分開議

日程第１　市政一般質問

本日の会議に付した事件

日程第１　市政一般質問

出席議員（18名）

１番　糸瀬　雅之君	２番　陶山荘太郎君
３番　神宮　保夫君	４番　島居　真吾君
５番　坂本　充弘君	６番　伊原　　徹君
８番　船越　洋一君	９番　脇本　啓喜君
10番　春田　新一君	11番　小島　徳重君
12番　小田　昭人君	13番　波田　政和君
14番　小宮　教義君	15番　上野洋次郎君
16番　大浦　孝司君	17番　作元　義文君
18番　黒田　昭雄君	19番　初村　久藏君

欠席議員（１名）

７番　入江　有紀君

欠　　員（なし）

事務局出席職員職氏名

局長	勝見　一成君	次長	平間　博文君
課長補佐	糸瀬　博隆君	係長	犬束　興樹君

説明のため出席した者の職氏名

市長	比田勝尚喜君
副市長	俵　　輝孝君
教育長	中島　清志君
総務部長	木寺　裕也君
総務課長（選挙管理委員会事務局書記長）	一宮　　努君
しまづくり推進部長	伊賀　敏治君
観光交流商工部長	村井　英哉君
市民生活部長	舎利倉政司君
福祉保険部長	國分　幸和君
健康づくり推進部長	桐谷　和孝君
農林水産部長	黒岩　慶有君
建設部長	内山　　歩君
水道局長	立花　大功君
教育部長	八島　誠治君
中対馬振興部長	松井　惠夫君
上対馬振興部長	阿比留　裕君
美津島行政サービスセンター所長	藤田　浩徳君
峰行政サービスセンター所長	居村　雅昭君
上県行政サービスセンター所長	原田　勝彦君
消防長	主藤　庄司君
会計管理者	二宮　照幸君
監査委員事務局長	志賀　慶二君
農業委員会事務局長	主藤　公康君

午前10時00分開議

○議長（初村　久藏君）　おはようございます。

報告します。入江有紀君から欠席の届出があっております。

ただいまから議事日程第４号により、本日の会議を開きます。

日程第１．市政一般質問

○議長（初村　久藏君）　日程第１、市政一般質問を行います。

本日の登壇者は４人を予定しております。

それでは、届出順に発言を許します。２番、陶山荘太郎君。

○議員（２番　陶山　荘太郎君）　皆さん、おはようございます。会派きざはし、２番議員の陶山荘太郎です。

さて、ロシアがウクライナへの侵略を開始して、先月２４日で１年となりましたが、ウクライナは徹底抗戦の構えで終息の見通しは立たず、エネルギーや食品価格が高騰し、生活への影響が続いています。

また、新型コロナウイルス第８波も保健・医療現場や市民の皆様の御尽力により、徐々に収束に向かい、政府は、５月８日には現在の２類相当から５類に移行する方針を決定しましたが、感染対策や医療体制の具体的な在り方は、今後、明らかにすると説明しています。

そのような中、２月２５日からは、比田勝・釜山航路も運航再開し、就航日数と乗船人員に制限はありますが、韓国からの観光客も来島するようになり、少しずつですがコロナ禍前の生活に戻りつつあります。

今後は、政府の方針や支援対策を注視するとともに、県とも連携しながら事象に応じた対策を実施しなければなりません。対馬が、混乱なく閉塞感から解放され、よりよい生活に戻れるよう尽力していきたいと考えております。

それでは、通告に従い、大きく２つの項目について質問いたします。

１つ目は、対馬市の空き家対策について質問いたします。

空き家問題は全国的に懸念されているものでありますが、人口減少が激しい対馬市においては、より深刻な問題となっています。

まずは、対馬市の空き家の現状及び空き家対策への補助事業、並びに有効な利活用の状況についてお尋ねいたします。

また、空家等対策の推進に関する特別措置法の一部を改正する法律案が、開催中の第２１１回通常国会に提出予定となっています。

既に、令和３年６月３０日付で基本的な指針とガイドラインは改正されており、今回の法改正の要点は、空き家等の所有者等の意識の涵養と理解の増進、空き家等の増加抑制及び利活用と除却の推進にあると思います。

空き家対策は、安心、安全なまちづくりや立地適正化計画などの推進において、非常に重要な課題となってくると思いますので、今後、どのような対策を考えているのか市長の答弁をお願いいたします。

２つ目の質問は、地域における社会教育の充実とコミュニティ・スクールの推進について質問いたします。

昨今の子供たちや学校を取り巻く環境は、複雑・多様化しています。そのような中、教職員の

働き方改革や新学習指導要領を進めていくには、社会総がかりで子供たちを教育する体制を構築することが必要と言われています。

そこで、対馬市での社会教育団体の現状と課題について、教育長にお伺いします。

それから、教育要覧にあるコミュニティ・スクールの準備・検討をどのように推進していくのか。また、推進する際の市長部局との連携体制について、教育長の答弁をお願いいたします。

以上が、今回の質問内容となります。

本日は、ひな祭り、桃の節句です。ひな飾りのぼんぼりに明々と明かりがともり、桃の花が満開になるとともに、女の子も男の子も健やかでたくましく育つことを祈るとともに、対馬に生まれてきてよかったと思えるような、すばらしい答弁を期待しております。よろしくお願いいたします。

○議長（初村　久藏君）　市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝　尚喜君）　おはようございます。陶山議員の質問にお答えいたします。

初めに、対馬市の空き家対策についてでございますが、本市の空き家の現状につきまして、総務省が５年ごとに実施しております住宅・土地統計調査における直近の平成３０年度調査の数値では、空き家が３，０００棟確認されており、空き家率は１８．５％と、県及び全国と比較しても高い状況となっております。

このように、市内全域に空き家が存在しており、最近では老朽化が進んだ空き家も見受けられるようになっております。このような管理不全な空き家について、市民の方より相談があった場合につきましては、税務情報等で所有者の確認を行い、当該家屋の現況写真と適正な管理を行うよう文書での通知を行っております。

例年５件程度の相談があっており、所有者が島内に居住している場合には解決できた事例もありますが、ほとんどの所有者が、相続などによる島外在住であり、高齢や経済的理由等でなかなか改善されないのが現状であります。

現在、空き家対策として活用できる制度につきまして、空き家バンク制度があり、空き家の登録や利活用に係る相談に対応しており、空き家の改修工事や家財道具などの処分費用について助成制度を設けております。

現在の空き家バンクの登録状況につきましては、１月末で１５件の登録があっております。また、管理不十分な空き家にさせない取組として、シルバー人材センターが実施しております空き家管理事業があり、空き家の見回りや敷地内の除草、樹木の伐採等を行っておりますので、空き家所有者から相談があった場合には、情報提供を行っているところであります。

今後、増加が見込まれる空き家の発生抑制における対応につきましては、空き家になり管理ができなくなる前の対策としまして、関係部局による支援策においての空き家の利活用の検討を行

っていきたいと考えております。

また、飛散・倒壊の危険が予見される管理不十分な空き家に対しましては、住宅用地に対する固定資産税の課税標準の特例の対象としないこととするなどの、空き家所有者の自発的な取組を促す施策等の検討を併せて行っていきたいと考えております。

今後は、人口減少等により空き家の増加が見込まれることから、今月末に公表となります立地適正化計画で、効果的な空き家の抑制方法や利活用、解体・除却に係る支援策など総合的な対策について、他の自治体の先行事例等を参考にしながら、検討してまいりたいと考えているところでございます。

以上でございます。

○議長（初村　久藏君）　教育長、中島清志君。

○教育長（中島　清志君）　陶山議員の教育委員会関係の御質問にお答えいたします。

２点目の、地域における社会教育の充実とコミュニティ・スクールの推進についてでございます。

初めに、対馬市における社会教育団体の現状と課題についてですが、教育委員会におきまして支援及び連携を図っております社会教育関係団体につきましては、ＰＴＡ連合会や青少年健全育成連絡協議会、婦人会連絡協議会、青年団、文化協会、スポーツ協会等の団体がございます。各種団体におかれましては、団体の目的に応じた各種事業を計画され、取り組まれております。

しかしながら、新型コロナウイルス感染症の影響から、ここ数年間は事業の準備は進めても、感染拡大により、やむを得ず事業を中止したり、規模を縮小して開催したりするなど、思うような取組ができない状況でもあります。

また、対馬市の人口減少や少子高齢化の進行に伴い、会員数の減少や役員の人選に苦労されたり、役員の任期が短く、多くは１年交代のために活動の活性化が難しいなどの悩みもあるようでございます。

教育委員会といたしましては、各種社会教育関係団体の活動に対し、今後も支援を続けるとともに、持続可能な活動にしていただけるよう、役員の皆様との連携に努めてまいります。

次に、コミュニティ・スクールの推進要領についての御質問にお答えいたします。

コミュニティ・スクールの設置状況等については、令和４年９月の第３回定例会でお伝えいたしましたとおり、令和２年度に設置した佐須奈小中学校の１校となっております。

現在、令和６年度からの新たなコミュニティ・スクールの設置に向けて、厳原地区と峰地区から小学校２校、中学校２校の計４校を選定し、各学校への説明を終え、内諾をいただいている状況です。

コミュニティ・スクールの全校設置までのスケジュールについて御説明いたします。

運用開始の１年前を設置準備の期間として、教育委員会事務局職員がそれぞれの学校に出向き、学校、保護者、地域に対して、既存の組織等を活用して説明を行います。

原則として、中学校区ごとに１つのコミュニティ・スクール、学校運営協議会を設置する予定です。

上地区には、佐須奈小中学校に既に設置されていますので、来年度は令和６年度からの運用開始に向け、中地区から峰町の学校と下地区から厳原町の学校に準備をしていただきます。

学校の選定については、中学校区内の小学校数や学校の統廃合の状況を考慮しながら、今後１年間に２から３の学校運営協議会、学校数にして４校から６校程度の設置を進め、令和１０年度までに全校への設置を完了したいと考えております。

次に、コミュニティ・スクールを推進する際の、市長部局との連携についての御質問にお答えします。

市長部局との連携については、令和４年１２月の総合教育会議において、コミュニティ・スクールの導入推進について協議をしております。

今後の課題としては、まず、コミュニティ・スクールは本市の学校運営協議会規則にのっとり運営されていますが、そこには学校運営協議会委員の報酬等についての規定がないことが挙げられます。コミュニティ・スクールを持続可能なものにするためには、委員になっていただく皆様への報酬等の設定を検討していかなければならないと考えています。市長部局と連携を図り、財源の確保に努めてまいります。

２つ目の課題としては、委員の人選が挙げられます。

規則では、校長先生の推薦に基づき地域住民や保護者などから、１５名以内の委員を任命することとしています。現在、学校支援会議の委員や学校評議員などとして学校を支えてくださっている皆様には、ぜひ、地域とともにある学校づくりに参画していただきたいと考えております。

今後、コミュニティ・スクールの導入に当たり、新たな問題が生じた場合には、市長部局と連携して問題を解決しながら、円滑に進めてまいりたいと考えております。

以上でございます。

○議長（初村　久藏君）　２番、陶山荘太郎君。

○議員（２番　陶山　荘太郎君）　ありがとうございました。

それでは、まず、空き家のほうから一問一答で質問していきたいと思います。

空き家の対策としまして、シルバー人材センターに管理をお願いするというのがあったんですけども、予算のほうでもあったんですが、シルバー人材センターの、今、ちょっと受注のほうが減っているということなんですけども。

空き家バンクでもいいんですけども、ほかの空き家でもいいんですが、シルバー人材センター

に受注があった件数等が分かれば。

○議長（初村　久藏君）　しまづくり推進部長、伊賀敏治君。

○しまづくり推進部長（伊賀　敏治君）　しまづくり推進部で所管しております空き家バンクについての限定にはなりますけども、原則、所有者、島内におられなくても島外に所有者がおられても、原則、所有者の管理になるんですけども。

どうしても島外におるということで、自分でできない場合に、こちらのほうからシルバー人材センターとかがありますよというあっせんをしているという現状でございまして。そのほかにも、自分の身内に頼んだりとかということもあるのかなとは推察はしますが。うち、シルバー人材センターのほうにあっせんして、実際、頼まれたかどうかというところの数字までは、つかんでおりません。

○議長（初村　久藏君）　２番、陶山荘太郎君。

○議員（２番　陶山　荘太郎君）　分かりました。そんなにないとは思います。ちょっとこれは不確かだから、あまりあれですけど。

空き家バンクに登録している数が１５件とあったんですけれども、現在、ホームページで私が確認している１２件ぐらいがあるんですが、まだ３件はホームページに載っていないっていうことでよろしいかと思います。

空き家バンク制度というのは、２年間の制度ですよね。１回の２年の延長があるということで、４年間空き家バンクに登録ができると、最大。その間の管理責任は所有者にあるということで、空き家バンクの中で書いているんですけれども。

空き家バンクに登録がある１２件をちょっと見ている限りでは、それぞれに立地条件や家屋の程度が異なっており、全物件に申し込みがあるとは思えない状況だと思います。

これは、相談とかになると思うんですけれども、現在、空き家バンクの登録期間で、先ほど、市長が家財の除却ですか、それに補助金とか何かを活用するような相談を受けているということであったんですけれども。

この登録期間を過ぎた場合、借り手とか買い手がなかった場合に、どのような指導とか助言をしているのか、そこら辺、ちょっと分かれば教えてください。どういう例があったかでも構いません。それも担当部長でも構いません。

○議長（初村　久藏君）　しまづくり推進部長、伊賀敏治君。

○しまづくり推進部長（伊賀　敏治君）　陶山議員のおっしゃるとおりで、２年間登録で、最大延長で４年ということになっておりますけども、その期間を過ぎれば登録廃止ということで、特に指導、空き家バンク制度の登録廃止後の、その後の管理についての指導というところまでは、私どもの部ではしてはおりません。

○議長（初村　久藏君）　２番、陶山荘太郎君。

○議員（２番　陶山　荘太郎君）　そのとおりだと思います。空き家バンクから解除されたら、しまづくりの所掌から多分、総務課のほうに管轄が移動してくるんじゃないかと考えています。それか、建設課ですね。

次は、除却とか指導とかそういうことになってくるかと思いますが。そこら辺をちゃんとしていかないと、どんどん空き家バンクに登録してから、安心だと所有者が思ってもらっては、それはやっぱり困ると思います。

買い手とか借り手が見つかれば、それはそれで、次は改装とかそういう手順になってくると思うんですけれども、そこで買い手が見つからずに、空き家バンクから除外されたということになったら、次は、解体とか除却とかそういう手順になってくると思います。

今、全国的に見ても、今、前回の改正で特定空家という制度ができまして、全国的に見ても特定空家に指定して処分するという件数は上がってきておりません。

それは、やはり１回指定すると、どんどんエスカレートしていって、最後は行政代執行とか略式代執行とかそういう手続を取らなければならないかと思います。

今回の改正で、多分、特定空家に、管理不全というか、もう崩れるような空き家になる前に、窓が割れたり瓦が落ちたり、そういうのをそのままにしておくと、管理不全空家ということで、多分、それも処置ができると思います。

今回の処置は、やはり危険な空き家の発生を抑制するというのが大きな目的となると思いますので、そこら辺も対馬市立地適正計画とか、そこら辺と併せながら考えておいてください。

もう一つ、それを適用されるのは立地適正化計画で上げているところしか、今、ありません、対馬市の計画の中では。

空き家問題は、厳原城下町地域だけの問題じゃなくて、対馬市全部の問題です。でも、対馬市空家等対策計画の中では対象地域は対馬市全域となっています。立地適正化計画の中だけでやるのか、対馬市全部でやるのか、この地域的な優先がつけられなくて今、先延ばしの状態になっているんじゃないかと私は思います。

なので、基本指針の中で、空家等対策計画の中に重点的な区域を定めるべきだという記載があります。空家等対策計画の対象地域の中でも、特に重点と認める地域を計画の改正により定めていただいて、これ厳原町だけちゅうか、厳原城下町地域だけにそれが適用されるんじゃなくて、ほかの空き家が、空き家数とかあとは分布状況を、ＧＩＳとか何かで把握できるようになると思いますので、そこを検討していただいて、重点対策地域を設置することはできないでしょうか。

○議長（初村　久藏君）　市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝　尚喜君）　今、議員のほうから重点対策地域を設けてみてはどうかというような

御提案でございますけれども。

確かに、住宅、そういった重点対策地域を設けることは必要であろうというふうに私自身も思っております。

そういう中、今、先ほども答弁の中で申し上げましたように、この空き家の改修等の補助、そしてまた、家具等の除却につきましては、２分の１の補助で最大１００万円までといったような助成制度も設けております。

そして、また今後、検討していかなければならないと考えておりますのが、解体・除却の関係で、まだ対馬市は除却に対する補助等を実施してはおりませんけど、いずれはこれについても検討をしていかざるを得ないというように考えているところでございます。

まして、今、特定空家等のガイドライン等で固定資産税等の住宅用地特例は、もう今後、適用されませんよというような通知等もありますので、そういったところをいろいろと工夫をしていきたいというふうに思っております。

○議長（初村　久藏君）　２番、陶山荘太郎君。

○議員（２番　陶山　荘太郎君）　まだ法律が、ガイドライン等基本指針は改正されても法律がまだ改正されてないんで、そこは市長も何とも確定的なことは言えないと思います。

国土交通省のホームページで、今回の空家等対策特別措置法の改正案が公表になっております。この内容は、空き家等の適切な管理及びその活用を一層促進するために、空家等活用推進区域、これ仮称です、まだ。に関する制度の創設、適切な管理が行われていない空家等に対する措置の拡充、そして最後に、空家等管理活用支援法人、これも仮称です。の指定制度の創設というようにあります。多分、今回の改正でＮＰＯとか何かに、空き家の活用の制度を、どんどんできていったり。

空家等活用促進区域です。これ、多分、今のままだったら、対馬市だったら、厳原城下町区域、それかもっと狭めて立地適正化計画にある居住誘導区域、そこしか指定できないような状況になるんじゃないかと。この制度が創設されても、制度を使えないような状況になるんじゃないかというのが考えられます。

ですので、今回の改正をよく注視していただいて、改正がなる前に方針等、大体、担当部局でも構いません。練っていただいて、改正になった場合、対馬市がこの対策から出遅れることがないようにお願いしたいと思っております。

○議長（初村　久藏君）　答弁は。

○議員（２番　陶山　荘太郎君）　ちょっと尻切れになりましたけど。出遅れることがないように、担当部局にはよく策を練っておくように、市長のほうからお願いしたいと思いますが、どうでしょうか。

○議長（初村　久藏君）　市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝　尚喜君）　今、議員がおっしゃるように、担当部局ともそこら辺を連携しながら、今後の対策を練ってまいりたいというふうに考えます。

以上です。

○議長（初村　久藏君）　２番、陶山荘太郎君。

○議員（２番　陶山　荘太郎君）　ぜひ、そのようにお願いいたします。

今、やっぱり空き家は、ちょっと市長も、うんということはできないと思うんですけれども、もう行政だけじゃ無理だと思います。このような状態で。

よく民間の力も使うようにしていただいて、これも行く行く、もっと危険な空き家とかが出て問題化が、重大な問題になると思いますので、今のうちに本当、対策を練っていってください。

対馬市全域というのも、私はまずは無理だと思います。全部一遍に手を広げるというのは。なので、重点な区域を作成いただいて、対策を推進していっていただきたいと思います。

空き家問題については、以上で終わります。

続きまして、地域における社会教育の充実とコミュニティ・スクールについて質問させていただきます。

現在、既にコミュニティ・スクールが導入されている佐須奈小中学校の学校運営協議会の委員構成について、これ、団体区分とか人数を、分かればお願いします。

特に、対馬市学校運営協議会規則の第４条の（４）に区分される、「その他教育委員会及び設置校の校長が必要と認める者」に該当する方が任命されていれば、区分だけでも構いませんのでお願いいたします。

それから、これまでの運営の中での利点と課題が分析されていれば、御答弁をお願いいたします。

○議長（初村　久藏君）　教育長、中島清志君。

○教育長（中島　清志君）　今、議員がおっしゃったとおり、規則には地区住民、保護者、校長・教職員の３者が挙げられています。

そして、その他校長が必要と認める者については、佐須奈コミュニティ・スクールにおいては、例えば、学校評議員の皆さん、それと地域のボランティアグループの、もやいの会の皆さん、そしてＭＩＴの方などが協力をしてくださっています。合計１５名の委員さんでございます。

現在の運営状況ですけれども、過去にも答弁いたしましたけれども、例えば桜の植樹など、あと学校の環境整備とか、あと、ふるさと学習の支援をしていただいたり、非常に良好な運営ができています。

校長先生にお話を聞いても、「よかった」というお声を何度も言われます。これは、今後の学

校によっても励みになるものではないかなと思います。

それと、校長先生の理念として、「コミュニティ・スクールだからということで力まずに、ゆっくり焦らず、いい関係を築いていくことが大事じゃないか」ということを日頃からおっしゃっているようです。

○議長（初村　久藏君）　２番、陶山荘太郎君。

○議員（２番　陶山　荘太郎君）　教育長の先ほどの答弁で、結構いいような運営ができていると思います。

対馬市の規則の中も、研修とかそういう項目はありませんけれども、先ほど報酬を考えていただいているとおっしゃっていただきましたけれども。そこの方向は、市長部局に強くプッシュをしていただいて。ボランティアでもいいとは思うんですけども、そこはもう報酬のつけ方もちょっと難しいと思いますけれども、そこのほうもよろしくお願いします。

役割の中で、教職員に対する任用に対することは、そこは私も除外して構わないと思っております。先ほどの佐須奈の校長先生のコメントでもある、力まず徐々にというところで、最初から成果を求めてしまうと、このコミュニティ・スクールも会員とか評議員の負担になってしまいますので。そしてまた、学校の負担になっては本末転倒でございますので、そこら辺はよくやっていかれてください。

先ほどの協議会の、対馬市の規則の中で、研修という項目がちょっと抜けているような気がするんです。

文部科学省が推奨するコミュニティ・スクールの学校運営協議会規則の例で、第１５条に、「協議会の委員に対して、協議会の役割及び責任並びに委員の役割及び責任等について正しい理解を得るため必要な研修を行うものとする」というのはあるんですけども、これは一例ですので。

でも、あと文部科学省が全ての公立学校に対して、コミュニティ・スクール推進員、ＣＳマイスターというのに依頼に応じて、教育委員会等に派遣を行うということもあるんですけれども。これは円滑な導入に向けて、これから行うことは必要であるとは考えていますが、こういう教育長のお考えを聞かせください。

○議長（初村　久藏君）　教育長、中島清志君。

○教育長（中島　清志君）　御指摘のとおり、研修に関する項目が現在入っておりません。対馬市で、このコミュニティ・スクールに関する研修が過去に行われた例としては、令和２年に、ちょうど佐須奈の導入時期と重なりますけれども、２回、峰と厳原だったと思いますけれども、学校関係者とそして社会教育関係の方にお集まりいただいて、コミュニティ・スクールの先行事例について、県教委から、そして県内の先行されている学校からお見えになっていただいて、紹介いただきました。

現在、導入前の研修については、そのように充実はしてきていると思うんですけれども、確かにおっしゃるとおり、導入した後の委員の皆様に対する研修については、今後、検討していかなければいけないと思っております。

○議長（初村　久藏君）　２番、陶山荘太郎君。

○議員（２番　陶山　荘太郎君）　そのようによろしくお願いいたします。

コミュニティ・スクールの導入には、先ほどの研修もそうですけれども、導入前の準備段階が、これから厳原、峰の中で最も重要になると思います。

推進委員の選定とか準備委員会などの準備段階で、この推進委員とかの選考はどのようにしていくのか、今、ちょっと分かれば教えていただきたいんですけれども。

○議長（初村　久藏君）　教育長、中島清志君。

○教育長（中島　清志君）　お答えいたします。

現在、学校にはコミュニティ・スクールになっていない学校にも、既に議員よく御存じのとおりＰＴＡという組織、そして学校評議員さん、そして学校支援会議の皆様、既にこういうすごい組織がございます。この組織で御活躍いただいている中心的なメンバーの方に、まずは核となっていただくことになるかと思います。

そして、何校かコミュニティ・スクールになっていくと、対馬市内でも先行事例、そしていろんな体験というのが蓄積していくと思いますので、既にコミュニティ・スクールになった学校の方から、対馬市内において、こうやって自分たちが導入していったよというような経験談をお話しいただくことも可能かと思っております。

○議長（初村　久藏君）　２番、陶山荘太郎君。

○議員（２番　陶山　荘太郎君）　推進員もＰＴＡとか育成会とかあるんですけれども。

ちょっと課題になるんですけども、大体、先ほど課題で教育長も言われたとおり、大体のところが１年で交代していくんですよね。この運営協議会の委員が、ＰＴＡ会長に役職で充てた場合に、１年で交代、あと育成会の会長も校区の育成会の会長も、多分１年で交代するんですけども。

佐須奈の場合はどのようにしているか、ちょっと御存じでしょうか。分からなかったら大丈夫です。

○議長（初村　久藏君）　教育長、中島清志君。

○教育長（中島　清志君）　申し訳ありません。佐須奈校区においてのＰＴＡ会長さんの任期等については、把握をしておりません。

○議長（初村　久藏君）　２番、陶山荘太郎君。

○議員（２番　陶山　荘太郎君）　ＰＴＡとかそういう保護者の代表ですので、ここは協議会に必ず入るような感じになると思います。やはり、ＰＴＡとしましても、今、会長と女性の副会長が

来年で４年目、継続した任用の体制を取っております。

この間、会長に聞きますと、地区の理事さんも複数年やってもらえる体制を構築していきたいとか、そういうことを今、ＰＴＡもそれに向けて来年度やっていくと思います。

できればそういうＰＴＡと連携しながら、今の会長、今、就いている会長も来年度の取組の中では代わっていきますので、そこら辺、そういう体制でやるということをＰＴＡの中でも周知していただいて、スムーズにいい人材を選考できるような体制を取っていただきたいと思います。

最後に、準備委員会とかそういう委員会の中で、準備段階で、学校の教育目標や経営方針をこの方々に理解、共有した上で、各社会教育団体とかも入っていただいて、ここで今、社会教育団体の問題でもあります各団体間の連携が、今、薄いんです。薄いというか、ほとんどないような状態です。日頃の活動において。ここで、地域の社会教育団体の連携を取れるような形を取っていただきたいと考えております。

そして、その学校づくりの中で、学校は、ほとんど避難所とかそういうのに指定されております。また、放課後子ども教室とか、そういうのに地域が学校を活用したいというようであれば、あと、地域で避難所運営計画とか訓練とかをやるような要望があれば、その段階で、そこに地域マネジャーが入っていただいておれば、その会議の段階で、次、ある程度の方向性が示されるんじゃないかと思います。

ここは、教育委員会だけじゃなくて、市長部局のほうにも、この協議会の中に、その地域の。地域マネジャーは、幸いなことに小学校区に１人はいると思いますので、そのマネジャーがこの中に入っていただいて、教育委員会と行政の横串を刺すような感じで、よりよい協議会の活動ができるような体制を取っていただきたいと思いますけれども、この場で回答できますでしょうか。

○議長（初村　久藏君）　市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝　尚喜君）　この場で確定的なことは申せませんけれども、今後、総合教育会議等でも、また教育委員さんたちとも協議、連携しながら、そしてまた、この地域マネジャー等の活用については、市長部局の担当部局のほうとも協議しながら、検討してまいりたいと思います。

○議長（初村　久藏君）　２番、陶山荘太郎君。

○議員（２番　陶山　荘太郎君）　ありがとうございます。ぜひ、コミュニティ・スクールとかそういう、空き家対策も１つの部局だけでは対策は取れません。

空き家対策とか立地適正化計画は、各部局、計画された各部局が自分のこの計画に示されたことを連動して行っていかなければ、取れるもんじゃありません。

コミュニティ・スクールもそうだと思います。教育委員会だけでやろうと思っても、なかなか推進できる問題じゃありません。経費の問題とか予算の問題とか、そういう、学校を学校教育の目的だけに使わない、ほかの目的でも使おうという組織づくりとか仕組みですので、よく教育委

員会、ほかの市の部局が連携していただいて、この問題に取り組んでいただきたいと思います。

これで、私の質問を終わらせていただきます。

○議長（初村　久藏君）　これで、陶山荘太郎君の質問は終わりました。

○議長（初村　久藏君）　暫時休憩します。再開は１１時５分からといたします。

午前10時46分休憩

午前11時04分再開

○議長（初村　久藏君）　再開します。

引き続き、市政一般質問を行います。１７番、作元義文君。

○議員（１７番　作元　義文君）　皆さん、おはようございます。新政会、１７番議員の作元でございます。久しぶりに、一般質問席に立たせていただきました。

今日は、３点ほど、市長と教育長に質問していきたいと思います。

今、皆さんが見ておられます、この観世音菩薩坐像です。これは、しばらく皆さんも見ていないと思います。１０年間、対馬からこの仏像は離れていますので。それで皆さんに再認識していただこうかなと思って、作ってもらって持ってきましたので、よく見てください。よく拝んでみてください。

それでは、通告に従いまして質問をいたします。

まず１点目でございますけれども、観音寺で盗難にあった仏像の件についてお尋ねをいたします。

韓国の高等裁判所において、対馬市観音寺の所有権を認める判決があり、地元住民として安心しているところでありますけれども、相手側が最高裁に控訴するという報道もあります。今後、返還に向けて対馬市としてどのような対応をされていくのか伺います。

２点目でございますけれども、運動公園の使用また用途などの見直しについてということで。

対馬市における運動公園の使用、用途などの見直しを検討するという話を聞いておりましたけれども、島内全体の各種団体等の御意見も参考にされて、大きく将来に向けて運動公園の見直しをされていくと思いますけれども、今後の方針等について、教育委員会の考えを伺います。

３点目でございますけれども、対馬の漁業振興あるいは資源保護という観点で進めていく中で、現在、国のほうで大型まき網船の対馬近海への進出が、水産庁のほうで検討されているという地元漁協関係者から話を聞いております。

説明も行われていると聞いておりますけれども、本市の市長として、その話を聞かれたかどうか、また把握されているかどうか、この辺について伺いたいと思います。よろしくお願いします。

○議長（初村　久藏君）　市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝　尚喜君）　作元議員の質問にお答えいたします。

初めに観音寺で盗難にあった仏像の件でございますが、豊玉町小綱の観音寺から、韓国国内に仏像が盗み出されてから既に１０年が経過してしまいました。

発見直後は、すぐに戻ってくるかと思われた仏像でございますが、韓国の浮石寺が所有権を主張し、韓国政府を相手に仏像の引渡しを求める訴訟を起こしました。

１審で寺側が勝訴をしましたが、韓国政府が控訴して２審で係争し、今年２月１日の判決では、１審判決を取り消し、浮石寺の訴えを退ける判決が出て、取りあえずは安堵したところでございます。しかしながら、先日、浮石寺が日本の最高裁に当たる大法院へ上告いたしました。最終的な結果は先送りとなった次第であります。

２審判決までの間、本市においては議会や長崎県とともに返還に向けての要望書等を国に提出し、昨年、観音寺住職が被告韓国政府の補助参考人として、韓国大田市の高等法院に出廷されたときには、関係各所と連携・調整しながら、担当課長を随行させ、その渡航を支援いたしております。今後は、大法院での審議へと移ります。

引き続き、国や県など関係各所と連携を深めながら、最大限のサポートを行い、仏像の返還に向けて尽力してまいりたいと考えております。

観音寺の仏像は、県指定の有形文化財であるとともに、小綱地区はもちろんのこと、対馬市の宝でもあります。仏像が無事に戻られた暁には、関係者の皆様と協議し、博物館などで皆様に拝観していただけたらと思っております。

次に、３点目の漁業振興についてでございますが、私のほうが先に答弁をさせていただきます。

対馬市の基幹産業であります水産業においては、近年、海洋環境の悪化等による水産資源の減少に加えて、ＴＡＣ制度による漁獲規制等により非常に厳しい状況にあります。

このような厳しい状況の中、対馬近海で操業する大臣許可の大中型まき網漁業において、今後、代船建造に伴い、船舶の大型化につながるなど、対馬の沿岸漁業にとって不安材料が山積する現状となっております。

このため、令和４年１１月に、水産庁や大中型まき網事業者が、対馬市において関係漁業者に対し、説明会を実施されたようでございますが、十分納得できる状況ではないため、今後も継続して説明等が進められると聞き及んでおります。

現在、検討されているまき網漁船の大型化については、現有船の老朽化に伴い、代船建造を計画する場合、乗組員の安定確保や健康面への配慮による居住性の向上及び操業時の安全性向上等に対する基準が見直されたことに伴い、大型化によって基準を満足する必要があることは理解しております。

しかしながら、大型化により漁獲量が増大しないことが前提とされており、その担保措置として、魚槽容積及び網台面積を制限した上で、一定期間を試験操業期間として確認を行う方針が示されておりますが、対馬沿岸漁業者の理解を得るには至っていないと聞き及んでおります。

このため、水産庁や大中型まき網事業者においては、対馬沿岸漁業者が一方的に不利とならないように、また、不安感を払拭できるように、時間をかけて丁寧な説明に努めていただきたいと考えております。

また、対馬市漁業協同組合長会と長崎県旋網漁業協同組合所属の大中型まき網３船団において、操業秩序確保と資源管理のための協定が締結されており、対馬西岸海域における操業自粛範囲や期間が設定されておりますが、今後も資源管理のために相互理解の下、有効な協定として継続できるよう、対馬市としても関係機関との連携強化に努めてまいります。

私のほうからは、以上でございます。

○議長（初村　久藏君）　教育長、中島清志君。

○教育長（中島　清志君）　作元議員の、運動公園の使用、用途等の見直しについての御質問にお答えいたします。

教育委員会では、人口減少とともに少子高齢化が進行している本市の社会的変化や合併以前に整備された施設の老朽化と併せて、維持管理に要する費用の増加も考えられることから、本市の将来人口推計や財政状況を踏まえた体育施設等の適正配置及び利活用を推進するため、令和３年度に対馬市体育施設適正配置及び利活用推進委員会を設置いたしました。委員には、市のスポーツ協会や各種競技団体、福祉協議会、老人クラブ等の方々を委嘱させていただいております。

現在、同委員会において、運動公園や体育館、武道場など、今後の対馬市の体育施設の在り方についてを検討していただいているところでございます。今後、その検討の結果を、答申としてお示しいただく予定です。

教育委員会といたしましては、少子高齢化や将来の人口推計、スポーツに対する市民ニーズの多様化などの社会的変化に加え、体育施設の老朽化の進行による修繕費等の維持管理費の増大など多くの課題に対して、どのように対処していくべきなのか、その答申において示されます方針に基づき、施設の適正な配置や利活用の推進に取り組んでいく予定でございます。

以上でございます。

○議長（初村　久藏君）　１７番、作元義文君。

○議員（１７番　作元　義文君）　ありがとうございます。

それでは、１点目の観音寺の返還の件につきまして、市長のほうに伺いたいと思いますけれども。

これは今、市長がある程度、詳しく説明をされました。２０１２年１０月に対馬から持ち出さ

れて、１３年には犯人が逮捕され、それからいろんな経緯をたどりながら、それこそ盗難したものだから、盗んだものはすぐ返せということが成立すると思っておったんですけれども、なかなか浮石寺のほうが、自分のものだと所有権を主張したりしながら、なかなか戻ってこなかった。もう１０年たちました。既に。

私も、前市長のときだったと思うんですけれども、韓国大使館、東京の。そこまで、「早く返してくれんか」という要求に行ったことがありますけれども。そのときも、すぐ返るような答えだったんですけれど。もう裁判に持ち込まれて、いよいよ長引いて、今になってしまったということでございますけれども。

今度は、日本でいう最高裁でしょうけれども、恐らく国と国の問題になってくると思いますから、今、韓国の尹大統領も日本とのつながりを強く持っているような大統領ですから、恐らく返ってくるような判決が出るのかなというふうには思っておりますけれども、よく分かりません。韓国の考え方とやり方は。ぜひ、そのように期待はしておりますけれども。

韓国に、対馬の仏像とか多久頭魂神社の大蔵経か、こういったものも約３つぐらい持って行かれて、海神神社の仏像については戻ってきましたけど、この観音寺だけは戻っておりませんが。

最高裁で判決が出て帰ってきたとき、今、市長も申されましたけれども、それこそ住職もこの前、韓国のほうに行かれて、裁判にも立ち会われたということですけれども。戻ってくることになったときに、そのまま観音寺、小綱のお寺のほうに１回戻して、住民の皆さんに、そこでお経を上げてもらって、田中住職に。そして、それからどうするか。またあそこに置いとったら、取って行かれるかも分かりませんので。レプリカを作って備えるとか、そういった考えが市長のほうにあるのかどうか。この辺も、ちょっと伺いたいと思います。

○議長（初村　久藏君）　市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝　尚喜君）　この観音寺の仏像におきましては、私も県の教育長のほうと外務省等に、早期返還ということで要望に行きましたし、昨年も、観音寺の住職と共に、外務省のほうに出向きまして、韓国の高等裁判所等の第２審の打合せ等の際にもお願いもしてまいりました。

そういう中、今、議員おっしゃったように、今回、２審で１審判決を取り消した判決が出たということで、大変喜んでいるところでございます。

その上で、今度の最終審で、日本、この観音寺に、この仏像が戻ってきた折には、やはり、一番の重要なところは、檀家の皆様の総意の下に、できれば、まず議員おっしゃるように、観音寺のほうで、お帰りなさいといったようなお経等を上げていただいた上で、できれば、対馬博物館のほうに寄託等をしていただいた上で、保管する方法が一番ベターなのかなと思っております。

その際は、確かにレプリカ等を作って、そちらに置くといったことも必要になろうかとは思いますけど、そのことについては、また今後の協議事項というようなことで、この場では明確なこ

とは申せませんけれども、今後の檀家との話合いによるものというふうに思っております。

以上であります。

○議長（初村　久藏君）　１７番、作元義文君。

○議員（１７番　作元　義文君）　その判決というか、いつ頃になるかという予想は。

○議長（初村　久藏君）　市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝　尚喜君）　まだ、私のほうに、いつということは、まだ私も聞いておりません。

ただ、浮石寺のほうが、２月１０日ですかね、１０日に上告をしたという情報まで、私のほうが聞いております。

○議長（初村　久藏君）　１７番、作元義文君。

○議員（１７番　作元　義文君）　２月１０日に上告をしたということですので、そんなに何か月もかからんと思いますけど。判決が出たときに、恐らく対馬市のほうに、何とかまた言ってくると思いますし、住職のほうにも、観音寺の住職です。こちらのほうにもそういった伝達があるだろうというふうに思っておりますけれども。

市長、今、言われますように、ぜひ、小綱の檀家の皆さん方も待ち望んでおられますから、そういった一報が入れば、また住職と一緒に取り返してもらって、そして、小綱の観音寺に一回安置をしていただいて、住民の皆さんと一緒にお経を上げてもらって。

それから先のことは今、言われたように、小綱の地域の人たちと話合いをして、そして、博物館に置くか、県の有形文化財ですからね。こういったところもよく相談をされて進めていただければいいのかなというふうに思っておりますから、先のことになりますけれども、その辺もよろしくお願いしておきたいというふうに思います。

それでは、２点目の教育委員会のほうにお尋ねをしますけれども。

今、委員さんをつくって検討中ということですけれども、教育委員会のほうの方針としては、いろんな運動公園があると思うんです。体育館も含めて。部内では、そういった協議はされていますか。

○議長（初村　久藏君）　教育長、中島清志君。

○教育長（中島　清志君）　先ほど答弁いたしましたけれども、利活用に関する検討委員会のほうでは、現在までに６回の委員会を開いていただきました。今、最終の教育委員会に対する答申をまとめていただいている状況でございます。

その中で、大枠としては、令和５年から令和１４年度までの１０年間の中で存続させるべきもの、そして廃止に向けて検討するもの、そして、存続か廃止かを検討するものの３つに分けて、それぞれの施設をどのように仕分けしていいかということについて、今、検討しているところでございます。

教育委員会では、その答申に基づいて、どのように動いていくかということを、整理し、計画的に動いていきたいと思います。

以上でございます。

○議長（初村　久藏君）　１７番、作元義文君。

○議員（１７番　作元　義文君）　大体、分かりましたけれども。もうすぐ、そしたら検討委員会の答えが出てくるということですよね。たくさんあると思うんです。対馬全島、上から下まで。

この前、私も、お願いをしておりました豊玉運動公園のトイレの計画ができて、今、設計中ということで、大変安心しておりますし、あそこを使われる方々、特に、グラウンドゴルフの大会は、ほとんどあそこであっていますから。全島から３００人から４００人の方が来て、トイレ待ちというような状況でありましたので、早く整備をされる計画をつくっていただいたことに対しましても、お礼を申し上げたいと思います。

その中で、トイレの件で１つ利用される方の意見を聞いたんですけど、「やっぱり洋式だけじゃ駄目じゃないか」と、「和式のトイレが１つぐらい、女性のほうは欲しい人が多いよ」という話を聞いたんです。

それで、設計の段階中でございましょうから、そういったところもよく検討していただいて、ほとんど年寄り、６０歳以上が多いですから、そういったところも、よく検討していただければなというふうに思っております。

運動公園の話を今、しましたので、ついでにお話をしておきますけれども、放送設備がよくないんです。あそこは。これもよく見ていただいて、この前の大会の時には、大会役員が生声で皆さんに開会の挨拶とかしておりましたから。

そういったところの検討をしていただきたいと思いますけれども、いかがでしょうか。

○議長（初村　久藏君）　教育部長、八島誠治君。

○教育部長（八島　誠治君）　お答えいたします。

豊玉野球場の放送設備につきまして、一応、担当のほうに確認もしてみたんですけれども、利用について問題はないということなんです。ただ、スイッチの入れ具合で、うまく使えない状況があったので、修正して電源を入れるだけで使える状況に今、しているそうです。

以上です。

○議長（初村　久藏君）　１７番、作元義文君。

○議員（１７番　作元　義文君）　それは放送施設のほうですね、スイッチを入れるだけでいいと。誰が入れてもいいようにしとかな。教育委員会の人が行ってあたったけ、よくなったちゅうわけじゃなかろうけど。

それは、できればいいだけの話であって。そういったことを、使用される方によく話をされて

おっていただければなというふうに思います。

そして、あそこはグラウンドゴルフと野球とソフトボールとよく使うところなんですけど、ほとんど老人クラブのグラウンドゴルフ大会が多いところで、今、あそこに３００人、４００人の大会がある前に、各地域で練習されている。

これは教育委員会の管轄じゃないところなんでしょうけれども、学校の跡地、運動場の跡地であるとかそういった広場、各地域にある広場を利用したりしながら、老人会の人たちが練習されているんです、あっちこっちで。

こういった方々も、豊玉いいなあというような話、されるんですけど、豊玉の人たちは、あそこで使用料払って練習をさせていただいております。

鴨居瀬とかいろいろ、久須保とかそういった会場を自分たちで整備してされているところがありますけれども、ほとんど油代も草刈り機の使用料も、自分たちでやっておられると思うんですけれども、結構な油代が要るんじゃないかと思っているんですよ、僕は。

だから、そういったところをよく見られて、何か所ぐらい対馬でやっているのかな、練習会場があるのかなというところも、ちょっと見ていただいて。油代の補助でも少ししていただければなあと思うんですけど。多分、皆さん会費を出し合ってされていると思いますよ。よく草が伸ぶんです。夏になってくると、特に。

だから、そういったところの、これは運動公園の施設ではないですけれども、やはりこういったグラウンドゴルフ人口を確保していくためには、絶対そういったのが必要になってきますから、そういったところも、教育委員会で１回、視察をされてみてください。

そして、そういった検討がされるようにあれば、市長にもお願いをしながら、大した金じゃないと思いますよ。ぜひそういった補助をしていただければなあというふうなお願いをしておきたいと思います。

それから、もう一点、教育長にお願いしたいのは、野球場とかこういった施設は結構あるんですけど、今、対馬の中でもサッカーをする子供たちが１７０人ぐらいおると聞いたのかね。だから、そういった大会のできるところがないんじゃないですか、サッカーは。

サッカーは泥の上だけじゃなくて、芝があるところで、よく島原とか壱岐とかそういったところにありますけれども、対馬にはそういった会場あるんですか。ちょっと伺います。

○議長（初村　久藏君）　教育長、中島清志君。

○教育長（中島　清志君）　お尋ねのサッカーのコートの件ですけれども、面積的には競技ができる面積は確保できるところはございますが、今おっしゃるとおり、芝生となると、そこまで整備されている競技場については、対馬にはない状況です。

○議長（初村　久藏君）　１７番、作元義文君。

○議員（１７番　作元　義文君）　ソフトボールとか野球とかっちゅうのは、結構何か所もありますよね。豊玉もある、峰もある、美津島もある、厳原もある。そういった野球場やソフトできるところは結構ありますけれども、サッカーができるところちゅうのは、あるのはあるんでしょうけれども、ほとんど壱岐に遠征をしてみたりしているような状況を、私も１回あったことがありますけど。

やはり、このサッカー、今、ワールドカップがあって、日本もいい成績を上げているし、サッカーの子供たちが増えつつあると思っているんですけど。対馬はどうかは、その辺は、私は分かりませんが、やはり、そういったサッカー少年も育てていくためには、そういったところも必要になってくるのかなというふうに思っているんですけど、そこも検討されてはいかがでしょうかね。

○議長（初村　久藏君）　教育長、中島清志君。

○教育長（中島　清志君）　昨今のサッカー競技に対する人気を反映して、競技をする子供たちも増えている状況にあるということは承知しております。したがって、気持ちよく競技に打ち込んでいただける環境は必要かと思います。

ただ、芝生つきの競技場の整備となると、その当初の予算、そして維持管理等にも相当の予算が必要になってくることですから、この場で即答はできませんが、今後また検討させてください。

○議長（初村　久藏君）　１７番、作元義文君。

○議員（１７番　作元　義文君）　ぜひお願いをしておきたいと思います。

私が思っていたのは、あそうベイパークの運動公園だったんですけれども、この前、村井部長と話したら、どうもほかの使用用途が出てきているような感じがするもんですから。あそこはあまり使ってないし、芝じゃないけれども草がいっぱいあって。転圧をして、きれいに押していけば、いい球場になるのかなという思いはしていたんですけど。

これは観光交流商工部のほうで、また後で話はできると思いますけれども、あそこは、やっぱりよかったなと思っている、自分でそう思っているだけですけど。よく部内でも話をされてみてください。

将来のやっぱり、何人も県のすばらしい高校に、対馬からサッカー少年が行っていますもんね。だから、そういった子を育てていくためにも、よくサッカー協会でも話をされて、いい練習場ができるように検討されたらどうでしょうか。よろしくお願いしておきます。

それでは、３点目に移りたいと思います。

この大臣許可の問題については、昔からもう、対馬の大きな課題になっているんですけど。まき網については。

今度、組合長会の方ともちょっと話をしたんですけれども、大型船を持っていきたいという水

産庁の意向を、今、市長が言われましたように、乗組員の基準の見直しであるとか、何か、楽な生活を乗組員にさせるために船を８０トンから１５０トンにしたいという、これは水産庁の考え方らしいんですけれども。

我々、対馬の漁民にしてみると、８０トンから１５０トンの船になると、今、２メーター５０ぐらいの波の高さでしか操業してないやつが、３メーターも４メーターも操業しますもんね、これ必ず。

だから、それはせんと言うたってするんですよ。彼らは。それだけ船を持ってくるということは、乗組員が中に入る施設を造るために１５０トンにするという、そういった構想で進められておりますけれども、それはもう、あんまり当てならんと僕は思っています。私も５０年漁師していますから、そういった状況はよく分かっていますので。

それは、やはり組合長会の中では、２２日に水産庁から説明にまた来たそうです。それで、組合長会の全員の組合長さんたちと話をして、絶対にそれは受け入れられないという、そして8マイルより外に出て操業しなさいということで、組合長の中では、もう、はねつけたということを言っておられました。

それはもう当然だろうと思いますし、やはり対馬の沿岸漁業の人たちから見ると、まき網と底引きちゅうのは大変なんですよ、これ。対馬の沿岸漁業を守っていくためには、絶対これは排除していかなければならない。

３マイル、５マイルのまき網は、もう３０年も対馬の沖でやっているんですから。これを何遍言うても聞かんから、今回は、少しやっぱり強い姿勢で臨んでいったほうが、私はいいと思っています。それで、組合長会の会長にもお話ししましたけれど、そうする予定ですという話はしておりました。

だから、県と、それから水産庁を対馬市のほうで市長が、いやいやとか言うわけいきませんので、その水産庁の予算もいただいている部分が結構ありますから。それは組合長のほうに任せていいと思いますけれども、やはり、そういった情報の収集とかいうことは、しっかりやってほしいなというふうに思っております。

恐らく、そういうふうに流れていくんじゃないかなと思っていますけど、突っぱねていますので、組合長会のほうで。簡単には入ってこれんと思いますけど。ぜひ、耳を傾けて、課長でも部長でもいいですけど、よくその情報収集に努めていただきたいなというふうに思います。

それから、このまき網の問題もいろいろあるんですけど、以東底引きがもう一つガンがあるんです。対馬の沿岸漁業に対しては。これは、沿岸７マイルなんですけど。

これは、今、アカムツとアナゴを西側で捕っています。ここに入ってくるんです、以東底引きが。これも３ヶ統ですけど。

だから、これがこの前、小茂田沖でアカムツをばらまいた組です。これが１回引くと、対馬の漁船が１日釣ってしまったような魚を捕るんですから、１回だけで、１回。だから、これも大きな問題なんです。

だから、下関にこれは基地があると思うんですけど、以東底引きかな、これ３ヶ統おって。これも今、まき網と一緒で、増トン計画を持っているみたいなんです。

これもやっぱり同じ条件だと思います。乗組員の健康上の問題であるとかそういったことで、まき網が１５０トンにすれば、これも１５０トンで水産庁がまた持ってくるのかなあという懸念を、漁民の方もしておりますけど。これは、１日に６回網を入れて引くんですから。西沖で。

だから、アナゴとアカムツの漁場がそこにありますので、こういったとこ、これももう、今から反対してどうのこうのという問題じゃないんですけど、まき網の問題も併せて、県のほうにも水産庁にも、対馬の沿岸漁業を守るために、ぜひ、そういったお願いを、市長のほうからもしていただければなと思いますが、いかがでしょうか。

○議長（初村　久藏君）　市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝　尚喜君）　私のほうもいろいろと、この情報については承知をしているところでございますが、今現在、水産庁、そしてまた、旋網漁業組合の方たちが、対馬のほうに出向かれて説明をしているというところまでは聞いておりました。

その中で、水産庁は、旋網漁業組合と対馬の沿岸漁業者の組合との調整役だというような立場だということを聞いております。

そういった中で、確かに水産庁が進める、その代船建造計画の意味、今、大変、漁業者も船員も少なくなっているということでの乗組員の安定確保や、その乗組員の健康上の配慮による居住性の向上という意味合いまでは、私も確かに理解できるところでありますけど。

ただ、対馬の沿岸漁業者の皆様が、特に西海域のほうでは、省令上では３マイル、これを船の代船計画が大きくなるということで、５マイルから８マイルまでも、入らせてくれというような話があっているらしい。

ただ、それは沿岸漁業者としては受け入れられないというようなことでありますので、このことについては、対馬の水産業を守るためにも情報等をしっかり集めながら、漁業者の皆様の、幾らかでもお力になれればという気持ちではおります。

○議長（初村　久藏君）　１７番、作元義文君。

○議員（１７番　作元　義文君）　ぜひ、そういう姿勢で通していただければなあというふうに思いますけれども。

ちょっと１点忘れておりましたけど、中小型の県の許可があるんですよ、これ。これは、まき網ですけど。これが対馬沖、比田勝沖から豆酘崎沖まで約１００隻の中小型のまき網船団がやっ

てきているんです。

これで禁止されているのが、比田勝沖の１２マイルとアマダイ縄の漁場、こういったところは、自主規制をかけているらしいんですけど。これは多分、北松関係の中小型のまき網だろうと思うんですけど、１００船団もここに入ってくると、大中まきと同じような資源枯渇につながっていると私は思っているんですけど。

これは県の許可ですから、県知事の許可ですから。これはもう県のほう、県からも指導は行っているみたいなんですけど、それで少し今、自粛してきたのかなという話は聞いておりますけど。

これは市長のほうからも、やはり強く、県知事あるいは県の水産部に対してでも、やってほしいなと思います。これは西側じゃなくて、東側が主なんです。

だから、これをぜひ、市長のほうからも、県のほうに１回、話をしてみてください。いいですか。

○議長（初村　久藏君）　市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝　尚喜君）　小型まき網の情報については、私も今、詳しい情報は持ち合わせておりませんけども、もう少しその情報等を収集しながら、県のほうには出向いてまいりたいと思います。

○議長（初村　久藏君）　１７番、作元義文君。

○議員（１７番　作元　義文君）　ありがとうございました。

市長でどうのこうなる問題ではありませんけれども、やはり、対馬市の漁業を守っていくためには、市も一緒になって行動していかないと、漁民だけにやれちゅうだけじゃ、私は駄目だと思っていますから。ぜひ、そういうふうにしていただきたいと思います。

今、対馬近海でのまき網、底引きの話をしましたけれども、今、対馬の島民・漁民にとって、海からの収入が減るということは、対馬市の財源にも大きく影響してきますので。

ぜひ、資源確保や、また資源の保護や、そういった観点からも、しっかりと、やはり情報を収集しながら、漁民の生活安定のためにも、ぜひ、努力をしていただきたいというふうにお願いを申し上げまして、私の質問は終わります。ありがとうございました。

○議長（初村　久藏君）　これで、作元義文君の質問は終わりました。

○議長（初村　久藏君）　昼食休憩とします。再開は１時５分からといたします。

午前11時49分休憩

午後１時05分再開

○副議長（黒田　昭雄君）　再開します。

報告します。初村議長、上野洋次郎君から早退の届出があっております。

午前に引き続き、市政一般質問を行います。６番、伊原徹君。

○議員（６番　伊原　　徹君）　初めに、全国を対象とした旅行支援事業継続により、本市への国内観光客数もやや増加傾向が伺えます。

一方、先月２５日より、週末のみ、韓国からの直行便が３年ぶりに再開し、当面１００名前後の人的制限ですが、本市にとって活気と潤いをもたらす明るい兆しが見えてまいりました。

さて、本日の質問の１点目は、直近５年間の、外国人による土地、家屋、農地、森林、その他の土地、建物の取得実態と、これらの財産取得に対する地方税の納付状況についてお尋ねをいたします。

２点目ですが、重要土地等調査規制法に関する本市の対応と考え方を本題に、外国人による自衛隊基地周辺などの土地取引を背景に、我が国の防衛施設などの重要な土地の利用規制として、重要土地等調査規制法が２０２１年に制定され、本年２月より運用開始となりました。

第１弾としまして、５つの都道県の１０市町の自治体、５８か所の区域が指定され、本市は他の指定都市と比較して最も多い１９か所が指定されました。

このようなことから、国境離島、対馬の果たすべき役割は、極めて重要と認識しています。本市の自衛隊施設等の関連基地周辺地域の機能妨害行為の取締りの対応と考え方についてお尋ねいたします。

なお、質問事項の詳細につきましては、資料を準備しておりますので、後ほどタブレットとこちらの資料にて説明いたしますので、以上、２点について御回答よろしくお願いいたします。

○副議長（黒田　昭雄君）　市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝　尚喜君）　伊原議員の質問にお答えいたします。

初めに、外国人による土地・家屋等の取得実態についてでございますが、現在、税務課において把握している課税台帳を基に算出をいたしております。

令和４年１月１日現在で外国人が所有している土地の状況は、筆数で２１２筆、面積で１７万２，８６１平方メートルとなっております。

地目別で申しますと、宅地が１３７筆の６万８，９１６平方メートル、農地はゼロです。山林で５４筆の９万４，０３８平方メートル、その他の土地で２１筆の９，９０７平方メートルでございます。同じく、家屋の状況につきましては、２２０軒の２万９，６７０平方メートルでございます。

これらの直近の５年間での取得状況につきましては、土地において１１０筆の増、家屋では１２４軒の増となっており、主に平成３０年から令和２年までに取得されたもので、令和３年、令和４年においては、土地取引で３件の増、また家屋については３軒の減となっている状況でご

ざいます。

次に、地方税の徴収や不納欠損などの現状についてでございますが、地方税のうち、本市において課税しております税目は、主なもので市県民税、法人市民税、固定資産税、軽自動車税及び国民健康保険税があり、地方税法、国税徴収法に基づき、適切に徴収業務を行い、自主財源の確保を行っているところでございます。

今回の質問であります対馬市の土地・家屋を所有している外国人の徴収につきましては、令和５年１月末時点での収納率は、市県民税は１００％、法人市民税は８７．２３％、軽自動車税は８５．６３％、国民健康保険税は９３．３３％、固定資産税では７２．６６％となっております。

固定資産税につきましては、市県民税や国民健康保険税と異なり、島内に住所がない場合も課税となるため、それぞれ自国に帰国され、徴収が困難なケースも生じてまいります。また、不納欠損につきましては、地方税法上の徴収緩和制度の要件である、滞納処分ができる財産がない場合、滞納処分によって生活を窮迫させる恐れがある場合及び行方不明の場合に行われるものであり、接触が困難な場合に不納欠損する事例が想定されます。

令和３年度の実績としましては、国民健康保険税において、１件の不納欠損が生じているところではございますが、その他の税目についても、先ほど申し上げました要件が発生することが想定され、不納欠損は生じてくることはやむを得ないと考えられます。

次に、２点目の重要土地等調査規制法についてでございますが、安全保障上の重要な施設の周辺における機能を阻害する土地等の利用を防止するために、昨年６月に施行され、本年２月に注視区域・特別注視区域の、合わせて１９か所の設定があったところであります。

この法律により、主に防衛関連施設の周囲約１キロにおいて、２００平方メートル以上の土地や建物の取引について、内閣府への届出が必要となっております。

本市における外国資本と思われる法人及び個人が取得している土地の推計は、先ほど答弁したとおりであります。

しかしながら、海上自衛隊の近隣の土地が韓国資本によって買収され、宿泊施設として営業しているほか、厳原や比田勝に定めてあります注視区域や特別注視区域の中にも韓国系の飲食店が点在している状況であります。

今回、重要土地等調査規制法による指定を受け、国による一定以上の不動産取引についての届出が必要となったわけでありますが、特別注視区域等による運用が始まったばかりでありますので、国における周知等を含めた今後の動向について、注視していきたいと考えております。

また、国防上の観点からも、機能を阻害するための不動産取引に関する情報については、関係部局内で連携を図り、情報収集を行い、必要であれば国への情報共有に努めてまいります。

しかしながら、本市として不動産取引などの経済活動を制限するわけではないことから、国防

上問題なく、対馬の経済活動に寄与する不動産取引については、通常の経済活動の一環として見守っていきたいと考えております。

以上であります。

○副議長（黒田　昭雄君）　６番、伊原徹君。

○議員（６番　伊原　　徹君）　どうもありがとうございました。

午前に、陶山議員さんのほうから、空き家対策について一般質問がございました。今回の私のこの質問と少し関連があるんじゃないかなと思って、注意深く拝聴しておりました。

資料の数値ですけど、私は２０１８年からの数値でございますので、このあたり若干、市長がおっしゃった数値と異なるかも分かりませんけど、ほぼというか、５年間の推移ということで、承知していただければなと思っております。

それでは、タブレット内の資料１を御確認ください。こちらも結構ですけど。

この資料につきましては、外国人による土地の取得状況を種別ごとにした、５年間の資料でございます。この資料作成に当たりましては、市民生活部税務課及び担当者の方には多大なお時間とお手数をおかけしました。改めて御礼申し上げます。ありがとうございました。

また、いただきました資料は時間の関係もございますので、いただいた資料よりも、よりシンプルに修正をいたしました。それがこのタブレット内の資料でございます。

この資料は、２０１８年から２０２２年までの５年間の外国人による取得状況で、宅地、農地、森林、その他の土地及び事業系の建物別に分類をしています。

また、宅地からその他の土地は、登記簿上の単位として１筆としています。下段の建物は１軒として表しています。

さて、上段の宅地でございますけれども、２０１８年は２５筆、それから翌年が２４、一昨年が２９、昨年は１件で、５年間累計で８２筆の宅地が取得されております。

次の農地は、農業委員会での管理がされている関係から、その０件となっております。

森林は５年間で１８筆となっていますが、取得の目的と用途はお分かりでしょうか。その他の土地は、５年間で１０筆となっておりますが、雑種地か何かでしょうか。

この２点について、もしお分かりであればお願いします。

○副議長（黒田　昭雄君）　市民生活部長、舎利倉政司君。

○市民生活部長（舎利倉　政司君）　まず、取得の用途でございますが、はっきり分かっておりません。

その他の土地は詳細に細かくは分かりませんが、主に雑種地だろうと思っております。

以上です。

○副議長（黒田　昭雄君）　６番、伊原徹君。

○議員（６番　伊原　　徹君）　ありがとうございます。

もう一度確認ですけれども、下の建物、事業系。これが、例えばホテル事業だとか、民宿や食事等の提供として、市内での事業展開のための外国資本で整備されているのでしょうか。このあたり、何か少し情報がございましたらお願いします。

○副議長（黒田　昭雄君）　市民生活部長、舎利倉政司君。

○市民生活部長（舎利倉　政司君）　登記情報で建物ということでございまして、建物の軒数ということでの資料の作成をいたしましたが、その中の内訳、詳細までは把握いたしておりません。

以上でございます。

○副議長（黒田　昭雄君）　６番、伊原徹君。

○議員（６番　伊原　　徹君）　すみませんね。この資料から察しますと、この２年間、３年間は直行便がストップした期間は、取得件数が減少していることがお分かりになるんじゃないかと思っております。

２月末から週末のみですが、このままですと、また外国人等による民間財産の取得が増加するんじゃないかと、私自身、危惧をしているところでございます。

特に、あるところに参りましたら、古くからお住まいの方が、文化や生活様式が違う方々が近隣にお見えになった場合、ある種の違和感を抱くという方もいらっしゃいました。やはり、いろんなそういった面で、大変、御苦労というか精神的な不安もございましょうし、そういったことを感じてお話をした経緯がございます。

それから、対馬市の不動産売買、賃借の仲介及び空き家の管理処分、これは、比田勝を拠点にした外国経営の不動産業者によって取引が行われているようですが、このことは、市長は何か把握をされていますか。

○副議長（黒田　昭雄君）　市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝　尚喜君）　私のほうは、まだ把握しておりません。

○副議長（黒田　昭雄君）　６番、伊原徹君。

○議員（６番　伊原　　徹君）　すみません。把握をされていない質問ばっかりして申し訳ございません。

対馬市の不動産売買、賃借の仲介及び空き家の管理処分は、当然、こういった方々がされていると思いはしますけれど。

会社の案内を確認いたしますと、責任者は国家資格の宅地建物取引士として登録をされているようです。登記がされているのか、また国家資格の登録番号の確認を、ぜひ今後、お願いしていただきたいと思っております。

それから、資料の２になりますけど、これは、先ほどの表をグラフ化したものです。左から宅

地、それから農地、森林、その他の土地、それから事業系建物の順に、それぞれ５年間の推移を示しております。

中でも２０１９年、この事業系が７１件と突出しております。これらの財産取得に対する固定資産税及び住民税等の地方税の徴収については、先ほど市長のほうから御回答いただきましたけど、法人による財産取得によって納税請求宛名に通知しても連絡先不明ということが少しございました。

市県民税については、ほぼ徴収は１００％だと。しかし、固定資産税、これが７２．６％、それから軽自動車税、これが８５．６％、それから国保税、これが９３．３％の徴収率ということで御回答いただきましたが。

例えば、この全体、直近でもよろしゅうございますけど、金額、未納の、トータルでよろしゅうございますけれども、大体どのくらいかお分かりでしょうか。

○副議長（黒田　昭雄君）　市民生活部長、舎利倉政司君。

○市民生活部長（舎利倉　政司君）　令和４年度、まだ納期もございまして、未到来分もございますが、未納という金額、市県民税、法人市民税、固定資産税、軽自動車税、国民健康保険税、合わせまして約４４５万円です。

以上です。

○副議長（黒田　昭雄君）　６番、伊原徹君。

○議員（６番　伊原　　徹君）　結構な額ですね。悲しいかな。４４５万ですか。これ、大変な税収の未収の中で、やはり、ある程度は数％のウエートを占めると思いますけれども。

こういったことの実態は、今まで把握していなかったんじゃないかなと。市民の方々もそうでしょうし、このような内容の質問につきましては、初めてだと思いますけど、そのあたり、何か過去にこういったことがございましたでしょうかね。

○副議長（黒田　昭雄君）　市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝　尚喜君）　これまでに、そのような税の中身まで入った質問はなかったものというふうに記憶しております。

○副議長（黒田　昭雄君）　６番、伊原徹君。

○議員（６番　伊原　　徹君）　幾分ちょっと元気がないような、大丈夫ですかね。お疲れじゃないですか。すみません。

この外国人による土地等の取得につきましては、様々な状況にございますけれども、未収も若干あるということが確認をできました。これをどうのこうのということは、これ以上、お話はいたしませんけれども、懸命に働いて、それから税を納める方々からしてみれば、やはり少し問題があるのかなというふうに思っております。

ちょうど今から１０年前ですかね、対馬市の外国資本による土地買収について、自民党安全保障と土地法制に関する特命委員会が、自民党の佐藤正久委員長さんにより初会合を開いております。

この委員会は、防衛施設周辺や国境離島での外国人による土地取引の法規制の可否などを検討するために設置されたもので、委員会では海上自衛隊対馬防備隊周辺の外国資本による土地買収について、先ほど市長も少しお話しされましたけれども、産経新聞編集委員宮本さんから説明を受けたと報じられております。このことは記憶にございますね。

宮本氏は、長年この問題を取材されておりまして、今から１６年前の２００７年に、海上自衛隊の隣接地約３，０００坪が島民名義で外国資本に買収され、外国人釣客向けの宿泊施設として営業されたと。宮本氏は外国資本に土地が買収される背景に、急激な過疎化がある点を御指摘された上で、いざ目に見える問題が起きたときには取り返しがつかないことになってしまうと述べられ、法規制の必要性を訴えられています。

１６年前このような法規制を訴えられて、やっと今年から運用開始ということになって、摩訶不思議な状況、１６年もよくかかったなと思っております。対馬のみならず、国内の景勝地や観光名所地など、外国資本による買収が行われております。

１７年前のデータでございますけれども、２００６年から２０２１年までの１５年間で、外国資本による森林取得が２３の道府県で３０３件、実に東京ドームの５５６個分で、特に北海道が最も多い２３６件、直近では、外国資本による沖縄の無人島の一部買収が報じられて問題になっているところでございます。

このことを踏まえ、もう一点目につきましては、ある程度、中身が確認できましたので２点目に移らせていただきます。

同じように、タブレットの資料３を御参照ください。

ここに、参考までに作成しておりますけれども、重要土地等調査規制法とは、重要施設周辺及び国境離島における立地等の利用状況の調査及び利用等の規制に関する法律として、先ほど申しました２０２１年に制定をされていると。

政府は安全保障上、重要な土地の利用規制に向け、重要土地等調査法に基づき、指定した国境離島や自衛隊基地周辺５８か所で、本年２月より運用が開始されております。

指定された全国５８か所の自治体ですが、これは内閣府の資料から作成したものです。北海道、それから青森。すみません、資料５です。日本地図の、開きましたか。

これは、北海道、青森、それから東京、島根、長崎で、５都道県で、長崎県は本市、対馬と五島が指定されております。

指定自治体は第１弾として、離島や国境に近い区域が優先的に指定されていますが、第２弾と

して、人口密集地域の指定が予定をされております。

先ほど、御回答の中にもございました注視区域、特に司令部機能を有する重要な特別注視区域や注視区域につきましては、この資料のとおりでございます。

まず、注視区域につきましては、重要施設の敷地の周囲おおむね１，０００メートルということ、区域内である土地等の機能阻害行為の用に供することを特に防止することが必要ということで、先ほども説明がございましたけれども。

それから、特別注視区域、これは注視区域に係る重要施設が特定重要施設である場合、または注視区域に係る国境離島等が特定国境離島等である場合には、当該注視区域を特別注視区域として指定することができるということでございます。

ちょっとまだ法律が制定されたばっかりで、なかなか理解がされていないことがございますけれども、これが今、本市の指定された状況です。

赤で示した地点が特別注視区域でおよそ１０か所、約１０か所と、５か所。（発言する者あり）はい、はいはい。

○副議長（黒田　昭雄君）　市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝　尚喜君）　今、私もこの資料を見させていただいたんですけれども、特にこの特別注視区域が１０か所となっているので、なぜうちのと合わないなと思って見よったら、黒島が抜けておりますね。

○議員（６番　伊原　　徹君）　ああ、黒島。

○市長（比田勝　尚喜君）　それで、特別注視区域が１１か所、そして、注視区域が８か所ということで、１９か所というふうに理解をしております。

○副議長（黒田　昭雄君）　６番、伊原徹君。

○議員（６番　伊原　　徹君）　失礼しました。私の資料に不備があったということで、大変申し訳ございません。

おおむねこういったことで、市内は１９か所ということで、これも確認よろしゅうございますかね。ありがとうございました。

先ほども申しましたように、規制された土地の指定につきましては、まだ始まったばかりでございますけれども、自衛隊施設の関連基地周辺地域の機能妨害行為の取締りなど、本市の対応について、ある程度、今後の協議事項だと思いますけれども、そのあたり少し、何か特別というか、担当部局はどのような形で整理をされる予定でございますか。

○副議長（黒田　昭雄君）　市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝　尚喜君）　今回の、この重要土地関係につきましては、まだまだ国のほうからも通知等あっておりません。

ただし、やはり、そのほかの土地で山林等を買い上げてある方もちらほらいらっしゃるようでありますので。これとはまた別の、国土利用計画法に基づき、１万平方メートル以上は届出が必要というようなことで、指導をしているような状況であります。

○副議長（黒田　昭雄君）　６番、伊原徹君。

○議員（６番　伊原　　徹君）　来年ぐらいにすればよかったですね。始まったばかりの、質問もなかなか厳しゅうございますので、申し訳ないですね、本当に。

空き家、この１点目と若干関連するという思いがあって、やむなくこういった質問をさせていただきました。

特に、市内の方々も、午前の陶山議員のお話もございましたけれども、土地・家屋等の買収、これがやっぱり進んでいるのは間違いございません。それで、金額面で、やっぱり相当というか開きがあるようです。ある土地については、金額はあまり言いたくありませんけど、若干というか相当の差があるようです。これも恐らく、情報が入っているんじゃないかと思いますけれども。

そういった流れの中で、やはりその外国資本による土地の買収、家屋等の買収ということになると、今後、進みますと、今、お住まいの方々が不安を抱かれるんじゃないかと思っております。このあたりは、まだ先ほどの重要土地等の関連もございますけれども。

これがまだまだ今後どういう形になるか、国からのどういった指針が来るのか。それから、特に厳原の城下町の地域につきましては、当然、久田道から桟原まで、この辺りはしっかりと盛り込んであるようでございます。

それで、このことも踏まえて、今後、市民の方々が不安視されないような、ある程度の対応というか、しっかりとした対応を、市のほうで担当部のほうでできるような体制づくり、これ、本庁のみならず、それぞれの各庁舎のほうにも、そういったやり取りができるように、常日頃、体制づくりができるような対応が必要じゃないかと思っております。

４月の組織改正でそのあたりがされてあるかどうか、それから今後、なされるかどうか、しまづくり推進部が中心になるかも分かりませんけれども。そのあたりは、重要な案件と私は認識をしておりますので、そこは少し、４月以降の新しい組織づくり、そのあたりのお考えがあるか、ないか。お願いします。

○副議長（黒田　昭雄君）　市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝　尚喜君）　今現在で重要土地等の調査規制法については、議員おっしゃるように、しまづくり推進部のほうで担務を執っております。

今後もまた４月以降の、少し一部機構改革等もございますけれども、ここは、しまづくり推進部が本部となって、中心的な役割を担いながら、他の振興部、そして、行政センター等とも連携を取りながら、取りこぼしがないように進めてまいりたいというふうに考えております。

○副議長（黒田　昭雄君）　６番、伊原徹君。

○議員（６番　伊原　　徹君）　ありがとうございます。

１点目の税の徴収漏れ、これ、やはりしっかりとした対応が必要です。これも当たり前の話です。市内の空き地や空き家が、外国資本による取得が増える可能性がありますけれども、これが今後、進まないように、どこかで終えるような、そういったことも必要と思っておりますので、今年の２月から運用開始されました重要土地等規制法指定による特別注視区域指定地などの、特に、財産取引防止が必要かと思っておりますので、しっかりとした御対応をお願いできればなと思っております。

まだまだ言いたいことがいっぱいあったんですけれども、まだ始まったばかりで、市長のほうも御回答も大変苦しい状況と存じますので、この問題につきましては、また今後ともしっかりとした御対応、取組をお願いをして、私の質問を終わります。ありがとうございました。

○副議長（黒田　昭雄君）　これで、伊原徹君の質問は終わりました。

○副議長（黒田　昭雄君）　暫時休憩します。再開は１３時５５分からとします。

午後１時42分休憩

午後１時55分再開

○副議長（黒田　昭雄君）　再開します。

引き続き、市政一般質問を行います。３番、神宮保夫君。

○議員（３番　神宮　保夫君）　皆さん、こんにちは。

本日のトリ、また今週のトリを務めさせていただきます。新政会、３番議員、神宮です。よろしくお願いします。

ロシア・ウクライナ紛争から１年がたち、それによって燃油の高騰、物価の高騰、そして賃金が高くなり、対馬の商売人が苦戦しております。どうか市民の皆様、経済活性化のためにたくさんの買物をお願いします。

また、公務員の皆様にもお願いがあります。コロナの影響により出不精になっているでしょうが、夜の街のために飲み会をどんどんしてください。よろしくお願いします。

また、市長にもお願いがあります。市長選挙のときに厳原で言われた公約が、果たされていないと聞きます。あと１年ありますので、どうか果たされるように頑張ってください。お願いします。

では、本題に入ります。

まず１つ目の質問は、天道茂にある警察官舎のことです。

そこに隣接する道路は、車からの死角が多くて、道路も狭く、交通事故が多いところです。また、建物等も５０年から６０年以上たっていると思われます。塀はひびが入り、いつ倒れてもおかしくない状況です。建物も三、四年使われていないみたいで、もう住むことはないと思います。

この土地を市で購入していただき、地区のためになるような場所にしていただけないでしょうか。

そして、２つ目の質問は、厳原町阿連地区にある白浜から阿連小学校跡間の道路の整備のお願いです。

白浜は景観がよく、地元の人に愛されている海水浴場です。ですが、そこまで行くことが難しい状態になっています。どうか、浜まで行きやすい通路を造っていただけないでしょうか。また、そこから阿連小学校跡地まで１００メートルぐらいの道が、よい状態ではないので、整備をしていただけないでしょうか。

それとまた、阿連漁港の防風ネットの件です。

ここ２年の大型台風により、大波堤を波とごみが乗り越え、船を着けられない状態になっております。どうか防風ネット延長をよろしくお願いします。

そして、３つ目の質問が、対馬真珠についての質問です。

今、対馬真珠は大変、景気がいいと聞いております。ですが、対馬真珠というブランドを耳にしたことがほとんどありません。ＰＲ不足と思うのでもっとＰＲしてもらって、対馬ブランドを確立してはどうでしょうか。

そして、４つ目は、５月８日で新型コロナが５類への移行が決まりました。この２年間で一番傷んだ夜の街を活性化のために、以前、厳原の茶屋町で開催していた藤酔い祭りを再開してはいかがでしょうか。

以上、４つの質問、答弁をよろしくお願いします。

○副議長（黒田　昭雄君）　市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝　尚喜君）　神宮議員の質問にお答えいたします。

初めに、天道茂警察官舎及び塀の有効利用についてですが、私も警察官舎付近の道路状況を写真で確認をいたしました。カーブミラーの設置により、交通安全対策を講じてはおりますが、議員がおっしゃるように、警察官舎の塀及び木柵の影響により、双方から見えづらい状況であると認識しております。

交通安全上の土地・建物の購入を行い、その土地等の有効活用ということでありますが、基本的には、利用目的のない財産は取得はできないものと考えております。しかしながら、通学を含む歩行者の安全確保の観点から、何らかの対応ができないかと思っております。

対馬南警察署に確認したところ、官舎については解体の方向であるとのことでありますので、

それまでの間、運転者・歩行者の視界を広げる意味でも、対馬南警察署に相談しながら、木柵等の撤去などができないか検討したいと思います。

次に、阿連地区の海水浴場、白浜への通路及び旧阿連小学校への道の整備等についてでございます。

まず、海水浴場、白浜への御質問ですが、白浜は海水浴では利用されているものの、天然海岸の白浜であり、対馬市で指定している海水浴場ではないことを御理解願います。

この白浜への通路整備として、河川への下り口については、上流側で大雨時に越水している状況を鑑みますと、河川に階段・スロープ等を設置することによって、下流の河道幅を狭くし、越水を誘発するため、困難であると考えます。

次に、阿連小学校方向への県道との接続までの道路の整備及び河川への蓋の設置についてでございます。

御質問の道路の整備については、平成１１年度に着手しました漁業集落環境整備事業の事業計画において、計画はあったものの、土地所有者の同意を得られず、未整備となった経緯がございます。

河川に蓋を設置して道路を拡幅とのことでございますが、大雨時に越水していることを考慮いたしますと、蓋をすることにより流木等が河川を塞ぎ、水流を遮断する恐れがあるため、非常に困難な状況であると考えます。

次に、阿連漁港の防風ネットの新設についてでございますが、今回、御質問の防風施設設置要望箇所は、大正末期に旧佐須村事業として、河口船留を目的に建設された石積堤であり、漁港指定後の整備により、先端部に南防波堤約８５メートルの建設及び港外側への消波ブロック設置、港内側へ物揚場の設置などの改修を行い、現在は、南防波堤の取付護岸となっております。

南防波堤の防風施設設置につきましては、漁港内に発生する風の影響を低減させ、漁船の安全な係留、陸上げ等、漁港内での作業効率及び安全性を向上させる目的で、平成２８年に設置したものでありますが、整備時において、地区内への風の流れの変化などを危惧する声も聞かれておりました。

補助事業採択には様々な要件もございますが、市といたしましては、事業実施に向けた検討は可能と考えます。防風施設のような大きな整備におきましては、周辺環境への影響も考慮する必要があり、地域住民の同意が必要となりますので、議員におかれましては、地域での意見集約に御尽力いただき、改めて御要望をいただければと思います。

次に、対馬真珠のブランド化についてでございますが、初めに、対馬市における真珠養殖業につきましては、静穏な浅茅湾を中心に、現在３９経営体において養殖が営まれており、雇用約３５０人を抱える主要産業となっております。

また、令和３年統計により、都道府県別で見ると、長崎県は全体取扱数量の４１％を占めて第１位であり、対馬はその約半分を占める全国有数の生産地となっております。

対馬における真珠養殖業の歴史は古く、大正１０年頃に養殖が開始され、昭和３０年代半ば頃から生産拡大に取り組みながら、平成初期のピーク時には、組合員数が９６経営体、真珠組合の共販額も４０億を超える状況となっておりました。

その後は、組合員数、共販額ともに漸減傾向にあり、近年はコロナ禍の影響を直接受ける形で、入札会が長期間中止されるなど、大きな影響がありましたが、現在は、生産量は減少しているものの、中国市場の回復等需要増加に伴い、共販単価は非常に好調で、金額も前年度を上回る見込みとなっております。

対馬真珠のブランド化につきましては、ふるさと納税返礼品において、対馬産アコヤ真珠として登録しているほか、対馬産の真珠のみを使用した島外加工販売業者において一部流通しているものの、僅かな数量にとどまっております。

通常、真珠を加工品化する場合、同規格・同品質の真珠を１つの生産地で確保することは困難であり、生産地の混在により高品質な加工品に仕上げる傾向が主流であることから、対馬ブランドとして、対馬産に特化した加工品製造は、限定的になるものと考えられます。

また、真珠養殖業は、天候などの自然環境に大きく左右されるため、安定した品質確保は非常に難しく、消費者にとって、ジュエリーブランドのミキモトとかタサキ等でありますけれども、このジュエリーブランドに対する関心度は高いものの、産地をブランドとして重要視する傾向は低いと言われております。

このため、真珠組合や生産者の取組としては、加工品としてのブランド化よりも、加工原料としていかに高品質な真珠を入札会に出品できるかに注力しており、地区や生産者グループで情報交換を積極的に行いながら、品質の向上に取り組んでいるところでございます。

その成果として、入札会でも評価が高く、高値で取引されており、品評会でも数々の受賞につながっております。

最後に、藤酔い祭りについてでございますが、令和４年１０月１１日から実施されました全国旅行支援により徐々に人流が増し、観光需要をはじめ市内経済は回復へと向かいつつあります。

市では、１月から２月末までに２５％を還元するキャッシュレス決済促進事業を実施し、消費の下支えによる事業者の支援を行ったところです。

この祭りについては、厳原の茶屋町の活性を図る必要な取組案の１つとして、御提案をいただいておりますが、市といたしましては、キャッシュレス決済促進事業のような全島広域的に効果をもたらす対策を行うことが、まず肝要であると考えております。

この祭りは、過去に厳原市内の飲食店などが連携し、藤の花に絡めた取組として実施されたと

承知しております。そのため、まずは厳原市内の飲食店等が主体となり、事業の組み立てを行うことが重要と考えております。

以上でございます。

○副議長（黒田　昭雄君）　３番、神宮保夫君。

○議員（３番　神宮　保夫君）　県警と、南警察署と相談の上、撤去に向けて動かれるということで、そこは、よい方向に向かうかなと思っています。どうもありがとうございます。

今、通学時間、子供たちが行くときに、高校から送り迎えの車が、どんどん上から下りてくるような状況で、その辺が今、危ない状況になっておりますので。ですから、撤去の時期を待たれないで、どうか塀だけでも、早めに取りかかっていただけないかと思いますが、市長、どうでしょうか。

○副議長（黒田　昭雄君）　市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝　尚喜君）　まず、これ相手が、南警察署がいらっしゃいますので、南警察署のほうと今、いろいろと相談をしているということでございますので、そこらへんは、今後また、協議の中で、できるだけ早くすることが、可能かどうかを進めてまいりたいというふうに思っております。

○副議長（黒田　昭雄君）　３番、神宮保夫君。

○議員（３番　神宮　保夫君）　分かりました。

それで、その先の香月モータースから先です。あの辺ももう帰り、帰るときの、あそこの直線で、小学生とか高校生が一緒に並ぶ帰宅時間で、もう車が通ると、ほぼ両方に分かれて、危ない状況になっております。

あの辺に、ちょっと川側に歩道とか何か、そういうのはつけられないでしょうか。お伺いします。

○副議長（黒田　昭雄君）　市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝　尚喜君）　その路線は、国道３８２号線から厳原本川の左岸側沿いに、約３９０メートルの路線であるというふうに思っておりますけども。

この路線について、現在では路線の計画はございませんけども、平成２２年度から２３年度にかけて、都市再生整備事業計画によりまして、排水工、そしてまた防護柵を改修いたしまして、少しでも車両や歩行者が通行しやすくなるように、整備をしているところでございます。

今、議員おっしゃるように、この路線は狭隘な地形でありまして、家屋が建ち並んでいるというようなことで、面的なサービス整備を行うことは困難であろうかというふうに判断しているところでございます。

○副議長（黒田　昭雄君）　３番、神宮保夫君。

○議員（３番　神宮　保夫君）　ありがとうございます。なかなか厳しいということで、できるようでしたら、また、歩道を子供たちの安全のためによろしくお願いします。

そして、県警の、自分は天道茂に住んでいて、この県警の官舎を天道茂か中村辺りに欲しいという話を、もう探されているということを話を聞いたんです。そのあたりで、どうか天道茂辺り、もう土地が大分、空いてきていますので、そのあたり、宮谷とか桟原に警察官舎が空いたところがありますので、その辺りを購入していただき、そして、また天道茂辺りにそういう官舎をできるような土地を探していただき、そして、もちろん市が建てるということは無理でしょうから、土地を見つけてやって、そして、その土地の人と官舎を建てるような感じの契約をしてやって、融資が出やすい状況にして、そういうことは市としてはできないんでしょうか。

○副議長（黒田　昭雄君）　市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝　尚喜君）　今の質問は、どうも意味がよく分からない。警察官舎を市で建てろと言うようなことに私は聞こえたんですけど、どうなんでしょうか。

○副議長（黒田　昭雄君）　３番、神宮保夫君。

○議員（３番　神宮　保夫君）　すみません、言い方が悪かったです。土地が空いていますんで、市が建てるとかじゃなくて。市は官舎を建てられるように、地元の人と話をつけて、そして、融資が出やすいようにとか、そんなことは市としてはできないんでしょうか。

○副議長（黒田　昭雄君）　市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝　尚喜君）　いやいや、要は警察官舎のことだと思いますけども、警察官舎は長崎県ですから。これは警察のほうで官舎は建てられるものであろうかというふうに思います。

そういうことで、市として警察官舎を建てることはあり得ないと思います。

○副議長（黒田　昭雄君）　３番、神宮保夫君。

○議員（３番　神宮　保夫君）　すみません、分かりました。

では、２問目に進ませていただきます。

以前、集落から、要望があって計画したみたいですが断念したと聞きました。ですが、今はその時代と変わって、今、ゴースト・オブ・ツシマが出てきて、そして、阿連地区は、元寇跡の小茂田浜から金田城のちょうど中心点になります。箕形から、加志までのトンネルが開通したら、またもっと近くなります。それで阿連地区まで、一緒に観光を入れてみてはどうでしょうか。

この白浜は、干潮のとき沖まで遠浅になり、きれいな波ができて、サーフィンとか、ボディーボード、カヌー、そして今、はやりのサップとか、そういうのに適した海岸です。

そして、また沖に出て左側に行けば、阿連の洞門、右に行けば隕石が落ちたと言われる星池。そしてまた、この浜には、ここにしか生息していないような小さなカニが生息しています。そのあたりを調査してみたらどうかと思います。

また、この地区、阿連には、日本最古の銀山、そして、オヒデリ様、炭焼窯、伝教大師最澄の記念碑、雷命神社。そして、丘からは、天気がよい日は、澄んだ日は韓国が見えますので、阿連小跡に電気自動車とかそのあたりを置いて、観光地めぐり。そして、そんなのはできるのではないでしょうか。

この阿連小跡から白浜入口の整備を、今は難しいと思いますが、観光客が増えるようになったら、また整備のほど考えてください。よろしくお願いします。

そして、どうか下り口だけでも、鉄のはしごとか、豊玉の川にあるような鉄のはしごぐらいやったら、できないものでしょうか。そうしたら、波の影響とか水害の影響とかないと思うんですけど、どうでしょうか。

○副議長（黒田　昭雄君）　市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝　尚喜君）　先ほども説明しましたとおり、私もここの担当者といろいろ話をさせていただいたんですが、要は、どうもここの三面張り自体が、断面が少し不足をしているような状態でありまして、特に上流部のほうで大雨時には越水をしているというようなことでありますので、議員おっしゃる気持ちはよく理解はできますけど、なかなかそういった災害を誘発するような構造物は、行政として造ることは危険であろうかというふうに思っております。

ですから、地域の方々が便宜的に、そこにちょっと、夏場、海水浴のときだけ使われて、その以外は上げておくとか、そういったことは可能かとは思いますけども、そのことについては、また地域とよくよく相談をしながら、できるものなら、そういった面についてはお手伝いができればなというふうには思います。

○副議長（黒田　昭雄君）　３番、神宮保夫君。

○議員（３番　神宮　保夫君）　では、できるものならどうかよろしくお願いします。

では、次に行かせていただきます。

漁港の阿連の防風ネットの延長の件です。昨年の台風のときに、古い防波堤を、消波ブロックを乗り越えて、波とごみが港湾の中に入ってきて、船を係留することができない状況になっておりました。

要望を集落の方が提出しようとしているのですが、僅かな反対により、取り下げてしまっている状況となっております。ですから、そのあたりを市役所職員さんが間に入って、そういう集落をまとめるとかそういうことはできないんでしょうか。

○副議長（黒田　昭雄君）　市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝　尚喜君）　私も先ほども答弁いたしましたとおり、ここで阿連地域、阿連漁港として、ここに要望が出れば、漁港の長期計画のほうに計上をして、計画することは可能だというふうには思っております。

ただし、ここに、防風柵は要らないというような住民の方もいらっしゃるというような話を聞いておりますので、まずはその地域のほうで、阿連のほうで全体的な話をまとめた上で、要望をしていただければというふうに思います。

○副議長（黒田　昭雄君）　３番、神宮保夫君。

○議員（３番　神宮　保夫君）　分かりました。そのように伝えておきます。

また、せっかく、この新しい浮き桟橋ができているので、それが今年大きな台風が来て壊れたりしたらいけないので、どうかその辺を早々にお願いしたいと思います。

では、次に行かせてもらいます。

現在、対馬真珠は好景気を迎えているように思われます。全然、真珠という話を聞きません。空港・ホテル等にも置いてありますが、売れている形跡はありません。

先日、福岡放送で、福岡の相島が真珠を取り始めてまだ１５年ということでしたが、ジュエリー会社のミキモトと提携して福岡で売り出すということを言っておりました。

また、他の番組では、パールコロッケとしてアコヤ貝の貝柱が入ったコロッケがよく売れているとありました。

対馬真珠は、今までテレビ等に取り上げられなくて、ブランドとしてできていなかったので、これからタサキとかミキモトとかそういうところと提携しては、そういうことはできないんでしょうか。

○副議長（黒田　昭雄君）　市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝　尚喜君）　先ほども答弁いたしましたとおりでございまして、これは、うちの担当の職員のほうが直接、真珠組合に出向きまして、組合長さんや事務局長さんたちと、このことについていろいろと協議をしてきた上での答弁でございます。

要は、ミキモトとかタサキ等の、ジュエリーブランドとしての関心度は高いと考えてはいるんでしょうけども、その産地をブランドとして重要視する傾向は低いと。それよりもまして、対馬真珠としての品質の向上に尽力するほうが、対馬真珠業界としてはいいですよというようなことらしいです。

まして、それのほうが入札会での評価も高くなって、真珠業界としても、そのことが活性化のほうにつながりやすいということでございますので、御理解をお願いしたいと思います。

○副議長（黒田　昭雄君）　３番、神宮保夫君。

○議員（３番　神宮　保夫君）　分かりました。

どうか、対馬でも観光客等から、対馬でもそういう真珠のネックレスとか指輪とかそんなものが、当地のお薦めとして売れるように持っていってもらいたいものと思います。

そして、こういう対馬真珠が、漁業者そして農業者さんとかを育成して、移住者を募集されて

いますが、それに、この景気がいい真珠養殖業者も入れて募集とかされたらどうかと思いますが、どうでしょうか。

○副議長（黒田　昭雄君）　市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝　尚喜君）　要は、今現在、真珠養殖業界も、今３５０名ぐらいですかね、雇用が。そういう形で、雇用のほうが不足もしているというように聞いております。

議員おっしゃるように、外国人労働者の雇用が可能であれば、また、そういうふうに、真珠組合等と一緒に取り組んでまいりたいとは思っております。

それよりもまして、今、言われるように、私自身は対馬のブランド、真珠のブランド化っていうよりも、対馬島内で、やはりその対馬真珠を売っているその店舗が、むしろ少ないのではないかと。むしろそういった店舗のほうを、もう少し開拓して広げていくのが先決ではないのかなというふうには思っております。

○副議長（黒田　昭雄君）　３番、神宮保夫君。

○議員（３番　神宮　保夫君）　はい、分かりました。いわゆる対馬にある免税店、韓国の、そういうとこに、もしかしたら置かれたら、またきれいな陳列とかしているんで売れるのではないかと思います。どうか考えてみてください。

そして、この貝柱も意外とおいしくて有名です。対馬の。そのあたりがまだ冷凍保存しても、長期保存ができないので難しい、長期保存が難しい状況になりますが、そのあたりを長期保存できるようにそういうことをされてはいかがと思いますが、どうでしょうか。

○副議長（黒田　昭雄君）　市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝　尚喜君）　確かに、アコヤ貝の貝柱は、私も刺身にして食べたり、空揚げにしたり、天ぷらにしたりということで、大変おいしゅうございますので、これが、そういったブランド化にできれば一番いいんですけど。聞いたところによりますと、従業員の方たちにまず分けるというようなことで、なかなか市中には、その量が出ていないということをお聞きしております。

○副議長（黒田　昭雄君）　３番、神宮保夫君。

○議員（３番　神宮　保夫君）　分かりました。こういうのが増えたら、本当の対馬の食材として売り込んでいけるかなと思いますので、取れるようになりましたら、また豊玉にも工場とかありますので、その辺りで加工して、いろんなものにして、対馬の食材として売り込んでいってもらいたいものと思います。

では最後、いきます。

やはり、一度なくなったイベントは、やっぱり予算がつけにくいというみたいで、しかし、そのときの予算は、市役所の観光課やったと思います。それを商工会にお願いして予算が下りたと思います。いつも商工会青年部が熱くて、活動も奉仕の気持ちでやっていた。最後は、場所的に

茶屋町より遠いところで、効果もなくなったと記憶しております。

ですが、そのとき、当時は全てのお店で格安で飲めたり、対馬中からホテルに泊まって参加されていたかと記憶しております。今でも続いていたら、観光イベントになっていたのではないかと思います。そのように店もホテルも酒店も、よい相乗効果が生まれますので、どうか考えてもらいたいんですけど。

対馬中、厳原だけということは厳しいと思われますが、対馬の人たちは、厳原が元気にならんといけんと思われている方がほとんどと思います。

ですから、そういうのを、コロナ禍で傷んだ飲食店を助けるためにも、こんなイベントをしていただきたいんですけど。

そしてまた、福岡、全国でベスト３に入るぐらいの、独身女性が多い県と言われております。昔、福岡のコンビニエンスストアとか提携して、対馬に女性を呼んで、商工会と食事したり釣りしたり、そういうことをしたこともありました。

女性限定で、旅費そのあたり、食費等を助成して、この対馬の独身男性と婚活イベントを、この藤酔い祭りでされたりそういうこともできるのではないでしょうか。そうしたら、そういうのも、全て今までは、観光商工課とかがほとんど中心でされていましたが、飲食店組合の若手も増えてきておりますので、頑張る人がその辺に相談しながら、どうかやってもらいたいと思います。そうしたら、国とかその辺から、婚活イベントとか国から補助とか出ないんでしょうか。

○副議長（黒田　昭雄君）　市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝　尚喜君）　何か、この藤酔い祭りにプラスされて婚活イベントまで出てまいりましたけど、確かにそういった形で、藤酔い祭りだけじゃなくて、そういった婚活イベントも交えたイベントとして計画されて、そこにまた商工会のほうが主体となってやっていきましょうというような形になれば、市としても予算的にも組みやすくなってまいりますので、もう少しそこら辺は、ただ単純に藤酔い祭りに補助してくださいじゃなくて、そういった形で、もう少し計画を綿密にされたらいかがかなというふうに思っております。

そしてまた婚活イベントのほうは、今、商工会とかほかの団体、３団体ほどで婚活イベントには、取り組まれている状況でございます。

○副議長（黒田　昭雄君）　３番、神宮保夫君。

○議員（３番　神宮　保夫君）　ありがとうございます。対馬で商工会そして社協あたりが中心でされているみたいです。

なかなか対馬だけの婚活ということで、やっぱり恥ずかしくて行かれない方がたくさんいると思うんで、どうかあちらからも呼んで、こういう婚活イベントとか、特に飲みながらそういうことをしたら、話しやすいし、よい方向になっていくんじゃないかと思いますので。

そして、また商工会あたりに話してみて、どうか活性化協議会あたりにも、観光あたりにも、話してみたいと思います。

そして、予算が多分、こんなのもないと思うんで、今、自動販売機とか、メーカーから売上げのバックがあるようにありますよね、自動販売機の。（発言する者あり）ああ、そうですか。すみません。自動販売機、サントリーとかそういうコカ・コーラとか、メーカーから自動販売機の売上げのバックがあると思います。

そこで、前、アサヒスーパードライも長崎県と提携して、そういうバックとかあったんで、対馬市もそういう酒造メーカーとかその辺と提携して、そういうのとか考えていないんでしょうか、どうでしょうか。

○副議長（黒田　昭雄君）　通告外ということで、そろそろ収めていただきたいと思いますが、いかがでしょう。

○議員（３番　神宮　保夫君）　分かりました。

以上で、自分の質問を終わらせていただきます。どうもありがとうございました。

○副議長（黒田　昭雄君）　これで、神宮保夫君の質問は終わりました。

―――――――――――――・―――――・―――――――――――――

○副議長（黒田　昭雄君）　以上で、本日予定しておりました市政一般質問は終わりました。

来週月曜日も引き続き、定刻より市政一般質問を行います。

本日はこれで散会とします。お疲れさまでした。

午後２時39分散会

令和５年　第１回　対　馬　市　議　会　定　例　会　会　議　録（第14日）

令和５年３月６日（月曜日）

議事日程（第５号）

令和５年３月６日　午前10時00分開議

日程第１　市政一般質問

本日の会議に付した事件

日程第１　市政一般質問

出席議員（19名）

１番　糸瀬　雅之君	２番　陶山荘太郎君
３番　神宮　保夫君	４番　島居　真吾君
５番　坂本　充弘君	６番　伊原　　徹君
７番　入江　有紀君	８番　船越　洋一君
９番　脇本　啓喜君	10番　春田　新一君
11番　小島　徳重君	12番　小田　昭人君
13番　波田　政和君	14番　小宮　教義君
15番　上野洋次郎君	16番　大浦　孝司君
17番　作元　義文君	18番　黒田　昭雄君
19番　初村　久藏君	

欠席議員（なし）

欠　　員（なし）

事務局出席職員職氏名

局長	勝見　一成君	次長	平間　博文君
課長補佐	糸瀬　博隆君	係長	犬束　興樹君

説明のため出席した者の職氏名

市長	比田勝尚喜君
副市長	俵　　輝孝君
教育長	中島　清志君
総務部長	木寺　裕也君
総務課長（選挙管理委員会事務局書記長）	一宮　　努君
しまづくり推進部長	伊賀　敏治君
観光交流商工部長	村井　英哉君
市民生活部長	舎利倉政司君
福祉保険部長	國分　幸和君
健康づくり推進部長	桐谷　和孝君
農林水産部長	黒岩　慶有君
建設部長	内山　　歩君
水道局長	立花　大功君
教育部長	八島　誠治君
中対馬振興部長	松井　惠夫君
上対馬振興部長	阿比留　裕君
美津島行政サービスセンター所長	藤田　浩徳君
峰行政サービスセンター所長	居村　雅昭君
上県行政サービスセンター所長	原田　勝彦君
消防長	主藤　庄司君
会計管理者	二宮　照幸君
監査委員事務局長	志賀　慶二君
農業委員会事務局長	主藤　公康君

午前10時00分開議

○議長（初村　久藏君）　おはようございます。

ただいまから議事日程第５号により、本日の会議を開きます。

日程第１．市政一般質問

○議長（初村　久藏君）　日程第１、市政一般質問を行います。

本日の登壇者は４人を予定しております。

それでは、届け出順に発言を許します。１６番、大浦孝司君。

○議員（１６番　大浦　孝司君）　皆さん、おはようございます。本日、一般質問最終日でありますが、私の一般質問の内容においては、先般、作元議員が産業建設常任委員会の会議の折、漁業協同組合長の二宮組合長がわざわざ会議終了後、時間を取っていただきたい、話を聞いていただきたいという強い思いで説明等がございました。

このことで、私は対馬の水産振興における中で、対馬海域の大中まき網の操業は、この数十年前から、沿岸漁民とのトラブルと申しますか、非常にうまくいかずに非常に漁民が苦しんだという思いを聞かされておりました。

これが、今回の組合長の説明では、まき網の業界の方針、方向が大きく変わるという説明の中で、このことで拡大路線に転じる、簡単に言えば、中型まき網を廃止して大型まき網に、業界のやはり一つの進行方向として、一致した方向でこれを執り行うと。８０トンの中型まき網の、いわゆる規模を１５０トンに持っていくというふうな説明が１２月と２月に水産庁からあったということでございます。

その中で、非常に解せん、要は理解をしにくいことが話の中にあったと、このことが大きな一つの内容だと捉えております。

現在、対馬海域、これは日本海の西部というふうな位置づけの中で、対馬海域はその操業の許可を水産庁の中で取られておると。この中で東の沿岸は８マイルのラインを切っております、８マイル、１，８２５メートルですか１マイル。西海岸においては僅か３マイル、これが操業禁止区域というふうなことで、それより中に入ってはいけませんよというふうな水産庁の線引きでございます。

それを大型船となれば、今のは中型船の範囲でございますが、西３マイル、東沿岸８マイル、これが中型船の操業範囲の禁止区域でございます。

これを大型船に近い将来変えていく、こうした場合に、西沿岸は基本から言うたら、大型船は８マイルより外側の操業になります。東海岸は１０マイルから時期によっては１２マイル、このようなことが国のまき網の操業禁止区域の設定がなされておるということでございます。

この１２月の説明会において、水産庁の職員、これは当然、業界がそういうふうな方向転換する、沿岸漁業等の方向性について説明をする、当然のことでありましょうが、これに業界のまき網の正式名称は全国まき網漁業協会とか漁業協同組合とかいう名称でございますが、その中で、８マイルよりさらに５マイルの内側から網を入れる、また最後に残りを対馬近海に入れ込むような協議申入れがあったと。これ耳を疑うようなことであります。

ここらについて、作元議員がこの問題に一般質問されて産業建設常任委員会、私と作元議員がこの問題に、対馬市はこの問題をどのように市長は思われるか、そして何か策があるようなことがあれば意見を聞きたいと、このことを通告書には書いております。

ですから、市長の答弁は、先だって行われました作元議員の答弁と私の質問はほとんど一緒でございますから、これは省略して、私の一問一答でひとつチェックしていきたいと思いますが、そのような思いでございます。

市長、このことについて何かございましたら意見をください。

○議長（初村　久藏君）　市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝　尚喜君）　作元議員のほうにも答弁もいたしております。方向性は同じでございますけれども、ただ、今、いろいろと詳しく質問等おっしゃられましたので、私のほうからは簡潔にもう一度だけ答弁はさせていただきたいというふうに思います。（「お願いします」と呼ぶ者あり）

○議長（初村　久藏君）　市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝　尚喜君）　おはようございます。大浦議員の質問にお答えいたします。

先ほども話ありましたように、このことにつきましては、作元議員の質問にも答えておりますので、重複する面が多々あろうかとは思いますけども、簡潔に説明をさせていただきたいと思います。

対馬周辺海域における大臣許可の大中型まき網漁業の許可につきましては、九州西部海区、西部日本海海区、東海黄海海区の３海区があり、最新の許可隻数は３海区合計で３５隻となっております。

また、大中型まき網漁業の許可等に関する取扱方針により、海区ごとに総トン数の最高限度が定められており、九州西部海区は８０トン、西部日本海海区及び東海黄海海区は１３５トンとなっております。

このうち九州西部海区における最高総トン数は８０トンであることから、一部操業区域が重複する他の２海区もその制限を受けることとなり、実質、対馬近海で操業可能な許可船は総トン数８０トン以内の９隻とされております。

その中で、対馬市漁業協同組合長会と長崎県旋網漁業協同組合所属の３船団の間で、操業秩序確保と資源管理のために平成１７年１月に協定が締結され、現在まで対馬西岸海域での操業自粛について継続した協議がなされております。

操業区域につきましては、漁業の許可及び取締り等に関する省令により、厳原町内院地先の神埼灯台から上対馬町鰐浦地先の三島灯台を結ぶ線より東岸は８マイル、西岸は３マイルが操業禁止区域となっております。

また、現在の協定、３船団については、西岸３マイルから５マイルにおいて５か月間の夜間のみ操業可能とされておりますが、代船建造に伴い大型化された船団については、３マイルから５マイルは周年操業を自粛するとの方向性が提示されているもようであります。

議員御質問の、対馬西岸における５マイルから８マイルの範囲での操業につきましては、船舶の総トン数の変更の特例に該当する代船建造であれば、現行の省令による西岸３マイルが適用されるものと思われますが、対馬沿岸漁業者にとって非常に重要な海域であることから、関係者間の相互理解のもと、慎重に協議すべき問題であると認識しております。

市といたしましても、漁獲量は増大させないことに対する条件や確認方法等について、対馬市沿岸側にとって不利益な状況とならないよう、関係機関と連携、調整を図りながら、適宜対応に努めてまいりたいと考えております。

以上でございます。

○議長（初村　久藏君）　１６番、大浦孝司君。

○議員（１６番　大浦　孝司君）　産業建設常任委員会の折、会議終了後の二宮組合長の説明では、細部にわたって詳しい説明は少し私らになかったような気がします。今の話の中で、概要は８０から１５０になるんだよという中で、取扱いが中型から大型になるんだという言い方の中で、５マイルの線引きの話は不当ではないかという言い方をされた程度に終わったんです。

今の市長の話の中では、今回の８０から１５０トンに拡大した場合の規模ですね、これでその関わり合いが少し緩和措置があるみたいな話をちょっとしたんですが、その辺、ちょっともう一回確認を取りたいんですけども、その辺が当日の話にはなかったような気がします。

簡単に言えば、８０から１５０になった場合に、その５マイルから操業を開始できるような要請的なものがあったというふうなことで、それは承服できないというふうなことでございます。

そして、もう一つは、従来であれば大型船において西の操業禁止区域は８マイルより外だと、そういう説明がございました。それと、東海岸においては、通常、大型が１０マイルから外ですよという言い方をされています。ですから、今の何といいますか、８０トンを１５０トンにする場合の特例の措置の中で少し緩和があるような話をちょっとされたような、今の市長の発言の確認を再度、取ってみたいと思います。ちょっと詳しく、時間をゆっくりお願いします。

○議長（初村　久藏君）　市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝　尚喜君）　私のほうに報告があっておりますのは、今回、これまで特にこの対馬の西側の海域で操業されているまき網船は８０トンまでとされております。そういう中、やはりまき網業界におきましても、安定的な経営を図ることやら、やはり安定した雇用を図るためには、船の大型化による居住環境の改善、そしてまた、安全性の向上を図ることが必要であるということが水産庁の考え方であります。

そういう中で、現行の８０トンの場合、７０トン増トンし、１５０トン型とすることによって、その基準を満たすことができる。これを特例と認めることが可能ということでありますけども、その内訳といたしましては、労働居住環境の改善で３０トン、そして安全性向上で４０トンの増

トンが必要というようなことが示されているようであります。

そしてまた、その上で、船のトン数は１５０トンまで、７０トン増トンをされますけども、網船の魚槽、要するに捕った魚を入れる魚槽についてはこれまでと同じということと、その網台網を置く面積もこれまでと同一だということが示されているようでありまして、その上で漁獲量は増量することはありませんということが水産庁から説明がされているというふうに聞いております。

漁業者の方々が一番心配されてあるのが、やはりこれまでより以上の魚の捕獲、増量でございますので、そこがちょっともう少し丁寧な説明が要るのかなと思っておりますし、ただ、まき網漁業者のほうからすれば、このアジ、サバ、イワシ等はＴＡＣの制限がかかっておりますので、例えば、ある船だけがその制限以上を捕ったらほかの船が今度、今までよりも捕ることができないことになるというようなことで、そこら辺も絡めた上で、増量の抑制を図っていくというような説明がされているということを聞いております。

以上であります。

○議長（初村　久藏君）　１６番、大浦孝司君。

○議員（１６番　大浦　孝司君）　素人的にこの話を聞けば、大型船は大型船じゃないかと、操業禁止区域は国に示したとおり、西海岸８マイル、東海岸１０マイル、これを基本とすることが船をどう造ろうと基本じゃないかというふうに捉えるわけですが、簡単に言えば。しかし、そうじゃないという水産庁の考え方にここらを示しておるんでしょうが、これはあれでしょう、今からの話の中で、沿岸漁業のほうとそういうふうな話し合いを決着つけることになるわけでしょう、ですね。私はそう思いますよ。

ですから、簡単にこう言えば、船は大きくなった、大型という名称になった、中身は前と変わらんような格好でどうのこうのちゅうのは、非常に沿岸漁業者としてみれば、承服されないと。

組合長さん、そこに力を入れていましたよ。到底という言葉に近かったですね。受け入れられないと、そんなことはへりくつで。

２月１日だったと思いますが、私らの産建の委員会は。そのときはそういう勢いでございましたから、そういうことで、これは元気を出さないかんから、対馬市、一応過去の数字を申し上げますが、やはり、漁業全体の話でもありますが、対馬島の第一の経済的な基盤をつくってきた水産業界の一つの思いがございますよ。それで、ちょっと聞いてほしいんですが、過去の水揚げの実績として、一番ピークであったのは、平成７年の三百十数億円を超えて売り上げを、対馬経済の柱であったというときの漁業の従事者数は６，８８９人おられたということです。かなり盛んであったということが、この数字で見えます。

それから、平成１３年にこの３００億円が２００億円を切ったということで、５，７７３名の

従事者に減っていったと。

最後に、令和２年、これおおむね２年前の話なんですが、この数字は市の水産課のほうが１２漁協の売上げを集計した数字でございますから、そういうことで真珠の売上げが入っておりません。１０５億円という金額まで落ちております。要は、平成７年から約３分の１に漁獲高が落ちたということであります。そして、従事者３，７２１人、ここまで半減したというふうなことを数字の上では出ております。

最後にもう一つ不安材料でございますが、その従事者の６０歳以上が約７割を占めておると。ですから、水産業界がなぜこういうふうになったかというふうなことについては、水産資源が以前に比べて減少した、そして魚価が安くなったというふうなことの中に、特にまき網との競合が以前から一つの大きな妨げであったということは、私はこの２０年間の政治活動の中で耳にしておりました。

やはり、組合長さんの思いは、対馬漁民のみならず対馬市、そして対馬市議会、この問題について受けて立つ、ここらを気持ちの面であってほしいような気がいたしました。

その辺で、作元議員との話の中で、市長が表に出にくい話は、それも聞いておりますが、率直にこの問題をどのように捉えて、具体的な策は表に出しにくいがということで終わるのか、それ以外に何かございましたら御意見を賜りたいと思います。

○議長（初村　久藏君）　市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝　尚喜君）　このことにつきましては、非常に難しい問題だというふうに認識しております。確かに対馬の周りでの漁業資源の減少による漁業者もかなりの減だというふうに認識をしているところでございます。そういう中、前市長のときから対馬市といたしましては、これらの環境に対処するために、対馬海洋保護区を目指してまいりました。対馬の周りを１２マイルでしたか、できるだけ収奪的な漁法は禁止をしたいというようなことで、当時、水産庁や県にも話をさせていただきましたけれども、なかなかそのことについては理解をしていただけなかったという思いを私も持っております。

そういう中また、今回のこのような、まき網漁船の大型化によることで、対馬の沿岸漁業者が大変困惑しているということで、私はその気持ちは十分理解をしているところでございます。

実際に、この九州西海域ですか、西岸海域ですかね、ここについては、対馬の周りは東側は８マイル、西側は３マイル以内では操業はできませんと。その上、まき網事業者と対馬の沿岸事業者との協議の中で、今現在は３マイルから５マイルの間において、年間５か月間、夜間だけの操業が認められているということでございます。

これを今、まき網側のほうが、むしろ５マイルから８マイルについて操業することができないかというような要望を出しているということは伺っておりますけども、そのことについては、対

馬の沿岸漁業者にとっては死活問題だというようなことで、このことについては断固として反対していこうということで動いていらっしゃるということはお聞きしております。

そういうことで、対馬市としてのこういった判断というのは、我々がすることじゃありませんけども、我々は、やはり対馬市の沿岸漁業者に寄り添ってこの対馬の水産業、漁業を守っていきたいという思いに立っております。

○議長（初村　久藏君）　１６番、大浦孝司君。

○議員（１６番　大浦　孝司君）　ちょっと確認でございますが、西部日本海海区、この中が対馬の特に近くになるわけですね。その全体で許可を取っておられる船、中型が９ヶ統、９船団、そういうことですね。（発言する者あり）

結局、対馬海域に関わる中での中型の９船団、これは全部８０トン級から１５０トンに全部する見込みでの説明をされたんでしょうかね。そこをちょっと確認を取ってみたかったんですがね。それは把握していませんか。

○議長（初村　久藏君）　農林水産部長、黒岩慶有君。

○農林水産部長（黒岩　慶有君）　お答えいたします。

九州西部海区、通称第７海区と申しますが、ここの操業区域での許可を取っている大中まき網は、全国で今９隻ございます。この中で、今後、代船計画、増築していく計画ですね。それがあるのは、今のところ３隻ということは聞いております。３隻、３ヶ統。９ヶ統あるうちに今のところの計画は３ヶ統の計画があるということは聞いております。

○議長（初村　久藏君）　１６番、大浦孝司君。

○議員（１６番　大浦　孝司君）　その辺がまだ分かりにくかったんですよ、説明の中でね。だから、どれだけの船が入っておるか、これも２０年前は７ヶ統ぐらいの数字だったと思いますよ。ところが、今、９に増えている、９つに。そのうちの３船団だけが８０から１５０の中に入ってくるということですかね、今の説明。ほかはしないということですか、それはいいですね、今のところ。それは説明にございましたから。

それと、大型をちょっとチェックしますが、今、１２５トンとか１２０トンとか以上、１５０トン前後のことで大型がこの海域にどれだけ入っておるか把握していますか。

○議長（初村　久藏君）　農林水産部長、黒岩慶有君。

○農林水産部長（黒岩　慶有君）　お答えいたします。

７海区の制限は８０トンまででございますので、最大でも９ヶ統しか入ってこれないということになっております。（「大型ですよ」と呼ぶ者あり）大型は、この第７区には入ってこれないと。８０トンまでがこの第７海区の許可でございます。第６海区、第８海区には大型は入ってこれますが、この第７海区につきましては８０トンクラスしか現在は入ってこれないということで

ございます。

○議長（初村　久藏君）　市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝　尚喜君）　私のほうから補足をさせていただきますけども、この第６海区、第７海区、第８海区は一部、対馬海域のところで重複をしております。重複はしておりますけども、この７海区の範囲内では、今、部長が説明をしましたように、８０トンまでしか操業はできないということで、６海区、８海区の１３５トン以上のまき網船団については、この対馬の周辺には入ってこられないというのが、今の現状であります。

○議長（初村　久藏君）　１６番、大浦孝司君。

○議員（１６番　大浦　孝司君）　何かの間違いでありましょうから、後でまた確認を取りますが、市長の見解はそういう数字ではなかったですね。だから、ちょっとその辺の見解がどうあったかというのは、確認は取れます。数字から言うたら大型船の、対馬に入ってこられる範囲の許可というのは、もっと大きな数字であります。

そういうことでございますが、ここでやり取りはしません。後に確認は取りますから、それでいいですね。

それと市長、この問題はちょっと気になるんですが、本来であれば、水産庁が５マイルの線引きの中にうんぬんというようなことを、市長の先ほどの発言から言えば、当然、加勢をするようなことであるかもしれませんが、組合長さんの話では、本来であればそういうことを了解の後押しをするような発言は承服しかねるというようなことに近かったと思います、そのときの話です。そのときの話のことを私は言っています。ですから、どっちが正しいか分かりませんが、そんなニュアンスの言葉を議会の、産建の中では話されまして、非常にそこのところはチェックする必要があると、かように思うたんですが、そこら辺りは別に、全く問題はしておりませんか。ちょっと確認を取りましょう。

○議長（初村　久藏君）　市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝　尚喜君）　先ほどから申しておりますように、まず、今回の水産庁が計画しております、まき網船団の大型化については、操業の安全性向上、そして漁船員の居住環境の改善のために増トンするんですよという説明をされていると。このことに関しては、我々は全く関わることはもちろんありませんし、このことについては問題は、私自身は個人としてはその労働環境、安全性向上のためにされるということであれば、このことは問題はないんでしょうけれども、ただ、対馬市の漁民と、私は対馬市の漁民側に立つという立場で、これまでの東側８マイル、そして西側の３マイルは船を増トンされても、できる限り、対馬の漁業者との協議の場できちんと納得のいく形で守ってほしいというようなことを申し上げております。

これを申し上げておりますというか、これを直接そのまき網事業者や水産庁に申しているわけ

じゃないんですけど、要は対馬市としてはそのような漁業者を守る意味から考えますと、そのような形でお願いをしたいと思っております。

以上であります。

○議長（初村　久藏君）　１６番、大浦孝司君。

○議員（１６番　大浦　孝司君）　私も２月の産建のときの組合長の説明の範囲で物事を聞いて、その中であった範囲のことで、裏づけチェックはいたしておりませんが、今のところが一番ひっかかるような、私の話の中でありましたので、私なりに十分またそれらの調査をしてみたいと思います。

私は、船の、大型船という定義をつくる以上、そこに操業禁止区域というのがはっきり出ているわけですから、何となく、造った船がどうのこうのというふうなことではないと、私は思いますよ。その辺を少し業界に国がその辺、甘いんじゃないかというような意見もございましたから、ちょっとその辺は慎重に注意して調べてみたいと思います。

同じ質問を一議会で２遍したというふうになりますから、もっと早う時間的には終わらないかんかったんですが、以上が私のこの間の組合長の説明の中で模索をしていって、対馬島民の沿岸漁業の、ようは有利になるような今回のことに結びつけないかんちゃないかなというふうな二宮組合長の思いに対して、その応援をせななら んなというふうなことでこの席におります。

一応、議長、２人の質問者がありましたので、時間少し残っておりますが、一般質問の、一応終了いたします。どうもありがとうございました。

○議長（初村　久藏君）　これで、１６番、大浦孝司君の質問は終わりました。

○議長（初村　久藏君）　暫時休憩します。再開を１１時からといたします。

午前10時43分休憩

午前11時00分再開

○議長（初村　久藏君）　再開します。

報告します。大浦孝司君から早退の届出があっております。

引き続き、市政一般質問を行います。９番、脇本啓喜君。

○議員（９番　脇本　啓喜君）　こんにちは。今議会から一人会派、市民協働となりました９番議員脇本啓喜です。今後とも小職は是々非々を一層貫き、行政や議会の常識と一般社会の常識との乖離を少しでも埋めつつ、「対馬を変える主役は市民！」のスローガンを掲げ、議員活動に邁進してまいる所存でございます。皆様からの倍旧の御支援、御協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

さて、今回の一般質問は、高レベル放射性廃棄物最終処分場誘致をめぐる問題について、大きく２つに分けて質問致します。その前に、まずは、令和３年９月定例市議会でも御紹介しました宮本常一氏の語録をまとめたパネルを、もう一度読み上げたいと思います。

宮本常一が説いた離島振興の本質。法ができたから島がよくなるのではない。島がよくなろうとするとき、法が生きるのである。離島振興の根本問題は、要するに島民自身がその島に大きな将来性を発見するシステムをつくりあげることにある。建物が立派に数多く建ったとか、港や道路がよくなったとか、船が大型化したとか、観光客が増えたというようなことは、根本問題を少しも解決したことにならない。島が本当によくなるには、島の人々の手で、島の生産力が高まり毎日が楽しく過ごせる生活でなくてはならない。

この語録を念頭に置きながら質疑応答を交わしてまいりたいと思いますので、よろしくお願い申し上げます。

１番、高レベル放射性廃棄物最終処分場に関する市長の所見を求めます。

（1）については、２月１０日に通告しておりましたが、つい先週の３月２日木曜日に資源エネルギー庁電力・ガス事業部放射性廃棄物対策課から公表された最終処分の実現に向けた取組強化についての１３ページに詳しい記述があります。市長も既に御覧になっているかもしれませんが、これにより、政府の考えが明らかになりましたので、市長から総論的所見を求める必要性が乏しくなりました。したがって、岸田首相が言う関心のある自治体とは、具体的にどのような自治体を指すとお考えなのかのみ答弁を求めます。

ほかの部分は割愛してくださって結構です。

パネル３、核のごみ最終処分場を誘致しないとの公約に変わりはないか。

（2）市長は３年前の御自身の市長選挙の際、高レベル放射性廃棄物最終処分場誘致に応募しない旨の発言をなさっていました。また、約半年前、厳原の女性団体が市長室を訪問した際にも、誘致に応募しないと回答されたと伺っています。今もその考えは変わっていらっしゃらないか答弁を求めます。

大きな２番、市長は人口減少が対馬の最大の課題と仰っていますが、その認識は変わっていないかお尋ねします。

パネル４、本当に人口減少が対馬の最大の課題なのか。

（1）今後、日本全国ほとんどの自治体で人口は減少していきます。対馬市は全国平均よりさらに早い勢いで減少しています。もちろん人口減少抑制策も大事ですが、人口が減少しても持続して住んでいける島を目指すべきと考えますが、市長の所見を求めます。

（2）人口が減少しても持続して住んでいける島を目指すべきとはいえ、人口減少抑制策も重要です。今回は自然増減に絞って市長のビジョンを伺います。国は異次元の子育て対策を打ち出

していますが、対馬市独自の施策を検討しているか答弁を求めます。

答弁によっては、再質問をさせていただきます。

○議長（初村　久藏君）　市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝　尚喜君）　脇本議員の質問にお答えいたします。

初めに、高レベル放射性廃棄物最終処分場の候補地の掘り起こしについて、国はどのように考えているのかという御質問ですが、資源エネルギー庁の自治体説明会資料によりますと、文献調査受入自治体等に対する国を挙げての支援体制の構築や、国と関係自治体との協議の場を設置しながら、関心自治体への国からの段階的申入れを強化していくこととなっております。

国としては、現在、最終処分場の選定、絞り込みに向けて文献調査を実施している２自治体以外の候補地も選定していく方針だと考えております。

次に、政府から段階的に申入れるとの段階的とは、どういう段階を踏むつもりであると推測されているかとの御質問でありますが、現在、国が明確に示していない中で、推測とはいえども、私のほうからお答えすることはできません。

最後に、高レベル放射性廃棄物最終処分場誘致には応募しないと、以前発言したが、考えは変わっていないかとの御質問でございますが、現在、対馬市としては、高レベル放射性廃棄物最終処分場の誘致に向けた動きは何ら行っておりません。その点を御勘案いただき、市長としての個人的見解は控えさせていただきますので、御理解をお願いいたします。

次に、人口減少対策についてでございますが、国の人口が減少する中、長崎県の人口も減少し、長崎県内の各自治体におきましても、ほとんどの自治体で人口が減少しており、本市におきましても人口減少傾向は依然として続き、本年の１月末の人口は２万８，１７６人であります。この人口減少対策につきましては、令和２年１月に対馬市長期人口ビジョンを策定し、国、県の方針に基づき、第２期対馬市まち・ひと・しごと創生総合戦略を策定し、人口減少の抑制施策を推進しております。

多くの自治体が同様の問題を抱える中で、人口減少に歯止めをかけることは容易ではなく、特効薬がないことも承知しておりますが、医療や公共交通体制等をはじめ市民の生活の利便性が低下しないよう、総合戦略に掲げた施策等、粘り強く推進し、人口減少抑制策と人口が減少しても持続して住み続けられる島づくりを目指して取り組んでまいります。

次に、本市の子育て予算についてでございますが、本市の未来を担う子供たちの子育てに関連する予算は重要であると認識しており、不妊治療から出産、子育て、教育と広範囲であり、複数の担当課で子供の成長を見守られる体制づくりに努めているところであります。本市の子育てに関連する支援制度につきましては、それぞれの担当課において支援制度等を精査した上で、必要とされる支援策を実施しており、他の自治体と比較しましても遜色のない施策を実施しておりま

す。

また、現在、整備計画に基づき、中地区のこども園の整備を進めているところであり、順次、計画的に取組を進めてまいります。

一部、報道等で国が異次元の子育て予算を組もうとしていることは承知しておりますが、それがどのようなメニューになっているのか、国から各自治体への通知がまだない状況であります。このことにつきましては、国からの通知があり次第、交付内容を精査し、国からの交付金を活用した事業内容を検討して、交付金の有効な活用に努めてまいります。

以上であります。

○議長（初村　久藏君）　９番、脇本啓喜君。

○議員（９番　脇本　啓喜君）　まず、１番目の質問についてですが、私は、３月２日に資源エネルギー庁のほうからある程度、明確に出たので、市長の見解は要らないというふうにお伝えしました。何せ２月１０日が一般質問通告書の提出期限だったものですから、それからいろいろ展開があっているので、そういうことになって申し訳ないということにしておいてください。

市長のほうからは、対馬市としては誘致の動きは全く今のところやっていないんだということをお聞かせいただきました。個人的見解は控えるという答弁であったかと思います。その個人的見解を控えると言われながら、今から質問するとなると、市長としてということで、もちろんそういうふうになると思うんですが、市長としてお答えいただけるかどうか。

まず、高レベル放射性廃棄物最終処分場候補地に国がいよいよ本腰を入れてきました。政府は、関心ある自治体と協議すると言っていますが、関心ある自治体とは、政府は何を基準に判断するのでしょうか。１０数年前も実施されていた青森県六ヶ所村への視察ツアーが、今回は北海道幌延町も加えた視察ツアーとなっているようです。多くの対馬市民が参加しています。

このツアー参加者数イコール関心があると捉えられるのではないかと、私は心配しているところなんですが、この点について市長はどう思われますか。

○議長（初村　久藏君）　市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝　尚喜君）　今、対馬の市民の皆様が青森、そして北海道のほうに視察に出向いておられるということは聞いております。ただ、そういう中、市民の皆様が果たしてどのような気持ちでそこに出向かれるのか、また、そして行かれてどのような感想を持たれるのかは、私が知るところではございませんけれども、ただ、それをとめる権限としては、私はないという思いを持っております。

そういうことで、私が一番望むことは、まず、この高レベル放射性廃棄物の最終処分場問題におきましては、市民の間で市民が分断をしないと、そのことを私は一番心配をしておりますので、先ほども答弁いたしましたように、私の個人的見解は控えさせていただきたいということでござ

います。

○議長（初村　久藏君）　９番、脇本啓喜君。

○議員（９番　脇本　啓喜君）　市長のおっしゃるとおりだと思います。とにかく賛成の方も反対の方も、今、関心を持たれていない方も本当に大事な問題ですから、まずは関心を持っていただくこと、それがもう賛成とか反対よりも一番大事だというふうに、私は思っております。

その中でも賛成、推進をしていらっしゃる人たちの中で、私２とおりあるんじゃないかというふうに認識しているんですが、もちろん最後まで埋めるという人と、文献調査だけ手を挙げて、そしてそこで反対して２０億円だけもらえばいいじゃないかというふうに考えていらっしゃる方も、市民とお話する中で、少なからずいらっしゃるようです。

そこで、パネルのＡなんですが、文献調査の交付金だけもらって、誘致を拒否することは本当に可能なのか。

①旧動燃が秘密裏に島内２か所でボーリング調査済みです。これは、岡山県の石尾禎佑氏が情報公開請求によって暴いたもので、反原発派が作ったものではなく、旧動燃、つまり国側が作成した資料であり、昭和の時代から既に対馬がこの候補地に上がっていたというふうに考えられると思いますが、地図はこういうものがあります。

こちらが全島の地図です。向かって左、これですね。北部地区と南部地区にそれぞれ１か所ずつボーリングをしたという資料が残っています。こちらが北部地区ですね。対馬市が約七、八年前になりますかね。民有地から買い上げたところが大体その辺りということになります。こちら鮎もどし辺りが、もう昭和５８年の調査書でこういうものが、国側がつくったものですから、こういうものがあります。しかもこういった形で断面図、地層の断面図等もしっかり書かれたものがございます。

このような状況で対馬市が文献調査に手を挙げるということは、他の自治体が手を挙げるとは大きく異なると覚悟すべきだと、私は思います。

②国は首長の話を聞くには聞くが、中止するとは書かれていません。行政がやると決めれば、いくら住民が反対しても事業は強行される可能性は排除できません。くしくも先週、石木ダムの工事が始まりました。また、諫早湾干拓の開門はしないとの国の意に沿った判決が決定されたことは、報道等で周知のとおりです。

③為政者は常に謙虚であるべきですが、権力の濫用は往々にして起こりがちです。あらかじめ途中で手を下すことを前提として交付金を受け取った後に、誘致反対を国が認めたとしても、国からのペナルティは覚悟しておかねばならないでしょう。約３３０億円の一般会計のうち、自主財源は３０億円程度のみで、国や県からの交付税交付金や国庫支出金頼みの対馬市が、それを減額され続けていくことにならないか大変危惧されます。

市長は、以上３点についてどのように思われるでしょうか。

○議長（初村　久藏君）　市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝　尚喜君）　まず１点目の、対馬市内で２か所のボーリング調査が行われているということにつきましては、私もはっきりとした報告書等は見たこともありませんでしたけども、特に、この上県地域のほうと内山地域のほうで実施されたという話は聞いておりました。

それと、２点目のこの石木ダムやら諫早湾干拓等の件につきましては、それぞれの地域の事情があるというようなことで、私がこのことに関していろいろと所見を述べることではないというふうに思っておりますので、控えさせていただきます。

３点目につきましても、今現在、そういった市民の方もいらっしゃるという話は聞いておりますけども、それを今、推測のもとでどうやこうやということについては、適切ではないという思いを持っておりますので、このことについても個人的な見解は控えさせていただきます。

○議長（初村　久藏君）　９番、脇本啓喜君。

○議員（９番　脇本　啓喜君）　先ほどから個人的な見解は控えたいということですが、これはある程度、選挙戦中も誘致はしないということについてはずっとおっしゃってきて、今も変わらないということで受け止めてよろしいですか。公約のようなものだと思うんですが、その辺はよろしいですか。

○議長（初村　久藏君）　市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝　尚喜君）　２０２０年の市長選挙のときに、そのような誘致をしないという公約をした、演説でしたということは事実であります。そしてまた、２０２２年、当時、厳原の女性団体が要望に来た際にも誘致には応募しないという回答をした上で、先ほども申しましたように、これまで誘致に向けた何ら動きはしていないということが、このことについては事実でございますけども、ただこのようなパネルとか、こういったことで質問の資料にされるということは、私に対して脇本議員の考えに誘導するような考えじゃないかな。悪い言葉で言えば、これ一つの○○ではないかなというようなことは、私は思っておりますので、このことについては適切でないということで取り下げていただきたいと思います。

○議長（初村　久藏君）　９番、脇本啓喜君。

○議員（９番　脇本　啓喜君）　反論するほうがおかしいと思いますので、進行します。

○○とかそういうつもりで言っているのではないんですよ。市長、言ってきましたねと確認を取っているだけ、私はそのようにとっております。

まず、市長選挙とか厳原の女性団体に、誘致は今のところ考えていないというふうにおっしゃられた、その理由もお聞きしておきたいんですが、例えば、積極的に調査を受けるメリットを感じないとか、それから調査を受入れるだけでも一次産業や観光などの風評被害が懸念されるとか、

３番、２００７年の対馬市議会誘致反対決議は重いとか、４番、地層処分の安全性に疑問がある、５番、その他などの理由として考えられますが、その理由も含めて市長の答弁を求めます。（発言する者あり）

○議長（初村　久藏君）　市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝　尚喜君）　先ほども申しましたように、このことにつきまして申し上げますと、私の個人的見解と取られかねられませんので、私からの発言は控えさせていただきます。

○議長（初村　久藏君）　９番、脇本啓喜君。

○議員（９番　脇本　啓喜君）　それでは、市長としてお話を聞かせていただきます。

先ほど、つい先週の３月２日木曜日に、資源エネルギー庁電力・ガス事業部放射性廃棄物対策課が公表した最終処分の実現に向けた取組強化について１３ページに以下の記述があります。

国と関係自治体との協議の場の新設、順次、関心や問題意識を有する首長等との協議の場を新設、参加自治体を拡大。市長、もし国から協議を求められた場合、それに応じるかどうかお答えいただけますか。

○議長（初村　久藏君）　市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝　尚喜君）　３月２日ということで、私も一般質問が始まったばかりで、そちらのほうに全力集中しておりましたので、まだそのことについては、その文書等は見ておりません、正直なところですね。

そういう中で、今、言われましたけども、これまでも市に対してはそのような指導とか、また通知等はあっておりませんので、今、この場で申し上げるわけにはいきません。

○議長（初村　久藏君）　９番、脇本啓喜君。

○議員（９番　脇本　啓喜君）　分かりました。誘致を推進したいメディアからすれば、受入れの可能性を示したというように書かれるやもしれませんが、通告外ですから仕方がないというふうに思います。私はそう思っていませんよ。

市民の関心を深めてもらうために少しお時間をいただきます。

市民の皆様の中には、最終的には県知事や市長がこのことを決めると思っている方も少なくないようです。ある意味そのとおりですが、皆さんの考え方ひとつで首長の判断を変えることもできるというふうに、私は思っています。

今はもう、そのままでいてほしいというのが、私は反対の立場ですからそうですが、北海道の渦中の自治体には泊原発近郊ということもあり、そこで働いていらっしゃる従業員や親戚等も沢山いらっしゃいます。その関係者の多くは、自らの意見や思いを大っぴらにすることは大変困難でしょう。それに比べて、我々対馬市民は比較的自由に発言できることを、まだ自由だというふうに感じていただきたいと思います。

そういう環境のもとで、多くの市民が賛否両論に耳を傾けていただき、御自身でしっかり判断していただきたいと、そういう環境づくりにも努めてまいりたいと思います。

その際、私も先ほど市長がおっしゃられたように、一番願っているのは、この問題のせいで市民を分断させないでほしいということです。

続いて、質問の２番目です。

人口が減少しても持続して住んでいける島を目指すには、小手先の方法では根本的に解決は望めないと、私は思っています。私は、住民の意識や生活様式までもを変える大転換が求められていると思っています。

大量生産、大量消費の時代は既に終焉を迎えています。何でもお金に換算する思考、ＧＤＰ、国内総生産の多寡で価値をはかることから脱するべきだと思います。

つまり、他人との比較で相対的に価値をはかるのではなく、自分自身が幸せだと感じているかどうか、絶対的価値判断に基づく生活を送ることをよしとできるようになれるかが重要だと思います。その意識と生活様式の大転換が既に求められている時代だといち早く気づくことが、ダーウィンが言うように強いものが生き残るのではなく、変化に適応できたものが生き残るのだと私は思います。

何度も紹介している「社会は変えられる」の著書にあるように、少なくとも日本においてピラミッド型人口構造への回復は、団塊ジュニア世代が子育て世代となった時期を逸したことで殆ど不可能となりました。また、同書で江崎氏が言うように、少子高齢化は成熟した社会の人口構造であると受け止め、社会構造や個人の思考も成熟を図る方向に舵を切るべきだというふうに言っています。私も共感します。

変えるべきものは人口構造ではなく高齢者はリタイアするものだという常識を変えるべきだとの主張が印象に残っております。地域包括ケアの理念は本来そこにあると思います。

住み続けられる島ということについての、私の見解について市長の所見を求めます。

○議長（初村　久藏君）　市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝　尚喜君）　いきなり議員の個人的な考え方でばっとこう言われても、ちょっと私にはなかなか理解することができませんでした。そういう中、要はこれまでお年寄りがリタイアするのではなく、いつまでもお元気で終末まで健康寿命を保つことができるような、そういった福祉社会と、また、今後の子育て社会を構築していくことが課せられた持続可能な島づくりにしてくるのではないかというふうにだけ、私は感じておりますので、その点に関しては、脇本議員と同じ考え方に立った上でのことだというふうに思っております。

○議長（初村　久藏君）　９番、脇本啓喜君。

○議員（９番　脇本　啓喜君）　そのように意識と生活様式を変えるということについて、ある程

度、共通認識を得ていただいたような気がしております。

しかし、人間は霞を食っては生きていけません。持続して島に住み続けるためには、雇用を生み出し、ある程度の所得を確保しなくてはなりません。よく企業誘致をとの指摘がありますが、本当に対馬には仕事がないのでしょうか。対馬ではどの産業でも人手不足が常態化しています。つまり、対馬に仕事がないのではなく、①雇用主が求めるスキルや経験を持った労働者が少ない。②１つの仕事だけからの収入では充分な所得が得られない、すなわち、労働需給のミスマッチ解消と兼業、副業斡旋のマルチワークの普及が、雇用問題解決の鍵だと、私は認識しています。

雇用問題の鍵である①②の解消に寄与する仕組みとして期待されている組織が、対馬づくり事業協同組合であると、私は思います。対馬づくり事業協同組合は、簡単に言えば、兼業を斡旋する労働者派遣会社です。ただし、派遣社員は同協同組合の正社員で、派遣先企業は国から一部人件費の補塡が受けられ、雇用しながら必要なスキルの修得や研修の補助も受けられます。

働き手にとっては事業のリスク分散、雇用主にとっては閑散期の人件費削減と繁忙期の人材確保、一次産業の担い手不足解消、６次産業化の構築などのメリットがあると言われています。

そもそも、いにしえから対馬は半農半漁等複数のなりわいで生計を立ててきました。そして、ワークシェアを普及できれば、子育て世帯のフレキシブルな労働環境の提供も推進され、少子高齢化対策に多大な貢献が期待できるのではないでしょうか。

宗義智公がおっしゃられた島は島なりに治めよは２つの意味が含まれると、私は思います。島の身の丈に合った統治と、島の歴史や風土に合った統治です。今こそないものねだりをやめて、あるものを活かすことが求められていると思います。

この対馬づくり事業協同組合等について、私の認識、過ち等あれば答弁をお願いいたします。

○議長（初村　久藏君）　市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝　尚喜君）　確かに今、この対馬の中で雇用を生むということについては、大変難しい問題になっております。そういう中、議会のほうからも見て同意いただきまして、今現在、何が一番課題なのかということを鑑みますと、やはり、向こうからの企業が進出してくるには、やはり通信環境が脆弱というようなことが一番我々が感じたところでございますし、そういった指摘もございました。

そういう中、先ほど申しましたように、議会の同意も得て対馬市の光ケーブル網をＮＴＴさんのほうに譲渡をして、その是正をしていくというようなことで、今後はＩＴ関係の企業、そしてまたワーケーション等で今後そういった雇用の場がつくられるものというふうに、私は期待をしております。

それと２点目の、対馬づくり事業協同組合につきましても、やはり、都市部のほうから対馬に移住をしてこられて、いきなり仕事を見つけるということは、なかなか難しいことであります。

そういう中、この対馬づくり事業協同組合でまず雇用の場を見つけられて、生活基盤をきちんとつくっていく、その間に新たな起業、またはどこかまた別のそういった雇用の場を見つけていくチャンスに恵まれるのではないかということで、今後もこの対馬づくり事業協同組合、令和４年度は２名の雇用でありましたけれども、今後、この雇用を拡大してまいりたいというふうに計画しております。

以上であります。

○議長（初村　久藏君）　９番、脇本啓喜君。

○議員（９番　脇本　啓喜君）　この対馬づくり事業協同組合についても、認識はほとんど一緒だというふうに思いました。令和４年度、コロナ等でなかなか進められなかったところはあると思います。しっかりこれを進めていくことが、対馬の雇用を拡大していくことにつながると思いますので、尽力のほどお願いします。

それから、これまではいかに稼ぐかについて述べてきました。この雇用を確保するとかですね。今回、当初予算の市長総括質疑のときにも、市長はこの漏れバケツの話を持ち出して話をしていただきました。くどいようですが、もう一度、市民の方々にお伝えしたいと思いますし、述べさせていただきます。

いかに対馬から資金が出ていかないようにするかも非常に重要です。パネルＦは地域の収入を漏れバケツに例えた概念図です。対馬市の地域経済におけるバケツの大きな穴は、島外から購入するエネルギー代金と住民が島外から購入するものやサービスだと言われています。同じ１億円でも地域で消費したらこんなに違うという例を挙げさせていただきます。地域内での消費率が８０％のＡ市と２０％のＢ市の双方に１億円の資金が支給されたということで比較してみます。

２回目の循環で早くも地域内を流通した金額は２倍弱、５回目には約３倍もの差がつきます。地域循環経済の好循環は生産者や行政が主導する地産地消ではなく、ネットや郊外大型店よりも少々値段は高いけれども、地元商店から購入しようという消費者側からの運動である地消地産の理念の普及が生み出すと言われています。

例えば、対馬市民１人当たり年間消費額を２００万円と仮定して、人口２万８，０００人がその１％の２万円を地元産品消費に回せば５億６，０００万円となります。その額は年収２００万円の雇用を２８０人分生み出すことと同じ効果があると言えます。

対馬市内に３００人もの雇用をもたらす企業誘致をするのは非常に困難ですが、市民一人一人の購買行動変容で、それと同様の効果が生み出されます。

市長もおっしゃられたように、この地域循環経済を市民に訴えていくことが、これが少子化にも歯止めになるというふうに私は思っています。働くところがなければ、その子育て世代となるべき人たちが少なくなるわけですから、このことについて、市長、どのように感じられますか。

○議長（初村　久藏君）　市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝　尚喜君）　この持続可能な島づくりに関する件と若干少しずれているとは思いますけども、さきの総括質疑の中で、この問題について質問がございました。要は対馬で取得可能な公共事業の資材等は対馬で仕入れるということで、もう既に今現在もそういった指導がなされているようでありますけども、この公共事業に限らず、やはり、これは議員がおっしゃられるように、できる限り、島の中にある産品、そして資材等は島内で調達をして、できる限り、島の金を島外に持ち出すことがないような、そういったことを市民一人一人が意識づけをしていただければ助かるという思いは持っているところであります。

○議長（初村　久藏君）　９番、脇本啓喜君。

○議員（９番　脇本　啓喜君）　ありがとうございます。私も全てその島内から買いなさいなんてことを言っているわけではないんです。１％でも島内商品に回していただければ、このような雇用等が生まれたこと、同じようなことになりますよ、皆さん、いくらかでも地元の商品を買いましょうねということを訴えさせていただきたくて、市長にも同意をいただきたくて話させていただきました。

最後ですね。異次元の子育て施策を対馬市でどういうふうに具体化するかということについては、これからだということであったと思います。ただ、根本的に、合計特殊出生率をよくするということではなくて、実数、出生数を増やしていくんだということに重きを置いていくことが大事ではないかなというふうに思います。

やはり、率ですと、子供を産める環境の人たちが多く、そればかり残ってそれ以外の方が出ていくことで率が上がるということも考えられます。ですから、実数を上げることに力を入れていただきたいと思います。

出生数を増加させるためには、出産祝一時金等の出産前後の支援に限らず、子供が成人するまで切れ目のない支援を充実させることが求められていると認識しています。これは、先ほどの答弁と一致するところだと思います。

その支援充実を図る指標として、以前、議会でも述べた、若者回復率の向上に取り組んでみてはいかがでしょうか。若者回復率とは、１０代の転出超過数、出ていった人に対して２０代の転入超過数、帰ってきてくれた人が占める割合と定義されています。簡単に言うと、進学で地元を離れた子供たちが、就職や結婚を機会にふるさとに帰ってきてくれたかどうかを表す指標です。

この指標は、人口の社会増減に関する指標に見えますが、この指標を改善することが、実は出産意欲に大きく影響すると私は思います。対馬の子供がその地域にいずれは帰って、住み続けようと思われる地域としていくことが求められていると思います。

この指標好転に取り組むつもりはないか、市長の答弁を求めます。

○議長（初村　久藏君）　市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝　尚喜君）　若者回復率に直接関係するわけではありませんけども、対馬のこの若い世代、特に中学生、高校生世代が今、約３割の中学生が本土の高校に転出をしております。そういったところを少しでも対馬にとどめるために、３高校魅力化事業を組み立てまして、特に、対馬高校で陸上部の強化に当たり、いずれは対馬の高校から都大路を走るようなことになれば、対馬に残る子供たちが増えてくるのではないかということで、来年度からこの事業を組み立てております。

そういうことで、直接、若者回復率に影響するとは、なかなか直接はいきませんけども、間接的には十分可能なことだというふうに考えております。

以上です。

○議長（初村　久藏君）　９番、脇本啓喜君。最後ですからまとめてください。

○議員（９番　脇本　啓喜君）　もう時間が来ましたので、これで私の一般質問は終わらせていただきます。ありがとうございました。

○議長（初村　久藏君）　これで、脇本啓喜君の質問は終わりました。

○議長（初村　久藏君）　昼食休憩とします。再開は１時５分からといたします。

午前11時51分休憩

午後１時05分再開

○議長（初村　久藏君）　再開します。

午前に引き続き、市政一般質問を行います。８番、船越洋一君。

○議員（８番　船越　洋一君）　新政会の船越洋一でございます。さきに通告をしておりました３点について市長の考え方を伺います。

まず１点目の再生可能エネルギーの導入についてでありますが、改正離島振興法が本年４月から施行されますが、県も離島振興計画素案を公表し、主な施策として８項目上がっております。その中に再生可能エネルギーの導入や関連産業の参入促進とあります。この制度を活用して、対馬博物館の屋根に太陽光パネルの設置と蓄電設備を兼ね備えて、電力の高騰に備えるべきだと思いますが、市長の考え方を伺います。

次に、対馬市猪鹿加工処理施設について伺います。

この施設は、平成２６年９月に営業許可を取得し、主たる目的は、有害鳥獣の被害防止を目的として、捕獲した猪及び鹿の肉等を地域資源として安心、安全に有効活用し、獣肉等の特産品化による地域の活性化を図るとともに、被害対策の促進並びに普及啓発を推進することを目的とし

て、施設運営がなされておりますが、現在では、民間で施設の規模も大きく、対馬全島を視野に事業展開されている業者もあります。また、市の施設は指定管理制度を推進し、財政の健全化を進めている中で、この施設をどうして市の管理で運営しなければならないか、お伺いをいたします。

次に、３点目ですが、厳原港国際ターミナルビル内に韓国人旅行者支援センターの設置について伺います。

平成３０年には４１万人の韓国からの旅行者があり、経済効果も９１億円ほどあったと聞いております。その後、新型コロナウイルスの流行、また国の諸事情も重なり、旅行者も皆無の状況が続き、対馬の経済も厳しい状況が続いております。

本年２月からですが、少数でありますが、入国が可能となり、今後はさらに韓国人旅行者が安心して安全に対馬で観光ができる仕組みづくりを確立する必要があると思います。

旅行者の相談事や事故、病気などに対する支援事業を総領事館などの公館と緊密な連携体制を構築して、制度的に実施する施設が必要だと思いますが、市長の考えを伺います。

以上３点、よろしくお願いいたします。

○議長（初村　久藏君）　市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝　尚喜君）　船越議員の質問にお答えいたします。

初めに、対馬博物館の屋根を活用した発電設備の導入についてでございますが、対馬博物館の建設に際し、設計前の段階において、設計業者との間で省エネルギー、再生可能エネルギーの推進のための太陽光パネルの整備について協議いたしております。

当時は、１０キロワットから２０キロワット程度で、博物館全体の使用電力の３７％程度を削減できる計画でありましたが、パネルを設置するとなると、柱などの基礎部分を強化する必要があり、事業費の大幅増となることから、建設コストの縮減を図るため、断念した経緯がございます。

これは、平成２７年第３回定例会において、整備面積、建設費の削減について検討するよう指示があったものでございます。今後、対馬博物館に導入・設置するとなりますと、耐久性、耐震性を保つための措置が必要となり、建物の基礎部分や構造そのものに関わる問題となるため、完成した博物館の屋根にパネル等を設置することは、これらの課題に対応する必要がございます。

さらに、博物館の２階には、長崎県対馬歴史研究センターがあり、古文書の研究、修復等を行っております。また、県と市が共同で管理している収蔵庫もあり、県が所有する宗家文書等の重要文化財も多数収蔵しております。技術的にパネル設置が可能という場合においても、設置工事や設置後の維持管理により発生するリスクについて県との協議が必要になりますので、収蔵資料の管理という面からも、これから設置工事を実施することは好ましくないと考えております。

次に、対馬市猪鹿加工処理施設についてでございますが、当施設は獣害から獣財へをキーワードに、肉や皮の有効活用と地域の活性化を図ることを目的に、旧美津島町が建設しておりました鹿処理加工施設を改修し、平成２６年９月から猪鹿加工処理施設として運営を開始しております。農林水産省がジビエ普及を掲げる中、本市においてもジビエを広く一般に普及させるため、平成２６年度に食の安全を担保するための対馬市独自の衛生ガイドラインを作成いたしました。このガイドラインに沿った衛生管理や解体手順を実践しながら、精肉は学校給食へ提供し、また加工品は主にふるさと納税の返礼品として活用し、令和元年度には農林水産省から鳥獣対策優良活動表彰を受賞いたしました。

施設の運営につきましては、衛生管理ガイドラインに沿った運営を条件に指定管理者の公募を２度行いました。いずれも決定に至らず、直営で運営を続けてきたところでございますが、民間事業者において、本市の衛生管理ガイドラインに基づく手順を踏襲したジビエのほか、加工品の製造、さらには観光客向けの体験メニューまでを網羅した事業を展開しようとする新たな施設建設計画があり、来年度中に実現する見込みでございます。

本計画が実現いたしますと、本施設を取り巻く環境も変化し、市も一定の役割が終了するという形になりますので、当事業は令和５年度中の廃止を進めていきたいと考えているところでございます。

最後に、厳原港国際ターミナルビル内への韓国人旅行者支援センターの設置についてでございますが、韓国人旅行者支援センターは、韓国人旅行者の増加に伴い、旅行者の事故や急病等が増加することが予想されたため、２００８年に在日本大韓民国民団本部に設置されております。また、各県の地方本部や支部には韓国人旅行センターとして設置し、各地域を管轄する領事館と連携し、韓国人旅行者からの支援要請、管轄する領事館からの支援要請、その他機関からの支援要請に対処されているようであります。

民団中央本部に確認しましたところ、現在、設置されている韓国人旅行者センターは各県の地方本部や支部の事務所に併設されており、空港や港などの施設に設置されているところはないとのことでした。民団対馬支部におかれましても、支部事務所に併設されております。

また、旅行者の安心、安全の確保につきましては、韓国人旅行者に関わらず、全ての旅行者に対して重要なことと認識しております。市といたしましては、韓国人旅行者に対応するため、対馬観光物産協会に委託し、韓国語対応ができる職員を観光案内所に配置し、観光案内はもとより、各種支援要請に対応しております。

また、駐福岡大韓民国総領事館とも連携、協力し、事件、事故の円滑な解決に向けて協力体制を取っており、今後も同様の考えで対応してまいります。

厳原港国際ターミナルにつきましては、対馬市国際ターミナル条例に基づき公募する予定であ

ります。韓国人旅行センターの必要性は十分理解できるところでありますので、民団対馬支部が現在、設置されている韓国人旅行センターの機能を国際ターミナルへ移設することを希望されるのであれば応募していただき、他の事業者との公平性等を考慮し、また領事館の意見も参考にしながら設置の可能性を模索してまいりたいと考えております。

以上であります。

○議長（初村　久藏君）　８番、船越洋一君。

○議員（８番　船越　洋一君）　まず１点目の再生可能エネルギーについてですが、市長の答弁の中でも、当初計画をしたときにその可能性を模索したということでございます。しかしながら、経費の削減を図るために少しずつ鉄骨も小さくしたんでしょう。ですから、今の金額になったかなと思いますが、しかし、現実的に考えてみますと、今からこの電力というのは高騰していく可能性がありますね。今現在でも日本全国の電力会社、ここも値上げの傾向に走っていっております。特に対馬の場合もそういうのは可能性があります。

私は考えるのは、年間ここが２，１００万円程度、電気代がかかっている。ここは１日、夜中も回しとかないかん。例えば、エアコンを一定の温度にしておかないと文化財に支障をきたしますのでね。だから、そういう施設ですから、特にこの電気代というのは切るわけにはいかないんですね。

そういう施設であるからこそ、電気代を節約するというわけにはいきません。しかしながら、有効にこの再生可能エネルギーを利用して、それを軽減を図るというのは行政の仕事だろうと、私は思うんですよ。

市長は、その維持管理費は大体、年間６，０００万円程度という答弁を前されたことがありますが、それの３分の１は電気代なんですね、電気代。電気代が削減をできれば、違う展示会のその予算にも組み込める可能性もありますよね。

今現在、当初は６万人ぐらいを入館予定ということでありましたけども、今は半分ですね、開館して１年、４月３０日で１年になりますけども、半分ぐらいの入館しかあっていない。

そういうことも重なって、できるだけそういうところは削減すべきことは削減すべきだろうと、私は思うんです。それで、鉄骨構造ですから、屋根の上にそういうものを置くと、鉄骨が、重量がもたんというようなこともあるかも分かりません。しかしながら、やはりこういうことは、再生可能エネルギーというのは、地方は率先してこういうことはやっていかないかんと思うんです。しまづくり推進部長にお聞きしますが、この再生可能エネルギーというのは、これを実行するに当たっては、過疎債、それから辺地債、これに該当しますか。

○議長（初村　久藏君）　しまづくり推進部長、伊賀敏治君。

○しまづくり推進部長（伊賀　敏治君）　再生可能エネルギーのその事業の組立方によっては、起

債対象になる可能性もあるかとは思いますけども、ただ単純に再生可能エネルギーの建設といいますか、費用がどういうやり方でも対象可能になるところまでは、ちょっとここでははっきりは申し上げられません。すみません。

○議長（初村　久藏君）　８番、船越洋一君。

○議員（８番　船越　洋一君）　この過疎債にしても辺地債にしても、こういうのを利用すれば、確か、過疎債で７割、辺地債で８割ですかね、交付税として返ってくるわけですから、そうすると、例えば、ここが１億円かかりましたということになりますと、８割が還元できれば８，０００万円は交付税で返ってくるんですね。２，０００万円です。単純な計算なんですけどね、市長。今、電気代が二千何百万円かかるんです、年間。そうすると、１年、２年でそこら辺がもとに戻るんじゃないかなと、そういう考え方も私は考えて、この問題を提起した。できるだけこういうことを率先してその自治体がやっていくということは、これ大いに、せっかくこの離島振興法の中で、こういう枠組みができて、離島の活性化につなげていきなさいという国の方針ですから、こういうのをしっかり利活用して、そしてそういうのをやっていくというのは、これはぜひともやっていかないかんことだろうと私はそう思いますが、どうですか、市長。

○議長（初村　久藏君）　市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝　尚喜君）　確かに私もこの再生可能エネルギーを最大限、活用することにつきましては、大賛成であります。ただ、しかしながら、ここの施設関係につきまして、冒頭ちょっと説明いたしましたように、大手ゼネコンを巻き込んだ上でいろんな検討をしてまいりました。そういう中で、約３７％程度の電力量が削減が可能ということで計算いたしますと、約７００万円から８００万円ぐらいの電気代が削減は可能だと。しかしながら、ここは恐らく屋根が傾斜した、結構きついですから、傾斜した上に太陽光パネルを乗せるというようなことで、ランニングコストがものすごく高いんですけど、要は点検とか保守関係で試算が年間１，０００万円を超えてかかるというようなことで、電気代が安くなる分は、そこの保守管理料で逆に高くなってしまうというようなことがありまして、ここは断念をしたといった、そういった経緯もございます。

そういう中で、確かに構造等によりまして、この太陽光パネルを敷設したほうがかなり有利になる場合が多いかと思いますけども、ここについては何かそのようなことで、ちょっとかなりの事業費もそのときは、基礎材とか柱等の構造が高くなると、それとまた太陽光パネル敷設の経費が要る、また最終的にランニングコスト等に結構な経費がかかるというようなことで断念した経緯がございますので、御理解をお願いしたいと思っております。

○議長（初村　久藏君）　８番、船越洋一君。

○議員（８番　船越　洋一君）　今、市長の答弁ですと、太陽光を設置するところはありませんね、そういうふうに経費がかかるんであれば、太陽光というのはどこもつけませんよ、維持費がかか

るということであれば、それじゃもう設置するところはありませんよね。

ところが、うちの家も７５枚付けているんですよね。１５．８キロ発電する能力があるんですが、これは、私のところは売電を主にしていますので、ところが、ここは売電はしないんです。自分のところの電力を自分たちで賄うというやつですから。だから、蓄電施設も備えないかんと思うんですよ。

だから、業者の言うことを全部まともにうけてやりよったんでは、こういう再生可能エネルギーを屋根の上につけてやるということになってくるとか大変なことで、つけるところはありません。普通の平地につけろということでしか、そういうのは可能になりませんので、しかし、せっかくの大きな屋根があるのにそれを活用せん手はないじゃないかというのが、私の発想なんです。

当初、計画のときにそこら辺も検討をしたということ、答弁がございましたけども、しかし、先々のことを考えると、やはりそういうのはやっておかないかんことだと思うんです。対馬の人口を、将来設計人口を見てみますと、２０３０年には2万3，８００人ぐらいですね。２０４０年になりますと1万9，３００人ぐらいです。２０５０年になりますと1万5，０００人ぐらいの、人口が減っていく予定なんですね、今、推計ですから。

そうすると、人口は減っていきますよ。そうなってきますと、人口は減って税収は減ってくるのに、一般財源からこれを出していかんないかんということになってきますと、財政はより厳しくなってくる可能性はある。だから、そういうことまで市長はやっぱり考える必要があろうかと思うんです。

ぜひこれは、そういう今、市長が言われたこともありますが、ぜひ検討を再度していただきたい、ここ、強度計算もされて、もう一回どうにかなる可能性はないかということをちょっと調査してみてくださいよ。

今から先のことを考えると、それはぜひともやっておく必要が、私はあると思うんです。お願いをしておきます。

次に、猪鹿の問題に入りますが、今年度も１，４３０万円ほど予算を組んでおられますね。これの中には、市債が５４０万円、一般財源で８９０万円予算をつぎ込んでやっていくんですが、今までの猪鹿のところの決算書を見てみますと、８年間で５，４００万円ぐらいの赤字が出ているんですよ。それは市長、頭の中に入っていますか、ですね。

なぜこのような赤字を出しながらでも、これを続けていかないかんのかと、私はそう思うんです。理由を教えてください。続けていかないかん理由を教えてください。

○議長（初村　久藏君）　市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝　尚喜君）　まず初めに、冒頭、答弁いたしましたように、まず結論として、令和

５年度中にこの施設の廃止を進めていきたいということでございます。

それとまた、なぜこの施設をつくったかということでございますが、このことにつきましても、先ほど、るる説明をさせていただきましたけども、やはり、この（発言する者あり）継続でしょう、ですから５年度で終わるということでございます。

これまでが継続いたしましたのが、やはり対馬市でこの猪鹿対策をすることはもちろんでございますけども、そのジビエ料理を一般的に普及をしていくためには、衛生的な、衛生管理のガイドラインに沿った施設ではないと、なかなか難しいと、普及がですね。

そういう形で市が率先してそのような衛生的な施設のもと、一般的にジビエを増やしていかなければならないというようなことで、これまで継続をして進めてまいりましたけども、来年度、市が直営でやっておりますような、そういった加工施設を民間のほうで構築するということが決定をいたしましたので、そういうことであれば、市はここで手を引いて廃止をしていこうという決定をしております。

以上です。

○議長（初村　久藏君）　８番、船越洋一君。

○議員（８番　船越　洋一君）　今までもこの８年間、投資をしていますので、なかなかやめるのはもったいないという気はするんですが、しかしながら、余りにも負債が多すぎる、５，４００万円もですね。今、ふるさと納税のほうで、８年間のうちの６年間ぐらいはふるさと納税のほうでそういうジビエを出していますけれども、これも９００万円程度ですね。そうしますと、やっぱり赤字のほうが大きいんですよ。民間の今ある施設の方にちょっと聞いてみますと、年間、ここが１，８００頭ぐらい捕るんですね。月に１５０頭ぐらい処理するということなんですから、そこらがそれだけの頭数を捕って、いろんなところに、そこも冷凍して食品で販売を、送っているんですけどね。そういうところもやっぱり、しっかりと補助してやらないかん、バックアップをしてやらないかん、対馬の猪鹿をそういうふうに加工して送るわけですから。

しかし、それは民間ですから、市のほうがどうのこうのというわけにはいきませんが、民間の努力でやってもらわないかんけど、しかし、民間は民間でそれなりに一生懸命やっておるところがあるんですよ。

市の施設から今度、民間がやるということですが、それは市のほうはノータッチなんですか、ノータッチ。民間が独自でやるということなんですか。

○議長（初村　久藏君）　市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝　尚喜君）　今度、市のほうの雇用活用事業を、活用をされて起業されるということでございますので、最初の、その雇用活用の補助金は出せるものとは思っておりますけれども、その以後は市の補助はないということでございます。

○議長（初村　久藏君）　８番、船越洋一君。

○議員（８番　船越　洋一君）　当初、事業を立ち上げるときにはそういう補助制度がありますからそれを使ってやるんだろうと思うんですね。しかしながら、それから後については補助は一切ありませんと、自分のところの事業努力でやっていただくということなんですけども、やはり、もう一つ、対馬全島を網羅してやっている業者にしてみても、一生懸命捕ってきて、例えば、今、市の加志の猪鹿処理場は、猪を自分たちで捕りにいくんですか。あるいは鉄砲で撃って捕ってくる、罠に入っておれば捕ってくるんですよね。ところが、どういうふうな捕獲の仕方をしているんですかね。年間、この８年間で８００頭ぐらい、８５０頭ぐらい処理していますけれども、大体１年間に１００頭前後、処理しているんですよね。だから、どこかに委託して、それをやってもらっているのか、自分たちで捕りにいって鉄砲で撃って持って帰ってくるのか。そういうこともやっぱりしっかりしとかんと、確かにここはダイオキシンの検査もし、いろんなことをやっていますから、職員については問題はないと思うんですけども、しかし、そういうのに金がかかり過ぎて、全くもってこの事業としては成り立っていないんですよ。８年間で５，４００万円の赤字を出しておるわけですから、それは市の金が出ていっているんですから、一般財源から。

やっぱりそういうことを考えると、市民の皆さんには申し開きつきませんよ。だから、今年度で終わって来年度はやり変えますということですから、市の金が一般財源で行かないように、そういうことを十分気を付けた中でやっていただきたいと、このように思います。

○議長（初村　久藏君）　市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝　尚喜君）　詳しい内容については、担当の部長のほうから答えたいと思います。

○議長（初村　久藏君）　農林水産部長、黒岩慶有君。

○農林水産部長（黒岩　慶有君）　どういった形で猪、鹿を施設に搬入しているのかという御質問でございますが、加志の施設の場合は、箱罠に入っている猪、鹿。生きておれば代わりの箱罠に移し替えて施設に持っていってそこで処理をしていると。そうじゃなくて、くくり罠とか生きたまま捕獲するのが難しい場合は、屠殺して時間がたっていないそのものを御本人様に持ってきてもらう、またはこちらから時間のあるときには捕りにいく、そういった、臨機応変に対応しているといったところでございます。

以上でございます。

○議長（初村　久藏君）　８番、船越洋一君。

○議員（８番　船越　洋一君）　今後、来年立ち上げるというところもそういうふうな感じでやるんですか。

○議長（初村　久藏君）　農林水産部長、黒岩慶有君。

○農林水産部長（黒岩　慶有君）　お答えいたします。

来年度立ち上げる事業所も加志でやっている方たちがそのまま移行しますので、やり方も同じだろうというふうに思っております。

以上でございます。

○議長（初村　久藏君）　８番、船越洋一君。

○議員（８番　船越　洋一君）　やることはいいことなんですが、ですね、赤字を出さんようにせなあかんですよ。市民の皆さんにどう説明しますか。これ見ていないから、分からんからみんな何にも言いませんが、決算書を見てみると、こんだけの金額が出ているんですよ。そういうところをしっかりと組み立てていただいて、赤字が出ないような方法を考えてください。お願いします。

それから、３点目に行きます。この韓国人旅行センターの件なんですが、市長。これは、今、市長の答弁の中に、観光協会ですか、そこに委託をしてその人たちが韓国語も取得をして、そして対応をしていくというような話がございました。しかしながら、この民族性というのがありまして、日本人の人がそこで対応しますからどうぞって言うたって、なかなかそうはいかんと思うんです。

同じように、韓国の方が、民団の方がおられて、そしてその人たちがアピールしていくということになってきますと、雰囲気は全然変わりますよね。

それともう一つは、昨日ですかおとといですか、伊原議員が質問をされていたように、韓国人、その韓国人の人たちが対馬に入って滞納税はないのかと、税金はみんな収まっているかっていう質問をしましたよね。それも少しはあるみたいですね。その手立てをどうするかとなってくると、市のほうでは対応しきらんでしょう、その未納金額を。

例えば固定資産税、未納になっています。市県民税も未納になっています。それを未納になっていますけどと放たっておけば不納欠損で落とさないかんわな。しかし、その対応の仕方をするにしても、観光物産協会ですか、そこの方たちがそれを対応はしますよというけれども、そういうところまではタッチできませんよね、ですね。

そうしますと、そういうところ、こういう民団っていいますか、韓国人の旅行センターをつくっておけば、そこの方たちが、例えば入国をする、どこかで商売をする、そして物を買う、土地を買う、そういうときにも民団のほうからそういうのを喚起していただいて、不動産取得税、そういう固定資産税、そういうのをしっかり納めてくださいよということの喚起もできると思うんですよ。

だから、そういうことにも、そういうところをつくっておいたほうが、使っておいたほうが、私は便利がいいと思う。どうでしょうかね。

○議長（初村　久藏君）　市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝　尚喜君）　韓国人の旅行者に関しまして、この旅行支援をする意味合いから、国際ターミナルのほうに配置するということにつきましては、私もこのことについては、前向きないいことだという捉え方をしております。

ただし、今、議員がおっしゃられるように、そういった税関係とか、そういったことをするためにこの国際ターミナルに旅行支援センターが入るというようなことになれば、ちょっと目的を逸脱してくる恐れがあると。あくまでそういった税関係とか他の韓国人旅行者の生活に関わることにつきましては、やはり今までどおり、民団の事務所のほうで処理をしてもらうべきじゃないかなというふうに、私は思っております。

ただし、今、議員がおっしゃられるように、これからまた韓国人旅行者が増えるものと思われます。まして、厳原港の国際ターミナルのほうが開設した場合は、よけい増えるということでございますので、その際に、この旅行支援センターの機能を国際ターミナルのほうに移管したほうがいいということで、民団のほうも希望されるならば、そこは応募をまずしていただこうということで動こうかということを今、庁内で協議しているところであります。

○議長（初村　久藏君）　８番、船越洋一君。

○議員（８番　船越　洋一君）　そういうふうな考え方を市長がしてあるということは、民団の人たちも喜ぶと思うんですよね、旅行センターをつくろうと。その人たちは前向きに旅行センターをつくって、韓国からの観光客が安心して安全に旅行ができるための施設をつくりたいということなんですから。

５年前、４１万人来ていたときに、そういうのがあったかと、そういう旅行センターみたいなのがあったのかと、ありませんよね。しかし、今回はそういうところからそういう申し出もあっておりますので、ぜひこれは、厳原の国際ターミナルビルの中に、こういうのを一つつくることによって、韓国からの韓国人旅行者の方たちが安心感がまずできると思うんですよ、安心感が。それを、日本人がそこに行ってするんじゃなしに、韓国人がそれを受付をしてくれるわけですから、対応してくれるわけですから、安心感がありますよね。

どうしても私はそういう施設はつくっておく必要があると思うんです。だから、市長の先ほどの答弁でも、それは意義があるということですから、それは、しかし、応募をしてもらわないかんというのは分かるんですよ、分かります。これを普通のテナントにしてもそうなんですね。そこと一緒なんですから。しかし、目的が違う、普通のテナントとそことは。

普通のテナントは、例えば物をそこに持っていって売りますよというそういうテナントと、そういう旅行者を安心、安全なことに導いていきますよという事務所とはまた訳が違いますよね。そこら辺も考慮に入れていただいて、何とか厳原のターミナルビルの中にここが入れるようなことを考えていただきたいと思うんです。

だから、検討はしていただけるとは思いますが、ここに入れんやったときはどうにもならん。韓国人観光客も安心感がない、それをしっかり協議してみてくださいよ。まだ時間がありますからね、完成するまでには。何とかそこら辺を検討していただけんですか。答弁を願います。

○議長（初村　久藏君）　市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝　尚喜君）　これは、要はまだ国際ターミナルも完成はしておりませんけども、先ほどもちょっと答弁いたしましたように、あくまでその重要性というのは十分認識はしているところではございますけれども、また半面、公平性というところで、そこで応募者数が、少ないときには優先的に入れることも可能ですけど、同じような旅行関係の会社等が数多く応募されてきたとき等については、やっぱりそこはちょっと公平性も担保せんばいかんというようなことを、今考えているところでございますので、今後の検討課題ということにさせていただければと思います。

○議長（初村　久藏君）　８番、船越洋一君。

○議員（８番　船越　洋一君）　確かに公平性は保たないかんでしょう。しかし、対馬市が今、韓国人観光客の受け入れ態勢をしっかりつくって、経済効果を生み出していかんにゃいかんというようなことも、頭の中にはあるわけでしょう。いかにこの韓国人観光客が元どおりまでいかんにしても、せめて２０万人でも来てくれれば経済効果は出てきますから、それについては、やはりそういうことをしっかりして、安心して安全に旅行ができるというシステムはしっかりつくるべきことだろうと私は思うんです。

今までそういうのがなかったんですから、今度はそういうのをつくってやって、そういうところにそういうのを置いて、そして、それが安心、安全、相談をどこにでも行けるというぐらいのシステムづくりをやる必要があると思うんです。

それをかたくなに、何て言いますか、公募していただいて、それで、そこの中で、協議した中で入れましょうと、そういうかたくなのは、そういうことを言わんででも、対馬市の目的は何ですかとなったときに、韓国人観光客をしっかり、たくさん受け入れたいという思いはあるやないですか。その人たちに安心、安全を与えるのを、そういうのをつくらんにゃいかんということを言いよるわけですから。何もそこをかたくなにそれを、四角四面に、いやこうしてもらわんとだめですよっていうようなことでは、やはり、私は物事を先にづらんと思いますがどうですか。もうちょっとにっこり笑って言うてみてください。分かりましたって。どうぞお願いします。

○議長（初村　久藏君）　市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝　尚喜君）　分かりましたと言いたいところなんですけども、要は言うように、やはり、まだまだどれだけの事業者が応募されるか分からない中で、またそういうことを発言しておきますと、いろいろと差し障りが出てくるものと思われますので、もうしばらくそこら辺は様

子を見ながら協議をさせていただければというふうに思います。

○議長（初村　久藏君）　８番、船越洋一君。

○議員（８番　船越　洋一君）　市長の気持ちも分からんでもないんですね。しかしながら、私が思うのは、韓国人観光客をたくさん受け入れたいという思いがあって、そこの中に旅行者の方たちが安心、安全で対馬に来て旅行ができる、何かあったときにはそこに飛び込めばいいという、そういった安心感があると、そういう施設は置いておく必要があるということを言いよるんです。

ほかに前例がないかも分かりませんが、前例ちゅうのはつくってからしか前例はできませんから。何とかそこら辺をしっかり考慮していただいて、そこの、厳原のターミナルビル、入れるように配慮してくださいよ。

何かいい返事せんね。どうですか。よくよく検討して、いい返事を聞かせてください。副市長、よろしくお願いしておきますよ。

もうこれで、市長の答弁もこれ以上出てきませんので、もうやめます。あとはいい答弁を、結果を見ておくだけですから、これで終わります。よろしくお願いしておきます。

○議長（初村　久藏君）　これで、船越洋一君の質問は終わりました。

○議長（初村　久藏君）　暫時休憩します。再開を２時１０分からといたします。

午後１時53分休憩

午後２時10分再開

○議長（初村　久藏君）　再開します。

引き続き、市政一般質問を行います。１３番、波田政和君。

○議員（１３番　波田　政和君）　皆様、大変お疲れさまです。改めまして、会派対政会の波田でございます。市長をはじめ皆様方におかれましては、連日の質疑応答のおつき合いで大変お疲れとは思いますが、私で最後となりますので、どうぞよろしくお願いしておきます。

質疑に入る前に、市長へお伝えさせていただきます。

地域住民をはじめ島民の悲願でもありました（仮称）尾浦トンネル、尾浦安神トンネルといいますかね、工事の発注がなされたことに対しまして、クリーンセンター処理場誘致の約束事でもありました案件について、たくさんの喜びの声が上がっており、市長をはじめ関係各位へ感謝する旨の伝言を受けておりますので、この場をお借りしまして、申し添えておきます。

それでは、本題に入らさせていただきます。

今回の質問項目としましては一つに絞り、本庁機能を有する厳原庁舎の今後の活用に向けての方向性について御質問いたします。

要旨としましては２点ございますが、まず１点目に、本市合併２０周年を迎えようとしている今日、定着しつつある分庁舎方式での行政運営の考え方について、２つ目に、新庁舎建設に向けての取組や財源確保の計画について、順次お尋ねしたいと思います。

この案件は、旧対馬６町対等合併時からの今日に至るまでの行政運営の要である拠点整備について、過去の質疑応答の中から再確認していきながら、地域住民の声を重ねてお尋ねしたいと思いますが、決して執行権の妨げになることを提案するものではございませんので、市長におかれましては、市長の手腕やお考えを市民が納得し、期待が持てる答弁でまとめていただけることを望んでおりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

まず、この本庁舎関連の質問について、私は過去４回にわたり、防災関連や厳原庁舎耐震関連を含めて質問をしてきたわけでありますが、今から５年前になりますが、平成２９年第４回定例会時に厳原庁舎に設置されている災害対策本部の安全性確保について質問させていただきました。その際、市長から、厳原庁舎の耐震診断を行い、その結果を受けてから耐震補強等の検討をすると答弁がなされております。

また、平成３０年第１回定例会には、今後における本市事務所の正式な決定時期についてお尋ねしました。その中で市長は、事務所の位置決定に関する件について、地方自治法第４条を用いて答弁がなされ、同時に市長から、暫定的にでも本庁舎が厳原となった理由と考えられていると答弁がなされております。

また、同会議において、本庁機能方式について、従来からの分庁方式、また本庁集約方式の適否について検討の必要があるともお答えになっております。

市長が将来、思い描く本庁機能のあるべき将来像については、この本庁問題は、市民にとりまして大変重大な問題である。決してこの案件を後々まで残すことはできない。耐震診断の結果が出た後に、任期中に最終決断し、方向性を出したい。その際には、議員皆様にも協力いただく。力強いお言葉もいただきました。

そして、平成３１年３月定例会に厳原庁舎が耐震基準をクリアできない結果となった場合にふれた答弁では、この厳原庁舎の機能は維持していくべきと考えていると、このようにも答弁なされております。

このことを踏まえて、市長の答弁を過去から時系列に簡素にまとめてみましたが、厳原庁舎の耐震調査を行うと。次に、庁舎の耐震の出た結果で建て替え、もしくは補強を検討すると。３つ目として、その結果として、厳原庁舎の方向性について市長が任期中に最終決断をすると、このようにまとめておられます。今までの答弁の内容ですね。

このような流れから、現在、市役所厳原庁舎整備検討委員会が設置され、厳原庁舎の整備方針など方向性について、市民など幅広い意見を反映させるため必要な事項の検討が６人程度の委員

で構成され、令和４年、年２回ほどの委員会が開催されるということは承知しております。

このような背景から、今回は、過去の懸案事項であります対馬市本庁舎建設決定に関する事項の進捗状況について再質疑、再確認したいと思います。

本市も合併より比田勝市長体制で２０周年の節目を迎えることとなるわけでありますが、新庁舎建設基金も設立がなされ進んでいることは誰もが知るところでございます。このような節目を迎えるに当たり、一歩進んだ方向性や取組を期待するものであります。

先ほどから申しますように、市長の過去の答弁からも、市民そして議会を巻き込み、早い段階で動きたいとお話があっておりました。漠然とした中での基金積立てではなく、建設時期をはじめ予定地など節目に当たり、計画するための一歩前進した住民アンケートなどの着手の検討のお考えはないか。既になされている場合はすみませんね。

また、合併時により暫定厳原本庁舎の建設経過手続をはじめ、耐震調査実施からその調査結果まで報告がなされてきたと思っておりますが、その後、何らかの変化、進捗があったのか。

市長が繰り返し答弁されていました厳原庁舎の耐震調査結果が出てから既に４年が経過しております。私は、いたずらに先送りなされているとは思っていませんが、何か理由でもありましたらお知らせください。

また、分庁舎方式での行政運営についてお伺いいたします。

６町対等での合併で進んできた結果が現在までの運用であると思っておりますが、時間とともに状況は変化するもので、人口流出、過疎化を止めることができない現実を考えたとき、一極集中での行政機能の充実が必要と思うが、現状維持だけではなく常に改革、実行で時代の変化の対応が必要と考えております。

また、２点目の新庁舎建設に向けた取組の財源確保についてですが、冒頭にもお話しましたが、新庁舎建設に伴う基金積立ては既に着手がなされ、ゴールが明確にされないまま見切りスタートのように見受けられることから、行政運営の見える化の推奨をモットーになされている比田勝市政において、何事も市民を巻き込んでの安心、安全運営をなされているわけでありますので、具体的にこの新庁舎建設に向けて、取組や財源確保の方針など、市民の皆様に分かりやすく説明を求めます。

また、必要に応じて再質問をしたいと思います。いかがでしょうか。よろしくお願いします。

○議長（初村　久藏君）　市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝　尚喜君）　波田議員の質問にお答えいたします。

初めに、定着しつつある分庁舎方式での行政運営の考え方についてでございますが、対馬市は、平成１６年３月１日の６町合併から令和６年３月で２０周年を迎えます。合併当初は市全体の公平な振興と市民の利便性を考慮し、本庁及び６支所の体制でスタートをいたしました。以後、今

日までの間、組織運営上の問題点や課題解決の検討を行い、数回の組織改編を重ね、現在の組織体制となっています。

議員お尋ねの、現在の本庁機能分散方式における行政運営の在り方については、平成３０年３月議会でも答弁しておりますが、庁舎スペースや本庁以外の旧６町の事務所所在地の疲弊を懸念することからの合併協議会における決定事項でございました。

しかしながら、合併２０年間で市の人口は約１万２，０００人を超えて減少しており、合併当時とは状況が変化しております。また、現本庁舎の耐震化診断においても、新耐震基準を下回っているという結果を受け、厳原庁舎の整備検討を早急に開始する必要があると考えております。

当然、検討に当たっては、市民をはじめ議会の協力、助言をいただきながら進めていくことが重要であると考えておりまして、市民代表の方に検討委員会に参画いただくようにしております。

次に、新庁舎建設に向けての取組や財源確保の計画についてでございますが、この件については、先ほども申しましたように、厳原庁舎が新耐震基準の指標を下回っているということから、令和３年６月の定例会において、厳原庁舎整備等に係る内部検討会議を設置し、厳原庁舎の建て替え工事等の対応方針を検討していると申し上げているところであります。

その後、次のステップとして、昨年１０月に厳原庁舎整備等検討委員会の委員の公募を実施しており、２名の市民の方から応募があっております。また、より多くの市民の意見をお聞きしたく、各振興部等により推薦していただきました４名の方と各種団体、商工会や社協等であります、各種団体の代表者の委員として予定しております。

庁舎整備等検討委員会設置要綱により、委員数は２５名以内としております。この検討委員会の第１回目の開催を３月中旬以降に予定しており、ただいま開催に向け諸準備をしているところであります。

次に、財源の確保についての質問でございますが、厳原庁舎の耐震工事、または建て替え工事を実施する場合、他の庁舎の整備が必要となる場合等、多額の財源が必要となってまいりますことから、令和２年度に庁舎建設整備基金条例を制定しており、この目的といたしましては、市庁舎建設整備の資金に充てるために積み立てるものであります。令和２年度に３億円、令和３年度に５億円の計８億円の基金を積み立てております。また、令和４年度においても、予算の許す範囲内において積み立てる予定であります。

厳原庁舎整備等検討委員会において、本庁機能の集約方式、あるいは分散方式の是非も含め、様々な課題について御検討いただき、その内容をもとといたしまして、厳原庁舎の今後の方向性について、市民及び議員の皆様にお示しできると考えております。

財源におきましても、今後も計画的に基金を積み立ててまいります。また、国の動向を注視しながら財政負担の軽減を図るために有利な補助金、起債の活用を併せて検討してまいります。

以上であります。

○議長（初村　久藏君）　１３番、波田政和君。

○議員（１３番　波田　政和君）　ありがとうございます。ただいま整備検討委員会の話が出ましたので、市長、ここはっきり答えてくださいね。厳原庁舎だけのものなのか、それとも厳原庁舎整備と本庁を含めた検討させる委員会、どちらですか。それによって質疑の内容が変わりますので。

○議長（初村　久藏君）　市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝　尚喜君）　対馬市役所厳原庁舎整備等検討委員会設置要綱ということでありまして、まずここは、厳原庁舎をどのような形で、まず耐震工事でいくのか、それとも建て替えとするのか、それとまた併せまして、この時点で分庁方式、集中方式、ここも併せて検討いただければということを思っております。

○議長（初村　久藏君）　１３番、波田政和君。

○議員（１３番　波田　政和君）　市長、私の質疑を聞いてありますか。厳原庁舎だけなのか、それとも本庁舎を含めてか、どっちかはっきりしてくれんですか。今の話では、私の捉え方では、本庁舎の考えじゃなくて、厳原庁舎だけの話を進めているんですか。それとも後者、もう一点挙げたほうも含んでおるという意味ですか。どちらですかね。

○議長（初村　久藏君）　市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝　尚喜君）　これは、あくまで厳原庁舎でございますけども、ただし、この厳原庁舎を今、暫定となっている厳原庁舎でございますので、これを暫定を取った上で本庁舎とするのかということも、併せて検討すべきだというふうに思っております。

○議長（初村　久藏君）　１３番、波田政和君。

○議員（１３番　波田　政和君）　ということは、併せて考えたいということでいいんですかね、分かりました。

それでは、先に行きます。少し視点を変えて市長の見解を再度、お伺いしたいと思いますが、先ほども市長の過去の答弁から、時系列で話をしてきたと思うんですが、一応、そのときの市長の答弁では、地方自治法第４条１項について引用されましたよね。私が言うまでもございませんけども、ルールがありますよね。私は、あくまでも本庁舎を含むと今あったので、その辺を考えながら話をしているつもりですから、少し２項だけを拝読したいと思いますから、前項の事務所の位置を定める、またはこれを変更するに当たっては、住民の利用に最も便利であるように、交通の事情、他の官公署との関係等について適当な考慮を払わなければならないということは、そのとおりだと認識はしてあると思いますが、またその２項にも、住民の利用に最も便利であるようにと、交通の事情、他の官公署といういろいろな書き方があるんですが、交通の事情について、

今、話は厳原庁舎と本庁の何かどっちもつかないような話で進んだようにもありますが、やっぱりこの、私が先ほど言いますように、もう５回目ですよね、話をするのに。もうそろそろ本題に入らんと、今回、初めて質疑したように捉えられがちじゃないですか。そうじゃなくて、先ほど２項の、なぜ話したかというと、冒頭に説明で暫定的にも厳原になったんだと、市長、自分が答弁しとるんですよ。ということは、そこで認識があったと、私は捉えているんですね。だから、ここをあえて言いました。

それと、いろんな災害とかそういったもろもろが出たときも、もろもろにインフラが遮断されたときは、人力とか人の足とかが大事になってくるから、関係官庁といいますか、機関とは密接といいますか、近い距離でなくてはいけないということも書いてあるじゃないですか。それを考えたとき、一度、合併協の中で厳原も美津島もありますなんて、市長も言われた記憶ありますか。

そういうふうなことを考えながら、もうこの本庁舎建設に関しては、意識的に市長が初当選なされたときから頭の中にあったと、私は思っているんですよ。

そういう、だから６年がたとうとしていますよね。そういった話がありますので、そろそろ濁らすんじゃなくて、本当の話をしていただけんかなと思っているわけですよ。

と言いますのも、前回も話しましたけども、市役所が位置する場所が相当な環境を左右するということは、もう以前も説明したと思うんですよ。そういうところから、この市長が建設財源について３０年にも長崎県庁の例えを話されたことを覚えてありますか。このときも県庁と地方の市役所とですか、相反するといいますか、余りにもかけ離れた例題をなされたんですね。そのときに、何ていいますかね、県庁は総工費が１９５億円かかったと言ってあるんですよ。このときも、私が調べましたら、類似団体の五島も建てているですよね。このときの話をしてくれたほうが、住民は分かりやすかったんじゃないですかということを申し加えておきます。

そこで、せっかくですから、五島市の市役所の話、もう既に御存じと思いますが、人口的にも対馬が少し下回っているぐらいですかね。そういったところとよく比較、検討をどこでもするんですが、ここは、５年ぐらいで新しく建っておりますよね。耐震試験をしてから、スピードがあっていると思っておりますが、そういう中で、ここで言いたいのは、市長が県庁の話で、膨大な話するもんですから聞きづらかったので、分かりやすく、五島でも４階建てぐらいの鉄筋コンクリートじゃないですか。それで、１９０億円はかからんです。２２億円しかかかっていないわけですから。これはどこまでかよく分かりませんが、もう少し正確な類似団体を話してもらわんと、そんな膨大なという人もおったから、じゃなくて、分かりやすく例えてもらいたいということを要望しておきたいですよ。

そして、私が言うまでもありませんけども、こういう庁舎を建てる基準、これ総務省が起債許可標準面積算定基準というのは御存じと思いますが、職員１人当たり５．８３平米しか要らない

んですよ。基準ですからね、これ以上のもの何もありません。そうなったら、余り膨大な例え過ぎたと、私は思っておりますから、これから話すときは類似のものを話してくれませんかね。そしたら市民も分かりやすく捉えられると思いますからね。よろしくお願いしておきますよ。

そういったことの流れの中から、本市の場合、現在、試算では本庁集約方式の場合はどれぐらい床面積が必要なのか。概算もう出とるはずなんですよ。造るか造らんかは別ですよ。それも踏まえて考えておると、今の話じゃったら、私がそう認識しましたので。もうその辺ぐらい出とかんと、もう話がたって５年もたちますので、何もしとらんとかという話になってきますから、そこをもう一度考えてください。

それと、最後に、分庁舎方式での行政運営の考え方について、市長は、厳原庁舎の耐震化診断の結果を踏まえてと、いつも話されてきたんです、今まではね。そういう中で、厳原庁舎ができないという基準が出たわけですから、検討すると言って、今現在ですよね。何を検討しよるかよく分からんわけですけれども、だから、市長に、今この整備検討委員会というのは１０月３１日で締め切っているわけじゃないですか。今の話では、議会が終わった頃、第１回目をやりましょうなんて今、説明がありましたけど、本当これやる気があるんですか。１年前ごろ申し込んでおるんですよ。

今、言う、何回もこの話をするんですが、余り聞いてもらっていないんじゃなかろうかなと私自身捉えるんですから、私の被害妄想ですかね。

それともう一点、この庁舎問題について、市長は決して後々まで残すことはできないと、比田勝市政の任期中に方向性を出したい、答弁して約束してあるんですよ、政治家の約束は嘘しか言いませんけども、市長は政治家じゃないんですよ、対馬市の指導家ちゅうたほうがいいですよね、権限があるわけですからね。

そういったことから、もう少し深く話をしたいんですけども、例えば、今あと１年任期がなってこういう状態であったら、どこまでこの１年で任期中に示すんですか。また、考え方として、市長選挙、来年はありますよね。あと４年頑張るということなんですかね。ここをはっきりしてくれませんか。そしたら、また考え方が違ってきますよ。今これ大事なところですからね。どうでしょうか。よろしくお願いします。

○議長（初村　久藏君）　市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝　尚喜君）　何点かございました。まず、地方自治法の関係では、既に御承知のとおりでございます。このことについては、そのことによりまして、今後、検討していきますよということで答弁をしてきております。

それとまた、この３月に、中旬以降に予定をしております、この庁舎整備等の検討委員会においては、大変遅れておりますことについては、おわびをしたいというふうに思います。このこと

について、ある程度、委員等が固まりましたら少しスピードアップしながら進めてまいりたいと思っております。

そしてまた、３点目に、この私の２期の任期中にある程度の方向性は示すということを申し上げてまいりました。確かにこの２期は残るところあと１年でございますけども、この１年の間にどこまで示せるかということをちょっと私も危惧はしておりますけども、できる限り頑張って、その方向性を示したいという思いを持っているところであります。

以上です。

○議長（初村　久藏君）　１３番、波田政和君。

○議員（１３番　波田　政和君）　１年あるのになかなか決意しにくい質疑をしまして申し訳ございませんが、今のスピードでいきますと、１年たっても何もできませんよね。だから、市長どうですか、もう一回頑張ってみてやりますぐらい言ったらいいんじゃないですか。そのくらいないと信用性がないですよ。２期も３期も対馬市を預けようとしているわけですから。そのくらいもってやる事業じゃないんですかね、こういう本庁うんぬんいうのはですね。

先ほど、五島の話をなぜしたかというと、やる気になれば、今でももう８億円積み立てたんでしょう。五島市の並びからいったらそんなにかからんじゃないですか。もう一期市長がやるというなら、１年ずつ５億円すれば２０億円になるわけですから。もう少しそういうふうなことをゆっくり考えましょう。

そうして、やっぱりみんなが納得するものをつくっていただかなくちゃ、目的のある基金をしてください、前回も言っています。

今度、機会があって、長崎県に行ったついでに長崎市役所にも行ってまいりました。１９階建ての立派なものでありましたが、長崎市内一望できるんですよ、３６０度。そして、私が感動したのは、フロアに応接セットみたいなのがたくさんあって、そこに住民の方が相談員を含めてたくさんの出入りがあっていましたよ。あれが本当の市役所の姿かなと思っております。

それを考えたら、さっき執務室の５．７平米というのもその限りじゃないじゃないですか。そういうふうな節目に比田勝市長、いてるんですよ、間違いなく。自分の今まで答弁なされたことが重く受け止めてください。耐震強化がクリアできないところが、今そこで大事な部署を置いているということ、分かってあるんですよ。

以前は、そういう対策室なんか消防長が許可したら消防に移しても、そういう話もしてあったじゃないですか。そういうふうに、何事も進んでいないということを、今日お話したかったんですよ。だから、何事もなければそれでいいんです。でもやっぱり、物事が動き出して、市長の決意が５年前と変わらんように、私には見えるんですよ。

そういったことから、この件はなぜ今回も話したかというと、新しい年度になるから、新しい

気持ちになってもらいたいし、もう時間もたったということです。

市長、改めて言いますけども、これは市長の答弁をもとに話をしておりますよね。何か違うところがあったら違うって言ってくださいね。

だから、私が勝手につくったことじゃないんですよ、市長が答弁したことですから。市長の答弁のポイントが厳原庁舎は残すと言ってあるんですよ。そのときには、なら別に本庁舎建てるんだなって普通考えるんです、言われたら。だから、冒頭に含むんですか、どうなんですか尋ねたんです。

今、市長の話では、厳原庁舎がとりあえずやってみて、何とかなるならそこで、今の体制で行こうかというようにも聞こえるじゃないですか。それじゃなくて、やっぱり分庁システムでやるのが大事なのか、こういう疲弊した中で、人口流出も止められないこの対馬を、一極集中で運営するため合併したんじゃないんですか。そうじゃなかったら何も合併することは要らなかったじゃないですか。そんなことを考えながらの話なんですよ。

だから、この３月の中に検討委員会で前向きな話が出ると、私は思っておりますが、先ほど提案したように、やっぱりもう話が出てから時間がたつので、そろそろ住民も巻き込んでアンケートの一つも取ってみようという考え方にはならないですか、市長、そこを答えてください。

○議長（初村　久藏君）　市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝　尚喜君）　確かにスピードアップをしなくちゃならないなという気持ちで今いるところでございますけれども、その中で、今、議員おっしゃられるように、合併は一極集中をするための合併ではなかったのかというような御意見だったというふうに思っておりますけども、私は、この合併時にはあくまで最終的にはその一極集中をするとか、そのことについては合併してからの議論の上で決定するというようなことで決まっていたというふうに、私は認識をしているところでございます。

それまでの間は、各町を疲弊させないような形での分庁方式を取るということが、合併当時の考え方じゃなかったかなと思っております。

その中で、今、議員おっしゃられるように、市民のアンケート等を早くとるべきじゃないかという御意見でございますけれども、もうそのとおりだと思っております。

そういうことで、今回、この３月中旬以降に委員会等を開催させていただきますけども、この庁舎整備委員会等にもそういったことでいろいろとお諮りもしながら、アンケートの方策につきましても、どのような形でアンケートを進めていくかも併せて検討をしていければというふうに考えております。

以上であります。

○議長（初村　久藏君）　１３番、波田政和君。

○議員（１３番　波田　政和君）　誤解があったらいけないので市長、再度言っておきますけど、合併協の中で一極集中をなぜやったのかと尋ねたのは、本庁舎を一つにするという意味じゃないんですよ。６町が合併するということは、司令塔を一つに置くということをやったんじゃないですかということです。そしてまた、いろんな方と相談しながらと今、言われますけど、あなたは誰と相談、誰と議論するんですか。当時は６人おったから議論しただけですよね。今は、その当時の人たちが駆け込み事業をやったので、市長が苦しんでいっているわけじゃないですか。私の話聞かんですか。

だから、今そういったもろもろを、財源確保するのもずっと抵抗が今まであって市長が来ているわけです、今。やっと比率も元に戻ってスタートしとるという話も聞いておりますから、そういう中で、私とすると、先ほどから言いますように、対馬が一つになった以上は一つでやるべきじゃないかという話をしているだけであって、当時の話がどうやこうやというつもりは何もないんですよ。しかしながら、時間とともに時は流れていっているじゃないですか。だから、市長が自分の時代に、自分の任期中にやるということを信じているわけです、私は支持者の一人として。だから、１年なのか５年なのかって尋ねたんです。それによって、考え方が変わってくるじゃないですか。

だから、市長、いずれにしても市長の時代にはもう逃げられんのですから。だから、そこで先ほど言いますように、市民に分かりやすく答えてくれませんかと、市民が分かるように、つくらんならつくらんと言えばいいんですよ、別に。つくる人間と交代してもらえばいいだけのことなんですから。

そういうふうなことを考えて、責任あることをやっていきたいなと、我々議会も何回も言っているじゃないですか。協力ができることがあったら委員会でもつくってでも、今はこの検討委員会を募集してある、議会より先に外部を優先して、それも大いに結構な話ですよ。ただ、議会でしかこういう公共の電波で話はできないから、もちろんこういった検討委員会も非公開ではなされんでしょうから、公開でやるんでしょうからね。興味のある人は行けばいいと思っておりますが、その辺も含めて、市長どうでしょうか。もう一度だけ検討委員会は本庁も含めて検討させますということを言ってもらえませんか。どうですか。

○議長（初村　久藏君）　市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝　尚喜君）　今、何て申しましょうか、これまで厳原庁舎等の整備等検討委員会においても大変、ちょっと開催が遅れていることをまずおわび申し上げたいと思いますし、先ほどから申しておりますように、あくまでこの厳原庁舎整備等の検討委員会は、本庁としての機能も含めた上での検討だということで、できる限り、私もここではっきりといつまでというロードマップを示せれば一番いいんですけども、まだそこまではなかなか引けないということで、できる

限り早い、スピードアップをしながらこの庁舎関係については進めてまいりたいということで、これは、今、基金のほうも基金条例をつくって、もう既に８億円は積立てもしているところでありますし、この令和４年度、またいくらかの基金も積立ては可能だというふうに思っておりますので、財政的な面とこの庁舎検討委員会、そしてこれがある程度、進めば、今度、議会のほうにも特別委員会等の設置もお願いしていかなければならないというふうに考えているところであります。

○議長（初村　久藏君）　１３番、波田政和君。

○議員（１３番　波田　政和君）　市長、そしたら最後に、今、基金の話でもう一回お尋ねしておきますが、今８億円ですよね。市長が考えられる市役所のその面積といいますか、さっき職員１人当たりを足して、どのくらいを目標にしてあるんですか、概算でいいですから、どうですか。

○議長（初村　久藏君）　市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝　尚喜君）　内部等でいろいろと協議を進めた中で、まず今の庁舎面積に、例えば、一極集中方式とした場合、議会とか教育委員会、福祉、全てまとめたときに、概算でも５０億円から６０億円近くかかるのではなかろうかというようなことでありました。その分、約、そのうちの半分程度は基金を積み立てたいなというようなことで、３０億円ぐらいは基金として積み立てたいと思っているところであります。

○議長（初村　久藏君）　１３番、波田政和君。

○議員（１３番　波田　政和君）　ありがとうございます。試算は着々となされての答弁だったと思いますが、できるだけ早く目標達成ができるように、いろんな方向でやってもらいたいと思っております。

それでは、最後に一言、市長をはじめに執行部の皆様には、我々議会としましては、質疑した内容を成就するまで、内容が、提案することが成就するまで再三再度、話をするのが議会の使命と思っているわけです。決して私がしつこいわけではないんですね。ここを認識しとってください。

これで終わります。ありがとうございました。

○議長（初村　久藏君）　これで、波田政和君の質問は終わりました。

―――――――――――――・―――――・―――――――――――――

○議長（初村　久藏君）　以上で、本日予定しておりました市政一般質問は終わりました。

本日はこれで散会とします。お疲れさまでした。

午後２時57分散会

令和５年　第１回　対　馬　市　議　会　定　例　会　会　議　録（第23日）

令和５年３月15日（水曜日）

議事日程（第６号）

令和５年３月15日　午前10時00分開議

日程第１　議案第８号　令和５年度対馬市一般会計予算
日程第２　議案第３号　令和４年度対馬市一般会計補正予算（第１１号）
日程第３　議案第９号　令和５年度対馬市診療所特別会計予算
日程第４　議案第10号　令和５年度対馬市国民健康保険特別会計予算
日程第５　議案第11号　令和５年度対馬市後期高齢者医療特別会計予算
日程第６　議案第12号　令和５年度対馬市介護保険特別会計予算
日程第７　議案第13号　令和５年度対馬市旅客定期航路事業特別会計予算
日程第８　議案第14号　令和５年度対馬市集落排水処理施設特別会計予算
日程第９　議案第15号　令和５年度対馬市水道事業会計予算
日程第10　議案第16号　対馬市企業版ふるさと応援基金条例
日程第11　議案第17号　対馬市個人情報保護法施行条例
日程第12　議案第28号　湯多里ランドつしまの指定管理者の指定について
日程第13　議案第29号　あがたの里の指定管理者の指定について
日程第14　議案第30号　工事請負契約の締結について
日程第15　議案第31号　漁港区域内公有水面の埋立てについて（唐崎漁港）
日程第16　議案第32号　港湾区域内公有水面の埋立てについて（曽ノ浦港湾）
日程第17　議案第33号　港湾区域内公有水面の埋立てについて（曽ノ浦港湾単独用地）
日程第18　議案第34号　漁港区域内公有水面の埋立てについて（豆酘漁港）
日程第19　議案第35号　工事請負変更契約の締結について
日程第20　発議第１号　対馬市議会の個人情報の保護に関する条例
日程第21　発議第２号　盗難仏像の早期返還を求める決議
日程第22　常任委員会の閉会中の継続調査について

本日の会議に付した事件

日程第１　議案第８号　令和５年度対馬市一般会計予算

日程第２　議案第３号　令和４年度対馬市一般会計補正予算（第１１号）
日程第３　議案第９号　令和５年度対馬市診療所特別会計予算
日程第４　議案第10号　令和５年度対馬市国民健康保険特別会計予算
日程第５　議案第11号　令和５年度対馬市後期高齢者医療特別会計予算
日程第６　議案第12号　令和５年度対馬市介護保険特別会計予算
日程第７　議案第13号　令和５年度対馬市旅客定期航路事業特別会計予算
日程第８　議案第14号　令和５年度対馬市集落排水処理施設特別会計予算
日程第９　議案第15号　令和５年度対馬市水道事業会計予算
日程第10　議案第16号　対馬市企業版ふるさと応援基金条例
日程第11　議案第17号　対馬市個人情報保護法施行条例
日程第12　議案第28号　湯多里ランドつしまの指定管理者の指定について
日程第13　議案第29号　あがたの里の指定管理者の指定について
日程第14　議案第30号　工事請負契約の締結について
日程第15　議案第31号　漁港区域内公有水面の埋立てについて（唐崎漁港）
日程第16　議案第32号　港湾区域内公有水面の埋立てについて（曽ノ浦港湾）
日程第17　議案第33号　港湾区域内公有水面の埋立てについて（曽ノ浦港湾単独用地）
日程第18　議案第34号　漁港区域内公有水面の埋立てについて（豆酘漁港）
日程第19　議案第35号　工事請負変更契約の締結について
日程第20　発議第１号　対馬市議会の個人情報の保護に関する条例
日程第21　発議第２号　盗難仏像の早期返還を求める決議
日程第22　常任委員会の閉会中の継続調査について

出席議員（18名）

１番　糸瀬　雅之君	２番　陶山荘太郎君
３番　神宮　保夫君	４番　島居　真吾君
５番　坂本　充弘君	６番　伊原　　徹君
７番　入江　有紀君	８番　船越　洋一君
９番　脇本　啓喜君	10番　春田　新一君
11番　小島　徳重君	12番　小田　昭人君
13番　波田　政和君	14番　小宮　教義君
15番　上野洋次郎君	17番　作元　義文君

18番　黒田　昭雄君　　19番　初村　久藏君

欠席議員（１名）

16番　大浦　孝司君

欠　　員（なし）

事務局出席職員職氏名

局長	勝見　一成君	次長	平間　博文君
課長補佐	糸瀬　博隆君	係長	犬束　興樹君

説明のため出席した者の職氏名

市長 …… 比田勝尚喜君
副市長 …… 俵　　輝孝君
教育長 …… 中島　清志君
総務部長 …… 木寺　裕也君
総務課長（選挙管理委員会事務局書記長） …… 一宮　　努君
しまづくり推進部長 …… 伊賀　敏治君
観光交流商工部長 …… 村井　英哉君
市民生活部長 …… 舎利倉政司君
福祉保険部長 …… 國分　幸和君
健康づくり推進部長 …… 桐谷　和孝君
農林水産部長 …… 黒岩　慶有君
建設部長 …… 内山　　歩君
水道局長 …… 立花　大功君
教育部長 …… 八島　誠治君
中対馬振興部長 …… 松井　惠夫君
上対馬振興部長 …… 阿比留　裕君
美津島行政サービスセンター所長 …… 藤田　浩德君
峰行政サービスセンター所長 …… 居村　雅昭君
上県行政サービスセンター所長 …… 原田　勝彦君
消防長 …… 主藤　庄司君

会計管理者 …… 二宮　照幸君

監査委員事務局長 …… 志賀　慶二君

農業委員会事務局長 …… 主藤　公康君

午前10時00分開議

○議長（初村　久藏君）　おはようございます。

報告します。大浦孝司君から欠席の届出があっております。

これから議事日程第６号により、本日の会議を開きます。

―――――――――――――・―――――・―――――――――――――

日程第１．議案第８号

○議長（初村　久藏君）　日程第１、議案第８号、令和５年度対馬市一般会計予算を議題とします。

○議員（１３番　波田　政和君）　議長、１３番。ちょっといいですか。

○議長（初村　久藏君）　１３番、波田政和君。

○議員（１３番　波田　政和君）　おはようございます。議題に入る前に少し確認したいことがありますので、議長の議事運営についてお尋ねしたく発言の許可を求めます。よろしいですか。

○議長（初村　久藏君）　どうぞ。

○議員（１３番　波田　政和君）　早速、取扱いありがとうございます。

議長、先日、議会運営委員会が開催されたと思いますが、これから私がお伺いする内容について協議がなされた報告がなかったように思いましたので、確認させてください。よろしいですか。続けていいですか。ありがとうございます。

先日の一般質問の中で、特に脇本議員の質問の中で、パネルでの質疑について、市長が取り下げていただきたいとの発言があり、どの段階で対処なされるのか、まず一点お伺いします。その件、いかがでしょうか。

○議長（初村　久藏君）　暫時休憩します。

午前10時02分休憩

午前10時09分再開

○議長（初村　久藏君）　再開します。

その件について、局長のほうから読み上げさせますので、よろしくお願いします。

○事務局長（勝見　一成君）　２０２０年度の市長選挙のときに、そのような誘致をしないとする公約をした。演説でしたということは事実であります。そしてまた、２０２２年当時、厳原の女性団体が要望に来た際にも、誘致には応募しないという回答をした上で、先ほども申しましたよ

うに、これまで、誘致に向けた何ら動きはしていないということが、このことについては事実でございますけども、ただ、このようなパネルとかこういったことで質問の資料にされるということは、私に対して脇本議員の考えに誘導するような考えじゃないかな。悪い言葉で言えば、これは一つの○○ではないかなというようなことは私は思っておりますので、このことについては適切ではないということで取り下げていただきたいと思います。

以上です。

○議員（１３番　波田　政和君）　議長、１３番。

○議長（初村　久藏君）　１３番、波田政和君。

○議員（１３番　波田　政和君）　詳細は言葉足らずで申し訳ございませんでした。しかしながら、議長に問いたいのは、市長が取り下げてくださいと言わはったなら、発言者と答弁者の間で何らかのやり取りがなされて、議会冒頭にでもこういう内容であったからという報告すべきじゃないかということを確認したかったまでです。

話の中で○○というような、誘導することが○○であるというような市長の話ですよね。○○という言葉は非常に重いじゃないですか。それを聞き逃すというのはもってのほかですよ。○○○○○○○と同じ種類にも３種類ぐらいありますが、その中でも○○と言われると、一般市民が聞いとって聞き苦しいじゃないですか。だから、議長がどの段階かでしっかり話合いをしていただいて、訂正するのか、取り消すのか、この辺をはっきりしてから前に進みたいんですが、いかがですかね。議長さんの所見をここで話してください。よろしくお願いします。

○議長（初村　久藏君）　その言葉については、私も大変厳しいと感じますが、脇本議員と市長のやり取りでございますので、私はそこまで関知せんといけんかなというような気持ちですけど……。

○議員（１３番　波田　政和君）　いいですか。そしたらもう一度。よろしいですか。

○議長（初村　久藏君）　はい。

○議員（１３番　波田　政和君）　私が発言を許可を求めるのには、議事運営についてしか答えられんじゃないですか。議題で取り上げているわけじゃありませんから。また、正式な動議出したわけでもありませんし。だから、今、流れの中から不適切な発言と、それと市長が取り消さなくちゃいけない、取り消してくださいと。文中はどうでもいいですけど。取り消してくださいと言われたわけですから、そしたら、議長は何かその辺の対処しなくちゃいけないんじゃないかということを言うんです。議長は主宰しておりますからですね。この辺を議運が開かれていましたから、その中で話があったのかなという確認の意味もありました。

そういうことで、どうか対処をすべきじゃないかなと思いますので、あえて話をしているわけですよ。取り消してくださいと市長が言うた以上は、取り消すのか、そのまま行くのか、どちら

かやないですか。だから、それは議長が判断すればいいことなのか、それとも皆さんに諮るのかは、議長さん次第と思いますよ。いかがですか。

○議長（初村　久藏君）　暫時休憩します。

午前10時15分休憩

午前10時25分再開

○議長（初村　久藏君）　再開します。

ただいまの件について、不穏当な発言は議長の権限において訂正をしたいと思いますので、よろしくお願いします。

○議員（９番　脇本　啓喜君）　議長、９番。

○議長（初村　久藏君）　９番、脇本啓喜君。

○議員（９番　脇本　啓喜君）　私は、逆に訂正をしないで、そのまま議事録として残していただきたいという意思であるということはお伝えをしておきます。あとは議長にお任せします。

○議長（初村　久藏君）　日程第１、議案第８号、令和５年度対馬市一般会計予算を議題とします。

本件は、予算審査特別委員会に付託しておりましたので、委員会の審査報告を求めます。委員長、脇本啓喜君。

○議員（９番　脇本　啓喜君）　おはようございます。令和５年第１回対馬市議会定例会において、会議規則第３７条第１項の規定により、本委員会に付託されました議案第８号、令和５年度対馬市一般会計予算について、審査の経過と結果を、同規則第１１０条の規定により、次のとおり報告いたします。

審査に先立ち、不足と思われる資料の請求、及び審査を行うに当たって必要だと思われる説明について、関係部署に通知して慎重審議に備えました。

本委員会は、令和５年２月２４日から３月１日までの４日間、対馬市議会議場において、担当部長等関係職員に出席を求め、各部局長から、今年度に最も取り組もうとしている課題及び課題解決のための施策等の説明を受けた上で、審査を行いました。

予算案全体の概要。

令和５年度一般会計歳入歳出予算は、対前年度比プラス４．５％の３２６億６，７００万円であります。

歳入予算の主な内容としまして、市税は対前年度比で６，５６５万５，０００円増、率でプラス２．３％の約２９億３，０００万円を見込んでおります。市債は、市道尾浦浅藻線改良事業をはじめとする大型継続事業実施に伴い、対前年度比４億３，４５０万円の増、率でプラス１２．２％の約３９億８，３００万円を予定しています。

歳出内訳は、前述の大型事業等の実施により、普通建設事業費が対前年度比約１３億円の増、率でプラス２５．８％の約６３億２，８００万円となっています。また、歳出全体に占める割合は１９．４％であり、対前年度比３．３ポイントの増となっています。

補助費等では、県と共同で実施します離島への旅行商品造成事業等の負担金の増や有害鳥獣捕獲補助金、森林環境譲与税活用事業補助金の増等により、対前年度比プラス２．７％の約５３億８，０００万円計上されています。

これから、予算全体に関する概要、及び各部署の説明と審査の中で質疑等があった項目を中心に審査の経過と結果を以下のとおり御報告いたします。

各部署の課題及び課題解決のための予算案の概要。

総務部。

令和４年度に策定した対馬市ＤＸ推進計画の具体的取組開始に伴うＤＸ推進事業に１，４２２万円計上されており、その司令塔を担う外部人材、最高情報責任者補佐官の雇用を予定していたが、当初予定していた雇用形態とは異なるが、同業務に当たる人材は内定している旨の報告がありました。

観光交流商工部。

①文化交流課所管「対馬市国際交流協会運営事業費補助金」について、委員より、コロナ禍中とその前後の補助金額あるいは活動実態に照らし、妥当な金額であるかとの質問がありました。担当課長からは、執行残の返還等は適正に行われている旨の答弁がありました。

②観光商工課所管「寺泊等推進事業」は、補助率最高限度７５％と異例の高さでありながら令和４年度中申請者がなく、皆減した事業です。

なお、令和５年度は、対令和４年度の半額以下の１，３００万円に減額されています。

しまづくり推進部。

①政策企画課所管の「住んでよし・訪れてよしのまちづくり応援事業」に関連した佐護笑楽校雨漏り修繕に係る事業について、まだ漏水があっているのではないかなどの質問があり、担当部長より、漏水については降雨時に現地確認等を行った上で対応を行う旨の答弁がありました。

②政策企画課所管「対馬３高校魅力化推進事業」については、対馬高校に陸上競技専門の指導者を招聘し、高校の魅力化を図り、島内進学率を向上させようという事業です。他の２高校や市内小中学校への派遣も予定している旨の答弁がありました。

③政策企画課ＳＤＧｓ推進室所管の「ＳＤＧｓ人材育成事業」ほか関連２事業については、事業推進に当たる島おこし協働隊員の確保が近年ままならない実態について質問がなされ、近年、他の自治体でもこの地域おこし協力隊の募集を盛んに実施され始めており、人材確保が困難な状況にあるが、様々な工夫を重ね人材確保に一層努める旨の答弁がなされました。

④しまの力創生課所管の「特定地域づくり事業」については、複数の委員から事業推進に当たらせる予定であった島おこし協働隊員が雇用に至らず、事業の進捗が芳しくないとの質問があり、担当課長より鋭意、事務局の充実支援に努める旨の答弁がありました。

市民生活部。

①環境政策課所管「生ごみ等資源再利用システム事業」については、委員から、さらなる市民への事業の周知徹底及び協力世帯の拡大に努めるよう指摘がなされました。担当課長からは、ごみゼロ運動先進地である鹿児島県大島町に相談して生産肥料の質の向上や、運搬経費の削減等にも取組中である旨の報告がなされました。また、関連で委員から、消費が進まない、し尿処理過程で出る副産物の肥料ありねよしを磯焼け対策に活用してはどうかとの提案に対して、担当課長より、検討する旨の答弁がありました。

②環境政策課所管「海岸漂着物等地域対策推進事業」については、委員から、回収だけではなく発生抑制を東アジア諸国等へ啓発すべきではないかとの指摘がありました。担当課長より、コロナ禍においても韓国を中心に規模を縮小した形で継続的に発生抑制事業は実施しており、今後、一層取組を広げていきたい旨の答弁がありました。

健康づくり推進部。

地域包括ケア推進課所管「健康運動コーディネーター事業」について、島おこし協働隊員を事業に当たらせる予定であったが、令和５年１月末時点で応募がなく、現在、再募集に向けて検討中ですとの報告がありました。

福祉保険部。

①福祉課所管「シルバー人材センター拠点事業」については、複数の委員から、実績報告と今後の事業展開方針への質問がありました。担当課長より、令和４年度の会員数は１７６名で、年間売上総額見込みが１，５００万円、令和５年度から一般社団法人へと法人化するに伴って、会員より会費を徴収することから８０名程度に会員が減少する見通し、また、一般社会で定年延長が普及していることから実働者が減少しているとの報告がありました。

②こども未来課所管「（仮称）豊玉認定こども園建設事業」に係る備品については、新たに購入することを基本とし、既存備品で使用可能なものについては、他の保育施設において利活用する旨の答弁がありました。

中対馬振興部。

①「加志々地区避難所施設新築事業」については、３月中に設計が完了予定であり、完了次第議会に示すとの答弁で委員は納得しました。また、建設予定地は旧加志々中学校跡地との説明がありました。

なお、委員より、避難所にふさわしい防災備品の常備と自主防災組織の早急な設立を求める意

見があり、担当課長からは、そのように努める旨の答弁がありました。

②青海の段々畑の再生への取組に関する現状報告の求めがあり、対州そばの作付を試みたが、令和２年の台風により壊滅状態になった上に当該地区の高齢化が著しく、今後の在り方について地区住民と検討を続けているとの答弁がありました。それに対して委員より、一般財団法人対馬市農業振興公社に事業を委託してはどうかとの提案がなされ、担当課長からは、検討してみたいとの答弁がありました。

③峰町集合店舗（所在地ザラゴ）の今後の方向性について委員より、同店舗が令和５年度中にテナント契約の更新を迎える。この際に大規模改修が必要であるとの意見がありました。

上対馬振興部。

①対州馬調教師の人件費、雇用条件の現状、対州馬保存・活用支援協働隊員雇用効果の実例、本年度の対州馬施設への来場者数並びに対州馬の乗馬利用促進については、調教師の雇用形態は月額会計年度任用職員で３年間継続雇用が可能、島おこし協働隊員雇用効果の実例は、次年度開催予定の対州馬シンポジウムの事前準備として、日本在来馬関係機関への研修による人脈づくり及び対州馬の遺伝子調査に関する論文を学会に発表し、最優秀賞を受賞、本年度の対州馬施設への来場者数は、１月末現在実績で目保呂ダム馬事公園２，２０３人、あそうベイパーク４，９８５人、また、乗馬利用促進は、今後、人流が活発化することで乗馬利用客が増えると見込むが、対州馬の魅力発信に関し、引き続き努力すると担当所長の答弁がありました。

②対州馬の井口浜飼養場の未使用について、委員より説明が求められました。担当所長より、ゲリラ豪雨等で荒廃し、飼育に適さない状況のため使用していないとの答弁がありました。引き続き委員より、飼養場にするため自生樹木を伐採したことが荒れた原因で、このままだと海に影響があるため、佐須奈漁協が漁業再生事業の取組でクヌギ等を植栽しており、協力し対応すべきとの意見があり、担当所長からは持ち帰り検討したいとの答弁がありました。

建設部。

①管理課所管「公営住宅等整備事業」２億６，０００万円は、老朽化した複数の周辺市営住宅団地を、旧中対馬病院跡地に市営雞知団地として集約し、従来型の２階建て住宅を建設する工事費予算です。また、参考資料として建築位置図の提供はあるものの、立面図（設計図）が提供されていないので、委員から提出の求めがありました。担当課長から、設計が完了次第提出するとの答弁があり、委員は納得しました。

②仁位貝鮒線改良工事の完成予定について委員から説明を求められ、令和１２年度完成予定との答弁がありました。

農林水産部・農業委員会。

①自然共生課所管の「ツシマウラボシシジミ保全事業」について、委員より詳細説明が求めら

れました。担当課長より、絶滅危惧種に指定されているツシマウラボシシジミは、野生下ではほぼ絶滅状態となったことから、柵を設けて人口繁殖・育成に取り組んでおり、自然交配が始まっているようだとの答弁がありました。

教育委員会。

①教育総務課所管「島っこ留学推進事業」については、従来は小規模学校の複式学級解消を目的とした留学生募集であったところを、市内全校を受入校とする事業主旨の転換が示されました。

②生涯学習課所管「プロスポーツクラブ等連携事業」及び「しまのスポーツ活動コーディネーター事業」は、子供の健全育成及び児童生徒の島外流出抑制につながる事業として期待されます。委員より、早期に事業が本格始動できるようにとの要望がありました。

③文化財課所管「お船江保存整備事業」について、早期に国指定史跡にお船江が指定されるよう一層の努力を求める意見が委員より出されました。これに対して、担当課長より、指定を成し遂げられるよう努力する旨の答弁がありました。

④「赤米サミット」が令和５年度は対馬市で開催されるに当たり、文化財課長より、神事を司る唯一の継承者も高齢となり、このままの形での赤米神事継承が困難になっている現状が報告されました。

⑤学校施設の整備充実として、久田小学校外壁改修工事の早期着工を求める意見がありました。

会計課。

指定金融機関から公金の取扱手数料等の有料化の打診があっていることについて、市内には銀行が１行しかないので、独占による弊害が生じていないか。県内他自治体にも独占による弊害が出ている可能性もあり得るので、他市町の動向も注視されたいとの意見が出されました。

市長総括質疑。

①令和６年度対馬市が市制施行２０周年を迎えるに当たり、記念事業を実施することについては、ＭＩＳＩＡを呼ぶことは難しいとは思うが、今後、何らかの形で対馬に関わりを持ってもらえるよう、まずは事務所に出向いた中で、交渉を行っていきたい旨、市長から発言がありました。

②水産課所管の「漁業用燃油高騰対策事業」について、委員より、国・県の補助動向及び燃油価格変動を注視して、市独自の補助金の増減は柔軟に対応するよう要望がありました。市長からは、十分考慮するとの答弁がありました。

③県の仕様書に沿って、極力、島内工事事業者への契約発注や資材購入を進めるよう要望がありました。市長からは、地域循環経済の普及を推進する意味からも、可能な限り要望に沿えるよう努める旨の答弁がありました。

④また、資材高騰や人件費の急騰等から、工事事業者の入札ランクの枠を決定する入札金額の見直しが必要ではないかとの質問がありました。市長は、確かに従来の金額の枠であれば、Ｃラ

ンクの事業者の案件が減少していると感じているとの答弁がありました。

以上、本委員会に付託されました議案第８号、令和５年度対馬市一般会計予算については、審査の結果、賛成多数で原案のとおり可決すべきものと決定いたしました。

最後に、市長部局におかれましては、予算審査での指摘事項や意見等については、各部署で十分検討されるとともに、市民の所得向上と福祉の充実のため、速やかに予算執行に当たるよう強く要望いたします。

以上で、予算審査特別委員会の審査報告といたします。

○議長（初村　久藏君）　報告が終わりました。

これから委員長報告に対する質疑を行います。質疑はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（初村　久藏君）　質疑なしと認め、これで質疑を終わります。

これから討論、採決を行います。

議案第８号、令和５年度対馬市一般会計予算について、討論はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（初村　久藏君）　討論なしと認め、採決します。

この採決は起立によって行います。

本件に対する委員長の審査報告は可決であります。議案第８号は、委員長報告のとおり決定することに賛成の方は起立願います。

〔賛成者起立〕

○議長（初村　久藏君）　起立多数です。本件は、委員長報告のとおり可決されました。

お諮りします。予算審査特別委員会は、本日をもって終結したいと思います。御異議ございませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（初村　久藏君）　異議なしと認めます。予算審査特別委員会は、本日をもって終結することに決定しました。

暫時休憩します。

午前10時49分休憩

午前10時53分再開

○議長（初村　久藏君）　再開します。

―――――――――――――・―――・―――――――――――――

日程第２．議案第３号

日程第３．議案第９号

日程第４．議案第１０号

日程第５．議案第１１号

日程第６．議案第１２号

日程第７．議案第１３号

日程第８．議案第１４号

日程第９．議案第１５号

日程第１０．議案第１６号

日程第１１．議案第１７号

日程第１２．議案第２８号

日程第１３．議案第２９号

日程第１４．議案第３０号

○議長（初村　久藏君）　日程第２、議案第３号、令和４年度対馬市一般会計補正予算（第１１号）から日程第１４、議案第３０号、工事請負契約の締結についてまでの１３件を一括議題とします。

議案第３号は各常任委員会に分割付託、議案第１３号、議案第１６号、議案第１７号及び議案第２８号の４件は、総務文教常任委員会に、議案第９号、議案第１０号、議案第１１号及び議案第１２号の４件は、厚生常任委員会に、議案第１４号、議案第１５号、議案第２９号及び議案第３０号の４件は、産業建設常任委員会にそれぞれ付託しておりましたので、各常任委員会の審査報告を求めます。委員長、上野洋次郎君。

○議員（１５番　上野　洋次郎君）　おはようございます。それでは、総務文教常任委員会の審査報告を行います。

本委員会に付託されました案件は、議案第３号、議案第１３号、議案第１６号、議案第１７号及び議案第２８号の５件であります。

議案第３号、令和４年度対馬市一般会計補正予算（第１１号）のうち、本委員会に係る歳入は、１５款・国庫支出金で、ＰＣＲ検査無料化事業の未実施に伴う新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金の減、１６款・県支出金で、対馬地球大学が実施している、住んでよし・訪れてよしのまちづくり応援事業費の減額による２１世紀まちづくり推進総合支援事業補助金の減、１９款・繰入金で、財政調整基金繰入金及びがんばれ国境の島対馬ふるさと応援基金繰入金の減、２２款・市債で、離島航空路線確保事業債の追加、教職員住宅解体事業完了による執行残及び事業の中止による公共施設最適化債の減が主なものであります。

歳出は、２款・総務費で、地方バス路線維持費補助金の追加、住んでよし・訪れてよしのまち

づくり応援事業補助金及び結婚新生活支援事業補助金の減、４款・衛生費で、ＰＣＲ等検査無料化事業補助金の減、１０款・教育費で、教職員住宅解体工事の委託料及び工事請負費の減、１２款・公債費で、新規借入れ分の決定による償還金利子の減が今回の補正の主なものであります。

次に、議案第１３号、令和５年度対馬市旅客定期航路事業特別会計予算については、歳入歳出予算の総額は、それぞれ４，５９４万３，０００円であります。

歳入は、１款・事業収入で、旅客運賃、貨物運賃の計上、２款・国庫支出金及び３款・県支出金で、赤字航路事業補助金の計上、４款・繰入金で、一般会計からの繰越金の計上が主なものであります。

歳出は、１款・総務費で、職員及び船員の人件費、旅費及び日本旅客船協会など、各協会負担金の計上、２款・施設費で渡海船の運航に係る燃料費及び修繕料、渡海船利用者の陸上交通運行に係る委託料の計上、３款・公債費で、長板浦待合所建設及び渡海船建造に係る交通事業債の償還金元金及び償還金利子の計上が、今回の予算の主なものであります。

なお、世界的な原油価格の高騰による燃料費の増加等により、前年度と比較して、予算額が増額されておりますが、今後とも定期航路として、安全運航、定時運航に努められ、合わせて周遊観光にも、一層、力を入れ、引き続き、赤字の抑制に努められることをお願いするものであります。

次に、議案第１６号、対馬市企業版ふるさと応援基金条例については、令和３年度から取り組んでいる対馬市企業版ふるさと納税において、現状では、寄附をいただいた当該年度の事業にしか充当できず、年末から年度末に係る寄附については、寄附事業者の意向に沿った事業への充当に支障を来すことが懸念されます。よって、寄附事業者の意向を踏まえながら、総合戦略に掲げる主要施策や長期的事業の持続可能な実施のため、基金を設置する条例を制定するものであります。

この条例は、公布の日から施行予定であります。

次に、議案第１７号、対馬市個人情報保護法施行条例については、令和３年５月１９日に公布されたデジタル社会の形成を図るための関係法律の整備に関する法律において、個人情報の保護に関する法律が改正されたことにより、これまで国の行政機関、独立行政法人等、民間事業者及び地方公共団体等について、それぞれ分かれていた法令が改正後の個人情報の保護に関する法律に一元化され、全国共通のルールとなります。令和５年４月１日から改正個人情報保護法の運用が基本的に統一化されることから、本市においても、現行の対馬市個人情報保護条例を廃止するとともに、改正個人情報保護法の施行に関して、必要な事項を規定した条例を制定するものであります。

この条例は、令和５年４月１日から施行予定であります。

次に、議案第２８号、湯多里ランドつしまの指定管理者の指定については、令和３年３月まで指定管理者による管理運営を行っておりましたが、温泉設備の老朽化により施設改修工事が必要であったため、前指定管理期間の終了を機に、令和３年度から施設の大規模改修事業を実施しており、令和５年度中旬に完了予定であります。令和５年４月１日より施設の管理運営を指定管理により行うこととし、本年９月まではプール施設のみで営業を行い、１０月からの温泉施設の営業再開に向け、対馬市公の施設の指定手続等に関する条例の規定により、指定管理者の公募を行った結果、１団体からの申請があり、審査の結果、株式会社クリルを候補者として選定し、指定管理者として指定しようとするものであります。

なお、指定管理期間は、令和５年４月１日から令和１０年３月３１日までの５年間で、指定管理料は年間で約６，５００万円であります。

本施設は、対馬市民の健康と福祉の増進並びに観光事業の拠点施設として、対馬市内外からも多くの方々が利用されておりますので、安定した運営をお願いするものであります。

以上、本委員会に付託されました議案第３号、議案第１３号、議案第１６号、議案第１７号及び議案第２８号の５件につきましては、慎重に審査し、採決した結果、いずれも賛成多数により、原案のとおり可決すべきものと決定いたしました。

以上で、総務文教常任委員会の審査報告といたします。

○議長（初村　久藏君）　委員長、小田昭人君。

○議員（１２番　小田　昭人君）　おはようございます。次に、厚生常任委員会の審査報告を行います。

本委員会に付託されました案件は、議案第３号、議案第９号から議案第１２号までの５件であります。

議案第３号、令和４年度対馬市一般会計補正予算（第１１号）のうち、本委員会に係る歳入は、１款・市税で、個人市民税、法人市民税及び市たばこ税の追加、１５款・国庫支出金で、医療的ケア児保育支援事業に係る補助金の追加、児童扶養手当、児童手当及び私立保育園等の運営費に係る負担金の減、１６款・県支出金で、児童手当及び私立保育園等の運営費に係る負担金の減、１９款・繰入金で、子ども夢づくり基金繰入金の減が主なものであります。

歳出は、２款・総務費で、電気料金上昇による東里庁舎電気料の追加、３款・民生費で、私立保育園等の運営費交付金の精算に伴う国費・県費精算返還金の追加、（仮称）豊玉認定こども園周辺整備工事費、児童手当、児童扶養手当及び後期高齢者医療特別会計繰出金の減、４款・衛生費で、塵芥処理施設２施設の保守点検委託料、し尿処理施設３施設の運転管理委託料及び新型コロナウイルス感染症予防対策に係る雞知保育所空調設備整備事業費の減が主なものであります。

議案第９号、令和５年度対馬市診療所特別会計予算について、歳入歳出予算の総額は、それぞれ４億５，１７４万円であります。

歳出の１款・総務費では、職員及び会計年度任用職員、医師の人件費及び対馬病院から出張診療所等への医師派遣委託料、２款・医業費では、医療用器具使用料、衛生用消耗品等医業用消耗器材費及び医薬品等医業用衛生材料費が主なものとして計上されております。

議案第１０号、令和５年度対馬市国民健康保険特別会計予算について、歳入歳出予算の総額は、それぞれ４４億４，３７３万６，０００円であります。

歳出の１款・総務費では、被保険者証郵送料等通信運搬費、長崎県国民健康保険団体連合会負担金、会計年度任用職員の人件費、納税組合事務取扱費交付金及び国民健康保険税過年度還付金、還付加算金、２款・保険給付費では、一般被保険者療養給付費、一般被保険者高額療養費及び出産育児一時金、３款・国民健康保険事業費納付金では、医療給付費分、後期高齢者支援金分及び介護納付金分の県納付金、５款・保健事業では、会計年度任用職員の人件費、特定健康診査委託料及び人間ドック補助金が主なものとして計上されております。

議案第１１号、令和５年度対馬市後期高齢者医療特別会計予算について、歳入歳出予算の総額は、それぞれ４億３，７５０万２，０００円であります。

歳出の１款・総務費では、職員の人件費及び後期高齢者医療広域連合事務費負担金、２款・後期高齢者医療広域連合納付金では、低所得者の保険料軽減分を公費において補塡する保険基盤安定負担金及び保険料納付金が主なものとして計上されております。

議案第１２号、令和５年度対馬市介護保険特別会計予算について、歳入歳出予算の総額は、それぞれ３９億９，４５１万４，０００円であります。

歳出の１款・総務費では、職員の人件費、保険料納付書郵送料等通信運搬費、介護認定審査会に係る経費、認定調査等に従事する会計年度任用職員の人件費及び高齢者福祉計画・第９期介護保険事業計画策定に係る経費、２款・保険給付費では、居宅介護サービス給付費負担金、居宅介護予防サービス給付費負担額、高額介護サービス費負担金及び特定入所者介護サービス費負担金、８款・地域支援事業費では、要支援者の訪問型サービスと通所型サービス等の保険給付費に係る介護予防・生活支援サービス事業負担金、地域が主体となって行う助け合い活動や支え合いの仕組みづくりの支援に伴う生活支援コーディネーターの配置等に係る委託料が主なものとして計上されております。

以上、本委員会に付託されました議案第３号、議案第９号から議案第１２号までの５件につきましては、慎重に審査し、採決した結果、いずれも賛成多数により、原案のとおり可決すべきものと決定いたしました。

以上で、厚生常任委員会の審査報告といたします。

○議長（初村　久藏君）　委員長、春田新一君。

○議員（１０番　春田　新一君）　続きまして、産業建設常任委員会の審査報告を行います。

本委員会に付託されました案件は、議案第３号、議案第１４号、議案第１５号、議案第２９号及び議案第３０号の５件であります。

まず、議案第３号、令和４年度対馬市一般会計補正予算（第１１号）のうち、本委員会に係る歳入は、１４款・使用料及び手数料で、三宇田キャンプ場施設使用料の減、１５款・国庫支出金で、漁港整備事業補助金及び地方創生整備推進交付金の追加、１６款・県支出金で、漁業等近代化対策事業補助金及び各種事業の実績見込みによる水産業費補助金の減、２２款・市債で、道路橋りょう債の追加、水産業債の実績見込み及び漁業用燃油高騰対策事業の新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金への振替による減が主な補正であります。

歳出は、６款・農林水産業費で、農地中間管理事業の農地集約面積増による農地集積・集約化対策事業費補助金の追加、その他、各種事業の実績見込みによる負担金、補助及び交付金の減、７款・商工費で、新型コロナウイルス感染拡大防止対策のため、中止となったことによる海山交流事業補助金の皆減、８款・土木費で、市道尾浦浅藻線安神工区の国の追加補正に伴う工事請負費の追加、１１款・災害復旧費で、国の災害査定結果に伴う工事請負費の減が主な補正であります。

次に、議案第１４号、令和５年度対馬市集落排水処理施設特別会計予算について、歳入は、下水道使用料及び一般会計繰入金が主なものであります。

歳出は、１款・下水道事業費で、下水道料金徴収業務委託料及び集落排水処理施設の維持管理に要する経費、２款・公債費で、下水道事業債償還金の元金及び利子が主なものであります。

続きまして、議案第１５号、令和５年度対馬市水道事業会計予算について、収益的収入は給水収益、他会計負担金、長期前受金戻入及び資本費繰入収益が主なものであります。

収益的支出は、職員等の人件費、メーター検針及び料金徴収委託料、水質検査等の手数料、修繕費並びに電気料金等の水道施設維持管理費、水道料金納付書等の印刷製本費及び通信運搬費が主なものであります。

資本的収入は、企業債、簡易水道国庫補助金及び他会計負担金が主なものであります。

資本的支出は、各種ポンプ等の機械及び装置費、水道施設整備費で、簡易水道整備工事費は、中央地区、三根地区、美津島町の中西部地区簡易水道基幹改良事業に要する経費、企業債償還金が主なものであります。

なお、令和４年度末の未償還残高は２８億６，８３３万３，７６２円となる見込みであります。

次に、議案第２９号、あがたの里の指定管理者の指定については、現在、一般財団法人対馬市農業振興公社が管理運営を行っていますが、令和５年３月３１日をもって満了となります。その

ため、対馬市公の施設の指定手続等に関する条例の規定により、公募を行った結果、１団体からの申請があり、審査の結果、株式会社Ａｃｏｍｐａｎｙを候補者として選定し、指定管理者として指定しようとするものであります。

なお、指定管理期間は、令和５年４月１日から令和８年３月３１日までの３年間で、指定管理料は、令和５年度は５８０万８，０００円、令和６年度以降は利用者の増加に伴う収入増を見込み、指定管理料の減額提案がなされています。

次に、議案第３０号、工事請負契約の締結、市道尾浦浅藻線道路改良工事については、令和５年２月７日に入札を行った結果、戸田・イケチン・大石特定建設工事共同企業体が落札され、令和５年２月１３日に工事請負仮契約を締結しており、今回、本契約を締結しようとするものであります。

工事場所は、対馬市厳原町尾浦・安神地内工事概要は、道路改良工事、延長１，４３８メートル、車道幅員５．５メートル、工期を令和７年１１月２８日までとしております。

委員から予算の安定確保と地元事業所へ下請けへの配慮をお願いしたいという強い意見が出ました。

以上、本委員会に付託されました議案第３号、議案第１４号、議案第１５号、議案第２９号及び議案第３０号の５件につきましては、慎重に審査し、採決した結果、いずれも賛成多数により、原案のとおり可決すべきものと決定いたしました。

以上で、産業建設常任委員会の審査報告といたします。

○議長（初村　久藏君）　暫時休憩します。再開を１１時３５分からといたします。

午前11時22分休憩

午前11時35分再開

○議長（初村　久藏君）　再開します。

各常任委員会の審査報告が終わりました。

これから委員長報告に対する質疑を行います。

まず、総務文教常任委員長報告に対する質疑はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（初村　久藏君）　質疑なしと認めます。

次に、厚生常任委員長報告に対する質疑はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（初村　久藏君）　質疑なしと認めます。

次に、産業建設常任委員長報告に対する質疑はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（初村　久藏君）　質疑なしと認めます。

これから討論、採決を行います。

まず、議案第３号について討論はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（初村　久藏君）　討論なしと認め、採決します。

この採決は起立によって行います。

本件に対する各常任委員長の審査報告はいずれも可決であります。議案第３号、令和４年度対馬市一般会計補正予算（第１１号）は、委員長報告のとおり決定することに賛成の方は起立を願います。

〔賛成者起立〕

○議長（初村　久藏君）　起立多数です。本件は、委員長報告のとおり可決されました。

次に、議案第９号から議案第１５号までの７件は、令和５年度の特別会計予算であります。

まず、議案第９号から議案第１２号までの４件について、討論はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（初村　久藏君）　討論なしと認め、採決します。

４件に対する委員長の審査報告はいずれも可決であります。

お諮りします。議案第９号、令和５年度対馬市診療所特別会計予算、議案第１０号、令和５年度対馬市国民健康保険特別会計予算、議案第１１号、令和５年度対馬市後期高齢者医療特別会計予算、議案第１２号、令和５年度対馬市介護保険特別会計予算の４件は、委員長報告のとおり決定することに御異議ございませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（初村　久藏君）　異議なしと認めます。４件は、委員長報告のとおり可決されました。

次に、議案第１３号について討論はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（初村　久藏君）　討論なしと認め、採決します。

本件に対する委員長の審査報告は可決であります。

議案第１３号、令和５年度対馬市旅客定期航路事業特別会計予算は、委員長報告のとおり決定することに御異議ございませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（初村　久藏君）　異議なしと認めます。本件は、委員長報告のとおり可決されました。

次に、議案第１４号及び議案第１５号の２件について、討論はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（初村　久藏君）　討論なしと認め、これから採決します。

２件に対する委員長の審査報告はいずれも可決であります。

議案第１４号、令和５年度対馬市集落排水処理施設特別会計予算、議案第１５号、令和５年度対馬市水道事業会計予算の２件は、委員長報告のとおり決定することに御異議ございませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（初村　久藏君）　異議なしと認めます。２件は、委員長報告のとおり可決されました。

次に、議案第１６号、対馬市企業版ふるさと応援基金条例について、討論はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（初村　久藏君）　討論なしと認め、これから採決します。

本件に対する委員長の審査報告は可決であります。

本件は、委員長報告のとおり決定することに御異議ございませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（初村　久藏君）　異議なしと認めます。本件は、委員長報告のとおり可決されました。

次に、議案第１７号、対馬市個人情報保護法施行条例について、討論はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（初村　久藏君）　討論なしと認め、これから採決します。

本件に対する委員長の審査報告は可決であります。

本件は、委員長報告のとおり決定することに御異議ございませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（初村　久藏君）　異議なしと認めます。本件は、委員長報告のとおり可決されました。

次に、議案第２８号、湯多里ランドつしまの指定管理者の指定について、討論はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（初村　久藏君）　討論なしと認め、これから採決します。

本件に対する委員長の審査報告は可決であります。

本件は、委員長報告のとおり決定することに御異議ございませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（初村　久藏君）　異議なしと認めます。本件は、委員長報告のとおり可決されました。

次に、議案第２９号、あがたの里の指定管理者の指定について、討論はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（初村　久藏君）　討論なしと認め、これから採決します。

本件に対する委員長の審査報告は可決であります。

本件は、委員長報告のとおり決定することに御異議ございませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（初村　久藏君）　異議なしと認めます。本件は、委員長報告のとおり可決されました。

次に、議案第３０号、工事請負契約の締結について、討論はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（初村　久藏君）　討論なしと認め、これから採決します。

本件に対する委員長の審査報告は可決であります。

本件は、委員長報告のとおり決定することに御異議ございませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（初村　久藏君）　異議なしと認めます。本件は、委員長報告のとおり可決されました。

―――――――――――――・―――・―――――――――――――

日程第１５．議案第３１号

日程第１６．議案第３２号

日程第１７．議案第３３号

日程第１８．議案第３４号

○議長（初村　久藏君）　日程第１５、議案第３１号、漁港区域内公有水面の埋立てについて（唐崎漁港）から、日程第１８、議案第３４号、漁港区域内公有水面の埋立てについて（豆酘漁港）の４件を一括議題とします。

提案理由の説明を求めます。中対馬振興部長、松井惠夫君。

○中対馬振興部長（松井　惠夫君）　ただいま一括議題となりました議案第３１号から議案第３３号につきましては、中対馬振興部所管の議案でございますので、続けて提案理由とその内容につきまして御説明申し上げます。

追加議案書の３ページをお願いいたします。

議案第３１号、漁港区域内公有水面の埋立てについて（唐崎漁港）でございますが、本議案は長崎県が事業主体で、令和５年度から着手予定の一般県道唐崎岬線道路災害防除工事に伴う公有水面埋立免許出願に係る意見について異議のない旨、長崎県知事に答申するため、公有水面埋立法第３条第４項の規定により議会の議決をお願いするものでございます。

埋立ての必要性につきましては、６ページの埋立必要理由書のとおり道路斜面が崩壊する危険性が極めて高いことから、道路を海側に前出しする護岸整備と埋立てを行い、道路を整備することで斜面からの崩落、落石から回避されることと、見通しの悪いカーブ区間の視距もよくなり交互通行も可能になるなど、安全性と走行性を向上させるものでございます。

埋立面積は、８ページの一般平面図、９ページの実測平面図の赤色で着色した部分４２５．６１平

方メートルでございます。

次に、１１ページをお願いいたします。

議案第３２号、港湾区域内公有水面の埋立てについて（曽ノ浦港湾）でございますが、本議案は長崎県が事業主体で、令和５年度から着手予定の曽ノ浦港海岸自然災害防止工事に伴う公有水面埋立免許出願に係る意見について異議のない旨、長崎県知事に答申するため、公有水面埋立法第３条第４項の規定により議会の議決をお願いするものでございます。

埋立ての必要性につきましては、１４ページの埋立必要理由書のとおり、当該既設護岸は昭和４８年から昭和５１年に築造され老朽化が進行している上、昨今の台風の強大化等、波高の増大による越波、浸水のおそれがあることや、漁船が係留している実態があることから、これら越波、越水被害を未然に防ぐとともに漁船係留機能を有する護岸の整備、また護岸背後の市道の整備を併せて行うものでございます。

埋立面積は、１６ページの一般平面図、１７ページの実測平面図の赤色で着色した部分２５４．４２平方メートルでございます。

次に、１９ページをお願いいたします。

議案第３３号、港湾区域内公有水面の埋立てについて（曽ノ浦港湾単独用地）でございますが、本議案は、議案第３２号で御説明いたしました曽ノ浦港海岸自然災害防止工事の背後地で、対馬市が事業主体となり施工する単独用地の公有水面埋立免許出願に係る意見について異議のない旨、長崎県知事に答申するため、公有水面埋立法第３条第４項の規定により議会の議決をお願いするものでございます。

埋立ての必要性につきましては、２２ページの埋立必要理由書のとおり、埋立てた単独用地を利用し、幅員が４メートル以下と狭い場所もある現道を改良することで交互通行も容易となり、地区内の交通の安全性、利便性を向上させるものでございます。

埋立面積は、２４ページの一般平面図、２５ページの実測平面図の赤色で着色した部分１，６７４．５１平方メートルでございます。

なお、３議案ともに公有水面埋立法第３条第１項に基づく埋立免許願書の縦覧期間が３月中となっていることから、追加議案で上程させていただきました。

以上、簡単ではございますが、議案第３１号から議案第３３号までの提案理由の説明を終わります。御審議の上、御決定賜りますよう、よろしくお願いいたします。

○議長（初村　久藏君）　建設部長、内山歩君。

○建設部長（内山　　歩君）　ただいま一括議題となりました議案第３４号、漁港区域内公有水面の埋立てについて（豆酘漁港）は建設部所管でございますので、その提案理由と内容について御説明申し上げます。

追加議案書の２７ページから３２ページをお願いいたします。

本議案は、長崎県が事業主体で整備を進めております豆酘地区水産生産基盤整備工事に伴う公有水面埋立免許の出願に係る意見について異議のない旨、長崎県知事に答申するため、公有水面埋立法第３条第４項の規定により議会の議決をお願いするものでございます。

埋立ての必要性につきましては、３０ページの埋立必要理由書のとおり、漁業従事者の労働環境の向上、漁業活動の安全性の向上を目的として、重力式係船岸に代わる施設として岸壁補助式の浮桟橋を整備するもので、物揚場改良のための埋立面積は、３２ページの実測平面図で赤く塗り潰した部分３８．４８平方メートルでございます。

なお、３１ページに位置図を添付しておりますので御参照ください。

以上、簡単でございますが、議案第３４号の提案理由の説明を終わります。よろしく御審議の上、御決定賜りますよう、よろしくお願いいたします。

○議長（初村　久藏君）　説明が終わりました。

これから４件に対する一括質疑を行います。質疑はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（初村　久藏君）　質疑なしと認め、これで質疑を終わります。

お諮りします。４件は委員会への付託を省略したいと思います。御異議ございませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（初村　久藏君）　異議なしと認めます。４件は委員会への付託を省略することに決定しました。

これから各議案ごとに討論、採決を行います。

まず、議案第３１号、漁港区域内公有水面の埋立てについて（唐崎漁港）について、討論はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（初村　久藏君）　討論なしと認め、採決します。

本件は、原案のとおり決定することに御異議ございませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（初村　久藏君）　異議なしと認めます。本件は、原案のとおり可決されました。

次に、議案第３２号、港湾区域内公有水面の埋立てについて（曽ノ浦港湾）について、討論はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（初村　久藏君）　討論なしと認め、採決します。

本件は、原案のとおり決定することに御異議ございませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（初村　久藏君）　異議なしと認めます。本件は、原案のとおり可決されました。

次に、議案第３３号、港湾区域内公有水面の埋立てについて（曽ノ浦港湾単独用地）について、討論はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（初村　久藏君）　討論なしと認め、採決します。

本件は、原案のとおり決定することに御異議ございませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（初村　久藏君）　異議なしと認めます。本件は、原案のとおり可決されました。

次に、議案第３４号、漁港区域内公有水面の埋立てについて（豆酘漁港）について、討論はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（初村　久藏君）　討論なしと認め、採決します。

本件は、原案のとおり決定することに御異議ございませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（初村　久藏君）　異議なしと認めます。本件は、原案のとおり可決されました。

―――――――――――――・―――・―――――――――――――

日程第１９．議案第３５号

○議長（初村　久藏君）　日程第１９、議案第３５号、工事請負変更契約の締結についてを議題とします。

提案理由の説明を求めます。建設部長、内山歩君。

○建設部長（内山　　歩君）　ただいま議題となりました議案第３５号につきましては建設部所管の議案でございますので、提案理由とその内容につきまして御説明申し上げます。

追加議案書の３３ページをお願いします。

議案第３５号、工事請負変更契約の締結について、本議案は、根緒漁港水産生産基盤整備工事に係る工事請負変更契約を締結いたしたく、議会の議決に付すべき契約及び財産の取得又は処分に関する条例第２条の規定により議会の議決を求めるものでございます。

本工事の経過でございますが、制限付き一般競争入札により令和４年３月１８日付で、株式会社梅野組、代表取締役、梅野和彦氏と１億３，４４６万４０円で当初契約を締結いたしました。その後、繰越承認による工期延長に伴い、第１回工事請負変更契約を令和４年３月３０日に締結、その後の工事着手において事業進捗を図るための斜路工、張りブロックの増工に伴う設計変更により、令和４年１１月２１日に１億４，９３１万６，２００円で第２回工事請負変更契約を締結い

たしました。

今回、基礎工の床掘による岩盤発生に伴い精算設計において２５４万５，７３０円を増額いたし、第３回変更として１億５，１９６万５，０００円で令和５年２月２４日に同氏を相手方とした工事請負変更仮契約を締結しております。

ここに本契約を締結いたしたく議会の議決を求めるものでございます。

工事の概要につきましては、議案書の３４ページ、参考資料をお願いいたします。

船揚場改良工事延長は１５メートルで、基礎工、堤体工及び斜路工の施工延長は各工種１５メートルでございます。

参考に、３５ページから３７ページにかけて、計画平面図、工事平面図及び標準断面図を添付しております。

以上、簡単でございますが、議案第３５号の提案理由の説明を終わります。よろしく御審議の上、御決定賜りますよう、お願い申し上げます。

○議長（初村　久藏君）　説明が終わりました。

これから質疑を行います。質疑はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（初村　久藏君）　質疑なしと認め、これで質疑を終わります。

お諮りします。本件は、委員会への付託を省略したいと思います。御異議ございませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（初村　久藏君）　異議なしと認めます。本件は、委員会への付託を省略することに決定しました。

これから討論、採決を行います。

議案第３５号、工事請負変更契約の締結について、討論はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（初村　久藏君）　討論なしと認め、採決します。

本件は、原案のとおり決定することに御異議ございませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（初村　久藏君）　異議なしと認めます。本件は、原案のとおり可決されました。

―――――――――――――・―――――・―――――――――――――

日程第２０．発議第１号

○議長（初村　久藏君）　日程第２０、発議第１号、対馬市議会の個人情報の保護に関する条例を議題とします。

提案理由の説明を求めます。８番、船越洋一君。

○議員（８番　船越　洋一君）　ただいま議題となりました発議第１号、対馬市議会の個人情報の保護に関する条例について、対馬市議会会議規則第１４条第１項の規定により提出をいたします。

提出者は、私、船越洋一、賛成者は、上野洋次郎議員、小田昭人議員、春田新一議員であります。

それでは、提案理由を御説明申し上げます。

社会全体のデジタル化に対応した個人情報保護とデータ流通の両立が要請される中、個人情報の保護に関する法律が改正され、令和５年４月から民間事業者、行政機関、独立行政法人等の個人情報の保護に関する法律が一本化されるとともに、地方公共団体の個人情報保護制度についても改正後の個人情報の保護に関する法律による全国的な共通ルールが適用されることとなりました。

このことにより市の執行機関には改正後の個人情報の保護に関する法律が直接適用されるが、市議会は法の適用外となることから、市議会が保有する個人情報の適正な取扱いに関し必要な事項を定め、個人の権利、利益を保護することを目的とした新たな条例を制定するものであります。

なお、条例の施行は令和５年４月１日とするものであります。

以上で、提案理由の説明を終わります。御賛同賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

○議長（初村　久藏君）　説明が終わりました。

これから質疑を行います。質疑はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（初村　久藏君）　質疑なしと認め、これで質疑を終わります。

お諮りします。本件は、委員会への付託を省略したいと思います。御異議ございませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（初村　久藏君）　異議なしと認めます。本件は、委員会への付託を省略することに決定しました。

これから討論、採決を行います。

発議第１号、対馬市議会の個人情報の保護に関する条例について、討論はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（初村　久藏君）　討論なしと認め、採決します。

本件は、原案のとおり決定することに御異議ございませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（初村　久藏君）　異議なしと認めます。本件は、原案のとおり可決されました。

―――――――――――――・―――――・―――――――――――――

日程第２１．発議第２号

○議長（初村　久藏君）　日程第２１、発議第２号、盗難仏像の早期返還を求める決議を議題とします。

提案理由の説明を求めます。１７番、作元義文君。

○議員（１７番　作元　義文君）　ただいま議題となりました発議第２号、盗難仏像の早期返還を求める決議について、提案理由を御説明申し上げます。

それでは、発議文を読み上げ説明に代えさせていただきます。

発議第２号、令和５年３月１５日、対馬市議会議長、初村久藏様。

提出者、対馬市議会議員、作元義文、賛成者、同、上野洋次郎議員、同、小田昭人議員、同、春田新一議員。

盗難仏像の早期返還を求める決議。

上記の議案を、別紙のとおり、会議規則第１４条第１項の規定により提出します。

２０１２年１０月に対馬市で盗難に遭った長崎県指定有形文化財である対馬市小綱の「観音寺の観世音菩薩坐像」については、令和５年２月１日の韓国大田高裁において「第一審判決を取り消す」という判決が言い渡され、ひとまず安堵したところである。

しかし、浮石寺はこの判決を不服として韓国の最高裁へ既に上告をしている。この上告は、日韓両国も批准している文化財の不正な海外流出を規制し、原産国や原所有国での保存・保護を原則とする国際条約に反し、不法であることは明白であり、到底受入れ難い訴えであり、強い憤りを禁じ得ない。

対馬は古から朝鮮半島との交流の架け橋の役割を果たしてきた。また、「朝鮮通信使に関する記録」は、２０１７年１０月に両国で受け継がれてきた誠信交隣の関係が評価されユネスコ世界の記憶へ登録された。

本年２月２５日には約３年ぶりに対馬と釜山間の国際航路が再開し、今後徐々に出入国規制が緩和され、両国間の交流も盛んになっていくと予想される。しかし、この盗難仏像裁判の行方次第では、その流れに水を差すことになりかねない。

我々対馬市議会は、浮石寺が上告を取下げ、所有者である観音寺へ仏像が早期返還されることを強く願う。それとともに、韓国司法当局におかれましては、国際法を遵守し、盗難物件は元の所有者へ速やかに返還するという極々当然な最終判決が１日でも早く下され、観音寺への盗難仏像返還が早急に叶うよう強く要望する。

以上、決議する。

令和５年３月１５日、対馬市議会。

以上のとおりであります。よろしく御賛同賜りますよう、お願いを申し上げます。

○議長（初村　久藏君）　説明が終わりました。

これから質疑を行います。質疑はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（初村　久藏君）　質疑なしと認め、これで質疑を終わります。

お諮りします。本件は、委員会への付託を省略したいと思います。御異議ございませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（初村　久藏君）　異議なしと認めます。本件は、委員会への付託を省略することに決定しました。

これから討論、採決を行います。

発議第２号、盗難仏像の早期返還を求める決議について、討論はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（初村　久藏君）　討論なしと認め、採決します。

本件は、原案のとおり決定することに御異議ございませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（初村　久藏君）　異議なしと認めます。本件は、原案のとおり可決されました。

―――――――――――――・―――――・―――――――――――――

日程第２２．常任委員会の閉会中の継続調査について

○議長（初村　久藏君）　日程第２２、常任委員会の閉会中の継続調査についてを議題とします。

総務文教常任委員長、厚生常任委員長及び産業建設常任委員長から、閉会中の継続調査の申出があっております。

お諮りします。各常任委員長からの申出のとおり、閉会中の継続調査とすることに御異議ございませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（初村　久藏君）　異議なしと認めます。申出のとおり閉会中の継続調査とすることに決定しました。

お諮りします。本会議における議決の結果、条項、字句、数字、その他において整理を要するものがある場合、その整理権を会議規則第４３条の規定によって議長に委任願います。御異議ございませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（初村　久藏君）　異議なしと認めます。したがって、整理権は議長に委任することに決定しました。

―――――――――――――・―――――・―――――――――――――

○議長（初村　久藏君）　以上で、本日の議事日程は全て終了しました。

市長から挨拶の申出があっておりますので、これを受けます。市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝　尚喜君）　第１回対馬市議会定例会の閉会に当たり、一言、御挨拶を申し上げます。

本定例会におきましては、２月２１日から２３日間にわたり慎重に御審議いただき、御提案申し上げました議案について御決定賜り厚くお礼申し上げます。

本定例会で議決いただきました案件につきましては、市民皆様の生活と福祉の向上のため、適正な事務処理に努め、速やかに対処してまいりたいと存じます。

次に、第１回対馬市議会定例会期間中における行政報告を、２点、御報告させていただきます。

まず、対馬市と提携した取組による諫早農業高等学校の文部科学大臣賞受賞についてでございます。

去る２月１６日に東京で開催された脱炭素チャレンジカップ２０２３において、本市と連携協定を締結している長崎県立諫早農業高等学校が文部科学大臣賞を受賞されました。

この大会は、学校、団体、企業などが展開している脱炭素を目的とした地球温暖化防止に関する地域活動について優れた取組を表彰するものであります。

対馬市の生ごみ分別回収で作った堆肥が農業利用で有用であることを証明し、対馬市の資源再利用事業を後押しするとともに、フードロスニュートラルという活動名で継続して食品ロスに関する取組や啓蒙活動を行っていることが評価され受賞となりました。

非常に喜ばしいことで、対馬市の取組の方向性も認められたものと思っております。今後も継続して諫早農業高等学校とも連携を深めながら、食品ロス、生ごみの堆肥化事業を拡大していきたいと考えておりますので、生ごみ回収に対しまして市民皆様の御協力をお願いいたします。

次に、マイナンバーカードの交付、申請状況について御報告申し上げます。

対馬市における２月末までのマイナンバーカード交付率は７３．２５％となっておりますが、２月末までにマイナンバーカードを申請されている方は８８．５％まで達しており、市民９割弱の方がカードを交付される予定であります。

国の申請率７３％を大きく上回っており、長崎県内でも２番目に高い申請率となっておりますので、今後も関係機関と連携し、マイナンバーカードの交付率向上に努めてまいります。

以上が、３月定例会期間中の行政報告でございます。

令和４年度も残すところ僅かとなりましたが、今年度はコロナ感染対策の対応に追われた年度ではなかったかと思います。対馬におけるコロナ感染者数の近況は、１週間で数人程度でありますが、今後も市内の感染状況を見ながら必要に応じて感染予防対策等を講じてまいりたいと思いますので、市民皆様の御協力をお願いいたします。

最後になりますが、議員皆様をはじめ市民皆様方の御健勝と、ますますの御活躍を祈念申し上

げまして閉会の挨拶といたします。ありがとうございました。

○議長（初村　久藏君）　閉会に当たり、一言、御挨拶申し上げます。

令和５年第１回定例会は、議案全般にわたり熱心に御審議いただきまして、ここに滞りなく閉会の運びとなりました。議員各位はもとより、市長以下、職員の方々の御協力に対して心からお礼を申し上げます。

審議の中で出ました貴重な意見や指摘事項等につきましては、今後の行政運営に生かされることを期待いたします。

この３月で退職される職員におかれましては、長い間、市行政に貢献いただきまして心から感謝を申し上げます。退職後も市政運営に御協力いただきますよう、お願い申し上げる次第であります。

最後になりましたが、皆様方の御健勝と御多幸を祈念し、閉会の挨拶といたします。

会議を閉じます。これをもちまして、令和５年第１回対馬市議会定例会を閉会いたします。お疲れさまでした。

午後０時15分閉会

会議の経過を記載して、その相違ないことを証するため、ここに署名する。

議　　長　初村　久藏

副 議 長　黒田　昭雄

署名議員　春田　新一

署名議員　小島　德重